

# 足原田遺跡Ⅱ

Ishiharada Site Ⅱ

西関東連絡道路関連発掘調査報告書



2007.3

山梨県教育委員会

山梨県土木部



第 2 次調査区全景



第 3 次調査区東側全景



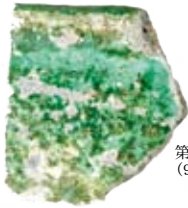
第 3 次調査区西側全景



第 4 次調査区全景



第 2 次  
(9 図 79)



第 2 次  
(9 図 77)



第 2 次  
(9 図 78)



第 3 次 20 住  
(63 図 36)



第 3 次 9 住  
(53 図 3)



第 3 次 14 住  
(57 図 1)



第 3 次 4 溝  
(69 図 1)



第 4 次  
(79 図 99)



第 4 次  
(69 図 1)



第 4 次  
(59 図 3)

## 序

本報告書は、山梨県土木部による西関東連絡道路建設事業（甲府市～山梨市区間）に伴い、山梨県埋蔵文化財センターが平成16・17・18年度に発掘調査を行った、足原田遺跡の発掘調査報告書です。

足原田遺跡は、山梨市万力に所在する、古墳・平安時代の遺跡であり、平成15～18年度の4カ年に渡って調査を実施しました。なお、平成15年度調査の成果は、発掘調査報告書『足原田遺跡Ⅰ』に記載されています。

平成16年度行った調査では、約500㎡から旧河道を確認し、破片ではありましたが、縄文土器1点や古墳時代前期の土器、平安時代の土師器等が出土し、遺物の数は3000点を超えました。

平成17年度の調査では、約2,000㎡から旧河道を確認し、平安時代後期の住居跡を23軒発見したほか、溝5条、土坑7基、畝状遺構を確認しました。また、遺物のみでしたが、古墳時代前期の土師器や中世の陶磁器も出土しました。

なお、22号住居跡から出土した須恵器の破片は、接合した結果「凸帯付三耳壺」となりました。長野県では「凸帯付四耳壺」と呼ばれる須恵器の壺が出土しており、県内では峡北地域で多く、峡東地域では国分寺周辺に限られています。それから、14号住居跡から出土した「口寺」と墨書された土器は、集落内に寺院の存在したことを示しています。これらのことから、本遺跡が峡東地域の中核となる拠点集落の一つであった可能性が推測されます。さらに5号土坑から出土した鞆の羽口は、この場所に鍛冶工房があったと断言することはできませんが、近くにそのような施設があったものと思われる。

平成18年度は約300㎡を調査し、旧河道を確認し、古墳・平安時代の土器片や鉄滓、縄文時代の磨製石斧が出土するとともに平安時代の住居跡を1軒発見しました。

今回の調査では以上のような貴重な成果を得ることができました。

本書が学術的にはもとより、地域の歴史を学ぶ一般の方にも広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、今回の調査・報告書刊行に至るまで、調査に関係された方々や関係機関、また発掘調査・整理作業に従事された方など、多くの方々にご協力いただきました。厚く感謝申し上げます。

平成19年3月

山梨県埋蔵文化財センター  
所長 末木 健

## 例 言

- 1 本書は平成 16・17・18 年度に行われた西関東連絡道路建設に伴う、山梨市万力 851 外の足原田遺跡の発掘調査報告書である。2003（平成 15）年度（第 1 次）調査分については『足原田遺跡 I』を刊行した。
- 2 発掘調査及び報告書作成事業は山梨県土木部の委託を受けて、山梨県教育委員会・山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本書の執筆・編集は山梨県埋蔵文化財センターの田口明子・鶴田 博・上野桜が担当した。
- 4 本書に掲載した発掘現場の写真は各担当が撮影した。遺物写真は田口が撮影した。
- 5 委託関係は、発掘調査時の基準点測量は昭和測量株式会社に、空中写真と空撮図化（3 次調査）は株式会社シン技術コンサルに委託し、整理作業時の金属製品の保存処理および X 線写真撮影は、財団法人山梨文化財研究所に委託した。また自然科学分析はパリノサーヴェイ株式会社に、鉄関連遺物の分析は JFE テクノリサーチ株式会社に委託し、その報告原稿を転載した。
- 6 発掘調査時の遺構・遺物出土地点の光波測量機による計測情報および整理・報告書作成時のデータ管理等には、株式会社シン技術コンサルのコンピュータシステム「遺跡管理システム 2000」を使用した。
- 7 本遺跡の出土品および記録図面・写真は、山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センターに保管している。
- 8 報告書作成に至るまで、以下の方にご教示いただいた記して感謝申し上げたい。  
三澤達也（山梨市教育委員会）

## 凡 例

- 1 住居跡の主軸方位は、西壁の真北に対する角度を示す。
- 2 平面図中のスクリーントーンは、特に注記のないものは硬化面を表す。
- 3 挿図の縮尺は、住居跡：1/60、カマド：1/30、土坑：1/30、溝等：1/60、遺物：1/3
- 4 遺物観察表の（ ）は現存値、〔 〕は推定値を表す。
- 5 灰釉陶器の色調は、胎土の色を表す。
- 6 遺物実測図の断面黒色は須恵器、スクリーントーンは陶器を表す。
- 7 遺物実測図の断面の左側に外面、右側に内面の拓本がある。
- 8 砥石等の使用面はスクリーントーンで表す。
- 9 自然化学分析の樹種の解剖学的特徴と種実の形態的特徴と写真図版は紙幅の関係で割愛させていただいた。
- 10 鉄関連遺物の成分分析で、顕微鏡組織写真・資料切断位置と切断面写真・X 線回折チャート・鉍物組織の英文、化学式などは紙幅の関係で割愛させていただいた。
- 11 土層と遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』1993 年度版を使用した。

# 目次

序

例言・凡例

目次・挿図目次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 調査組織	2
第2章 遺跡の環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法	4
第1節 グリッド設定	4
第2節 遺構と遺物の記録	4
第3節 基本層序	4
第4章 調査の成果	5
第1節 第2次調査 2004（平成16）年度	5
1. グリッド出土遺物	5
第2節 第3次調査 2005（平成17）年度	5
1. 遺構	5
住居跡	5
土坑	10
溝	10
流れ跡	11
畝	11
2. グリッド出土遺物	11
第3節 第4次調査 2006（平成18）年度	11
1. 遺構	12
住居跡	12
ピット	12
2. グリッド出土遺物	12
第5章 科学分析	93
第1節 自然科学分析	93
第2節 鉄関連遺物の成分分析	96
第6章 まとめ	104



## 挿図目次

- |      |                              |      |         |                                    |
|------|------------------------------|------|---------|------------------------------------|
| 第1図  | 足原田遺跡位置図(S=1/25,000)         | 第47図 | 第3次     | 4・5・6号溝、流れ跡(1/60)                  |
| 第2図  | 周辺の遺跡(S=1/20,000)            | 第48図 | 第3次     | 1～14号畝(1/100)                      |
| 第3図  | 調査区位置図(S=1/2,000)            | 第49図 | 第3次     | 1号住居跡出土遺物                          |
| 第4図  | 第2次・第3次(1) 全体図               | 第50図 | 第3次     | 2・3・4・5号住居跡出土遺物                    |
| 第5図  | 第3次(2) 全体図                   | 第51図 | 第3次     | 6・7号住居跡出土遺物                        |
| 第6図  | 第4次 全体図                      | 第52図 | 第3次     | 8号住居跡出土遺物                          |
| 第7図  | 第2次 グリッド出土遺物(1)              | 第53図 | 第3次     | 9号住居跡・10号住居跡(1)<br>出土遺物            |
| 第8図  | 第2次 グリッド出土遺物(2)              | 第54図 | 第3次     | 10号住居跡(2)出土遺物                      |
| 第9図  | 第2次 グリッド出土遺物(3)              | 第55図 | 第3次     | 11号住居跡・12号住居跡(1)<br>出土遺物           |
| 第10図 | 第3次 1号住居跡・カマド(1/60・1/30)     | 第56図 | 第3次     | 12号住居跡(2)・13号住居跡(1)<br>出土遺物        |
| 第11図 | 第3次 2号住居跡(1/60)              | 第57図 | 第3次     | 13号住居跡(2)・14号住居跡・15号<br>住居跡(1)出土遺物 |
| 第12図 | 第3次 3号住居跡(1/60)              | 第58図 | 第3次     | 15号住居跡(2)出土遺物                      |
| 第13図 | 第3次 3号住居跡カマド(1/30)           | 第59図 | 第3次     | 16・17号住居跡出土遺物                      |
| 第14図 | 第3次 4号住居跡(1/60)              | 第60図 | 第3次     | 18・19号住居跡出土遺物                      |
| 第15図 | 第3次 4号住居跡カマド(1/30)           | 第61図 | 第3次     | 20号住居跡(1)出土遺物                      |
| 第16図 | 第3次 5号住居跡(1/60)              | 第62図 | 第3次     | 20号住居跡(2)出土遺物                      |
| 第17図 | 第3次 5号住居跡カマド(1/30)           | 第63図 | 第3次     | 20号住居跡(3)出土遺物                      |
| 第18図 | 第3次 6号住居跡(1/60)              | 第64図 | 第3次     | 21号住居跡出土遺物                         |
| 第19図 | 第3次 6号住居跡カマド(1/30)           | 第65図 | 第3次     | 22号住居跡(1)出土遺物                      |
| 第20図 | 第3次 7号住居跡(1/60)              | 第66図 | 第3次     | 22号住居跡(2)出土遺物                      |
| 第21図 | 第3次 7号住居跡カマド(1/30)           | 第67図 | 第3次     | 23号住居跡、1・2・4号土坑<br>出土遺物            |
| 第22図 | 第3次 8号住居跡(1/60)              | 第68図 | 第3次     | 5号土坑、1・2・3号溝<br>出土遺物               |
| 第23図 | 第3次 8号住居跡カマド(1/30)           | 第69図 | 第3次     | 4・5号溝、流れ跡、14号畝・<br>グリッド出土遺物(1)     |
| 第24図 | 第3次 9・10号住居跡(1/60)           | 第70図 | 第3次     | グリッド出土遺物(2)                        |
| 第25図 | 第3次 9・10号住居跡遺物出土状況(1/60)     | 第71図 | 第3次     | グリッド出土遺物(3)                        |
| 第26図 | 第3次 10号住居跡カマド1(1/30)         | 第72図 | 第4次     | 1号住居跡・カマド、<br>1～3号ピット(1/60・1/30)   |
| 第27図 | 第3次 10号住居跡カマド2(1/30)         | 第73図 | 第4次     | 1号住居跡・グリッド出土遺物(1)                  |
| 第28図 | 第3次 11号住居跡(1/60)             | 第74図 | 第4次     | グリッド出土遺物(2)                        |
| 第29図 | 第3次 12号住居跡・カマド1(1/60・1/30)   | 第75図 | 第4次     | グリッド出土遺物(3)                        |
| 第30図 | 第3次 12号住居跡カマド2・3(1/30)       | 第76図 | 第4次     | グリッド出土遺物(4)                        |
| 第31図 | 第3次 13号住居跡(1/60)             | 第77図 | 第4次     | グリッド出土遺物(5)                        |
| 第32図 | 第3次 13号住居跡カマド(1/30)          | 第78図 | 第4次     | グリッド出土遺物(6)                        |
| 第33図 | 第3次 14号住居跡(1/60)             | 第79図 | 第2次・第3次 | グリッド出土遺物分布図                        |
| 第34図 | 第3次 15・19号住居跡(1/60)          | 第80図 | 第2次     | C・D-7・8グリッド出土遺物<br>分布図             |
| 第35図 | 第3次 16号住居跡(1/60)             | 第81図 | 第3次     | グリッド出土遺物分布図                        |
| 第36図 | 第3次 16号住居跡カマド(1/30)          | 第82図 | 第4次     | グリッド出土遺物分布図                        |
| 第37図 | 第3次 17・18号住居跡・カマド(1/60・1/30) |      |         |                                    |
| 第38図 | 第3次 20号住居跡・カマド1(1/60・1/30)   |      |         |                                    |
| 第39図 | 第3次 20号住居跡・カマド2(1/30)        |      |         |                                    |
| 第40図 | 第3次 21号住居跡(1/60)             |      |         |                                    |
| 第41図 | 第3次 22号住居跡(1/60)             |      |         |                                    |
| 第42図 | 第3次 23号住居跡・カマド(1/60・1/30)    |      |         |                                    |
| 第43図 | 第3次 1～5号土坑(1/30)             |      |         |                                    |
| 第44図 | 第3次 6・7号土坑(1/30)             |      |         |                                    |
| 第45図 | 第3次 1号溝(1/60)                |      |         |                                    |
| 第46図 | 第3次 2・3号溝(1/60)              |      |         |                                    |

## 第1章 調査の経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

西関東連絡道路の建設に伴い、山梨県埋蔵文化財センターは2002（平成14）年10月3～4日の期間で埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を行った。その結果、古墳時代前期の甕破片等がまとまって出土したことから、翌年に本格的な発掘調査（第1次調査／山梨市万力950外）を実施した（このときの成果は、山梨県教育委員会2005『足原田遺跡Ⅰ－西関東連絡道路関連発掘調査報告書－』に掲載されている）。

2004（平成16）年5月、県新環状・西関東道路建設事務所建設課西関東担当、県教育委員会学術文化財課、県埋蔵文化財センターによる現地協議を行い、同年6月に第1次調査の西側（山梨市万力617-1外）について試掘調査を実施した。その結果、古墳時代前期の壺や平安時代の土師器片が検出されたほか、住居跡や溝状遺構などのプランを確認することができ、周知の埋蔵文化財包蔵地である本遺跡の範囲を追加修正した。そして、同年11月から12月にかけて追加修正した本遺跡の東側（山梨市万力851外）を対象に本格的な発掘調査を実施し（第2次調査）、翌年5月から第2次調査の西側に位置する未調査箇所（山梨市万力759外）を継続して調査した（第3次調査）。さらに2006（平成18）年5月に、第1次調査範囲内の未調査箇所の発掘調査を実施した（第4次調査）。

なお、法的な手続きは以下のとおりである。

平成16年 6月14日 文化財保護法第58条の2第1項に基く発掘通知（試掘調査）を県教育委員会教育長に提出

平成16年 6月22日 文化財保護法第59条第2項に基く埋蔵文化財発見通知を日下部警察署長に提出

平成16年11月11日 文化財保護法第58条の2第1項に基く発掘通知（第2次）を県教育委員会教育長に提出

平成17年 1月18日 文化財保護法第59条第2項に基く埋蔵文化財発見通知を日下部警察署長に提出

平成17年 5月10日 文化財保護法第99条第1項に基く発掘通知（第3次）を県教育委員会教育長に提出

平成17年 9月27日 文化財保護法第100条第2項に基く埋蔵文化財発見通知を日下部警察署長に提出

平成18年 4月28日 文化財保護法第99条第1項に基く発掘通知（第4次）を県教育委員会教育長に提出

平成18年 6月15日 文化財保護法第100条第2項に基く埋蔵文化財発見通知を日下部警察署長に提出

※文化財保護法の一部を改正する法律が平成17年4月1日から施行された。

### 第2節 調査の経過

試掘調査により本遺跡の範囲が追加修正された後、2004（平成16）年10月下旬に関係機関で協議を行い、2004年度における発掘調査の実施について確認がなされた。発掘調査は調査区域の東側から順次行うこととし、2004（平成16）年度は11月11日から調査に着手した（第2次調査）。重機にて東側調査区（調査区域の中に道路があり、道路の東側を東側調査区、西側を西側調査区と呼ぶ）の表土を取り除いた後、人力にて精査する作業を行った。東側調査区の3分の2にあたる約500㎡の発掘調査を終了し、翌年1月中旬までに調査箇所の埋め戻しを終えた。

そして、2005（平成17）年4月上旬に当該年度の発掘調査に関する協議を行い、5月中旬より調査に着手した（第3次調査）。表土を取り除いてある東側調査区の未調査箇所の調査からはじめ、当該区域の調査が終了した後に西側調査区の表土を取り除いて遺構確認に努め、その後、遺構内の精査を進めた。調査期間中に梅雨や台風による影響を受け、当初予定した期間を約1ヶ月延長し、9月下旬に発掘調査を終了した。

整理作業に関しては、第2次調査の基礎的な整理作業を2005（平成17）年1月より開始し、3月末までに遺物の水洗、注記作業が終了した。それ以降の作業は、第3次調査の本格的な整理作業とともに9月上旬よりはじめ、翌年3月までに遺物の実測・トレースを終えた。また、遺構より検出された鉄・銅製品の保存処理、鉄滓等の分析、炭化種実の分析を委託した。

調査内容の公開としては、第2次調査の成果は2005（平成17）年3月12日から4月3日まで山梨県埋蔵文化

財センターが山梨県立考古博物館で開催した「山梨の遺跡展2004」において展示公開し、第3次調査は2006（平成18）年3月18日から4月9日まで開催された「山梨の遺跡展2006」において展示公開を行った。また、山梨県内の公立博物館や市町村教育委員会との共催として湯之奥金山博物館、玉穂町生涯学習館、県民情報プラザ、釈迦堂遺跡博物館、ミュージアム都留でパネルの展示を行った。

最後に、発掘調査および整理報告書作成作業の経過について抄録をあげる。

平成16年10月27日 県新環状・西関東道路建設事務所建設課西関東担当、県教育委員会学術文化財課、県埋蔵文化財センターによる現地協議（第2次調査に関する協議）を実施する。

11月11日 発掘調査（第2次調査）に着手する。

11月24日 発掘調査用の基準点測量を行う（委託事業）。

11月24日 空中写真撮影を行う（委託事業）。

平成17年 1月 5日 基礎的整理作業を開始する。

1月18日 発掘調査（第2次調査）を終了する。

3月16日 基礎的整理作業を終了する。

4月 7日 県新環状・西関東道路建設事務所建設課西関東担当、県教育委員会学術文化財課、県埋蔵文化財センターによる現地協議（第3次調査に関する協議）を実施する。

5月10日 発掘調査（第3次調査）に着手する。

6月 9日 空中写真撮影を実施する（委託事業）。

6月30日 発掘調査用の基準点測量を行う（委託事業）。

9月 1日 本格的整理作業を開始する。

9月15日 空中写真撮影・測量図化作業を実施する（委託事業）。

9月27日 発掘調査（第3次調査）を終了する。

12月22日 鉄・銅製品の保存処理・鉄滓等の分析・炭化種実の分析を行う（委託事業）。

平成18年 4月 5日 県新環状・西関東道路建設事務所建設課西関東担当・県教育委員会学術文化財課・県埋蔵文化財センターによる現地協議（第4次調査に関する協議）を実施する。

4月25日 上物撤去及び表土剥ぎ取りに着手する。

5月 9日 発掘調査（第4次調査）に着手する。

6月 7日 空中写真撮影を行う（委託事業）。

6月12日 発掘調査（第4次調査）を終了する。

6月19日 本格的整理作業を開始する。

12月26日 本格的整理作業を終了する。

### 第3節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

#### 2004（平成16）年度（第2次）

担当： 調査研究課 田口明子・鶴田 博

発掘調査作業員： 相澤淑美・雨宮久美子・石井弘文・加賀美昌友・栗原礼子・黒瀬信子・小菅春江・近藤良文・千野 富子・寺内みち子・戸田ひろ・萩原里江子・深澤茂子・正木なつ子・宮久保あさの・吉川美穂

整理作業員： 相澤淑美・岡 和子・北川直子・北川 洋・正木なつ子

#### 2005（平成17）年度（第3次）

担当： 調査研究課 田口明子・鶴田 博

発掘調査作業員： 相澤淑美・雨宮久美子・雨宮千尋・飯室恵子・長田直樹・長田美代子・小澤正臣・加賀美昌友・栗原礼子・黒瀬信子・小菅春江・鮫田勝夫・沢登淳子・清水千三・千野富子・寺内みち子・戸田ひろ・中沢 保・萩原里江子・長谷部久樹・羽中田 弘・深澤茂子・古屋茂美・正木なつ子・宮久保あさの

整理作業員： 相澤淑美・飯室恵子・岡 和子・長田美代子・栗原礼子・小菅春江・佐野眞雪・千野富子・土井みさほ・萩原里江子・長谷部久樹・正木なつ子・宮久保あさの

## 2006（平成18）年度（第4次）

担当： 資料普及課 田口明子・上野 桜

発掘調査作業員： 相澤淑美・雨宮久美子・長田美代子・栗原礼子・千野富子・戸田ひろ・萩原里江子・正木なつ子・宮久保あさの

整理作業員： 川住たまみ・栗原礼子・小林順子・萩原里江子・野澤まゆみ

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境（第1図）

本遺跡は、甲府盆地の北東部、狭長な笛吹川扇状地の西縁、扇端部に立地する。笛吹川は秩父山系に源を発し、南に流れ、甲府盆地の北東部に流下する富士川の支流の一つである。本遺跡は、笛吹川の右岸にあり、笛吹川まで約500mの距離がある。標高320～325mで、南西方向に緩やかに傾斜している。

遺跡の南約50mに一般国道140号線（雁坂道）がある。この道は、江戸時代に秩父街道の間道であったが、明治9年に、差出の磯が開鑿された後は、秩父街道の本道となった。

本遺跡の範囲は、東西約400m、南北約230mとされている。遺跡の周囲は、現在、桃やブドウ畑であるが、昭和30年代までは水田を営んでいた。明治43年の地図でも周囲は全て水田である。

### 第2節 歴史的環境（第2図）

10世紀（931～938年）の『倭名類聚抄』には、甲斐国に4郡があり、そのうちの山梨郡には、東郷・西郷各5郷が載り、西郷の1つである山梨郷に、本遺跡のある山梨市万力は比定されている。3.4km南西には、甲斐国府の候補地の1つである笛吹市春日居町国府がある。

周辺の遺跡は、約500m西に古墳時代前期と平安時代の住居跡が発掘調査された延命寺遺跡（50）があり、その西側約150mに古墳時代前期・奈良時代の住居跡が発見された旧中沢遺跡を名称変更した千原田遺跡（51）がある。さらにその南西約100mには、古墳時代前期の住居跡・方形周溝墓などが発見された旧武家遺跡を名称変更した小武家遺跡（64）がある。これらの遺跡の周囲には、古墳時代・平安時代の間之田西遺跡（45）、半池遺跡（61）や平安時代の金桜遺跡（49）、地蔵久保遺跡（52）、間之田遺跡（43）、堀之内遺跡（59）、田屋之前遺跡（62）が分布している。

#### 参考文献

山梨県女子師範学校 1937 『微細郷土研究』

山梨県教育委員会 2004 『中沢遺跡・武家遺跡－新環状・西関東道路建設工事に伴う発掘調査報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第214集

山梨市 2005 『山梨市史 史料編 考古・古代・中世』

山梨市教育委員会他 2005 『延命寺遺跡－山梨厚生病院授産施設建設に伴う発掘調査報告書－』山梨市文化財調査報告書 第9集

## 第3章 調査の方法

### 第1節 グリッド設定 (第3図)

第2・3次調査区は、第1次調査区の西側に位置しているが、第1次調査のグリッド設定が、西端を基点としていたために、第2・3次調査のグリッドは、新たに番号と記号を付けた。グリッドは、5m方眼とし、世界測地系の座標に当てはまる。北東端を基準に南へA・B・C～I、西へ1・2・3～34までのアルファベットと数字で表し、A-1・A-2等と各グリッドを呼称する。A-1の北東角は、X=-34465、Y=15510である。

第4次調査は、第1次調査区の範囲に含まれるため、第1次調査のグリッドを使用した。北西端のX=-34445、Y=15515がA-1の北西角となり、南にA・B・C～K、東に1・2・3～43まで設定されている。C～F-26～36の範囲に調査区がある。

### 第2節 遺構と遺物の記録

第2～4次調査まで、株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を使用した。

第2次調査では、遺構が発見されなかったため、出土遺物の主要なものは、1から通し番号をつけて、「遺跡管理システム」を使用して取り上げた。それ以外の遺物はグリッドごとに取り上げた。旧河道との境などの地形的な特徴も「遺跡管理システム」を使用した。セクション図は人力で実測した。

第3次調査では、発見された順に、遺構ごとに遺構番号を付け、遺構に伴う遺物は、遺構ごとに1から順に付けた。住居跡の場合、特にカマド出土の遺物には、1住カマド1のように別に1から番号を付けた。遺構に伴わない遺物のうち主要なものは、第2次調査と同じく1から通し番号を付けた。遺構・遺物ともに、「遺跡管理システム」で座標を記録したが、遺構と遺構に伴う遺物に関しては、平板測量を併用した。C～I-14～34の全体図は、空撮により図化を委託して行った。セクション図は人力で実測した。

第4次調査では、第3次調査と同じ方法で調査を行った。

第2～4次まで、遺物の注記は「4足原田A-1・1」のように、頭に年度の数字を付した。

### 第3節 基本層序 (第4～6図)

第2～4次まで、土層は全て砂質土からなり、しまりは強く、粘性はほとんどない。第2～4次の土層番号は対応していない。

第2次調査区は、ほとんどが旧河道のため、表土である現在の耕作土とその下層にある水田を営んでいた時の耕作土と床土の下は、砂礫を多く含む層が主体となる。旧河道は、東から西に流れ、径約0.1m以下の礫を多く含み、大きい礫では、径約0.6mになる。古墳時代の遺物包含層は、黒褐色砂質土層で、旧河道はこの遺物包含層を削っている。

第3次調査区は、平安時代には、比較的安定していたところで、第2次調査区から続く旧河道が東側の一部で北西に調査区外に伸び、18～23グリッドにかけて、北から南西に向い調査区を横切る。調査区が東西に約100mと長く、西に向いやや傾斜しているため、表土の下層の旧水田耕作土と床土が場所により、1～2段ある。その下層に平安時代の遺物包含層である暗褐色砂質土層がある。そして黄褐色ブロックを含む褐色砂質土層が遺構確認面となる。

第4次調査区は、第2次調査区の約130m東側に位置し、現在の耕作土が表土としてあり、その下層に旧水田の耕作土・床土があることは、第2・3次調査区と変わらない。調査区の大半が旧河道であるが、第2・3次調査区で確認した旧河道と同一のものは不明である。E・F-33・34に古墳時代の遺物包含層である黒褐色砂質土層があり、この上層にも若干遺物が含まれる。平安時代の遺構確認面は、にぶい黄褐色砂質土層上面である。

## 第4章 調査の成果

### 第1節 第2次調査 2004（平成16）年度

調査区のほとんどが、2筋の東から西へ流れる旧河道で、東側の北壁際とC-5～8を中心にやや安定した黒色砂質土層が残る。遺構は確認されず、古墳時代と平安時代の遺物を中心に、縄文土器片1点と中世の土器・陶磁器類が出土した。

#### 1. グリッド出土遺物（第7～9・80・81図、写真図版1・17～20、口絵4）

旧河道からは、古墳・平安時代、中世の遺物が混在して出土するが、それより新しい時期のものは含まれない。黒色砂質土層からは、古墳時代前期の土器が集中して出土している。B-3・4に遺物が分布しないのは人為的なものである。古墳時代前期の土器は、C・D-7・8の旧河道と黒色砂質土層が残る中州上に集中する（第81図）。平安時代の土器はC-5にややまとまりがみえる。中世の遺物はA・B-2・3からの出土がほとんどである。時期による層的なまとまりはなく混在する。

### 第2節 第3次調査 2005（平成17）年度

道路を挟んで東側（第4図）と西側（第5図）に調査区が分かれる。東側は、第2次調査地点続きの2筋の旧河道が東から西へ流れる。北東側の旧河道に挟まれたB・C-9～12と旧河道の南側にあるC・D-9～13に黒色砂質土層がある。1・2号住居跡と1号土坑、1～3号溝は旧河道南側の黒色砂質土層を掘り込んでいる。西側は、D～H-18～23に2筋の旧河道が北から南に流れる。東側調査区の旧河道より幅が狭い。同じ流れかは明らかではないが、調査区外で蛇行して、流れの方向を変えた可能性もある。3～23号住居跡、2～7号土坑、4～6号溝、流れ跡、1～14号畝などが確認された。

#### 1. 遺構

##### 1号住居跡（第10・49図、写真図版2・21）

（位置）E-12・13（切り合い）北・東壁を1号溝に切られる。カマドの煙道部をトレンチに切られる。（規模と形態）北壁約2.82m、西壁約3.6m、深さ約0.36mの隅丸方形。（主軸方位）N-14°-E（カマド）東壁南端にあり、東・西両側に袖石が並ぶ。東側の3個は、全て焼けている。西側は、手前と一つ飛んだ奥の2個が焼けている。東側袖石の奥に、坏が4点正位に重なって出土した。上から（7）・（10）・（4）・（8）で、その他に甕（17）と羽釜（18）の破片が出土している。（その他の施設）ピット1：ほぼ中央にあり、南北約1m、東西約0.88m、深さ約0.25m。ピット2：南西角にあり、南北約0.37m、東西約0.41m、深さ0.1m。完形の坏（5）が出土。（遺物）ほとんど床面から浮いた状態で出土した。精鍛冶滓（資料No.1）が西壁際中央、製錬鍛冶滓（資料No.2）が南壁近くのほぼ中央から出土。（時期）11世紀前半

##### 2号住居跡（第11・50図、写真図版3・21）

（位置）E-11・12（残存）調査区南壁際で発見され、北壁と西壁の一部が残存する。（規模）現存では北壁1.53m、西壁1.43m、深さ0.08m。（主軸方位）N-15°-E（カマド）不明（その他の施設）北壁際にピット1基：東西約0.68m、南北0.43m、深さ0.44m。土師器（3）・（4）が出土。（遺物）土師器坏（2）・羽釜（5）が覆土より出土。（時期）平安（備考）覆土中に石があるが、ほとんどが焼けている。カマドの構築材か。

##### 3号住居跡（第12・13・50図、写真図版3・21）

（位置）F・G-32・33（切り合い）東壁の南側、カマドが攪乱により切られている。4・5号畝と重複。（規模と形態）北壁3.12m、西壁3.54m、深さ0.18m。やや長方形。（主軸方位）N-10°-W（カマド）東壁南寄りにあり、袖は、粘土を主体としている。焼け骨片が数点出土しているが、小片で同定不能。（その他の施設）ピット

トが2基ある。西壁際中央のものは、東西約0.5m、南北約0.3m、深さ約0.2m。東壁のものは、カマドの北側にあり、東西約0.4m、南北約0.6m、住居床面からの深さは、約0.1m。遺物の出土はなし。（遺物）覆土から、坏（2）・甕（5）が出土。全体に遺物は少ない。（時期）9世紀後半か（備考）カマドの前面に硬化面がある。

#### 4号住居跡（第14・15・50図、写真図版3・21）

（位置）F・G-31・32（切り合い）6・7号畝と重複。（規模と形態）北壁約2.58m、西壁約2.3m、深さ0.21m。隅丸方形。（主軸方位）N-0°-E（カマド）北壁中央にあり、袖は、東側が粘土を主体に、西側が石と土師器甕（4）・（5）を主体としている。（その他の施設）なし（遺物）床面に近いところから土師器坏（2）が、他は床面から浮いた状態で出土。覆土中から黒曜石の細片が2点出土。（時期）9世紀後半（備考）カマドの前面に焼土・炭化物集中。

#### 5号住居跡（第16・17・50図、写真図版3・21）

（位置）H-34・35（規模と形態）北壁約2.01m、西壁約2.12m、深さ約0.32m。隅丸方形。（主軸方位）N-40°-E（カマド）西壁の中央よりやや南寄りにあり、両袖は、長径約40cmの自然石を主体とする。燃烧部近くの焼土の下に甕片（4）が敷かれているように出土。（その他の施設）東壁の北寄りに、幅1.16m、奥行き0.76mの確認面からの深さ約0.3mの長方形の掘り込みがある。覆土内に長径0.7mの自然石があり、遺物の出土はない。本住居に附属するものかは、不明施である。（遺物）床面より約0.1m上で、坏（1）が出土。甕（2）、灰釉陶器壺（3）も覆土からの出土である。（時期）9世紀後半か（備考）床面の中央から南に硬化面がある。

#### 6号住居跡（第18・19・51図、写真図版4・22・34）

（位置）G・H-26・27（規模と形態）北壁約3.54m、西壁約3.33m、深さ約0.06m。不整隅丸方形。（主軸方位）N-15°-W（カマド）東壁中央よりやや南寄りにあり粘土を主体にする。（遺物）確認面からの深さが浅いため、ほとんどが床面近くからの出土である。鎌（8）は北東角の壁際でやや浮いた状態で出土。坏（1）・（2）は、底面に類似の刻書がある。（時期）9世紀前半（備考）カマドの前面に硬化面が広がる。

#### 7号住居跡（第20・21・51図、写真図版4・22）

（位置）H・I-26（残存）南側が調査区外に伸びる。（規模と形態）北壁約3.39m、西壁の現存約2.82m、深さ約0.30m。隅丸方形。（主軸方位）N-7°-W（カマド）北壁のほぼ中央にあり、石と粘土を主体とする。（その他の施設）なし（遺物）甕（13）は、床面上から出土しているが、他は浮いた状態で出土。坏（9）・高台付坏（8）の底面に刻書。（時期）9世紀代

#### 8号住居跡（第22・23・52図、写真図版5・22・34）

（位置）F・G-22・23（規模と形態）北壁約3.60m、西壁約3.10m、深さ約0.18m。隅丸方形。（主軸方位）N-23°-E（カマド）北東角にあり、袖は、長径約0.25～0.35mの石を主体とする。煙道中央の東端にある袖石は、表土剥ぎ取り時に、少し東に引きずられている。坏（1）は、燃烧部を中心に割れた破片がやや散らばって出土。柱状高台坏（10）は、北側袖石の前面で、床面よりやや浮いた状態で出土。（その他の施設）ピット1は、南東角にあり、約0.67×0.40mの不整形である。覆土中の石3点は、焼けている。皿（5）が出土。ピット2は、中央よりやや西寄りにあり、0.50×0.43mの長円形で、床面からの深さは0.25mである。ピット3は、南西角近くにあり、0.4×0.34mのほぼ円形で、床面からの深さは、0.21mである。皿（4）が出土。（遺物）高台付皿（7）が、床面上から出土した。他は浮いた状態で出土。（時期）11～12世紀

#### 9号住居跡（第24・25・53図、写真図版6・23、口絵4）

（位置）F-25・26（切り合い）10号住居跡に切られる。西側を攪乱に切られる。（規模と形態）南壁約2.58m、東壁約2.62m、深さ約0.27m。隅丸方形。（主軸方位）N-5°-W（カマド）北壁中央にあり、粘土を主体とするが、ほとんど原形をとどめない。（その他の施設）なし（遺物）非常に少なく、図示できたものは坏（1）・（2）と高台付皿（3）のみである。いずれも床面から浮いた状態である。高台付皿（3）の底面には墨書がある。（時

期) 9世紀後半か

10号住居跡 (第24~26・53・54図、写真図版6・23・34)

(位置) F-26・27 (切り合い) 9号住居跡を切っている。(規模と形態) 南壁約3.79m、西壁約3.45m、深さ約0.12m。歪な方形。(主軸方位) N-14°-E (カマド) 2箇所確認された。カマド1は、南東角にあり、袖は径約0.2~0.3mの石を主体にする。燃焼部附近から柱状高台(18)が出土したが、浮いた状態である。カマドの西側、住居の南西角からは、皿(7)・(9)・(12)、甕(24)・(27)・(29)・(30)が出土した。皿(12)は完形である。甕はいずれも破片である。カマド2は、南西角にあり、径約0.16m~0.3mの石が床面とほぼ同じ面で認められた。覆土に炭化物が多く含まれる。長径約1.2m、短径約1.1m、床面からの深さ約0.35mの不整形の掘り込みを伴う。掘り込みの底近くから高台付坏(7)が出土。(その他の施設)ピット1は南壁近くにあり、約0.75m×0.6m、床面からの深さ約0.23mである。掘り込みの周囲に橙色粘土が巡る。底近くから皿(17)が出土。北壁寄りには不整形の深さ約0.8mの浅い落ち込みを確認した。遺物の平面分布からは、やや集中しているが、レベルは床面より上からの出土である。(遺物)全体に遺物の量は多い。ほとんど床面から浮いた状態である。(時期) 11世紀後半~12世紀 (備考) カマド2としたが、カマドではない可能性がある。

11号住居跡 (第28・55図、写真図版7・24)

(位置) H-35 (残存) 東壁の一部を確認した。それ以外は調査区外。(規模と形態) 東壁約1.1m、東西約0.86mを確認。深さは約0.08m。形態は不明。(主軸方位) 東壁で、N-19°-E (カマド) 不明 (その他の施設) なし (遺物) すべて床面から浮いた状態で出土。(時期) 11世紀後半か (備考) 住居跡ではない可能性がある。

12号住居跡 (第29・30・55・56図、写真図版7・24)

(位置) F・G-22 (切り合い) 試掘トレンチにより、北壁から西壁にかけて切られる。南壁をトレンチで切られる。(規模と形態) 北壁約3m、西壁約4.6m、深さ約0.32m。隅丸長方形。(主軸方位) N-26°-E (カマド) 3箇所認められた。カマド1は、東壁中央より、南寄りにあり、住居跡の平面確認時に、煙道を思わせるやや外側に膨らんだプランとともに、その縁に焼土が巡ることを確認した。袖石等は無い。カマド2・3は、東壁の南側に並んでいる。カマド2は、北側にあり、それぞれ煙道がある。南北セクションの石2点が立って、焼けていることと、周辺に焼け石が数点見られることから、袖は石を主体としていたと思われる。カマド3には、明確な焼土面がある。カマド1から遺物の出土はない。カマド2からは、床面から浮いた状態で、坏(6)、灰釉陶器皿(16)が出土。坏(2)は完形で、床面近く正位で出土。(その他の施設)ピット1は、カマド1の北側、東壁近くにあり、約1.3m×0.76mの長円形で、深さは約0.36mである。覆土中から甕(7)・(9)・(10)の破片が出土し、いずれもカマド2・3から出土した破片と接合する。ピット2は、ピット1の北側、北東角にあり、約0.7m×0.6mの隅丸方形で、深さ約0.26mである。遺物はほとんどない。(遺物) 中央の硬化面上に坏(1)・(3)が重なった状態で正位に出土。(1)は上位にある。甕(10)は床面上に散布し、他は浮いた状態で出土。精錬または鍛錬鍛冶滓(資料No.3)が床面中央より南西で、同(資料No.4)が東側で出土。(時期) 11世紀前半 (備考) 中央付近の床面が硬化し、焼土・炭化物を含む。

13号住居跡 (第31・32・56・57図、写真図版8・25・34)

(位置) F・G-20 (残存) カマドと壁の一部のみで、旧河道の影響で削られている。(規模と形態) 北壁約0.81m、西壁約0.6mを確認。ほとんど掘り込みは認められない。形態は不明。(主軸方位) 東壁N-35°-E (カマド) 南東角と思われる。石を主体とする。坏(1)が、石の上で逆位に、甕の底部(9)が奥の石に立てかかるように出土したが、土器を構築材として使用した可能性がある。(その他の施設) なし (遺物) 皿(2)、ミニチュア(13)などが覆土中から出土。(時期) 11世紀後半 (備考) カマドの前面に硬化面がある。

14号住居跡 (第33・57図、写真図版8・25、口絵4)

(位置) E・F-16 (切り合い) 22号住居跡と重複。住居全体の上部を攪乱により切られているため、北西角が削られている。(規模と形態) 北壁推定約3.6m、西壁推定約3.1m、深さ約0.3m。やや歪んだ隅丸方形。(主



軸方位) N-14°-W (カマド) 北壁際中央近くに焼土面があり、その周辺に径約0.1~0.4mの石が散布。石は焼けていない。(その他の施設)なし(遺物)全体に遺物量は少ない。墨書土器(1)は、床面近くから出土。坏(2)は北壁に寄りかかるように出土。他は覆土中からの出土である。(時期)9世紀後半か

#### 15号住居跡(第34・57・58図、写真図版8・26)

(位置)G・H-21(切り合い)19号住居跡を切る。旧河道により西壁の一部が削られる。南側は調査区外に伸びる。

(規模と形態)北壁約2.8m、東壁現存約2.5m、深さ約0.23m。隅丸方形か。(主軸方位)東壁でN-15°-E(カマド)調査区内には認められないが、南側の調査区壁セクションに焼土集中がみられることから、南東角か、東壁南寄りにあるとおもわれる。(その他の施設)中央近くに、約1.0m×0.9m、床面からの深さ約0.15mの楕円状の落ち込みがある。(遺物)量が多い。覆土中からほぼ完形の坏(1)・(3)、皿(16)・(17)などが出土。南側の調査区壁際から精錬または鍛錬鍛冶滓(資料No.5)が出土。また、鑄鉄または綉化物(資料No.6~10)が覆土中より出土。(時期)11世紀後半

#### 16号住居跡(第35・36・59図、写真図版8・26)

(位置)E・F-19・20(切り合い)西側が旧河道で切られている。(規模と形態)南壁約2.56m、東壁約2.88m、深さ約0.24m。隅丸方形か。(主軸方位)N-13°-E(カマド)東壁の中央より南寄りにあり、煙道は約1.3mの長さで確認できたが、袖などの施設は認められない。粘土が若干残存する。(その他の施設)なし(遺物)非常に少ない。(時期)9世紀後半か(備考)煙道の前面やや北寄りの床面に粘土塊がある。

#### 17号住居跡(第37・59図、写真図版9・27)

(位置)E-12・13(切り合い)18号住居跡に切られる。攪乱に西壁を削られる。(規模と形態)南壁約3.59m、東壁約3.63m、深さ約0.12m。やや歪な方形か。(主軸方位)N-4°-W(カマド)粘土と焼土・炭化物の集中から、北壁中央付近にあったと思われる。焼土の上から皿(4)が出土。(その他の施設)カマドの西側に径約0.32m×0.27mの不整形円で、深さ約0.37mの小穴が、住居の中央近くに、径約0.2mの円形で、深さ約0.1mの小穴がある。本住居に伴うかは不明。(遺物)非常に少なく、全てカマドの周辺からの出土である。皿(4)・(5)の底面には類似の刻書がある。(時期)9世紀前半

#### 18号住居跡(第37・60図、写真図版9・27)

(位置)E-12・13(切り合い)17号住居跡を切っている。(規模と形態)北壁約4.74m、西壁約5.04m、深さ約0.18m。隅丸方形か。(主軸方位)N-20°-E(カマド)粘土と焼土・炭化物の集中から、南東角にあったと思われる。約1.2m×0.9mの円形の掘り込みを伴う。掘り込みの深さは床面から約0.33m。皿(3)、甕(11)・(14)が床面上から出土。(その他の施設)北東角近くに約0.85m×0.57mの長円形の掘り込みがある。床面からの深さは、約0.38mで、底近くから柱状高台(9)が、掘り込みの上位から鉢?(15)が出土。床の硬化面の東側には、径約0.55mの円形の掘り込みがあり、床面からの深さは約0.25mである。覆土の上位から坏(1)の破片1点出土。また、住居の北西角には、約1.4m×0.9mの不整形をした、深さ約0.13mの浅い落ち込みを確認した。覆土から甕(12)が出土。(遺物)カマド以外からは、北壁際にやや集中する。皿(2)・(7)と鉢(13)は床面から浮いた状態でまとまって出土。(時期)11世紀後半(備考)住居の中央付近に硬化面がある。

#### 19号住居跡(第34・60図、写真図版9・27)

(位置)H-21・22(切り合い)15号住居跡に切られる。西側は旧河道に削られる。南側は調査区外に伸びる。(規模と形態)北壁現存約0.86m、東壁約2.07mを確認、深さ約0.1m。隅丸方形か。(主軸方位)東壁で、N-3°-W(カマド)東壁の中央より南寄りか。粘土と焼土の集中がみられる。坏(1)・(2)・(3)と甕(4)が焼土上から出土。(その他の施設)カマドの北西に径約0.35m×0.27m、深さ約0.17mの長円形の落ち込みと径約0.4m×0.36m、深さ約0.19mの不整形形の落ち込みとその2つの落ち込みをつなぐような深さ0.05mの浅い溝を確認した。(遺物)非常に少ない。(時期)9世紀前半(備考)確認された床面のほとんどが硬化している。

## 20号住居跡（第37～39・60～63図、写真図版9・28・34、口絵4）

（位置）D～F-16・17（切り合い）北壁の一部が23号住居跡に切られ、東壁は攪乱に切られる。（規模と形態）南壁約4.5m、西壁約6.0m、深さ約0.32m。隅丸長方形。（主軸方位）N-25°-E（カマド）2箇所ある。カマド1は、南東角にあり石を主体とする。床面には、明確な焼土面が広がる。カマドの西側、住居の南壁に沿って粘土や焼け石が床面上にある。柱状高台皿（16）、甕（23）、塀（28）が出土。カマド2は、東壁中央近くであり、石を主体とする。坏（6）が石と同レベルで出土。（その他の施設）ピットを5基確認した。ピット1は、南西角にあり、径約0.75m×0.65m、床面からの深さ約0.4mである。ピット2はピット1の北側、径約0.65m×0.5m、深さ約0.3mである。ピット3はピット2の北側、径約0.75m×0.4mの不整形で、床面からの深さ約0.4mである。ピット4は住居の中央近くであり、径約1.0m×0.45mの長細い平面形で、床面からの深さは約0.5mである。ピット5は北東角に近く、径約0.7m×0.6m、床面からの深さ約0.4mである。いずれのピットからも遺物は出土していない。また、ピット2・4は硬化面の下で確認された。（遺物）住居の南側から多く出土しているが、ほとんどが床面から浮いた状態である。カマド2の前面から、皿（7）・（11）・（13）が床面上から出土した。塀（29）も床面上から出土。ピット4の上から鉄鏟（37）が出土しているが、床面より約0.1m上からである。出土位置は不明だが炉壁付着精錬鍛冶滓（資料No.11）と西壁際ほぼ中央で住居の確認面よりやや上から精錬鍛冶滓（資料No.12）が出土。また、カマド1の前面と南壁際から羽口片（40～45）6点が出土。（時期）11世紀後半（備考）カマド1の前面から西壁近くまで硬化面がある。

## 21号住居跡（第40・64図、写真図版10・28）

（位置）F・G-16・17（残存）南側が調査区外に伸びる。（規模と形態）北壁約3.66m、西壁現存約4.0m、深さ約0.33m。隅丸長方形か。（主軸方位）N-15°-E（カマド）不明。（その他の施設）東壁に近い中央に粘土塊があり、その東側にやや焼土が集中する。（遺物）粘土塊周辺に集中する。坏（1）・（2）、置きカマド（10）は粘土塊下位とほぼ同レベル、床面からやや浮いた状態からの出土である。他は床面から浮いた状態である。（時期）10世紀後半

## 22号住居跡（第41・65・66図、写真図版10・29・30）

（位置）H・I-15・16（切り合い）14号住居跡と重複。南側は調査区外に伸びる。（規模と形態）北壁約3.66m、西壁現存約3.84m、深さ約0.4m。長方形か。（主軸方位）N-15°-W（カマド）2基か。一つは、南壁セクションに袖石の一部がかかる。南東角近くの床面に粘土が広がる。これらは東壁南寄りか、南東角にカマドがある可能性を示す。またもう一つは、北東角に焼土のひろがりがある。（その他の施設）ピット1は西壁近くであり、径約0.7m×0.46mの不整長円形で、床面からの深さは約0.15m。覆土から皿（6）、高台（9）、柱状高台皿（10）、置きカマド（18）が出土。（遺物）南東角附近に集中する。床面から約0.1m上で、坏（1）・（2）・（4）、甕（11）・（12）・（13）が出土。床面より約0.2m～0.4m上で坏（3）、皿（5）・（6）・（7）・柱状高台（8）・（10）、高台（9）、置きカマド（17）・（19）・（20）・（22）などが出土。（時期）9世紀後半か（備考）床面に近い遺物は、9世紀後半で、床面から浮いた状態の遺物は、11世紀後半が多い。

## 23号住居跡（第42・67図、写真図版10・30）

（位置）D・E-16・17（切り合い）20号住居跡を切っている。（規模と形態）北壁約3.5m、西壁約2.5m、深さ約0.14m。歪な隅丸長方形。（主軸方位）N-20°-E（カマド）南東角にあり、石を主体とするが、東側の袖石は見当たらない。坏（1）・（2）・（3）、灰釉陶器碗（10）の破片が煙道入口附近からまとまって出土。カマドの前面に径約1.5m×1.3m、床面からの深さ約0.3mの掘り込みがある。（その他の施設）北壁寄りに径約0.1m～0.2mの自然石が並ぶが、床面からやや浮いている。本住居に伴わない可能性もある。（遺物）全体に少ない。甕（8）は、床面上から出土。他は浮いたところから出土している。（時期）10世紀後半

**1号土坑** (第43・67図、写真図版11・30)

(位置) E-13 (規模と形態) 径約0.48m×0.6m、深さ約0.08m。円形。(遺物) 壺(1)、甕(2)が覆土中から出土。(時期) 不明。古墳時代の土器片が出土しているが、包含層に掘り込まれているため、流れ込みの可能性が大きい。

**2号土坑** (第43・67図、写真図版11・30)

(位置) H-34 (切り合い) 東側を攪乱に切られている。(規模と形態) 現存径約1.08m×0.93m、深さ約0.18m。長円形と思われる。(遺物) 土師器の小片が数点出土したが、図示できたものは皿(1)のみである。全て浮いた状態で出土。(時期) 不明

**3号土坑** (第43図、写真図版11)

(位置) I-34 (残存) 南側が調査区外に伸びる。(規模と形態) 現存径約0.9m×3.35m、深さ約0.35m。長円形か。(遺物) 覆土から土器の小片1点出土したが図示不能。(時期) 不明

**4号土坑** (第43・67図、写真図版11・30)

(位置) H・I-30・31 (切り合い) 14号畝と重複。(規模と形態) 径約2.58m×1.43m、深さ約0.35m。長細い不整形。(遺物) 少ないが、石の下からも出土した。高台付坏(1)・(2)・(3)が底に近い覆土から出土。(時期) 9世紀後半 (備考) 覆土中に径約0.1~0.5mの自然石がやや中央にまとまって出土。

**5号土坑** (第43・68図、写真図版11・30)

(位置) E-20 (規模と形態) 径約1.79m×1.5m、深さ約0.21m。やや不整な円形。(遺物) 比較的多い。完形の皿(4)・(5)や、羽口片(8)が出土した。覆土から鍛錬鍛冶の灰汁の可能性のあるもの(資料No.14)が出土。(時期) 11世紀後半 (備考) 覆土に焼土・炭化物が多く含まれている。

**6号土坑** (第45図、写真図版11)

(位置) G-21 (規模と形態) 径約0.88m×0.82m、深さ約0.23m。不整形。(遺物) 覆土の確認面を中心に約18点出土。ほとんどがS字状口縁台付甕の破片である。(時期) 古墳時代前期か

**7号土坑** (第45図、写真図版11)

(位置) F-14 (規模と形態) (遺物) 8点出土したが、全て小片である。古墳時代の甕片と平安時代の坏片が混在。(時期) 不明 (備考) 覆土中に径約0.2m以下の自然石がある。

**1号溝** (第45・68図、写真図版12・31)

(位置) C~E-12・13 (切り合い) 1号住居跡を切る。南側は調査区外に伸びる。北側は、旧河道にぶつかる。(規模と形態) 現存長約11.6m、幅約1.56m~1.95m、深さ約0.27m。南から北へほぼ直線的に流れる。(遺物) 量は少なく、全て破片である。古墳時代と平安時代の土器が混在する。(時期) 不明 (備考) 覆土に径約0.23m以下の自然石がある。

**2号溝** (第46・68図、写真図版12・31)

(位置) C~E-10・11 (切り合い) 南側は調査区外に伸びる。北側は、旧河道にぶつかる。(規模と形態) 現存長約10.62m、幅約0.99m~2.25m、深さ0.57m。南から北へほぼ直線的に流れる。(遺物) 全て破片で、磨耗しているものが多い。平安時代の坏(1)、古墳時代の高坏(2)、同壺(3)・(4)・(5)・(6)などが覆土から出土。(時期) 不明 (備考) 中央より南側の覆土上層に径約0.45m以下の自然石が集中する。土層堆積から水が流れていた時期があったと考えられる。

**3号溝** (第46・68図、写真図版13・31)

(位置) D-9 (切り合い) 東側が旧河道にぶつかる。(規模と形態) 現存長約3.18m、最大幅約1.1m、深さ約0.36m。南西から北東に直線的に流れる。(遺物) 約20点出土しているが、全て溝の落ち込む際からである。

図示できたのは、古墳時代の器台(1)のみである。(時期)不明(備考)本溝と旧河道がぶつかる手前に径約0.15m以下の石が集中するが、底よりも浮いている。

#### 4号溝(第47・69図、写真図版13・31、口絵4)

(位置)G~I-31~35(切り合い)東・西両端は、調査区外に伸びる。途中攪乱に切られる。(規模と形態)現存長約21.27m、幅約0.35m×1.41m、深さ約0.36m。北東から南西にほぼ直線的に流れる。(遺物)約21点と少ない。西端と東端の2箇所やや集中がみられる。覆土の上位からの出土がほとんどだが、須恵器甕(7)は下位から出土している。(時期)不明(備考)西端に径約0.4m以下の自然石の集中があるが、底より約0.2m上と浮いている。焼土の集中が2箇所あり、1つは西端の石集中箇所、石とほぼ同レベルか下位にあるが、底より約0.1m以上浮いている。もう1つは東端近くで溝の確認面近くにある。

#### 5号溝(第47・69図、写真図版13・31)

(位置)F~I-28(切り合い)南・北端が調査区外に伸びる。(規模と形態)現存長約16.11m、幅約1.0m~2.04m、深さ約0.25m。北から南にやや弧を描くように流れる。(遺物)7点出土で、図示できたのは坏(1)・(2)のみである。覆土中から出土。(時期)不明(備考)中央の径約0.45mと0.8mの石は地山の石である。

#### 6号溝(第47図)

(位置)F-19(切り合い)16号住居跡と重複。(規模と形態)現存長約1.98m、幅約0.66m~0.78m、深さ約0.11m。(遺物)2点出土したが小片のため図示不能。(時期)不明

#### 流れ跡(第47・69図、写真図版13・31)

(位置)G-28・29(規模と形態)径約4.65m×1.8mの範囲で、縁がギザギザしたような不整形。深さ約0.3m。(遺物)約7点出土。ほとんどが磨耗している。坏(1)・(2)は底近く、青磁(3)は確認面近くから出土。(時期)不明(備考)覆土は砂礫である。流水の作用で抉れたような掘り込みである。

#### 1~14号畝(第48・69図、写真図版31)

F~H-30~34に14条確認した。ほぼ南北方向に伸びる。住居跡や攪乱と重複し、調査区外に伸びるものがある。現存長は3号が約8.4mと最長で、幅約0.3~0.8m、深さは0.1m前後と浅い。遺物は14号から皿(1)が出土したのみである。時期不明。

#### 2. グリッド出土遺物(第69~71・80・82図、写真図版32~34、口絵4)

道路より東側の調査区は、第2次調査区同様に旧河道からは、古墳時代前期の高坏(27)・壺(10)、平安時代の坏(38)・(40)などが混在して出土している。古墳時代前期の遺物は、いくつか集中するところが見られる。D-9・10からは、壺(3)、S字状口縁台付甕(14)、高坏(24)・(25)、器台(29)・(31)、底部穿孔鉢(33)などが同レベルから出土している。また1号住居跡の西側のE・F-13からは、壺(1)・(4)・(8)・(9)・(12)・(20)、甕(19)、器台(30)などの破片が住居の確認面より下位から出土している。いずれの遺物も完形ではない。

西側の調査区からは、ほとんど古墳時代の遺物は出土しない。遺構に伴わない平安時代の遺物は2筋の旧河道とその間に多いが、ほとんど小片である。坏(39)は13号住居跡に関連がある可能性もある。西側の旧河道からは、坏(37)、皿(43)、灰釉陶器碗(52)などが出土。旧河道の間からは、皿(41)、柱状高台皿(44)、砥石(53)などが出土したが、いずれも完形ではない。

### 第3節 第4次調査 2006(平成18)年度

C-29・E-27~29とE・F-33~36の3箇所以外の大部分が旧河道である。1号住居跡・1~3号ピッ

トは東端のE・F-34・35にある。遺構に伴わないが、古墳時代前期の土器がE・F-33・34で集中して出土する。

## 1. 遺構

### 1号住居跡（第72・73図、写真図版14・15・35）

（位置）E・F-35（切り合い）南東角が攪乱を受ける。（規模）北壁約3.03m、西壁約2.7m、深さ約0.24m。やや長い隅丸方形。（主軸方位）N-12°-E（カマド）南東角にあり、南側と上部は攪乱を受ける。石を主体としていたが、ほとんど元位置を保っていないと思われる。甕（8）・（9）が出土。（その他の施設）ピット1は南西角にあり、住居の確認面から掘り込まれた径約0.55m×0.45m、床面からの深さ約0.32mのほぼ円形の穴があり、中に長径約0.45mの石が入っていた。覆土が1～3号ピットと同じことから、本住居跡に伴わない可能性がある。ほぼ中央に径約1.0m、深さ約0.1mの円形の掘り込みがある。（遺物）やや少なく、全てが破片である。また床面から浮いている。鉄製品は中央付近から3点出土し、その内鉄鏃（14）が床面上から出土。覆土中から古墳時代壺（第57図12）が出土したが、流れ込みと思われる。（時期）11世紀前半か

### 1号ピット（第72図、写真図版15）

（位置）E・F-34・35（規模と形態）径約0.7m×0.4m、深さ約0.2m。長円形。（遺物）なし（時期）不明

### 2号ピット（第72図、写真図版15）

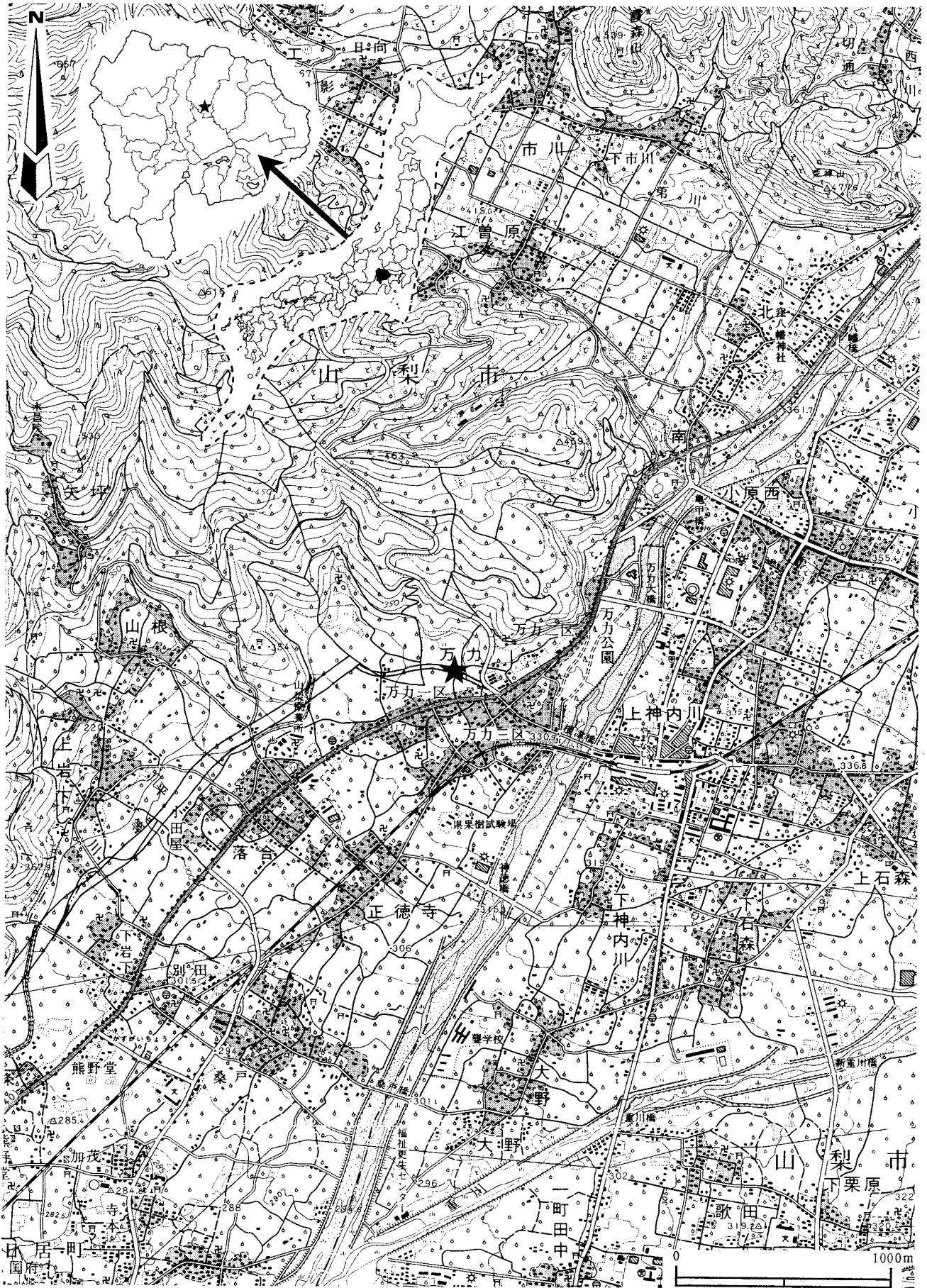
（位置）F-34（規模と形態）径約0.6m×0.5m、深さ約0.21m。長円形。（遺物）なし（時期）不明

### 3号ピット（第72図、写真図版16）

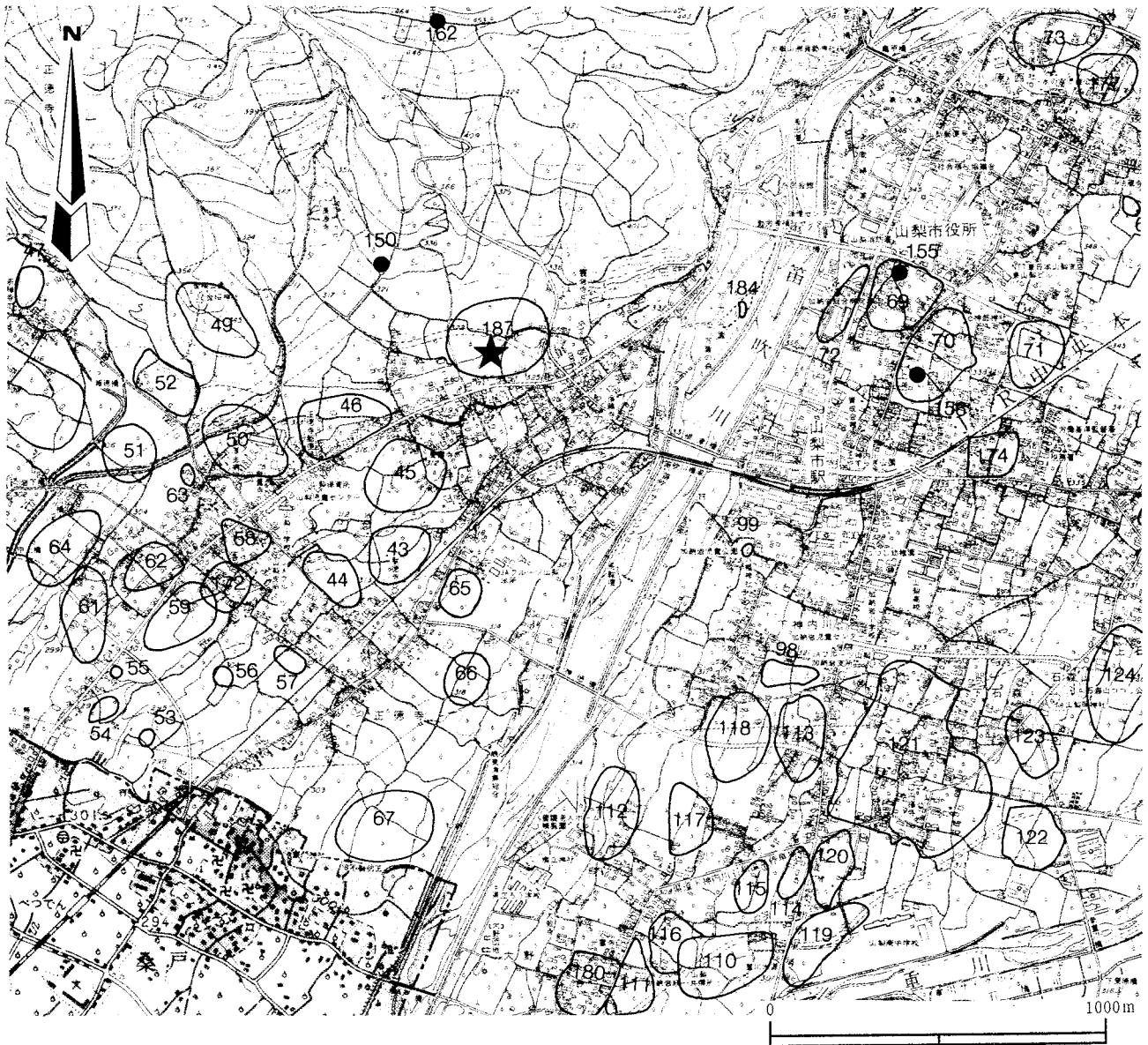
（位置）F-34（規模と形態）径約0.38m×0.26m、深さ約0.18m。不整形。（遺物）なし（時期）不明

## 2. グリッド出土遺物（第74～79・83図、写真図版16・35～39、口絵4）

旧河道からは、縄文時代・古墳時代・平安時代・中世の遺物が混在して出土する。旧河道の東岸附近、E・F-33・34では、約0.2～0.3mの高さの範囲に古墳時代前期の土器が約1500点出土している。完形になるものはないが、50%以上残存するものは、壺（7）・（10）、甕（40）・（41）・（47）、S字状口縁台付甕（32）・（33）、高坏（57）、坏（63）、鉢（64）・（65）・（69）などである。ほぼ完形の鳥形土製品（105）がF-35から出土しているが、住居跡の確認面よりも約0.15m上位にある。



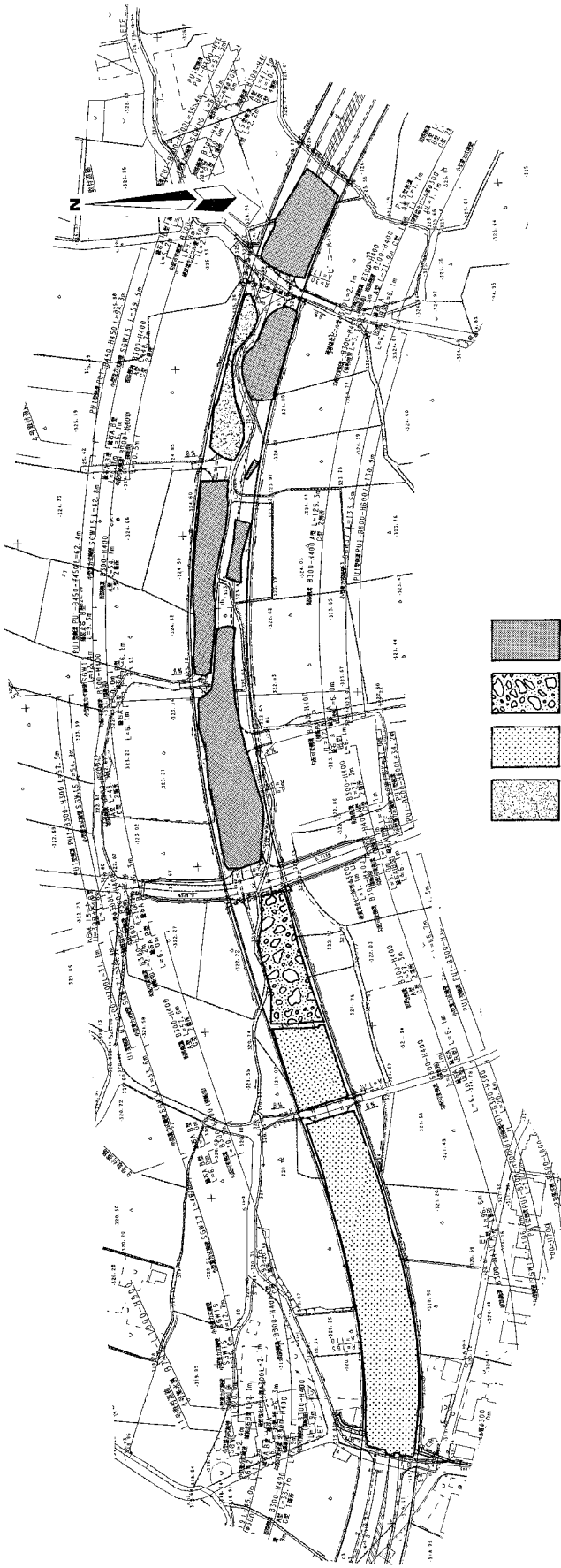
第1図 足原田遺跡位置図 (S=1/25,000)







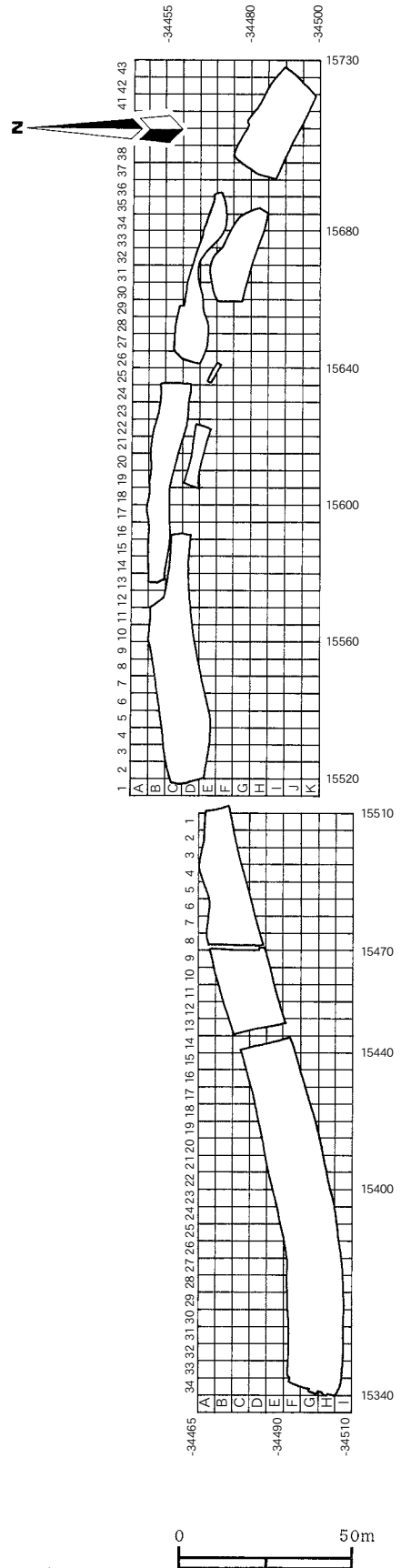
43. 間之田東遺跡 (平安: 散布地) 44. 天神前遺跡 (縄文・平安・中世: 散布地) 45. 間之田西遺跡 (古墳・平安: 散布地) 46. 原ノ前遺跡 (奈良: 散布地) 47. 長田遺跡 (縄文: 散布地) 49. 金桜遺跡 (縄文・平安: 散布地) 50. 延命寺遺跡 (弥生・古墳・平安: 集落跡) 51. 千原田遺跡 (古墳・平安: 集落跡) 52. 地藏久保遺跡 (平安: 散布地) 53. 欠之下遺跡 (中世: 散布地) 54. 花桜遺跡 (平安・中世: 散布地) 55. 落合市道遺跡 (平安: 散布地) 56. 正徳寺前田遺跡 (平安: 散布地) 57. 林際遺跡 (平安: 散布地) 58. 屋敷遺跡 (平安・中世: 散布地) 59. 堀之内遺跡 (平安: 散布地) 61. 半塚池遺跡 (古墳・平安・近世: 散布地) 62. 田屋之前遺跡 (平安: 散布地) 63. 三枚池遺跡 (平安・中世: 散布地) 64. 小武家遺跡 (弥生・古墳・平安・中世: 散布地) 65. 三宮寺遺跡 (平安・中世: 散布地) 66. 九ツ塚遺跡 (平安・中世: 散布地) 67. 五鉢尊遺跡 (平安: 散布地) 69. 平塚遺跡 (平安: 散布地) 70. 塚越遺跡 (古墳・中世: 散布地) 71. 松原遺跡 (中世: 散布地) 72. 日下部兩院前遺跡 (古墳: 散布地) 73. 八王子遺跡 (縄文: 散布地) 98. 前田遺跡 (平安: 散布地) 99. 宮ノ上遺跡 (平安: 散布地) 110. 天神前東遺跡 (縄文・平安: 散布地) 111. 高畑遺跡 (縄文・弥生・古墳・平安: 集落跡) 112. 榎木田遺跡 (平安: 散布地) 113. 宗高北遺跡 (平安: 散布地) 114. 宗高南遺跡 (弥生・古墳: 散布地) 115. 宗高西遺跡 (古墳: 散布地) 116. 天神前北遺跡 (平安: 散布地) 117. 市道遺跡 (平安: 散布地) 118. 杉ノ木遺跡 (古墳・平安: 集落跡) 119. 雲林遺跡 (古墳・平安: 散布地) 120. 宗高東遺跡 (縄文・弥生: 散布地) 121. 屋敷添遺跡 (縄文・平安・中世: 散布地) 122. 上石森塚越遺跡 (縄文・平安: 散布地) 123. 宮ノ前遺跡 (平安: 散布地) 124. 上黒木遺跡 (奈良・平安・中世: 散布地) 150. 長源寺前古墳 (古墳: 古墳) 155. 平塚古墳 (古墳: 古墳) 156. 稲荷塚古墳 (古墳: 古墳) 162. 富士塚 (近世: 塚) 172. 落合館跡 (中世: 城館跡) 174. 城伊庵屋敷跡 (中世: 城館跡) 177. 安田義定館跡 (中世: 城館跡) 180. 大野砦跡 (中世: 城館跡) 184. 雁行堤 (近世: 堤防遺跡) 187. 足原田遺跡 (古墳・平安・中世: 集落跡まか)

引用文献 山梨市 2005『山梨市史 史料編 考古・古代・中世』

第2図 周辺の遺跡 (S=1/20,000)

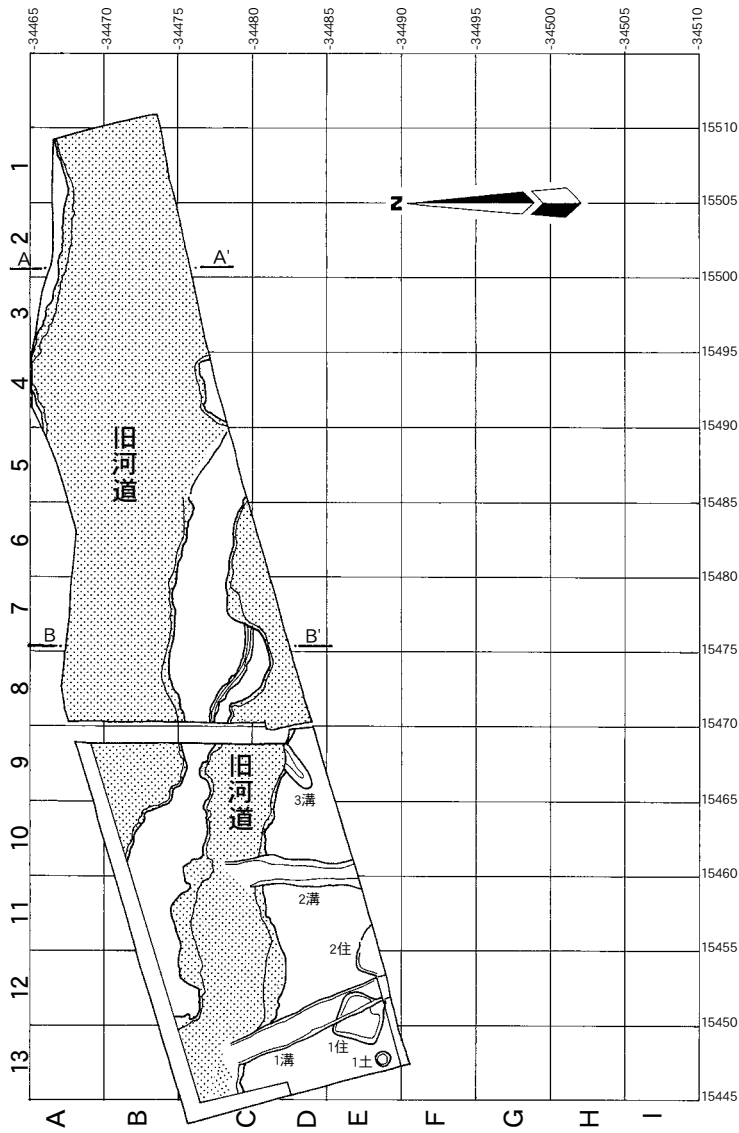


-  第1次調査区
-  第2次調査区
-  第3次調査区
-  第4次調査区

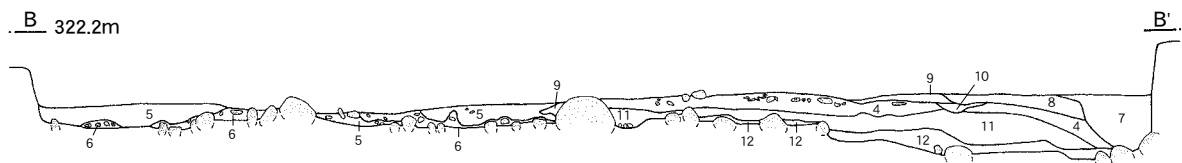
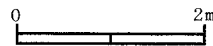
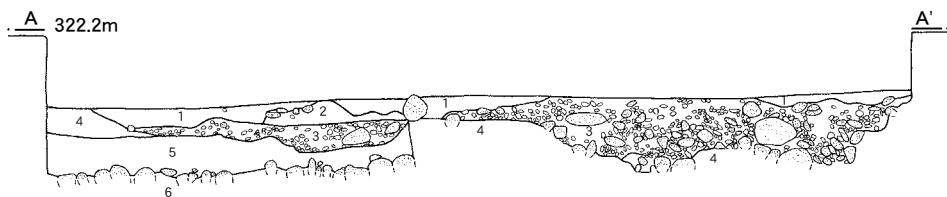


第3図 調査区位置図 (S = 1/2,000)

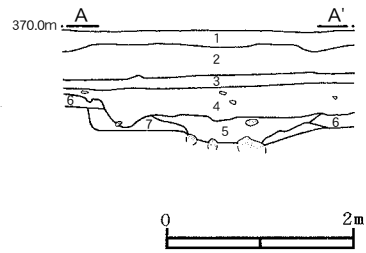
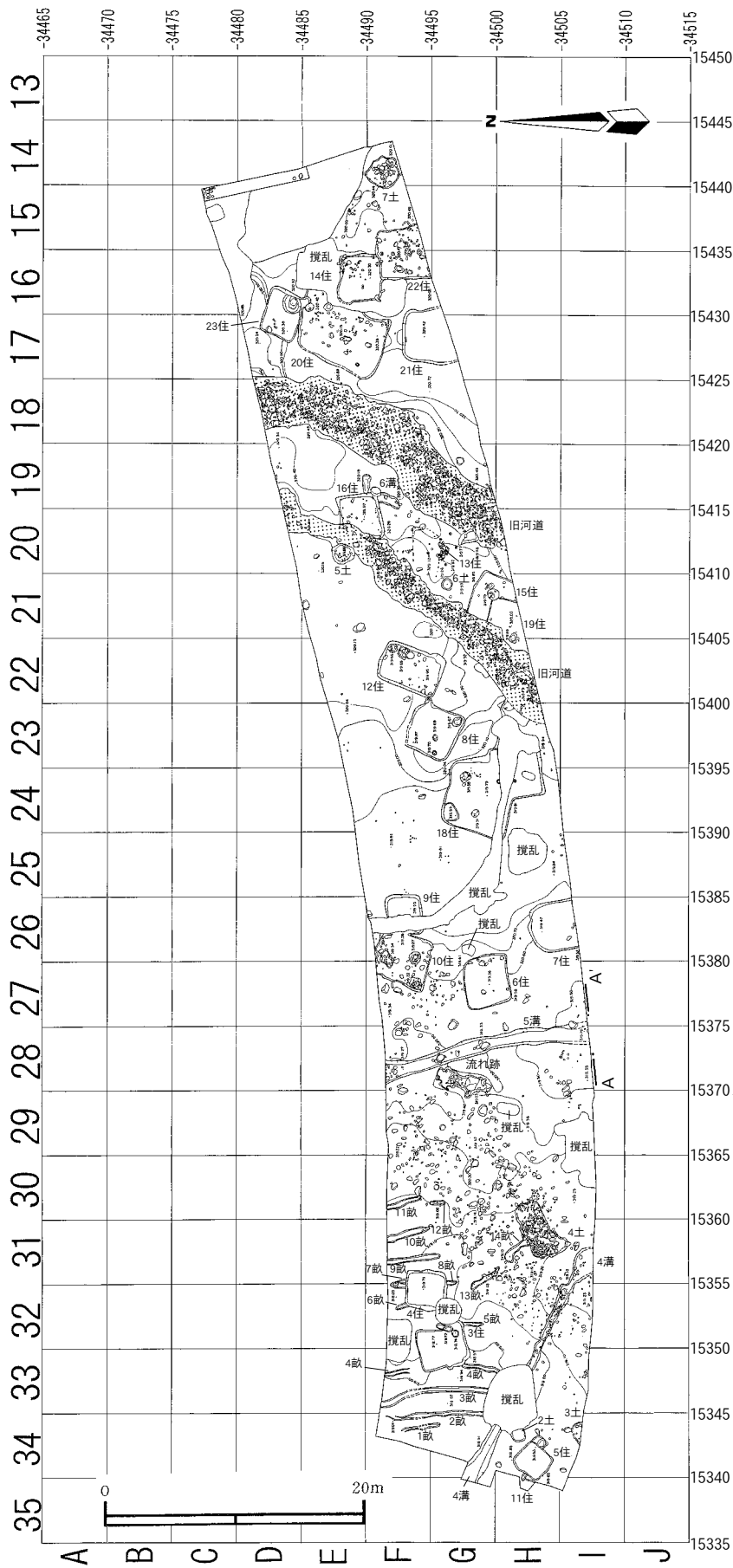




- 4 SEC1・4
1. 暗褐色砂質土層 (10YR3/4) 明黄褐色 (6/8) ブロック含む
  2. 暗褐色砂質土層 (10YR3/4) 径 10~15 cmの礫含む  
明黄褐色ブロック少し含む
  3. 暗褐色砂礫層 (10YR3/4) 径 40 cm以下の礫多く含む  
明黄褐色ブロック 1層より多く含む
  4. 黒褐色砂質土層 (10YR2/3) 褐色 (4/6) ブロック含む 遺物包含層
  5. 褐色砂層 (10YR4/6)
  6. 褐色砂層 (10YR4/6) 径 5~40 cmの礫多く含む
  7. にぶい黄褐色砂層 (10YR5/4) 径 1~3 cmの礫含む
  8. にぶい黄褐色砂層 (10YR5/4)
  9. にぶい黄褐色砂層 (10YR5/4) 径 1~4 cmの礫多く含む
  10. 暗褐色砂質土層 (10YR3/4)
  11. 黒褐色砂質土層 (10YR2/3)
  12. 黄褐色砂質土層 (10YR5/6) 径 10~70 cmの礫含む
- ※全てしまり強・粘性弱

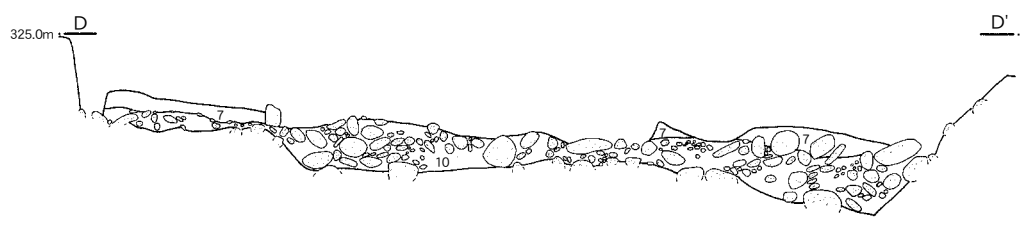
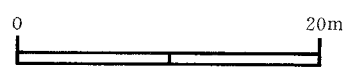
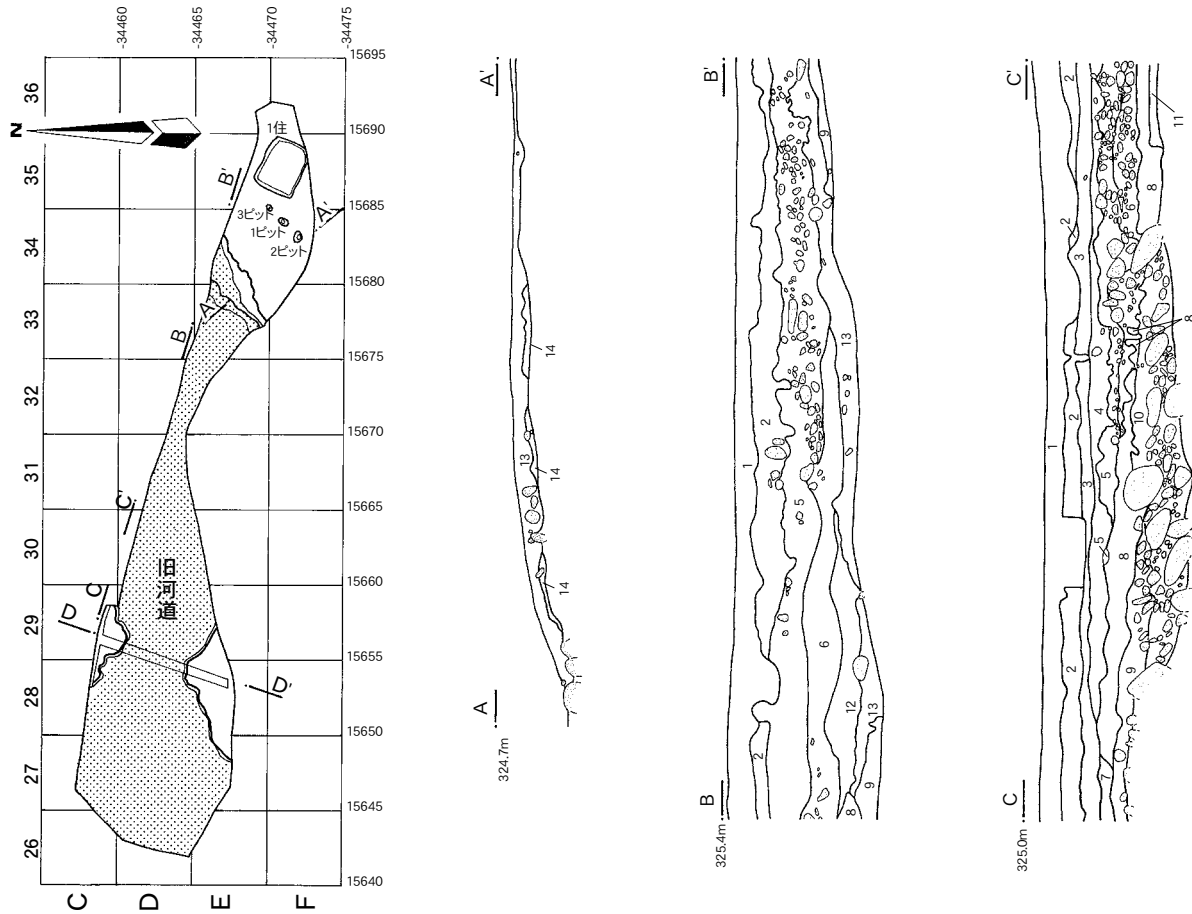


第4図 第2次・第3次 (1) 全体図 (1/500・1/80・1/100)



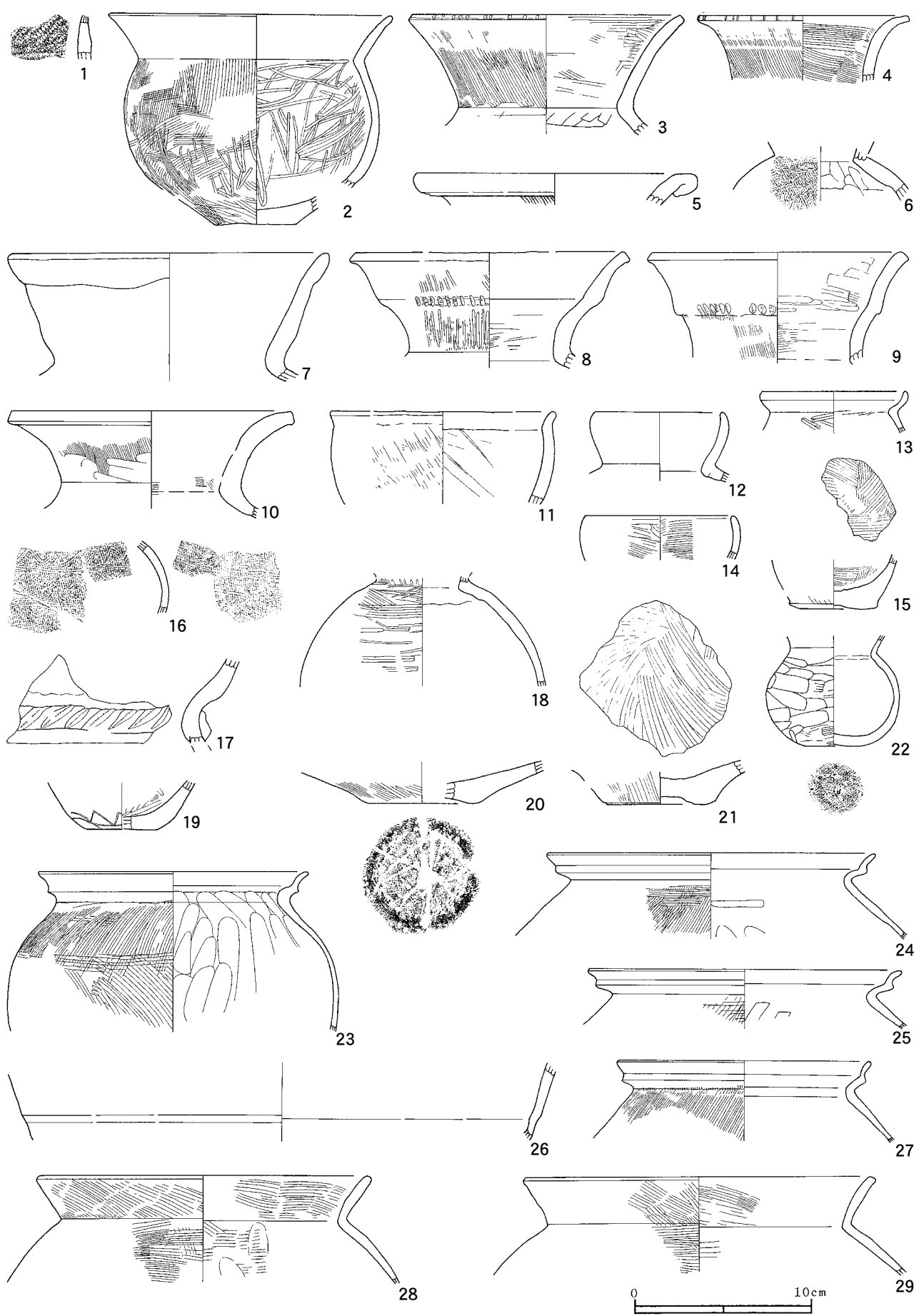
- 5 セクション (5 溝南)
- 1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 現耕作土
  - 2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 旧耕作土 黄褐色粒含む
  - 3. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 旧田の床土
  - 4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 遺物包含層
  - 5. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 径0.5~1cmの礫を含む
  - 6. 黒褐色砂質土 (10YR2/3)
  - 7. 褐色砂質土 (10YR4/4) 黄褐色ブロック含む
- ※全てしまり強・粘性弱

第5図 第3次(2) 全体図 (1/500・1/80)

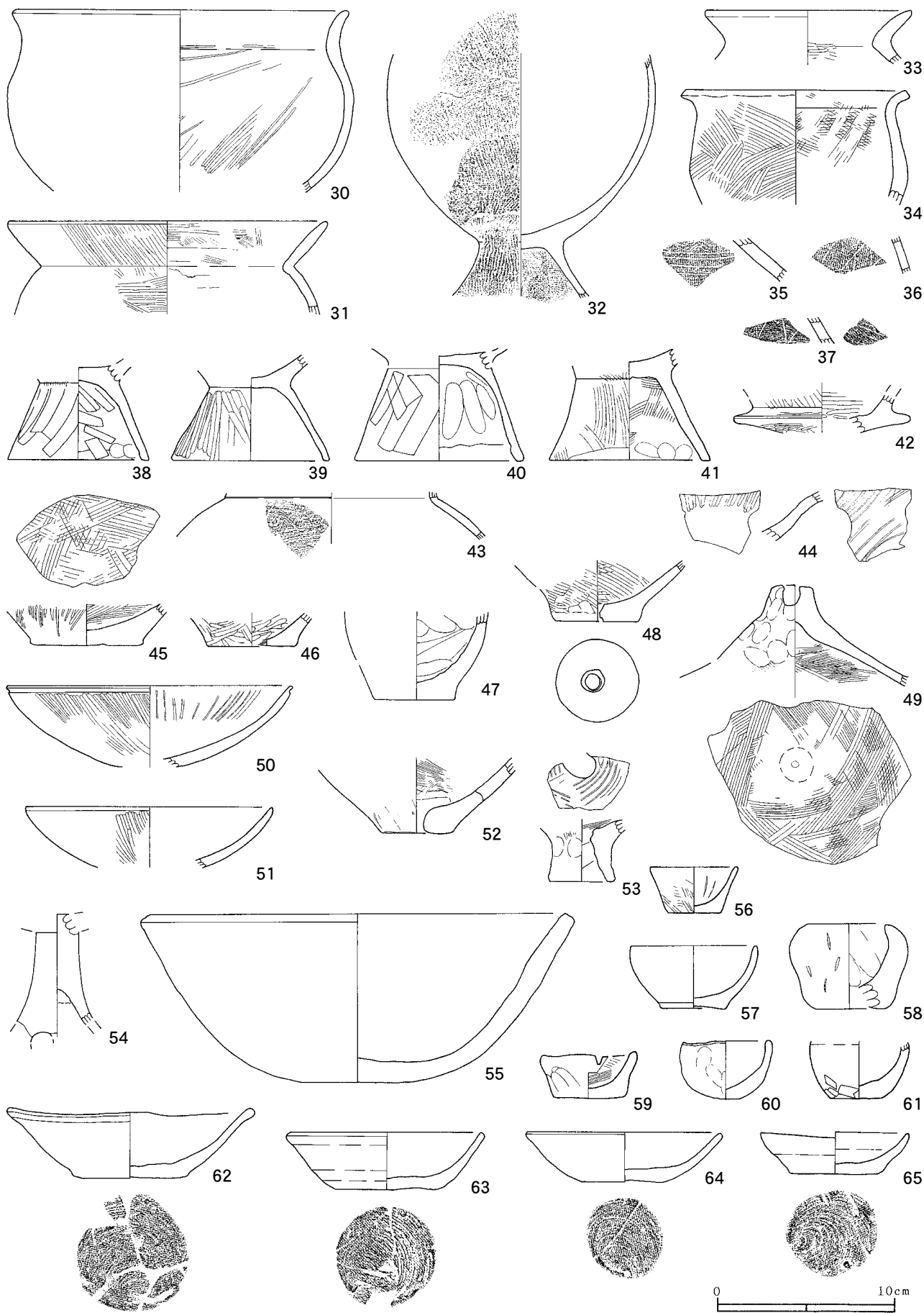


- ‘6 壁
1. 褐色砂質土 (10YR4/4) 現耕作土
  2. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 旧田の床土
  3. 褐色砂質土 (10YR4/4) 旧耕作土
  4. 褐色砂質土 (10YR4/6) 旧田の床土
  5. 黄橙砂 (10YR7/8) 細礫～巨礫含む 遺物若干含む
  6. にぶい黄褐色砂 (10YR4/3) 細礫～巨礫含む 遺物若干含む
  7. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 遺物若干含む
  8. にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 黒褐色粒少量含む
  9. 褐色砂 (10YR4/6)
  10. 褐色砂 (10YR4/6) 細礫～巨礫含む
  11. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
  12. 灰黄褐色砂 (10YR6/2)
  13. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 粘性ややあり 炭化物含む 古墳期遺物包含層
  14. にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4) 地山
- ※13層以外、しまり強・粘性弱

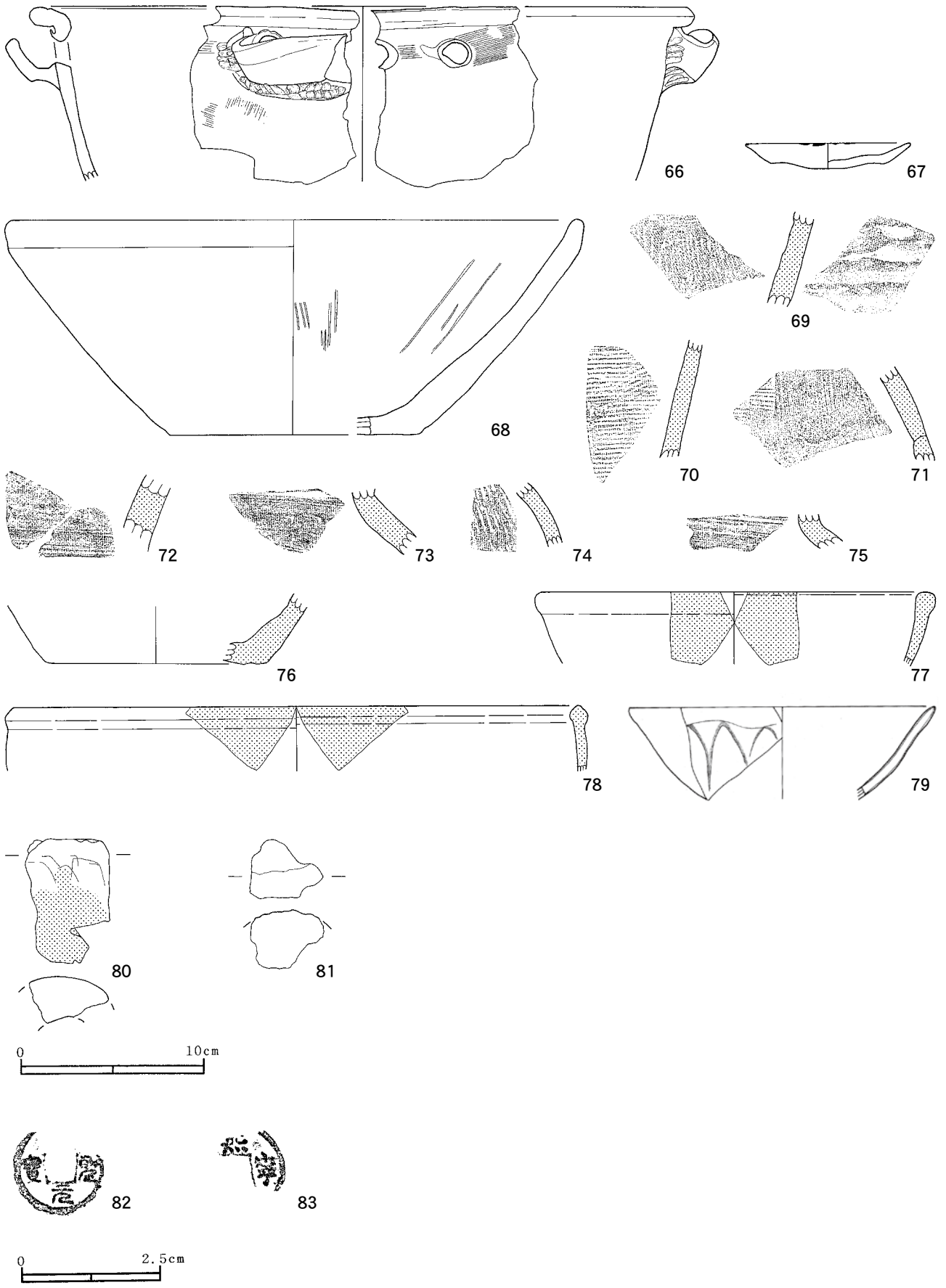
第6図 第4次 全体図 (1/500・1/80)



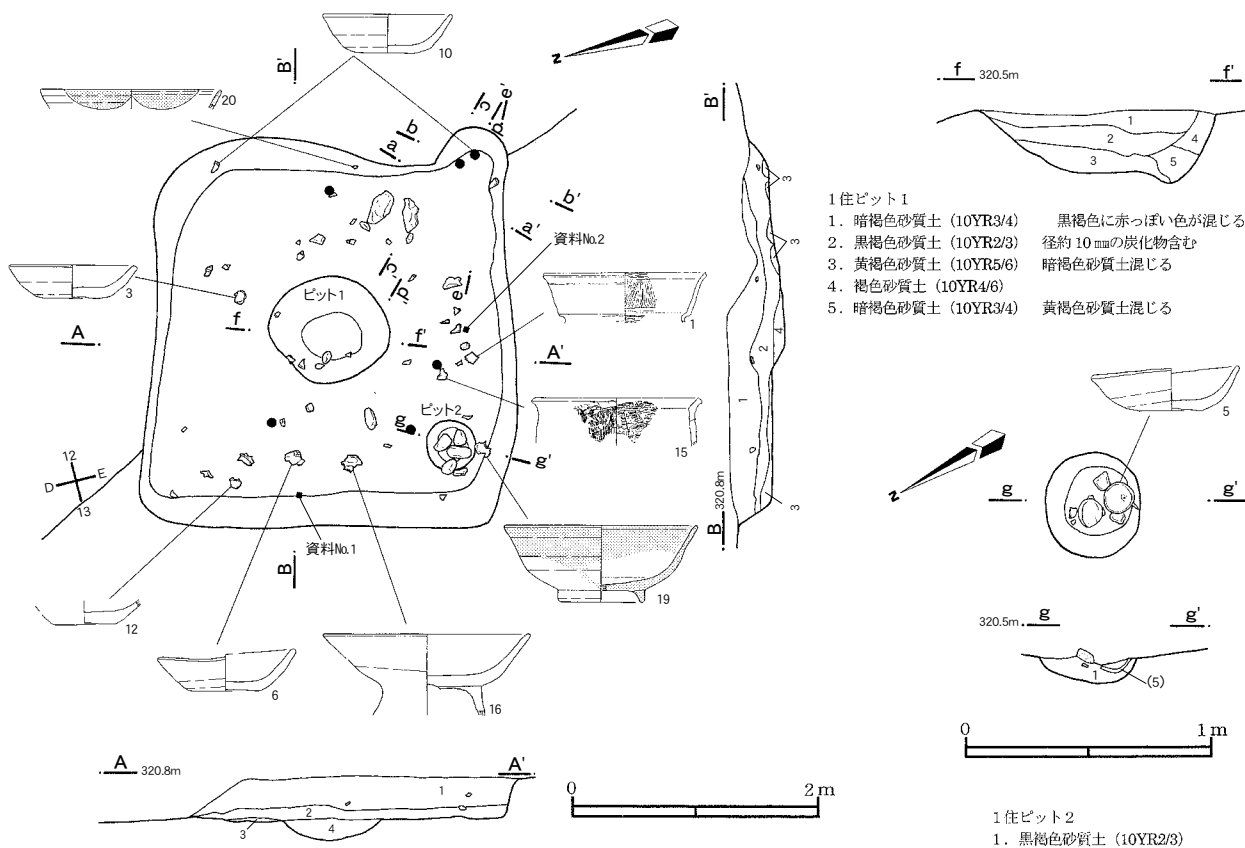
第7図 第2次 グリッド出土遺物 (1)



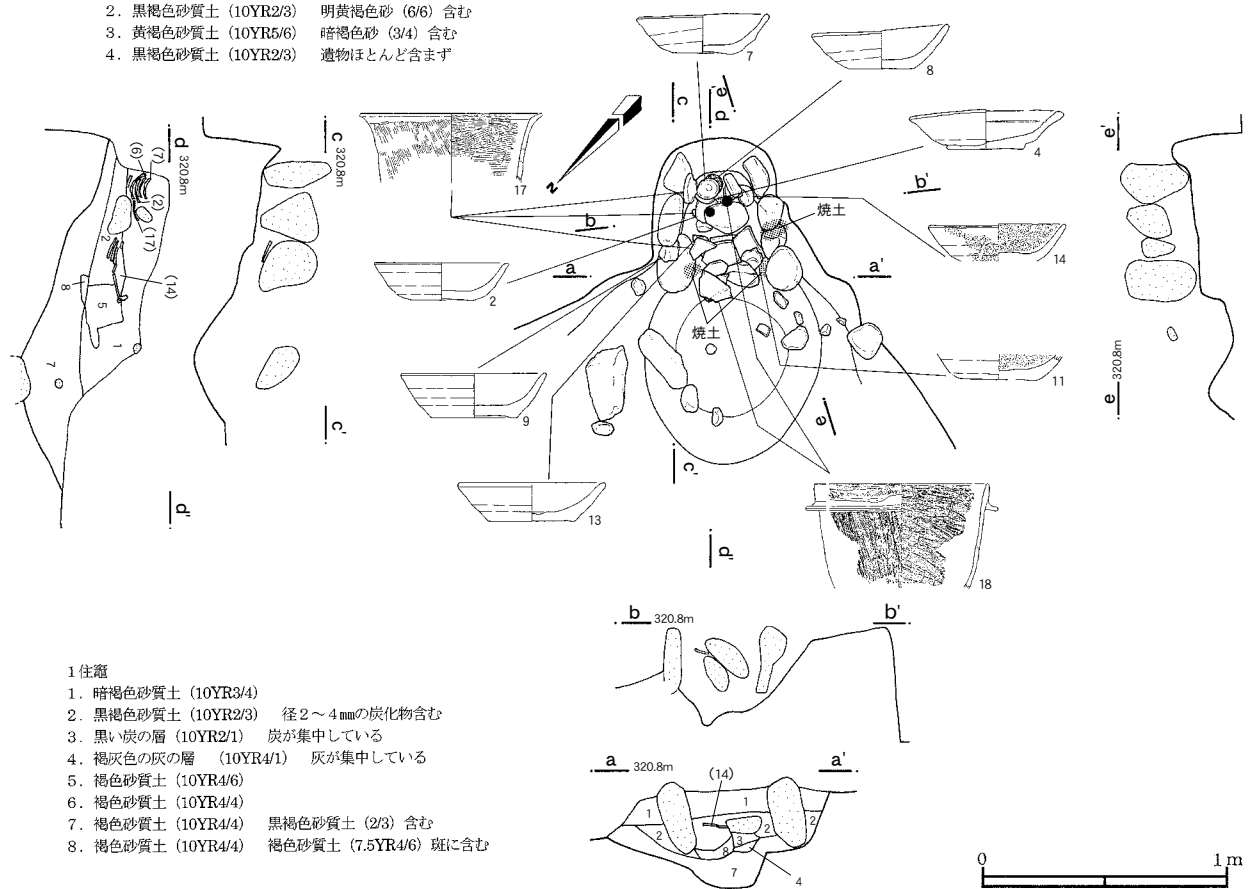
第8図 第2次 グリッド出土遺物 (2)



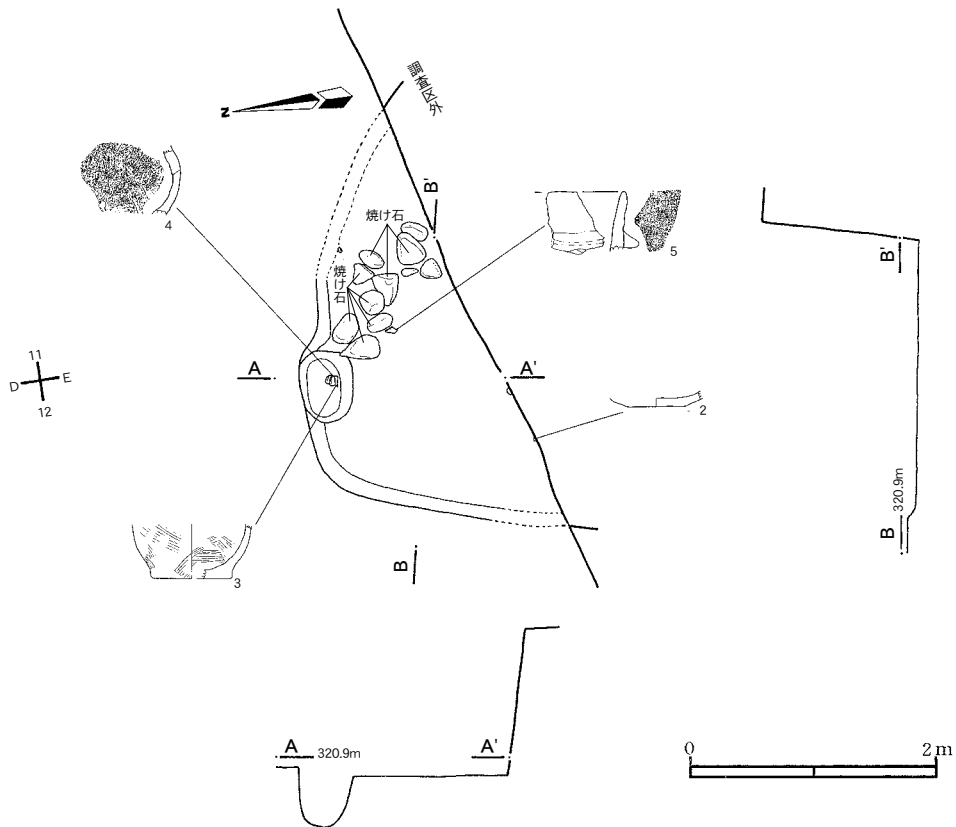
第9図 第2次 グリッド出土遺物 (3)



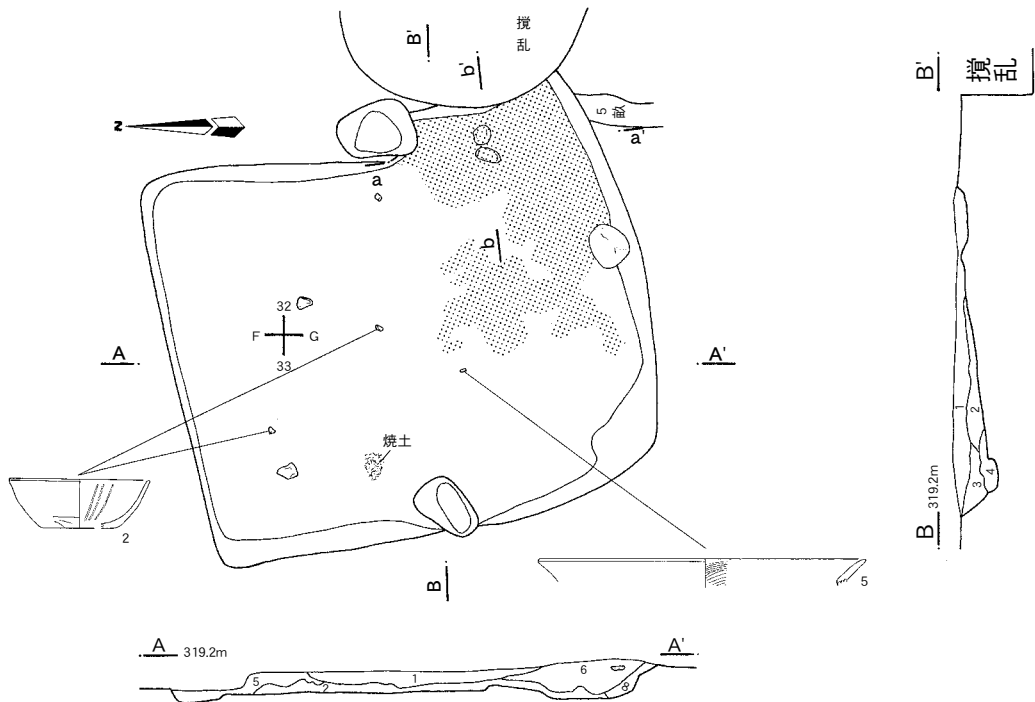
- 1住
1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 径5~10mmの炭化物若干含む
  2. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 明黄褐色砂 (6/6) 含む
  3. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 暗褐色砂 (3/4) 含む
  4. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 遺物ほとんど含まず



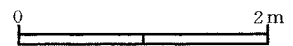
第10図 第3次 1号住居跡・カマド (1/60・1/30)



第11図 第3次 2号住居跡 (1/60)

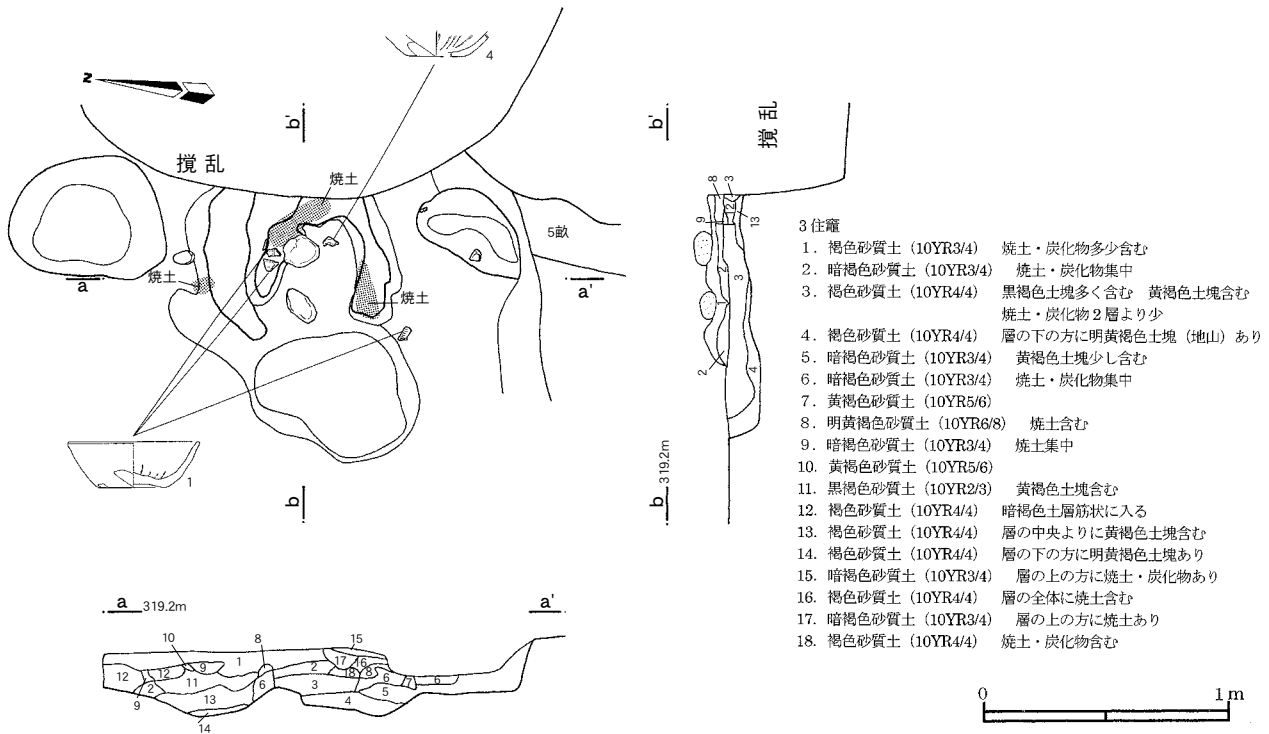


- 3住
1. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 中央より西寄りから炭化物
  2. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) とろどころ黒褐色土が混じる
  3. 黒褐色砂質土 (10YR2/2) 黄褐色ブロック含む
  4. 暗褐色砂質土 (10YR3/3)
  5. 黒褐色砂質土 (10YR2/2) 黄褐色ブロック含む
  6. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 暗褐色・黄褐色ブロック含む
  7. 黒褐色砂質土 (10YR2/3)
  8. 褐色砂質土 (10YR4/4) 黒褐色ブロック含む

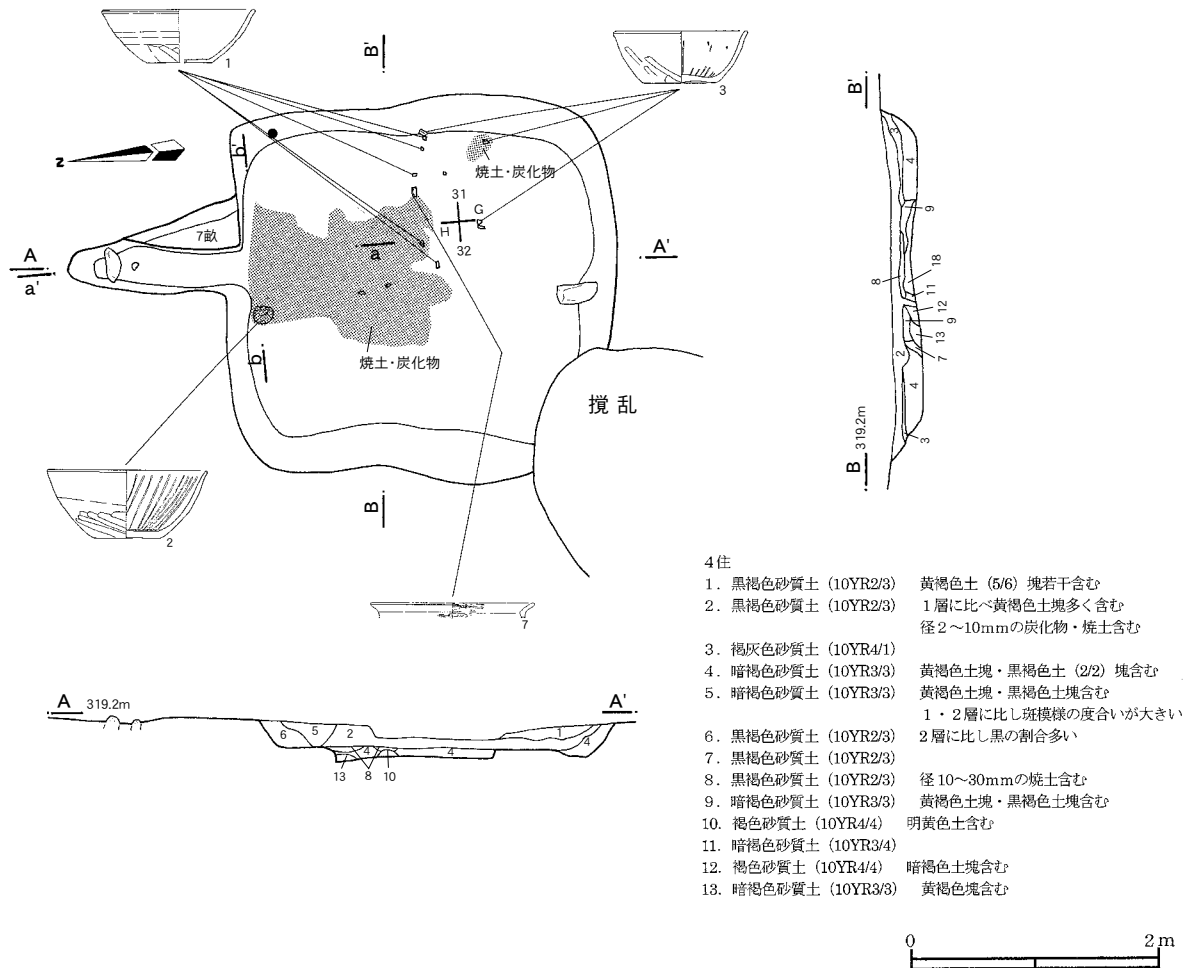


第12図 第3次 3号住居跡 (1/60)

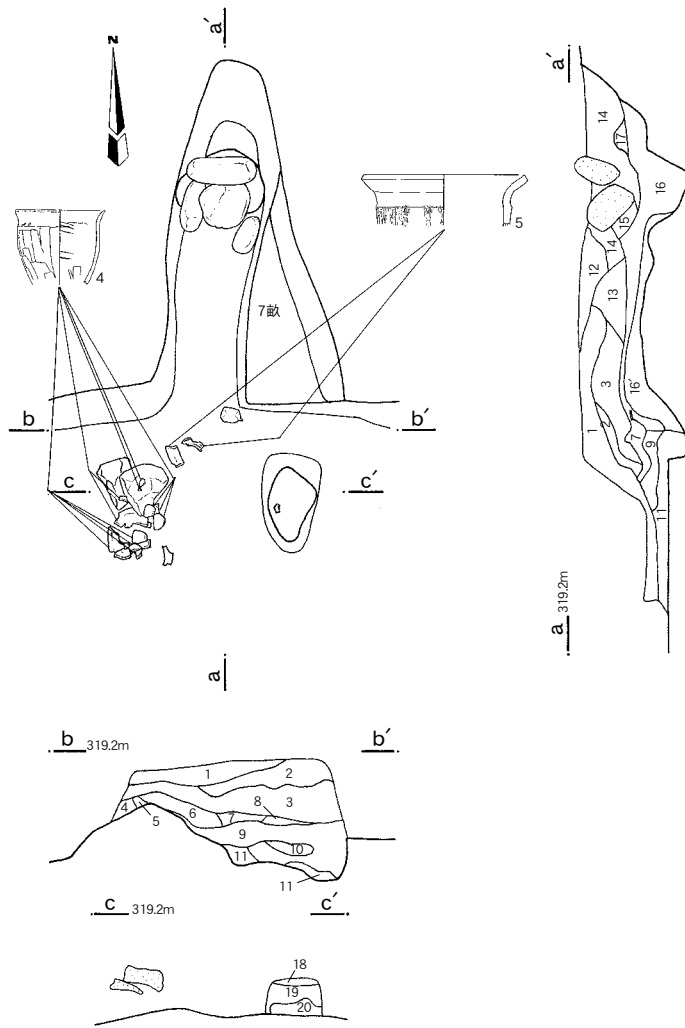




第13図 第3次 3号住居跡カマド (1/30)



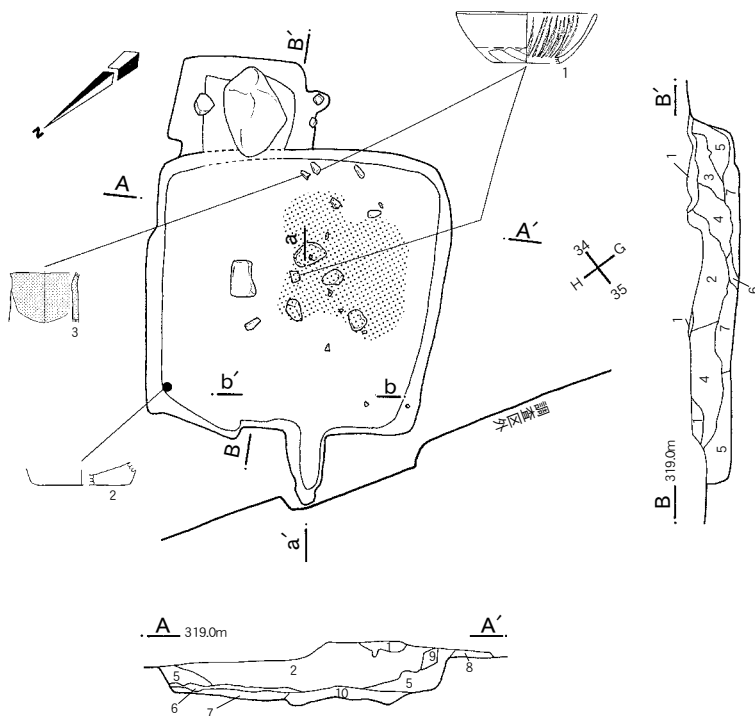
第14図 第3次 4号住居跡 (1/60)



4住竈

1. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 黄褐色土塊多く含む 炭化物・焼土含む
2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黒褐色土粒・明黄褐色土粒含む
3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 2層より黒褐色・黄褐色土多く含む
4. オリーブ色砂質土 (5Y5/4)
5. 褐色砂質土 (10YR4/4) 炭化物・焼土含む
6. オリーブ色砂質土 (5Y5/4) 黒褐色土塊少し含む
7. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物・焼土含む
8. 褐色砂質土 (10YR4/4)
9. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黒褐色土粒多く含む 明黄褐色土塊少し含む
10. 明黄褐色砂質土 (10YR6/8)
11. 明黄褐色砂質土 (10YR6/8)
12. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 黄褐色土塊少し含む
13. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土塊 12層より多く含む
14. 褐色砂質土 (10YR4/4) 黄褐色土塊含む 12・13層より明るい
15. にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4) 他層より粘性あり
16. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 黄褐色土塊含む
- 16'. 16層に炭化物含む
17. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
18. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 粘性あり 炭化物・焼土含む
19. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黒褐色・黄褐色土塊斑に含む
20. 明黄褐色砂質土 (10YR6/8)

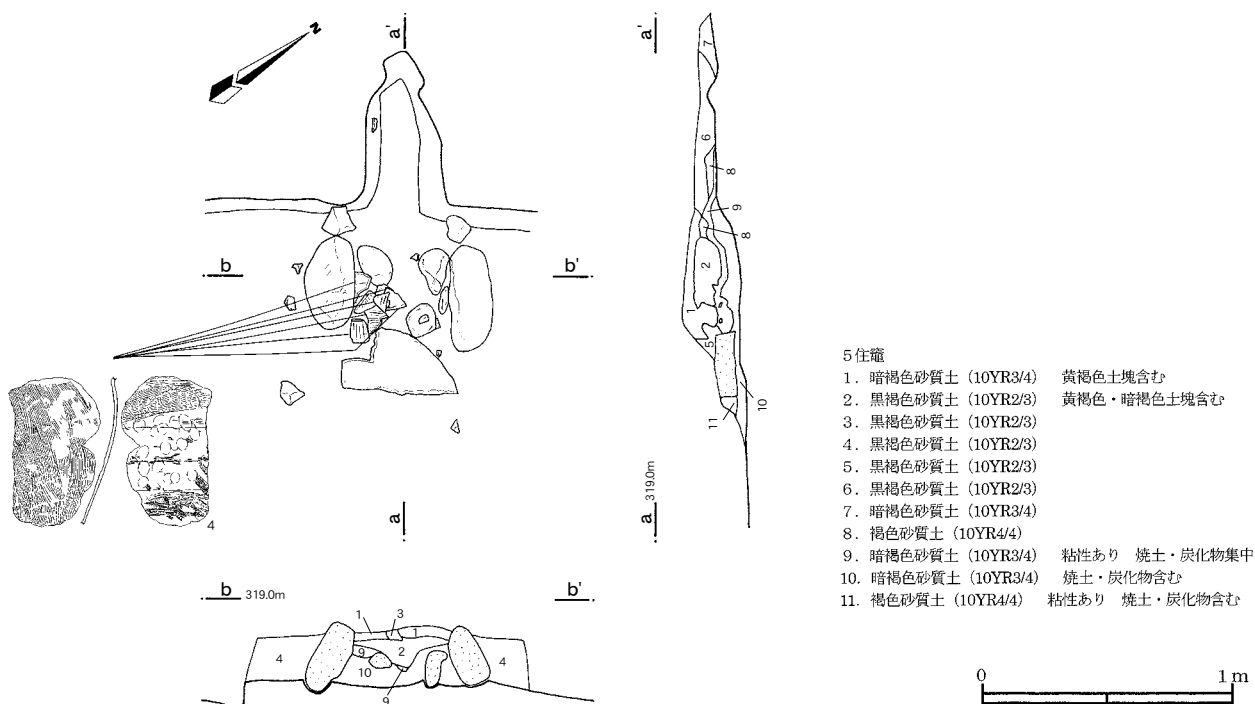
第15図 第3次 4号住居跡カマド (1/30)



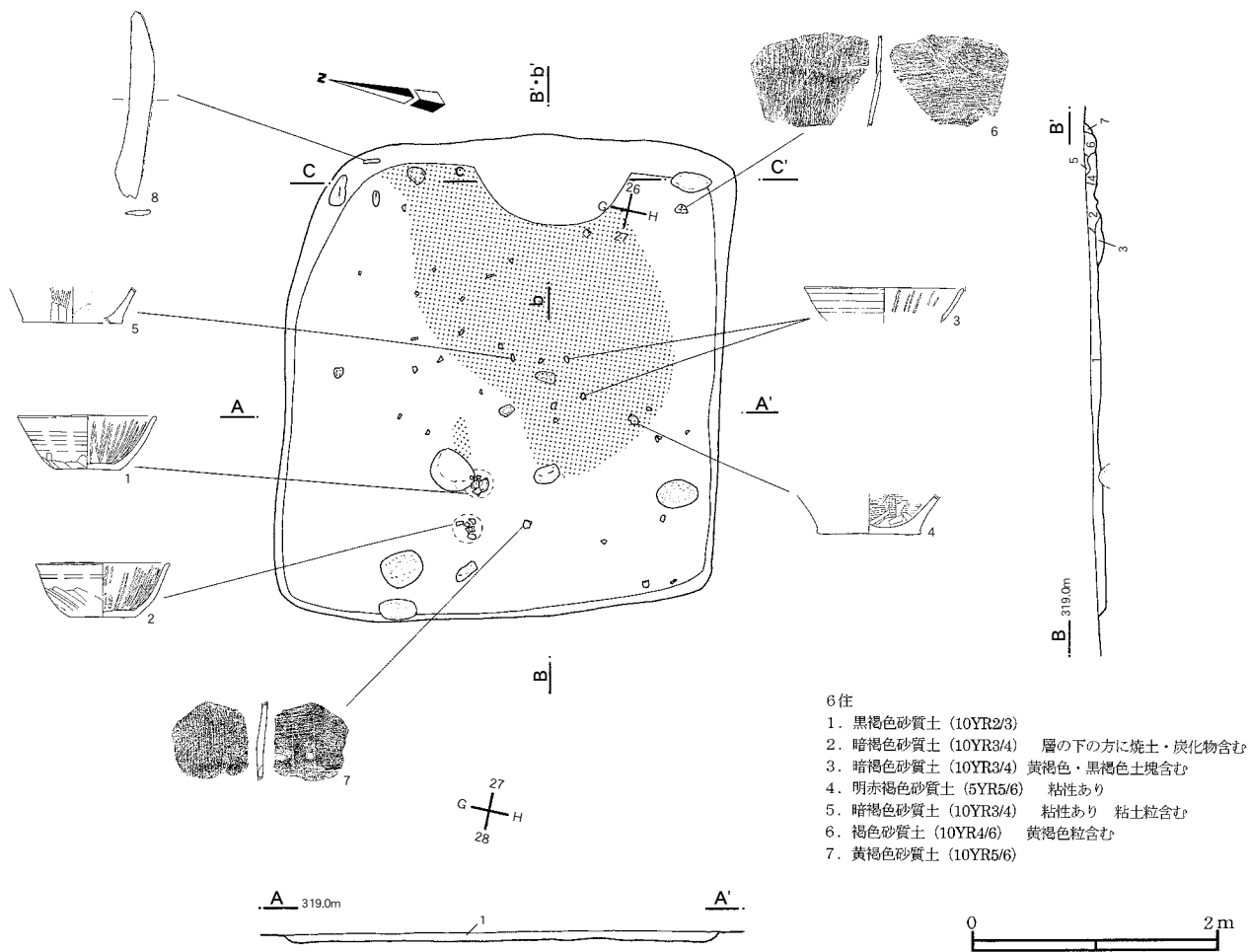
5住

1. 暗褐色砂質土 (10YR3/3)
2. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色・明黄褐色・黒褐色土塊含む
3. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色・黒褐色土塊含む
4. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土塊3層と同じくらい含む 黒褐色土塊3層より少ない
5. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 黄褐色土塊含む
6. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 混じりの多い黒っぽい層
7. 褐色砂質土 (10YR4/4) 明黄褐色土・黒褐色土塊含む
8. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 黒褐色土塊含む
9. 暗褐色砂質土 (10YR5/6)
10. 褐色砂質土 (10YR3/4) 硬くしまる

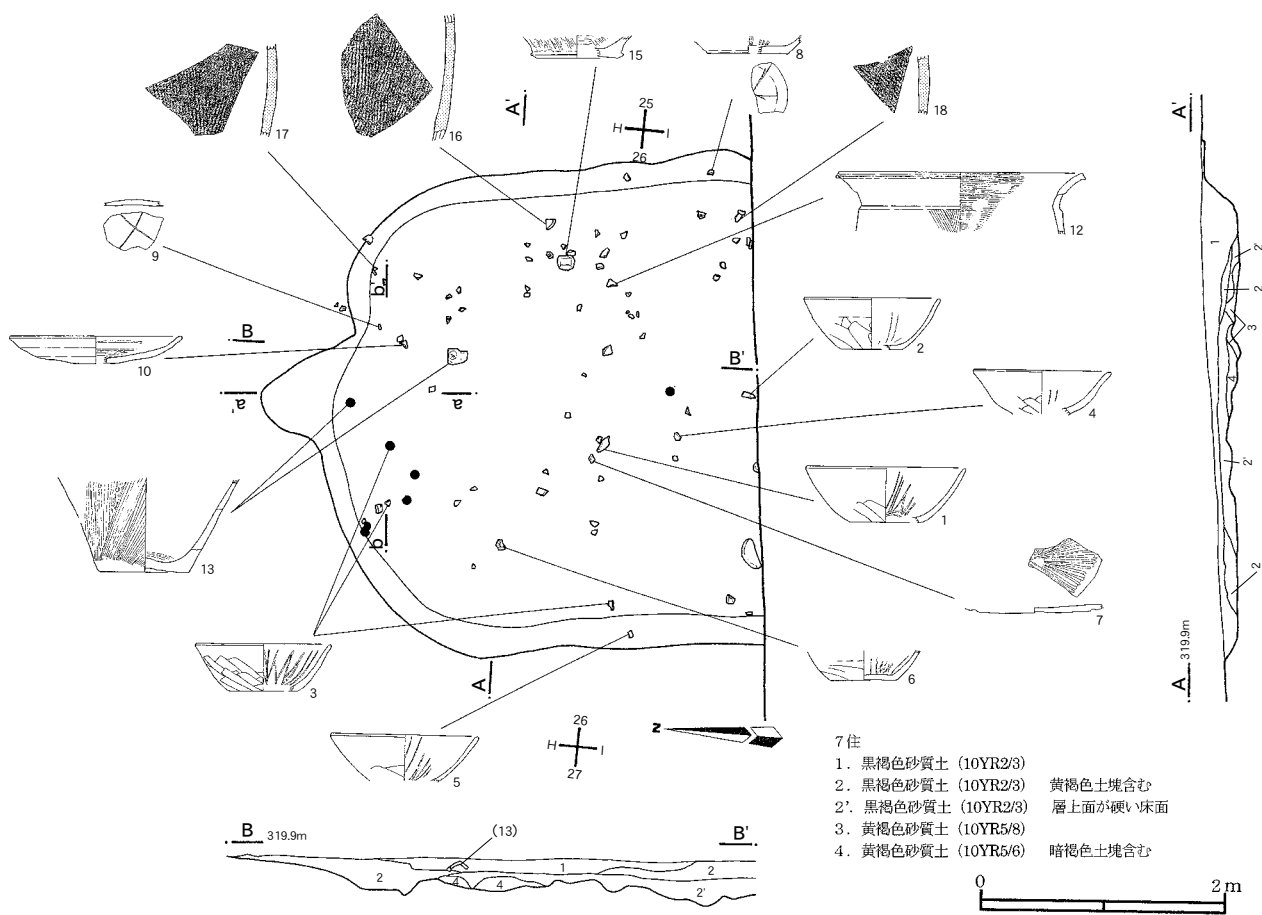
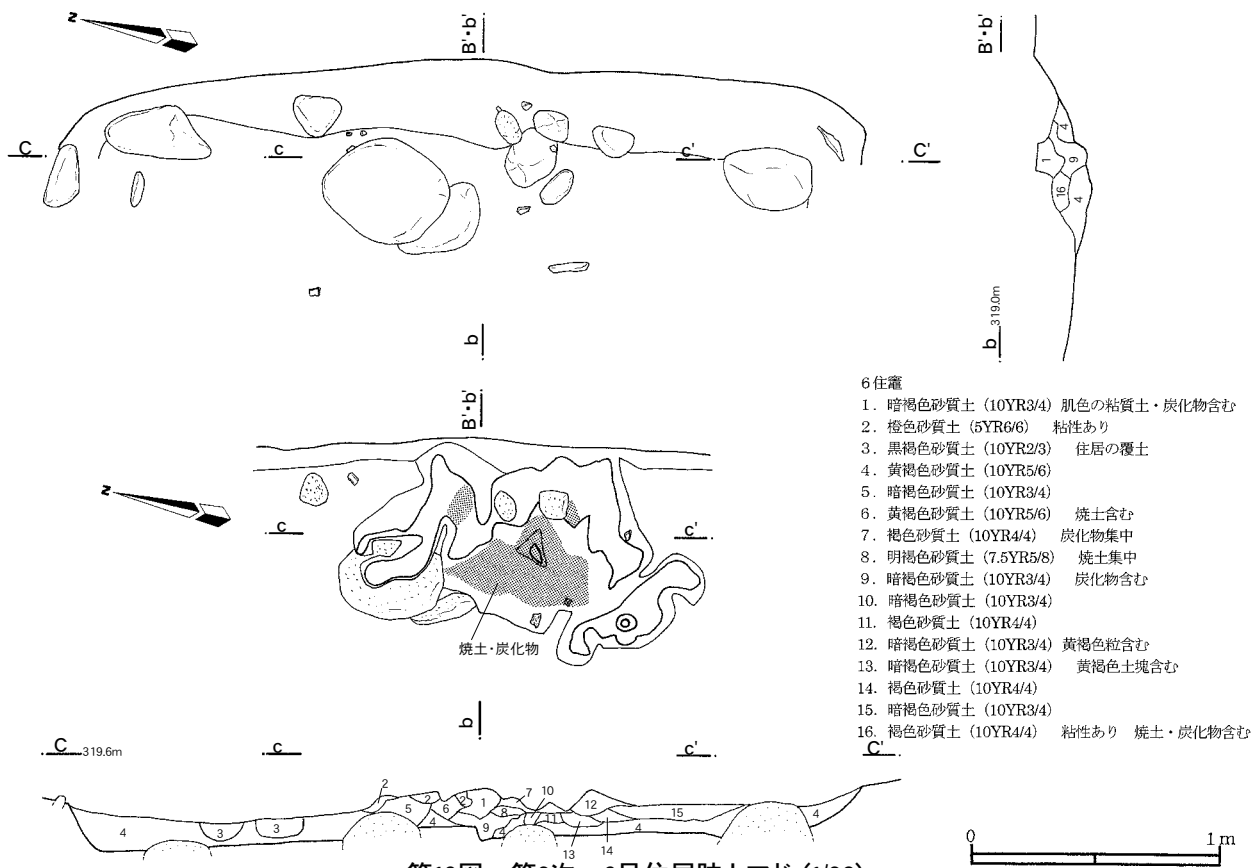
第16図 第3次 5号住居跡 (1/60)

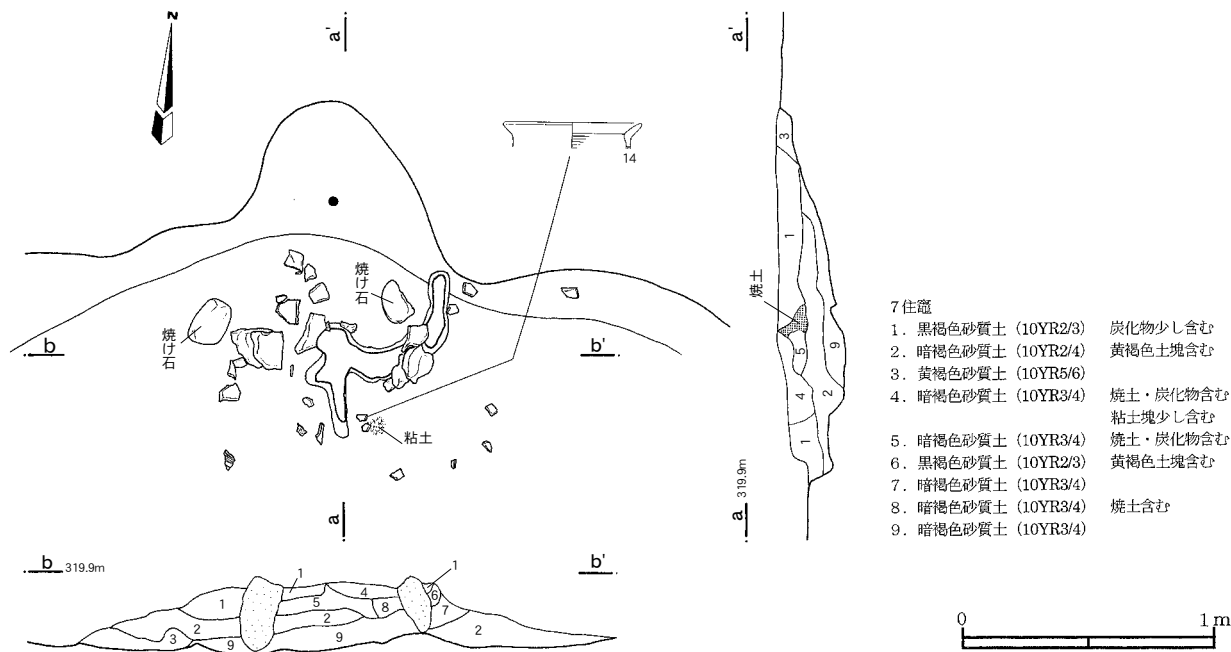


第17図 第3次 5号住居跡カマド (1/30)

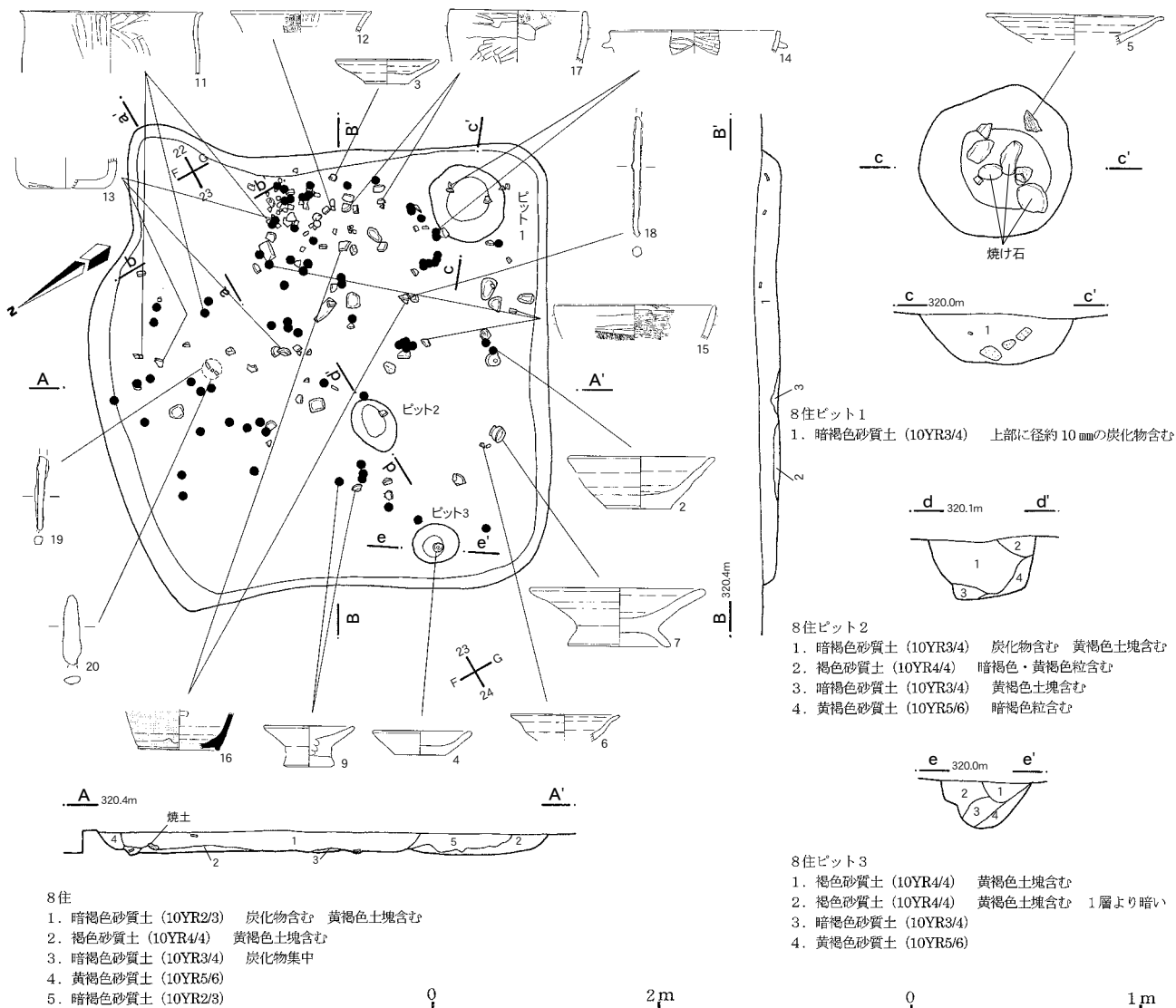


第18図 第3次 6号住居跡 (1/60)

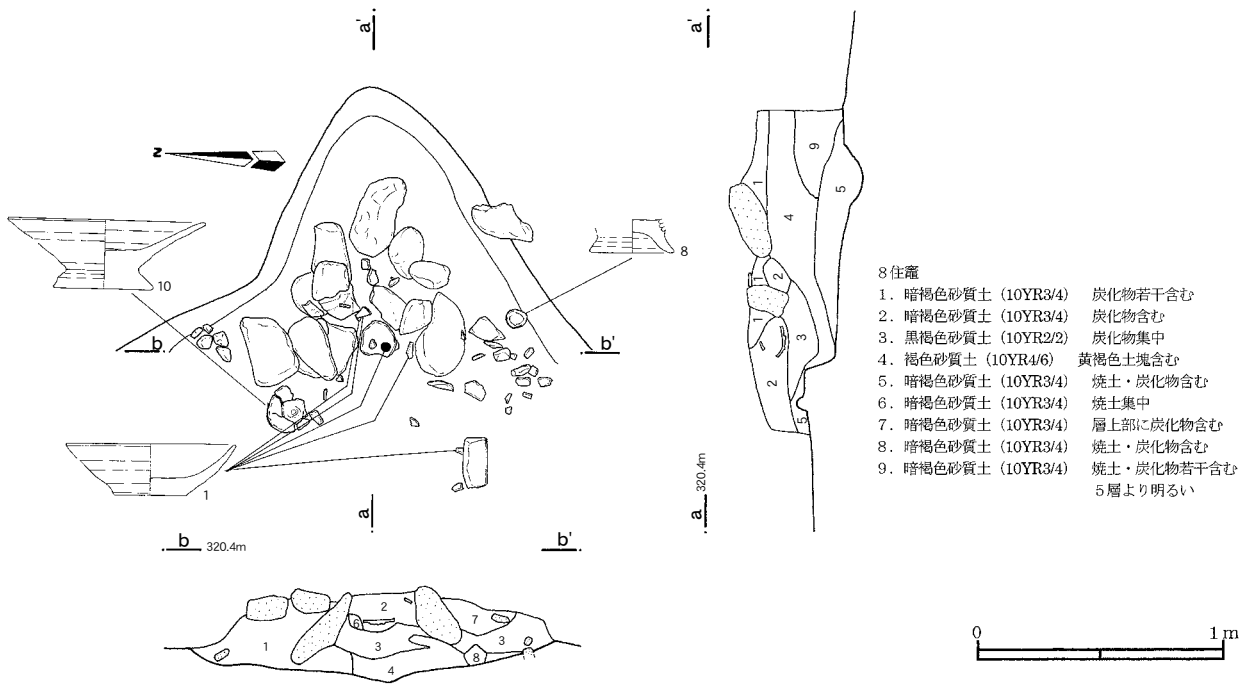




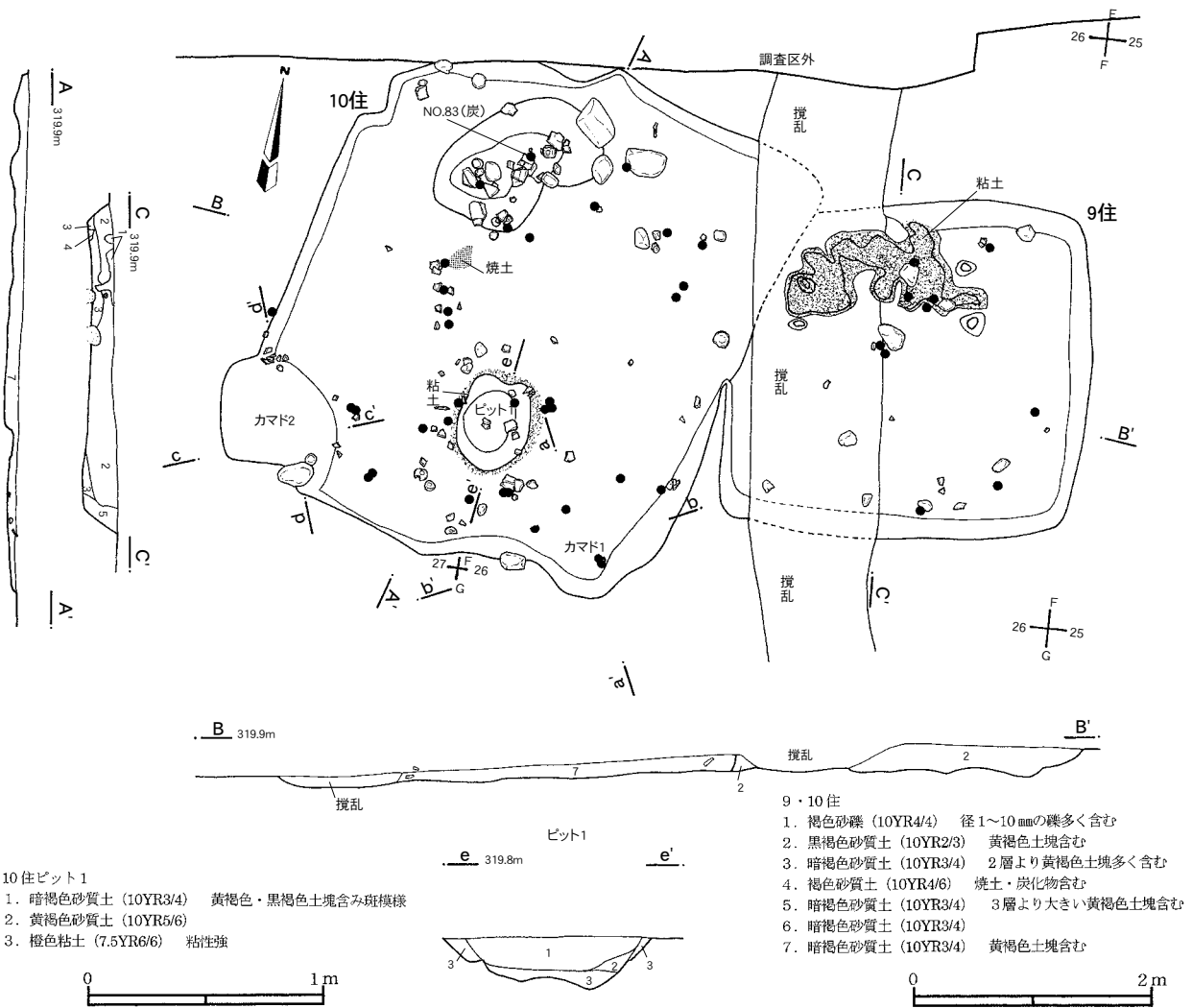
第21図 第3次 7号住居跡カマド (1/30)



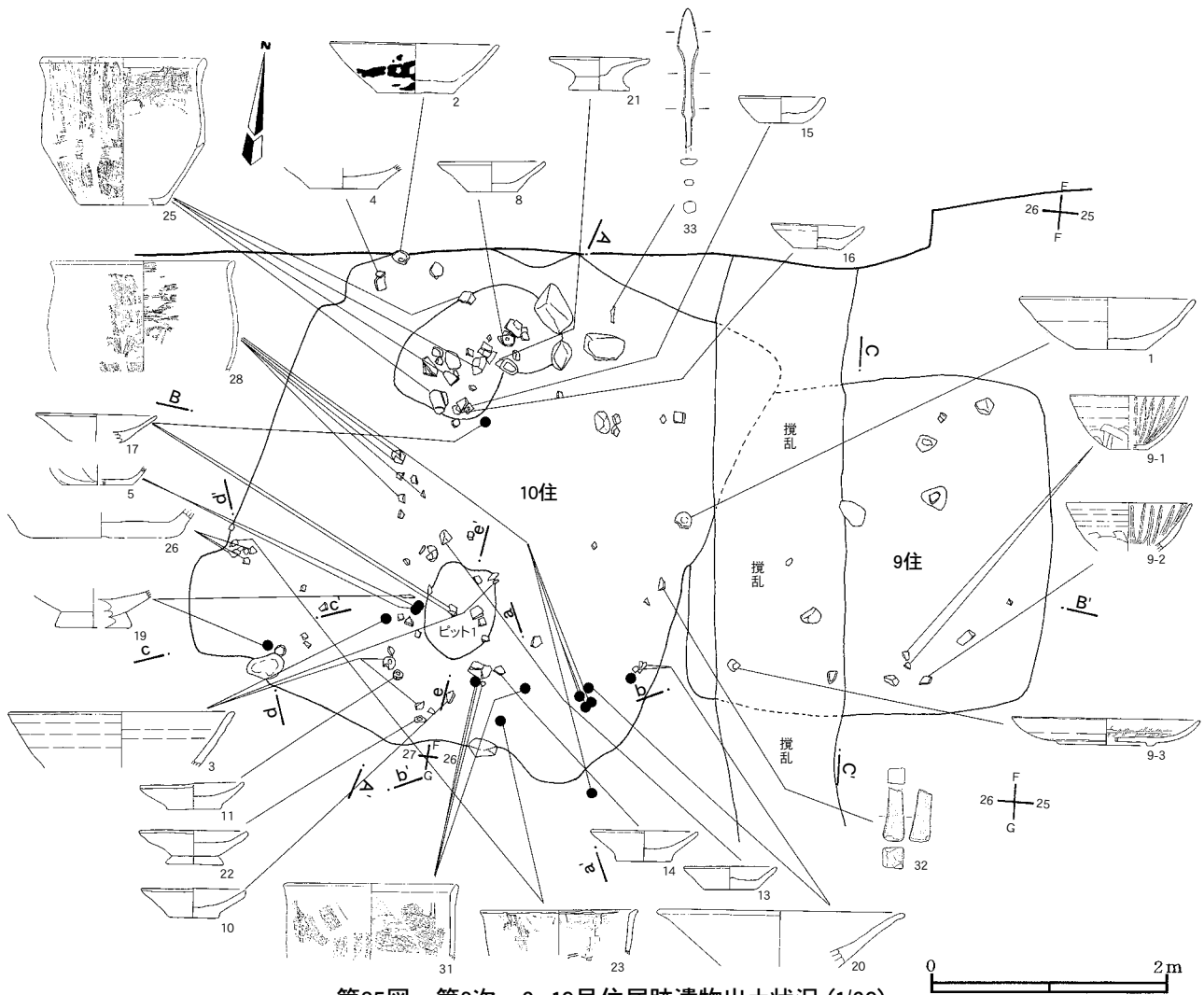
第22図 第3次 8号住居跡 (1/60)



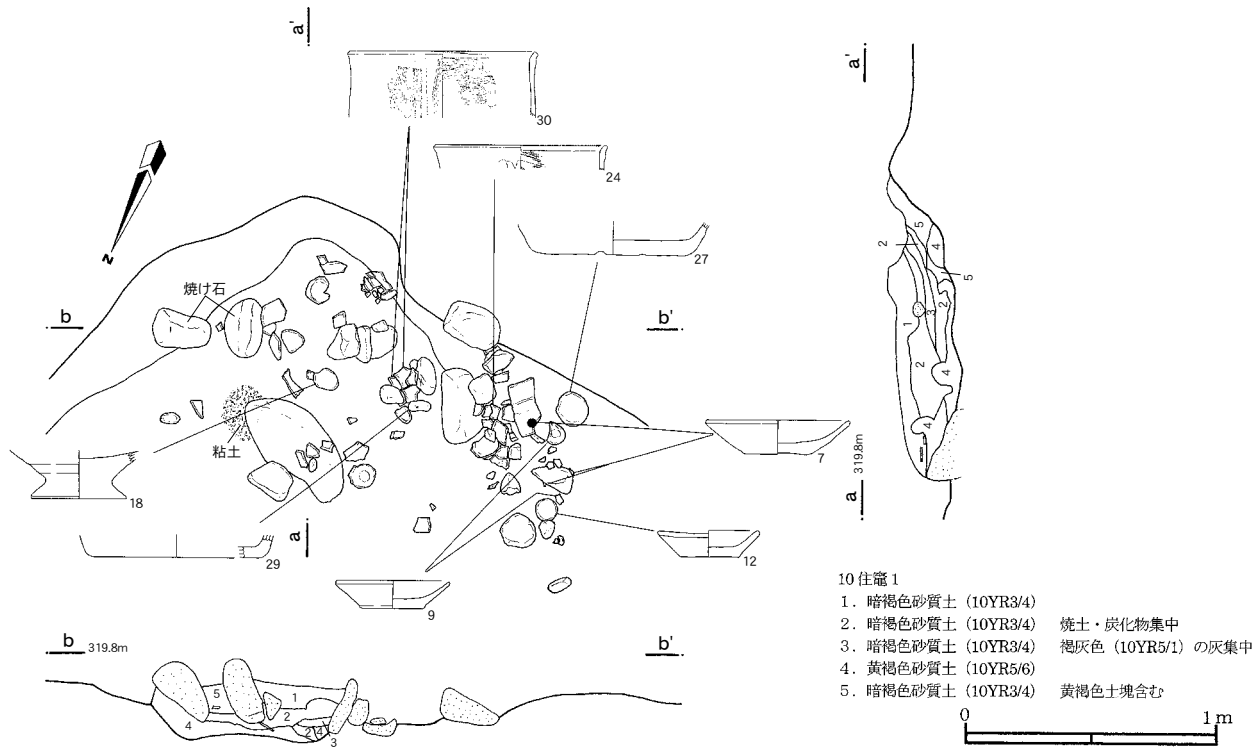
第23図 第3次 8号住居跡カマド (1/30)



第24図 第3次 9・10号住居跡 (1/60)



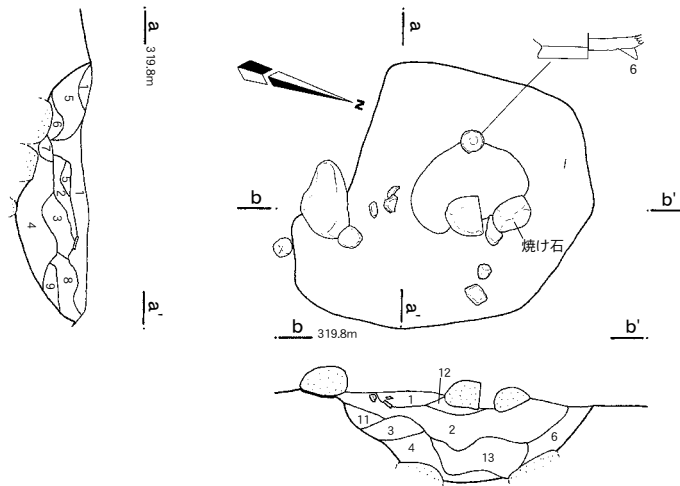
第25図 第3次 9・10号住居跡遺物出土状況 (1/60)



10住竈1

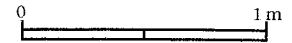
1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物集中
3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 褐色 (10YR5/1) の灰集中
4. 黄褐色砂質土 (10YR5/6)
5. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む

第26図 第3次 10号住居跡カマド1 (1/30)

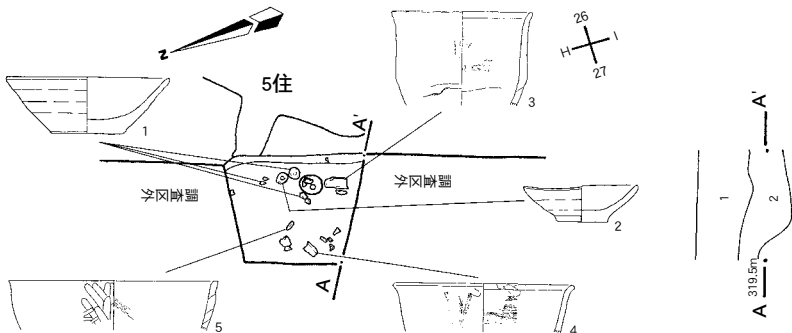


10住竈2

1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物粒含む
2. 褐色砂質土 (10YR4/4) 黄褐色砂含む
3. 黄褐色砂 (10YR5/6) 炭化物少し含む
4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
5. 褐色砂 (10YR4/4)
6. 黄褐色砂 (10YR5/6)
7. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物少し含む
8. 黄褐色砂 (10YR5/6) 暗褐色土塊含む
9. 黒褐色砂質土 (10YR2/2)
10. 褐色砂質土 (10YR4/4)
11. 褐色砂質土 (10YR4/4) 焼土・炭化物含む 灰集中
12. 褐色砂質土 (10YR4/4) 炭化物少し含む 黄褐色砂含む



第27図 第3次 10号住居跡カマド2 (1/30)

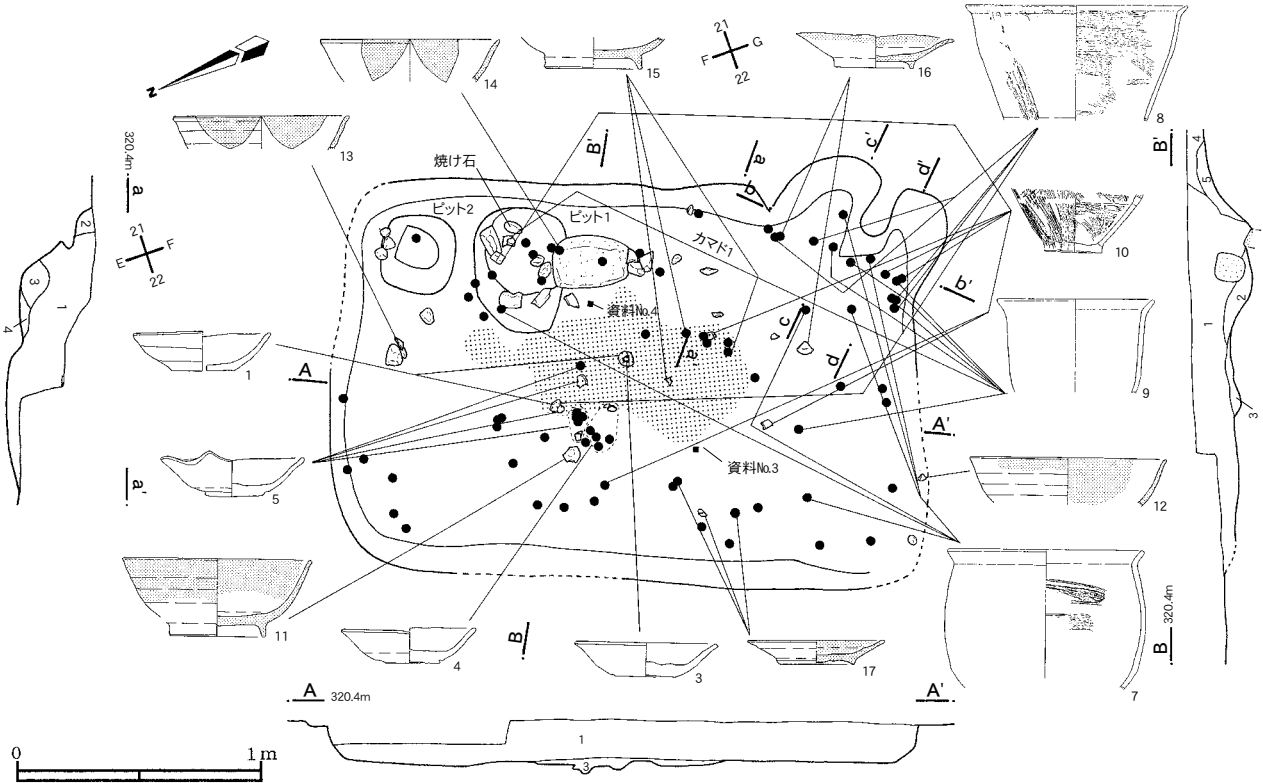


11住

1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 耕作土
2. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 旧耕作土
3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
4. 黒褐色砂質土 (10YR2/3)
5. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 焼土・炭化物集中
6. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む
7. 褐色砂質土 (10YR4/4) 暗褐色・黄褐色土塊含む
8. 黄褐色砂質土 (10YR5/6)



第28図 第3次 11号住居跡 (1/60)

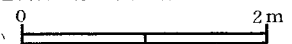


12住竈1

1. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 焼土・炭化物含む
2. 褐色砂質土 (10YR4/6) 焼土集中
3. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 1層より炭化物多い 焼土少し含む
4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む

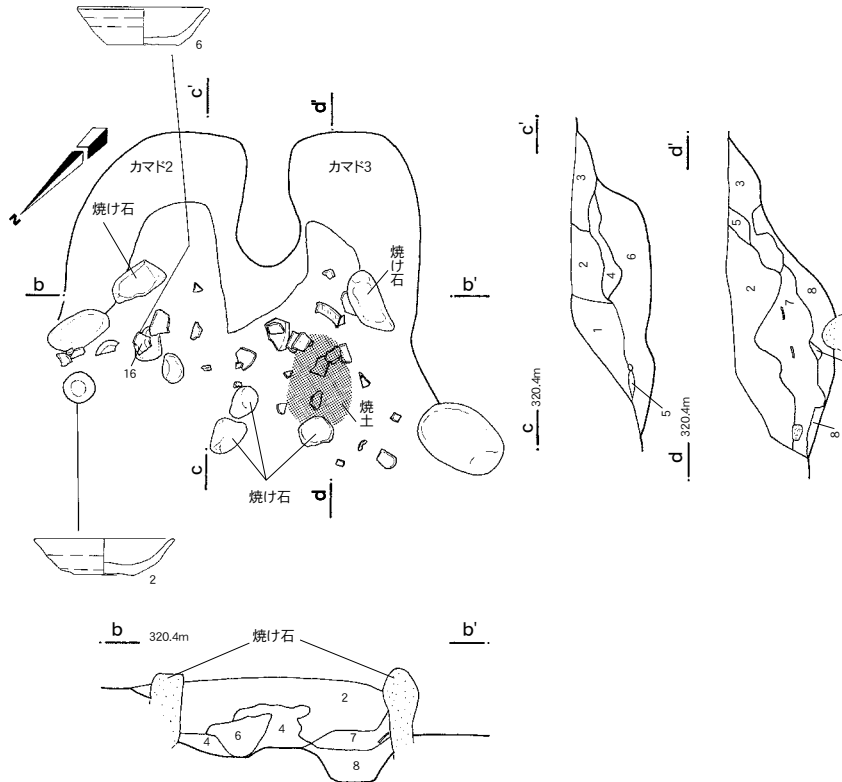
12住

1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物粒・焼土含む
2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む
3. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 褐色砂 (4/6) 塊含む 暗赤褐色砂含む 焼土・炭化物含む
4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む
5. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黒褐色土塊含む 1層より黒い



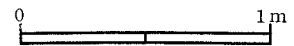
第29図 第3次 12号住居跡・カマド1 (1/60・1/30)



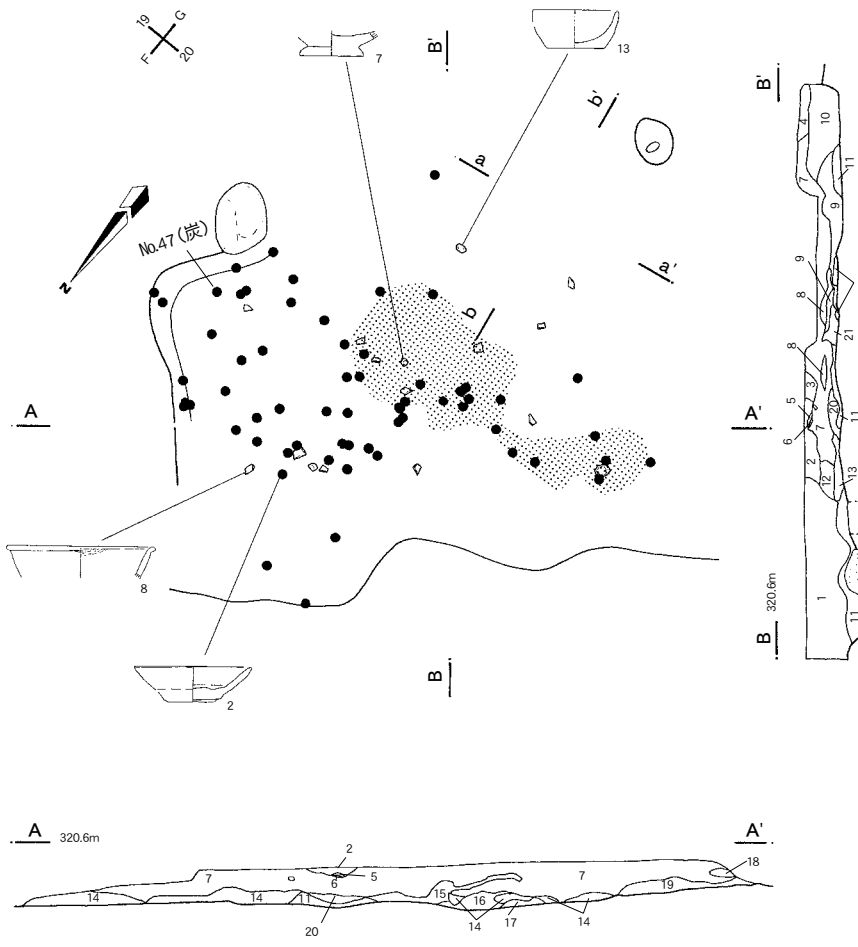


12住居2・3

- 1. 暗褐色砂質土 (10YR4/4) 焼土・炭化物含む
- 2. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 焼土・炭化物多く含む
- 3. 褐色砂質土 (10YR4/6) 焼土・炭化物若干含む
- 4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 粘性なし 褐色砂塊含む 炭化物若干含む
- 5. 焼土塊を主体とする層
- 6. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物2層より大
- 7. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物2層より大、6層より多い
- 8. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土粒・炭化物粒少し含む
- 9. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土粒・炭化物粒若干含む
- 10. にぶい黄褐色砂 (10YR5/4) 粘性なし



第30図 第3次 12号住居跡カマド2・3 (1/30)

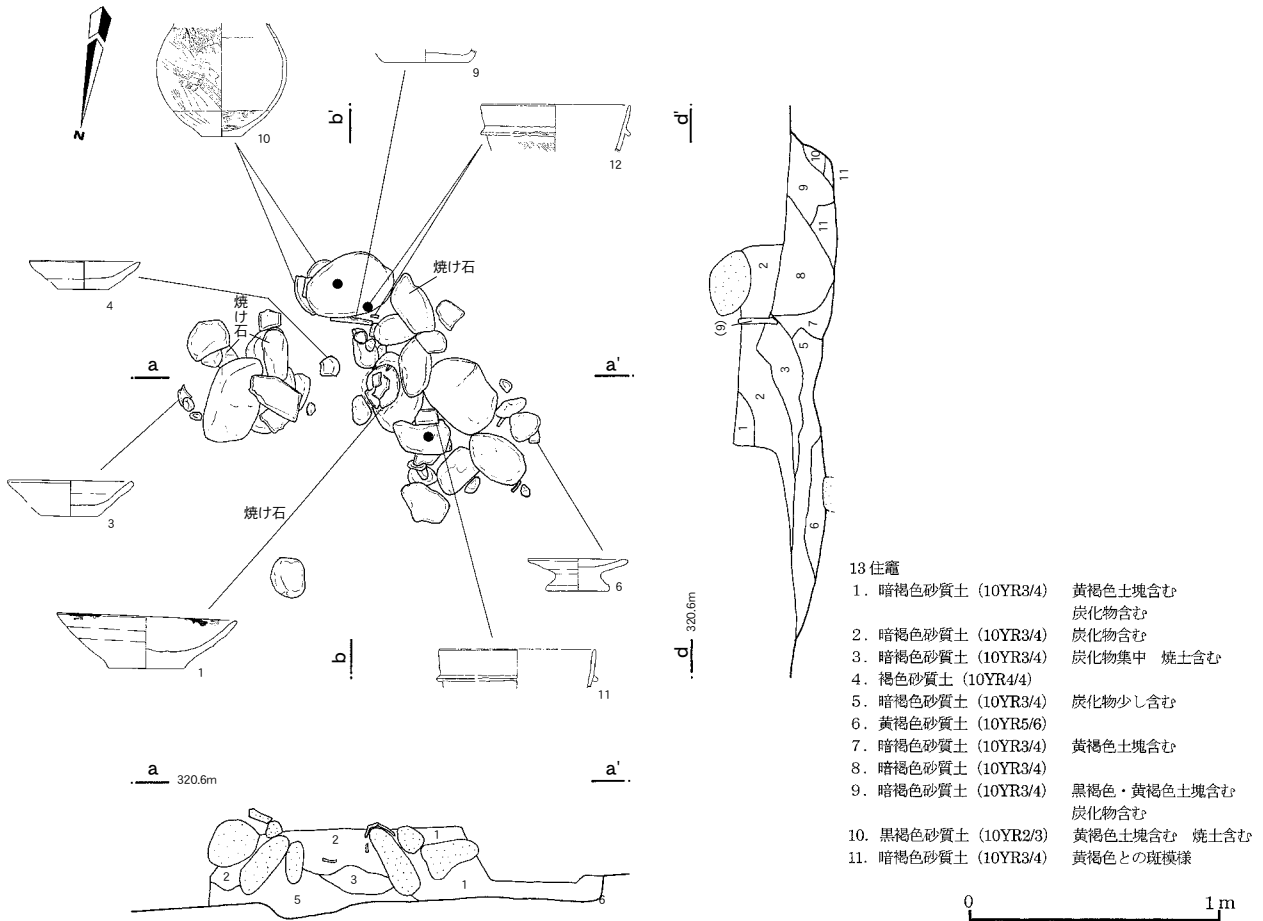


13住

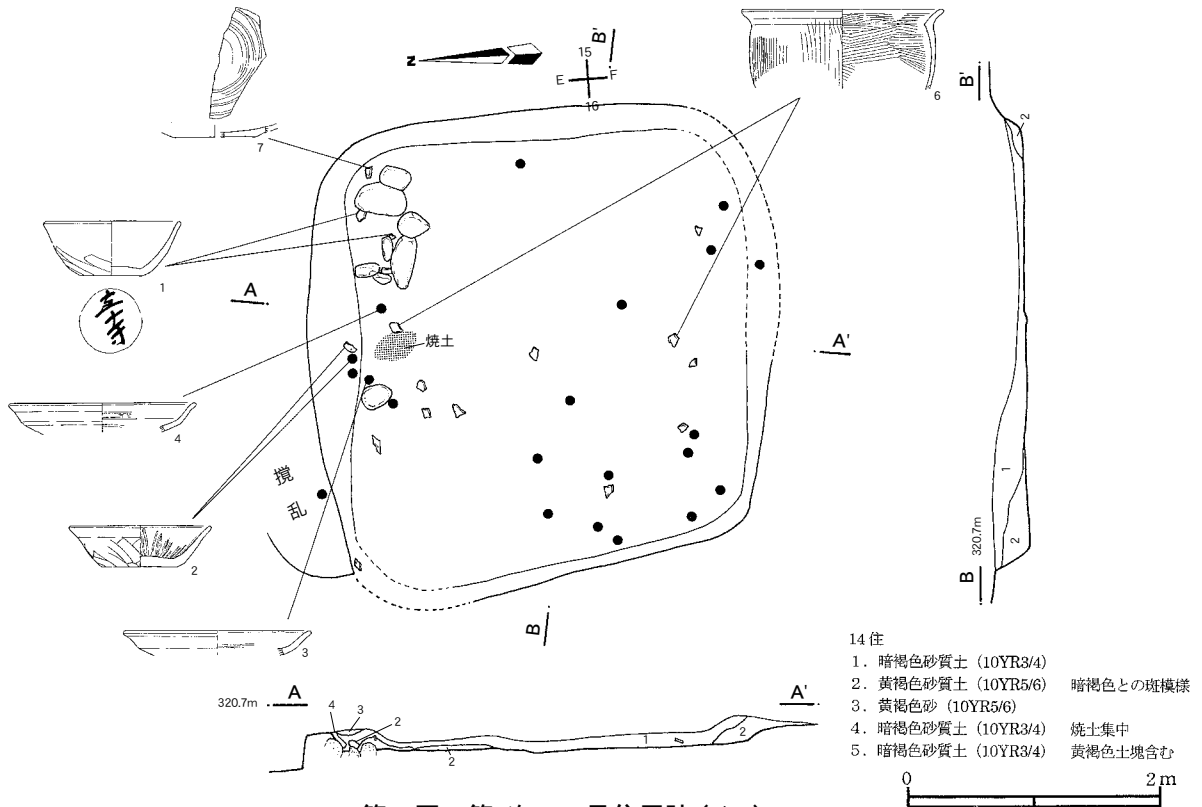
- 1. 灰黄褐色砂 (10YR5/2) 川の砂
- 2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 径5mm以下の炭化物含む 黄褐色土塊含む
- 3. 灰黄褐色砂 (10YR5/2)
- 4. にぶい黄褐色砂 (10YR6/3) 川の砂
- 5. 明褐色砂質土 (7.5YR5/8) 焼土集中
- 6. 褐灰色砂質土 (10YR5/1) 灰集中
- 7. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 新しい炭化物含む
- 8. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 炭化物集中
- 9. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む 炭化物含む
- 10. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物含む
- 11. 黄褐色砂 (10YR5/6) 暗褐色土塊含む
- 12. 灰黄褐色砂 (10YR5/2) 暗褐色土塊含む
- 13. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む 炭化物含む
- 14. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 8層より黒い
- 15. にぶい黄褐色砂 (10YR4/3) 川の砂 暗褐色土塊含む 新しい炭化物含む
- 16. にぶい黄褐色砂 (10YR4/3) 川の砂
- 17. 明黄褐色砂 (2.5YR6/6) 暗褐色土塊含む
- 18. 明黄褐色砂質土 (7.5YR5/6) 粘性あり 炭化物含む
- 19. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 暗褐色土塊含む
- 20. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む
- 21. 褐色砂質土 (10YR4/4) 黄褐色土塊含む 炭化物含む



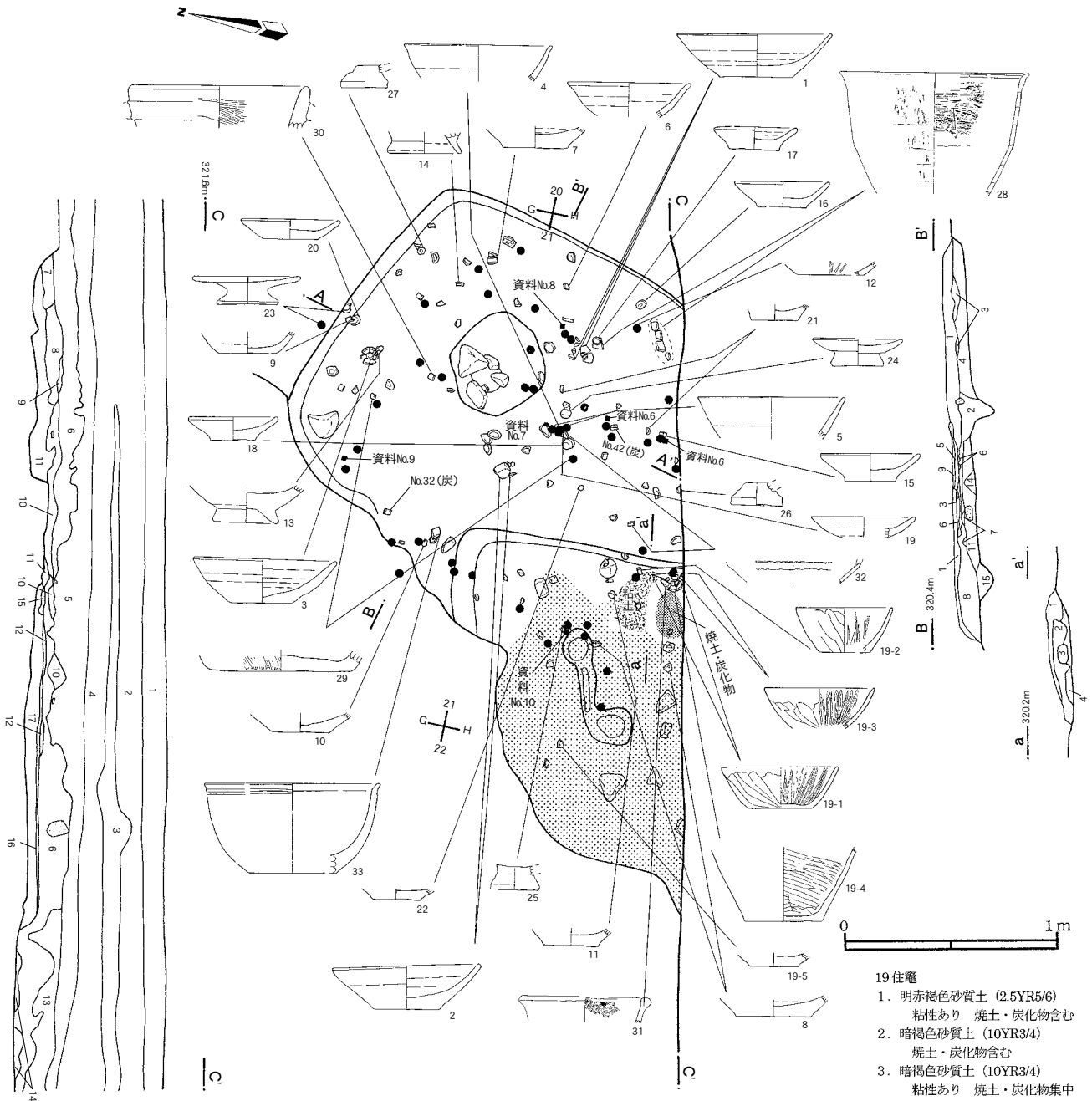
第31図 第3次 13号住居跡 (1/60)



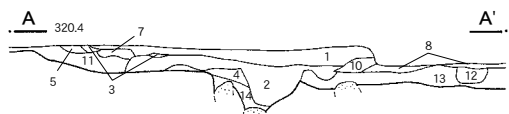
第32図 第3次 13号住居跡カマド (1/30)



第33図 第3次 14号住居跡 (1/60)



- 19 住竈
1. 明赤褐色砂質土 (2.5YR5/6)  
粘性あり 焼土・炭化物含む
  2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  
焼土・炭化物含む
  3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  
粘性あり 焼土・炭化物集中
  4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  
黄褐色土塊含む

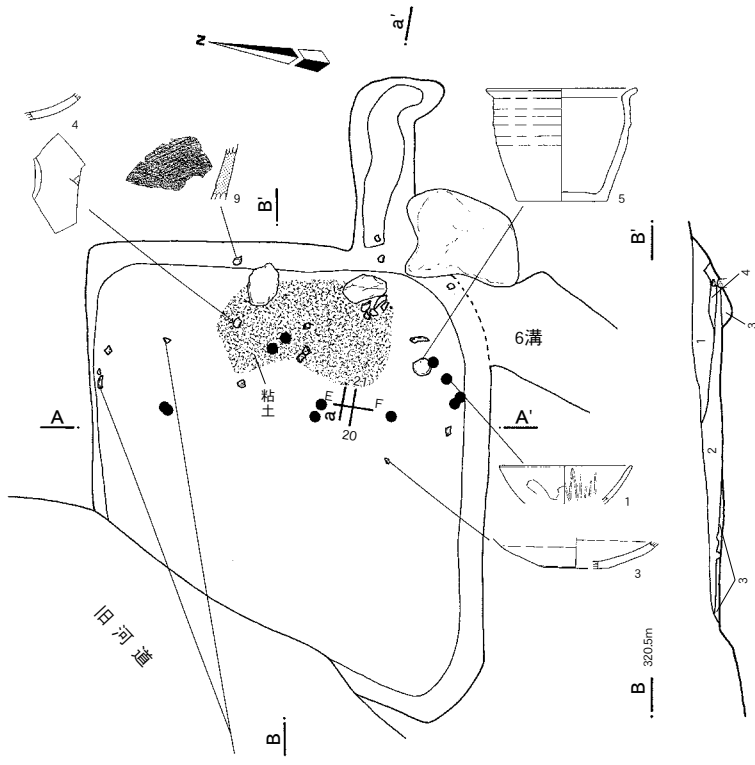


- 15・19 住 (壁)
1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 耕作土
  2. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 田の床土
  3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 旧耕作土
  4. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 田の床土
  5. にぶい黄褐色砂 (10YR5/3) 川の砂 13層より細かい
  6. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物少し含む
  7. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 6層より黒い
  8. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
  9. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物集中
  10. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物・遺物多く含む
  11. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色・灰白色土塊含む
  12. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物集中 焼土含む 粘土塊含む
  13. にぶい黄褐色砂 (10YR5/3) 川の砂 径約1mmの砂 暗褐色砂含む
  14. 黄褐色砂 (2.5Y5/4) 暗褐色砂含む
  15. 赤褐色砂質土 (5YR4/6) 19住カマドの焼土
  16. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 19住床の硬化面
  17. 褐色砂質土 (10YR4/2) 黄褐色土塊含む

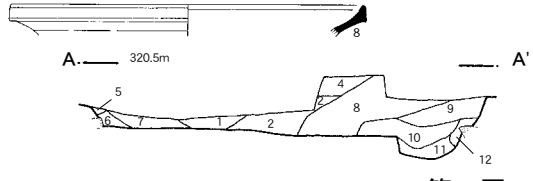
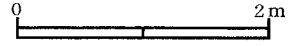
- 15 住
1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物含む
  2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
  3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土集中
  4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む
  5. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
  6. 黄色砂質土 (5Y7/6) 灰を含む
  7. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物含む
  8. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 褐色・黄褐色土塊含む 炭化物少し含む
  9. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物集中
  10. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物含む 黄褐色土塊含む
  11. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む
  12. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
  13. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 暗褐色・褐色土塊が斑模様
  14. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 暗褐色土塊含む
  15. 黄褐色砂質土 (10YR5/6)



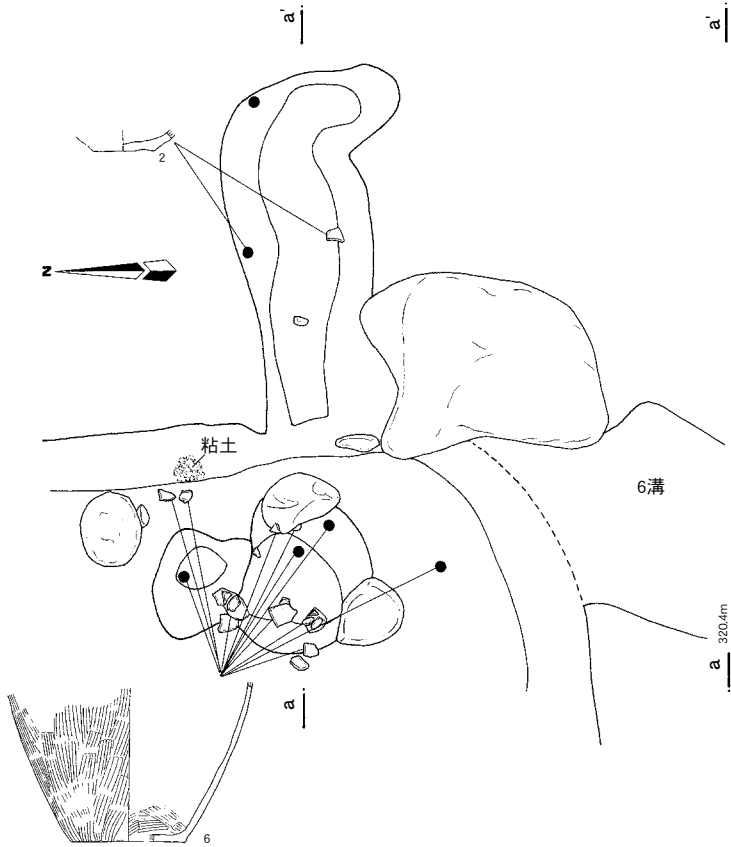
第34図 第3次 15・19号住居跡 (1/60)



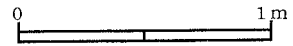
- 16住
- 1. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 黄褐色砂と斑模様
  - 2. 黒褐色砂質土 (10YR2/3)
  - 3. 黄褐色砂 (2.5Y5/4) 黒褐色土塊含む
  - 4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
  - 5. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 黒褐色土塊含む
  - 6. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 暗褐色・黄褐色土塊含む
  - 7. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む
  - 8. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 南から北に傾斜して幾層にもなる 川の砂
  - 9. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色砂含む
  - 10. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 黄褐色砂が層状にほいる
  - 11. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 11層より黄褐色砂多く含む
  - 12. 黄褐色砂 (10YR5/6) 黒褐色土塊含む



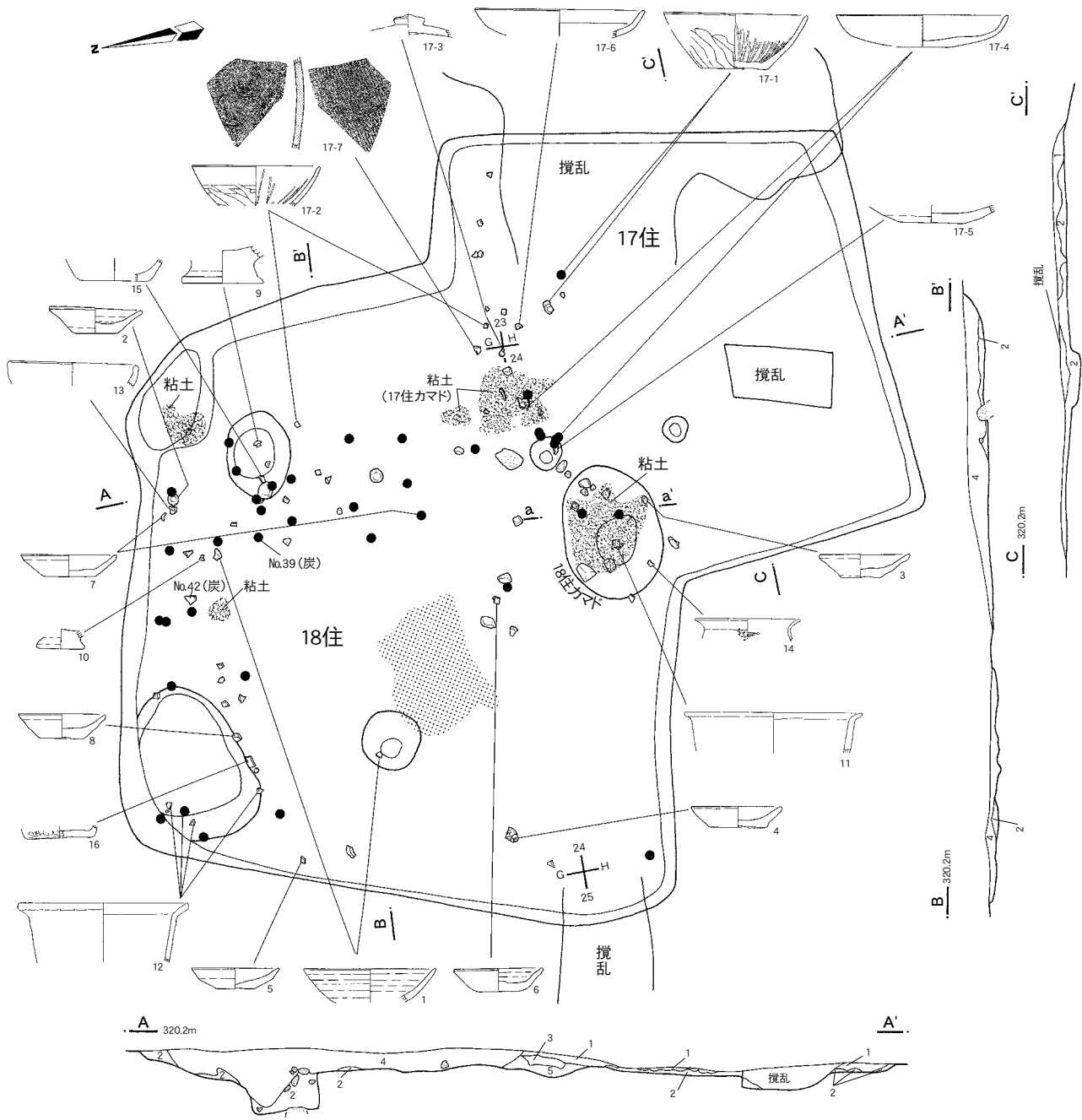
第35図 第3次 16号住居跡 (1/60)



- 16住
- 1. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 焼土多く含む
  - 2. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 暗褐色・黄褐色土塊含む
  - 3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黒褐色土塊含む
  - 4. 黄褐色砂質土 (10YR5/6)
  - 5. 黒褐色砂質土 (10YR2/3)
  - 6. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 粘性ややあり 炭化物・焼土含む
  - 7. 褐灰色砂質土 (10YR4/1) 灰・焼土集中
  - 8. 黄褐色砂 (10YR5/6)
  - 9. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
  - 10. 褐色砂質土 (10YR4/6) 焼土・炭化物集中
  - 11. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黒褐色土塊含む
  - 12. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 粘性あり

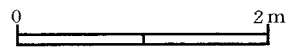


第36図 第3次 16号住居跡カマド (1/30)

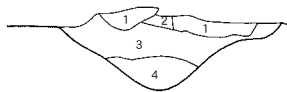


17・18住

1. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 炭化物含む 黄褐色土塊含む
2. 黄褐色砂質土 (10YR5/6)
3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物集中
4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色粒含む
5. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む



a 320.0m a'

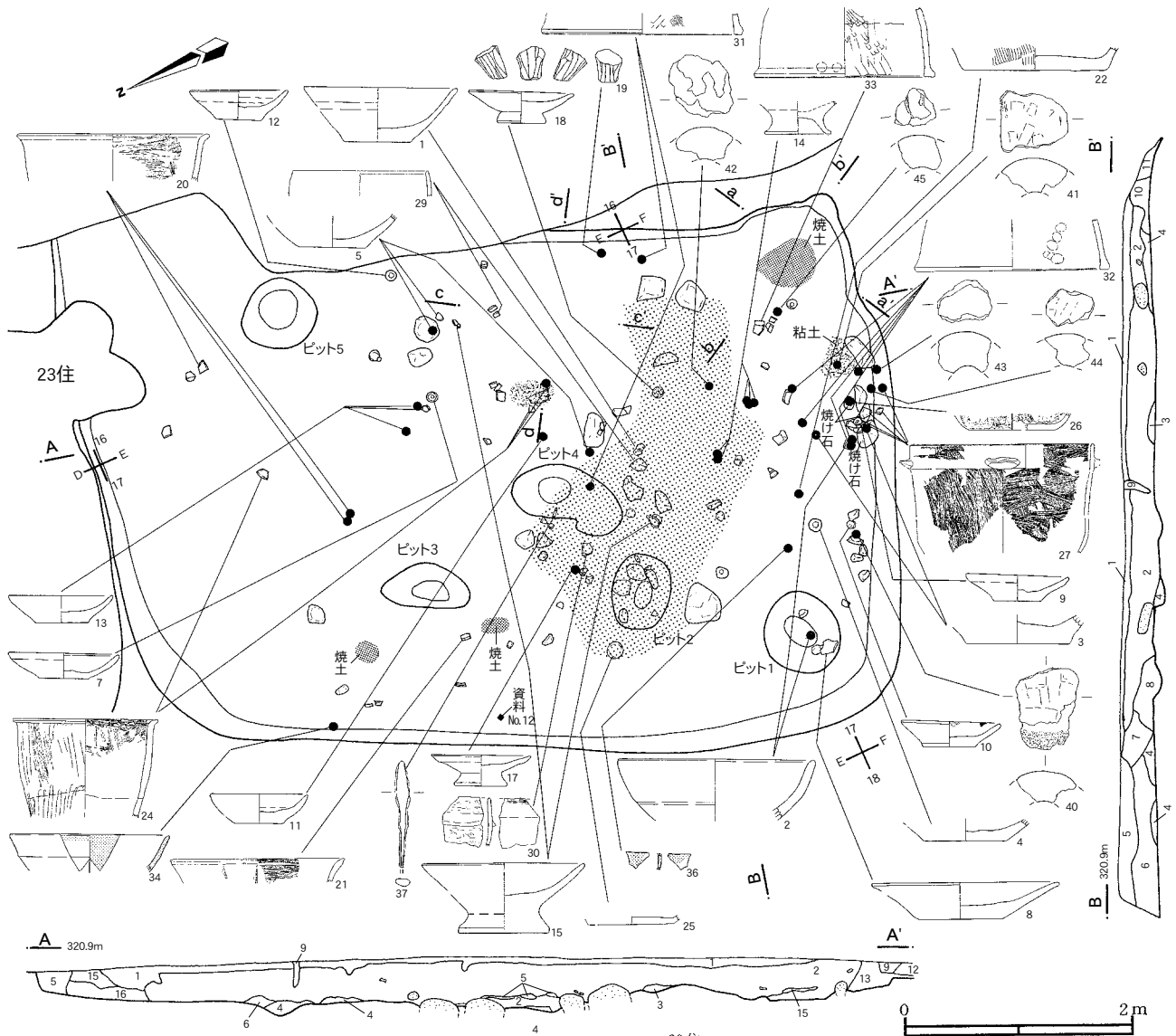


18住窟

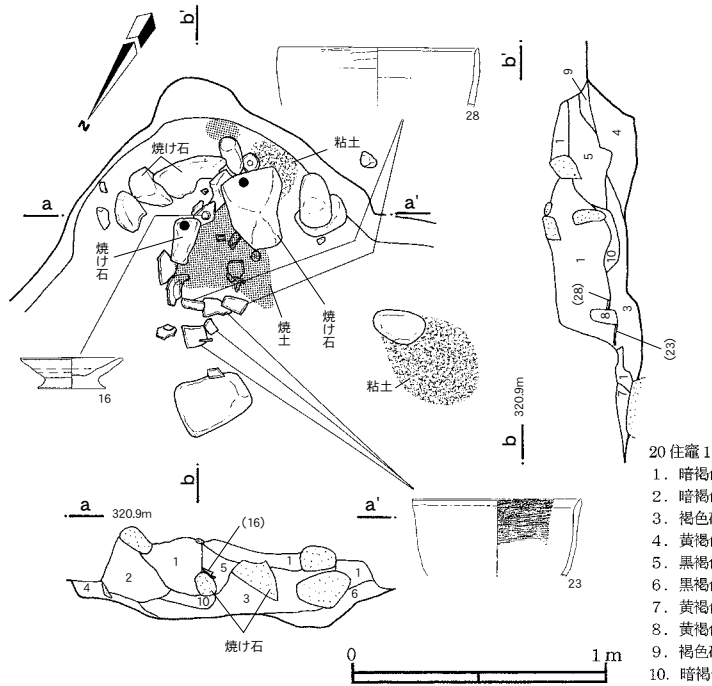
1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物多く含む 黄褐色土塊含む
2. 褐色砂質土 (10YR4/4) 根による攪乱
3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む
4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)



第37図 第3次 17・18号住居跡・カマド(1/60・1/30)

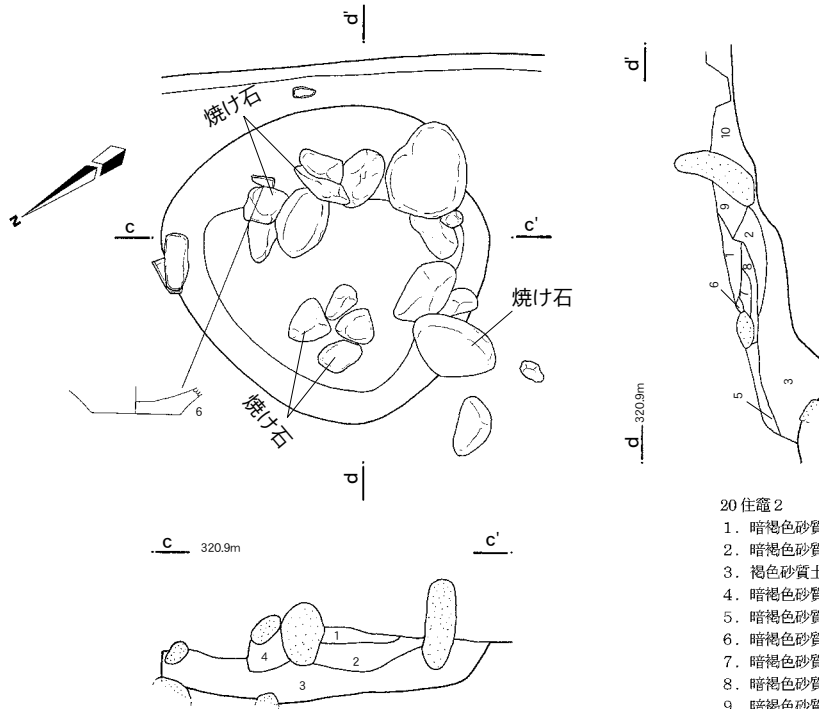


- 20 住
- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  | 炭化物含む                  |
| 2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  | 炭化物含む 黄褐色土塊含む          |
| 3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  | 炭化物・焼土含む 黒褐色混じる        |
| 4. 黄褐色砂質土 (10YR5/6)  | 暗褐色土塊含む                |
| 5. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  |                        |
| 6. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  | 5層より黒い 黄褐色土塊含む         |
| 7. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  | 黒褐色・黄褐色土塊含む            |
| 8. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  | 大きめの炭化物含む 焼土含む 黄褐色土塊含む |
| 9. 褐色砂質土 (10YR4/4)   |                        |
| 10. 褐色砂質土 (10YR4/4)  | 暗褐色土塊含む                |
| 11. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) |                        |
| 12. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) | 暗褐色土塊含む                |
| 13. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) | 黄褐色土塊含む                |
| 14. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) | 焼土集中 炭化物多く含む           |
| 15. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) | 炭化物少し含む 1層より砂っぽい       |
| 16. 黄褐色砂 (2.5YR5/6)  | 炭化物少し含む                |



- 20 住 竈 1
- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  | 焼土・炭化物少し含む              |
| 2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)  | 焼土・炭化物1層より多い 粘土含む       |
| 3. 褐色砂質土 (10YR4/4)   | 大きめの焼土・炭化物含む 黄褐色土塊含む    |
| 4. 黄褐色砂質土 (10YR5/6)  | 暗褐色土塊含む                 |
| 5. 黒褐色砂質土 (10YR2/3)  | 5層より黒い 焼土・炭化物含む 暗褐色土塊含む |
| 6. 黒褐色砂質土 (10YR2/3)  | 暗褐色・黄褐色土塊含む             |
| 7. 黄褐色砂質土 (10YR5/6)  | 暗褐色土塊含む                 |
| 8. 黄褐色砂質土 (10YR5/6)  | 炭化物含む 暗褐色土塊含む           |
| 9. 褐色砂質土 (10YR4/4)   | 焼土・炭化物少し含む 黄褐色土塊含む      |
| 10. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) | 炭化物集中                   |

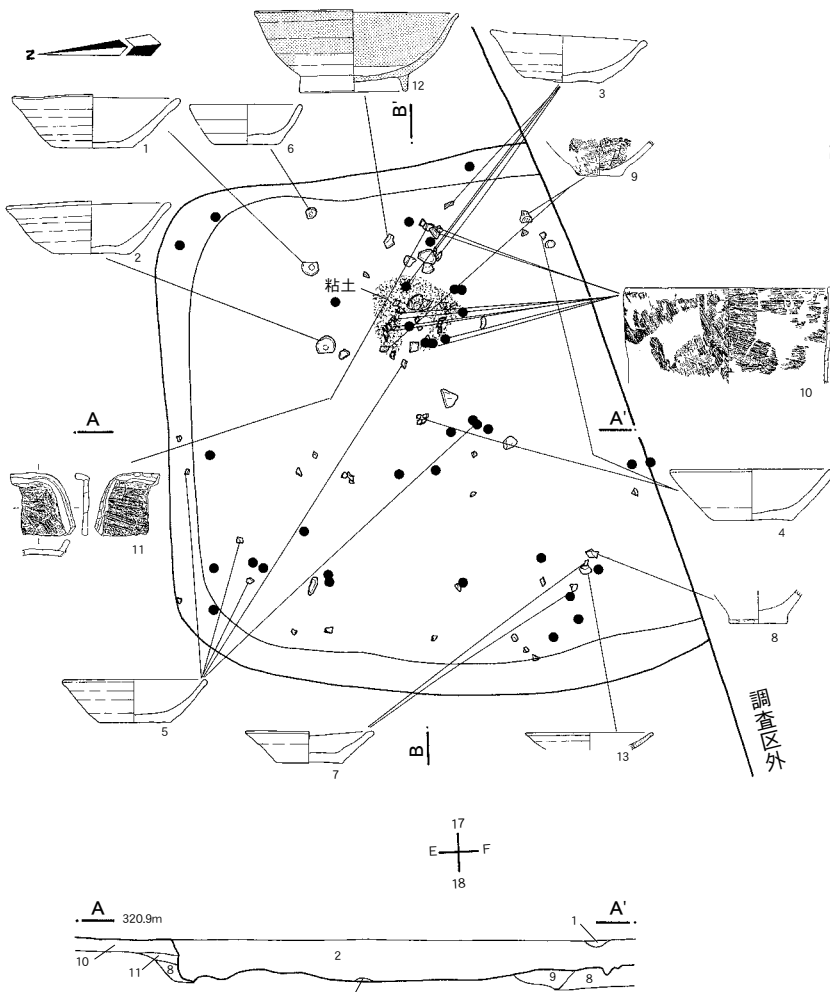
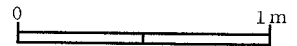
第38図 第3次 20号住居跡・カマド1 (1/60・1/30)



20 住居 2

1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物多く含む 西側に粘土塊あり
2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物1層より少ない
3. 褐色砂質土 (10YR4/4) 黄褐色土塊含む
4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
5. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物少し含む
6. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土 (明赤褐色 5YR5/8) 集中
7. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土 (赤褐色 2.5YR4/8) 集中
8. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土塊含む
9. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土・炭化物・灰含む
10. 褐色砂質土 (10YR4/4) 黄褐色土塊含む

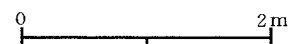
第39図 第3次 20号住居跡・カマド2 (1/30)



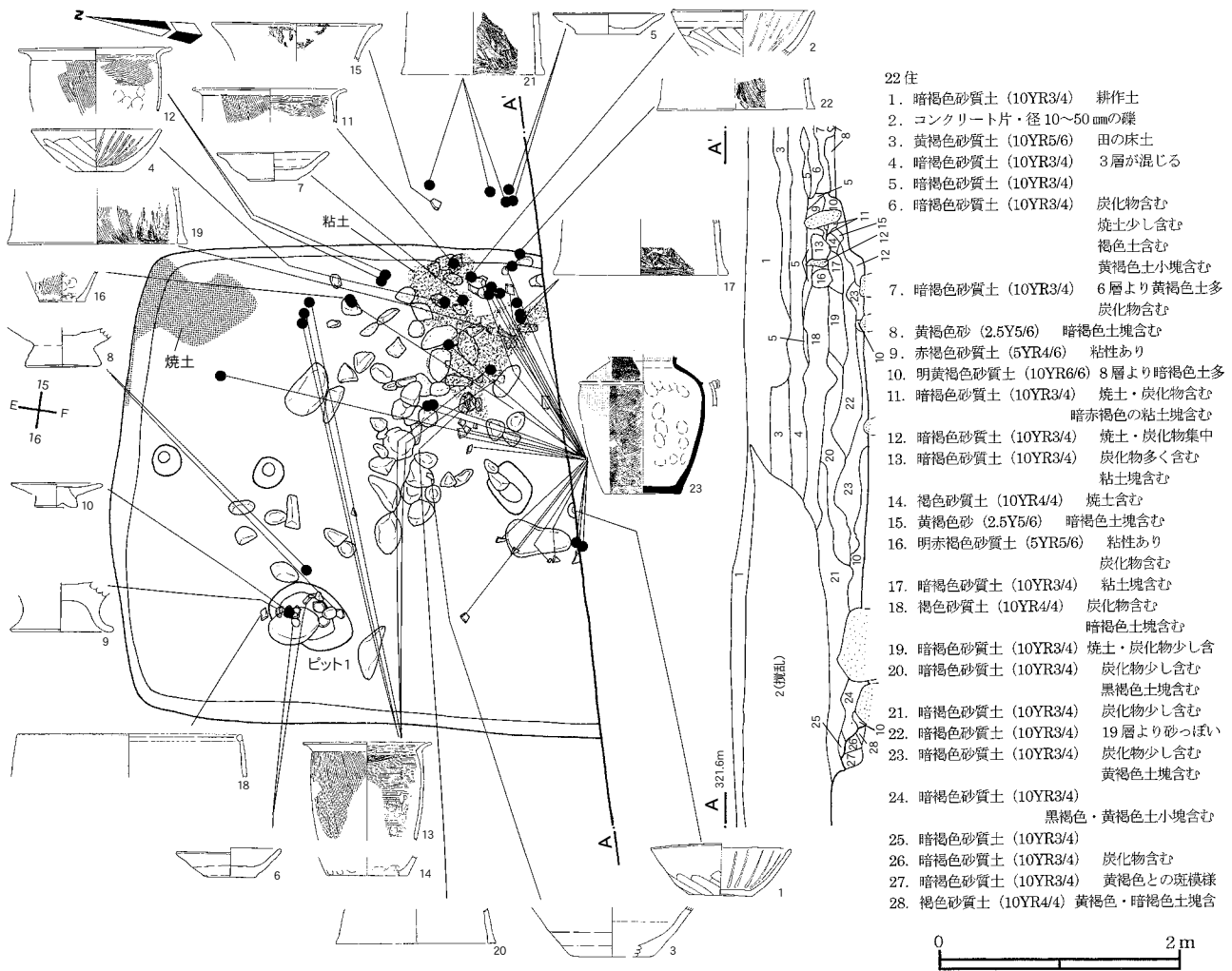
21 住

1. にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4)
2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土若干含む  
炭化物粒少し含む
3. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物含む  
黄褐色土塊含む
4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 径約 50 mm の焼土多  
黄褐色土塊含む
5. 明赤褐色砂質土 (2.5YR5/6) 粘性あり  
炭化物含む
6. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 2層より黒い
7. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黒褐色土小塊多い
8. 黄褐色砂質土 (2.5Y5/6) 暗褐色・黒褐色土塊含
9. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色・黒褐色土  
小塊含む
10. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 2層より黒い  
黄褐色土塊含む
11. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 2層より若干黒い  
炭化物含む

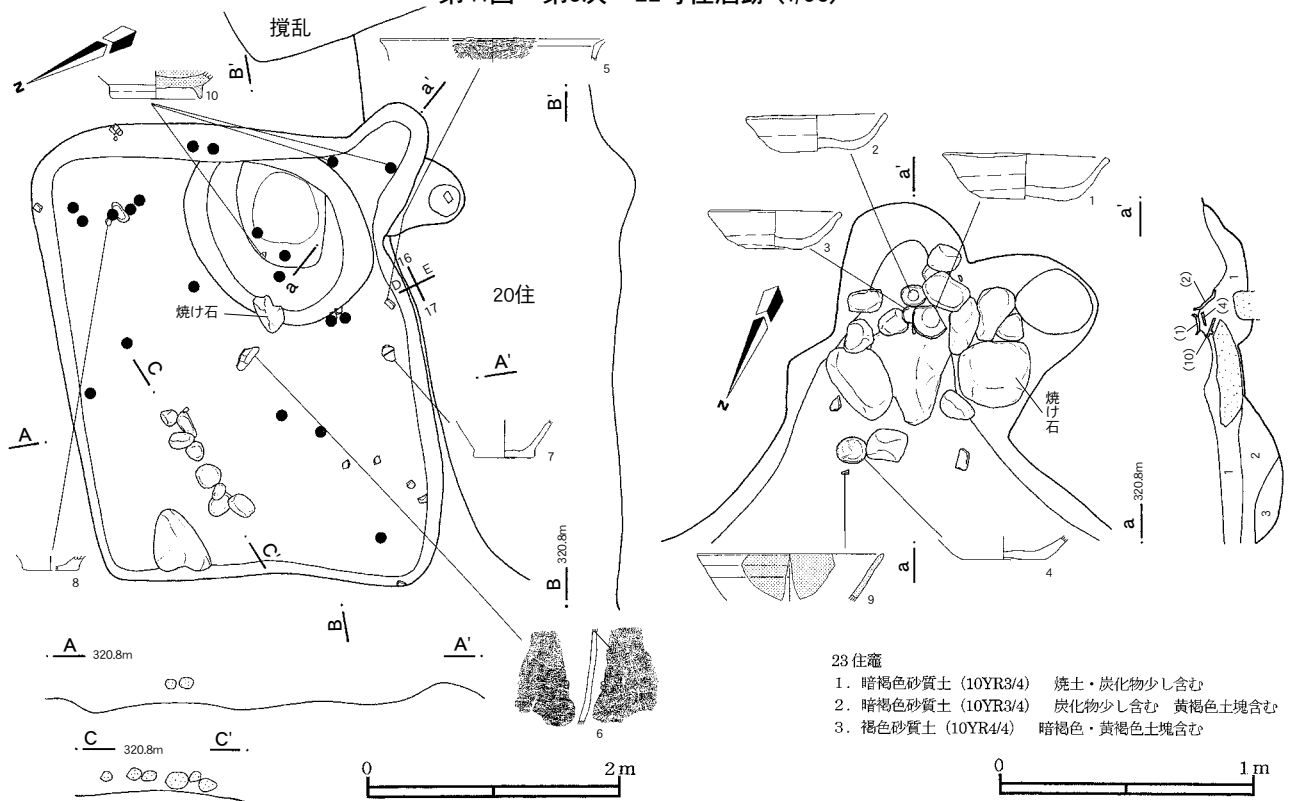
※ 8～11層は住居外



第40図 第3次 21号住居跡 (1/60)

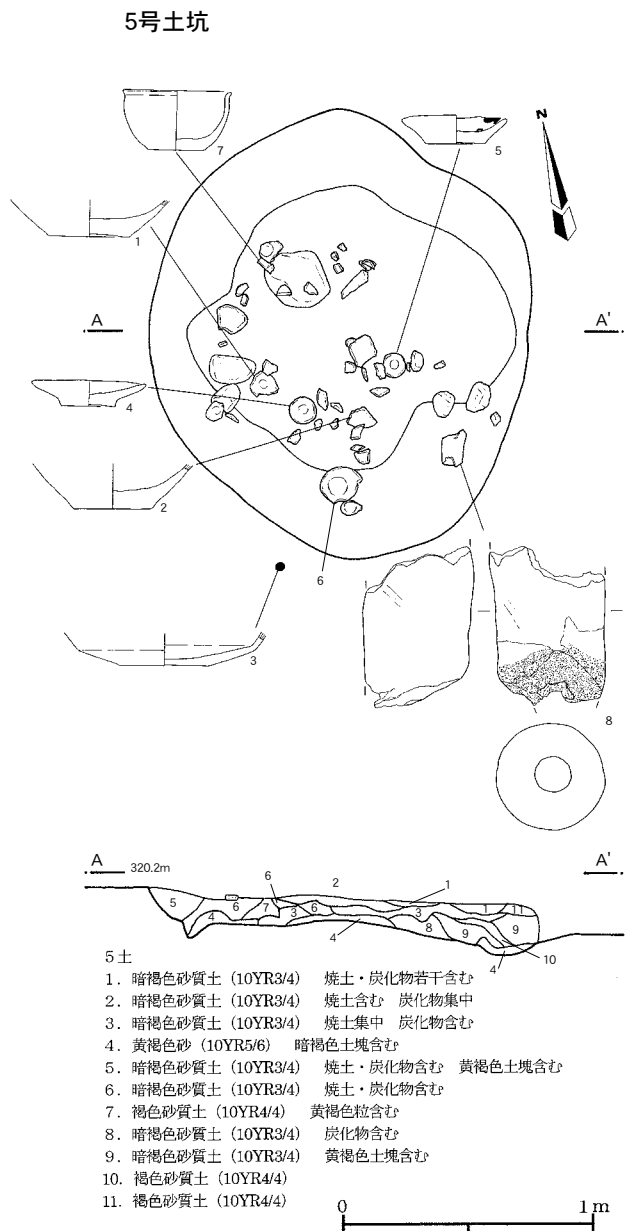
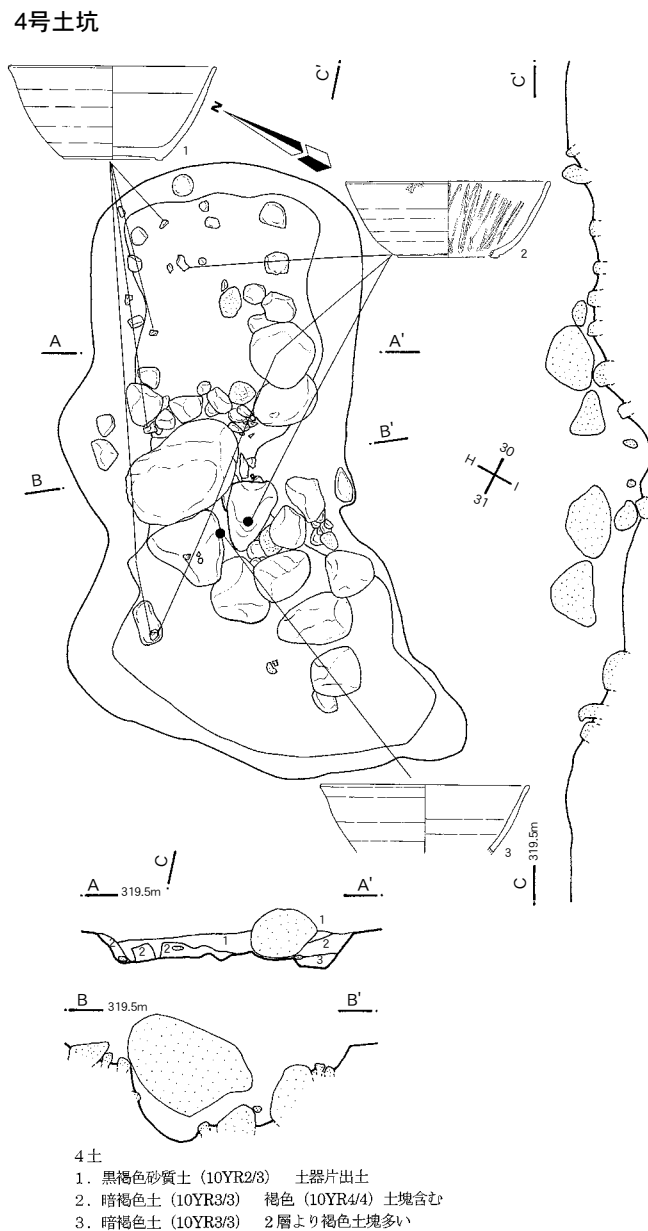
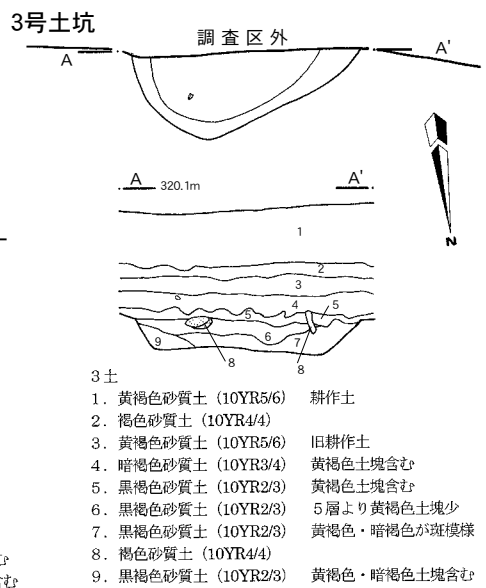
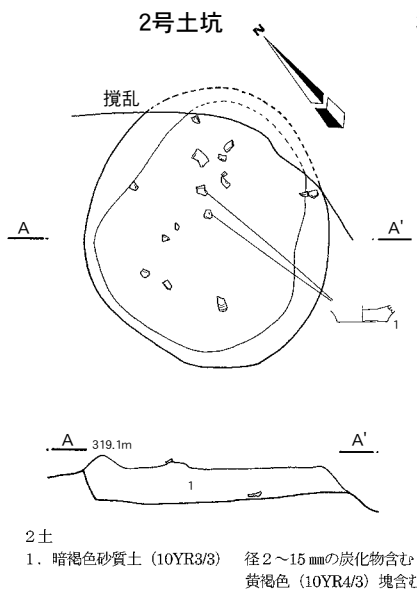
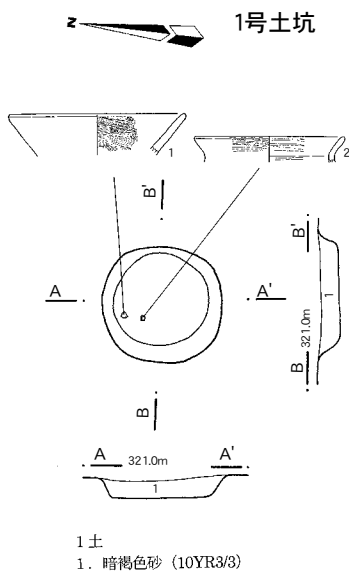


第41図 第3次 22号住居跡 (1/60)



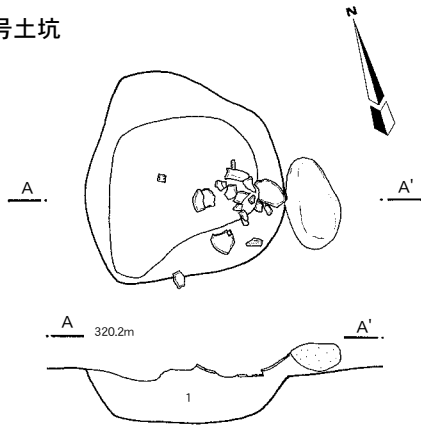
第42図 第3次 23号住居跡・カマド (1/60・1/30)





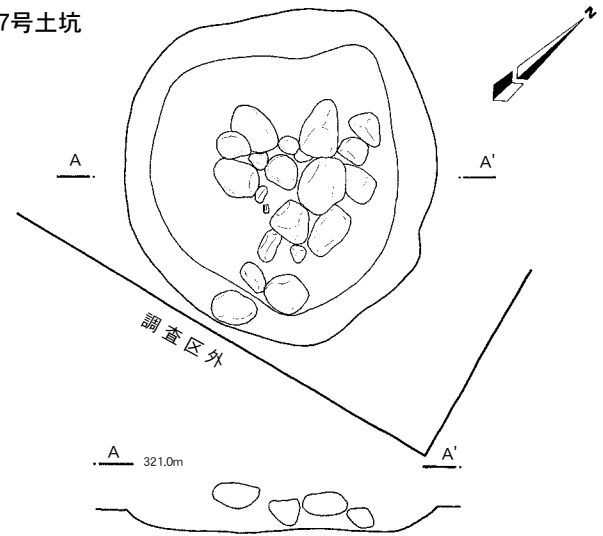
第43図 第3次 1~5号土坑 (1/30)

6号土坑

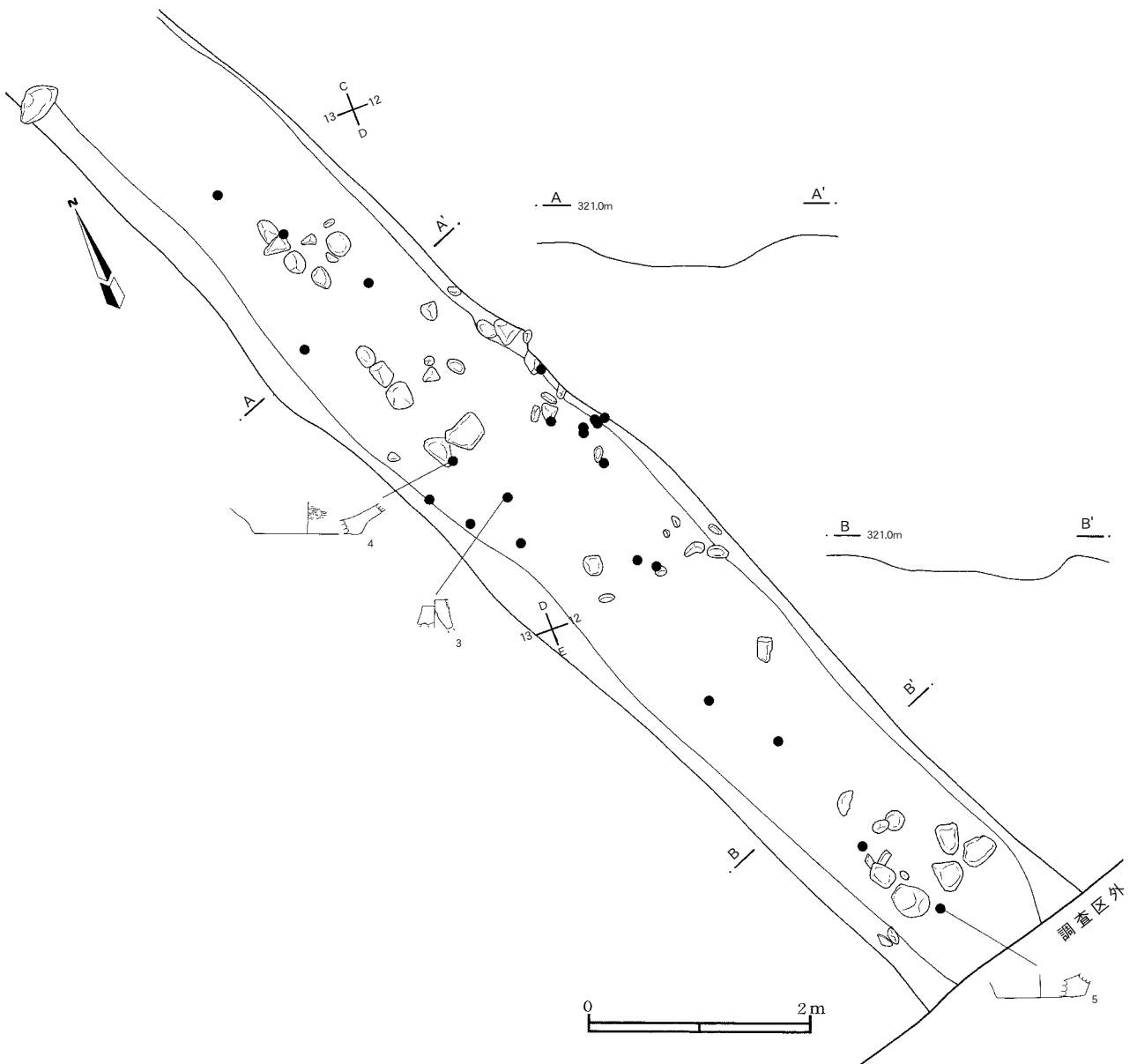
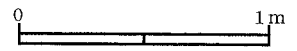


6土  
1. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黒っぽい

7号土坑

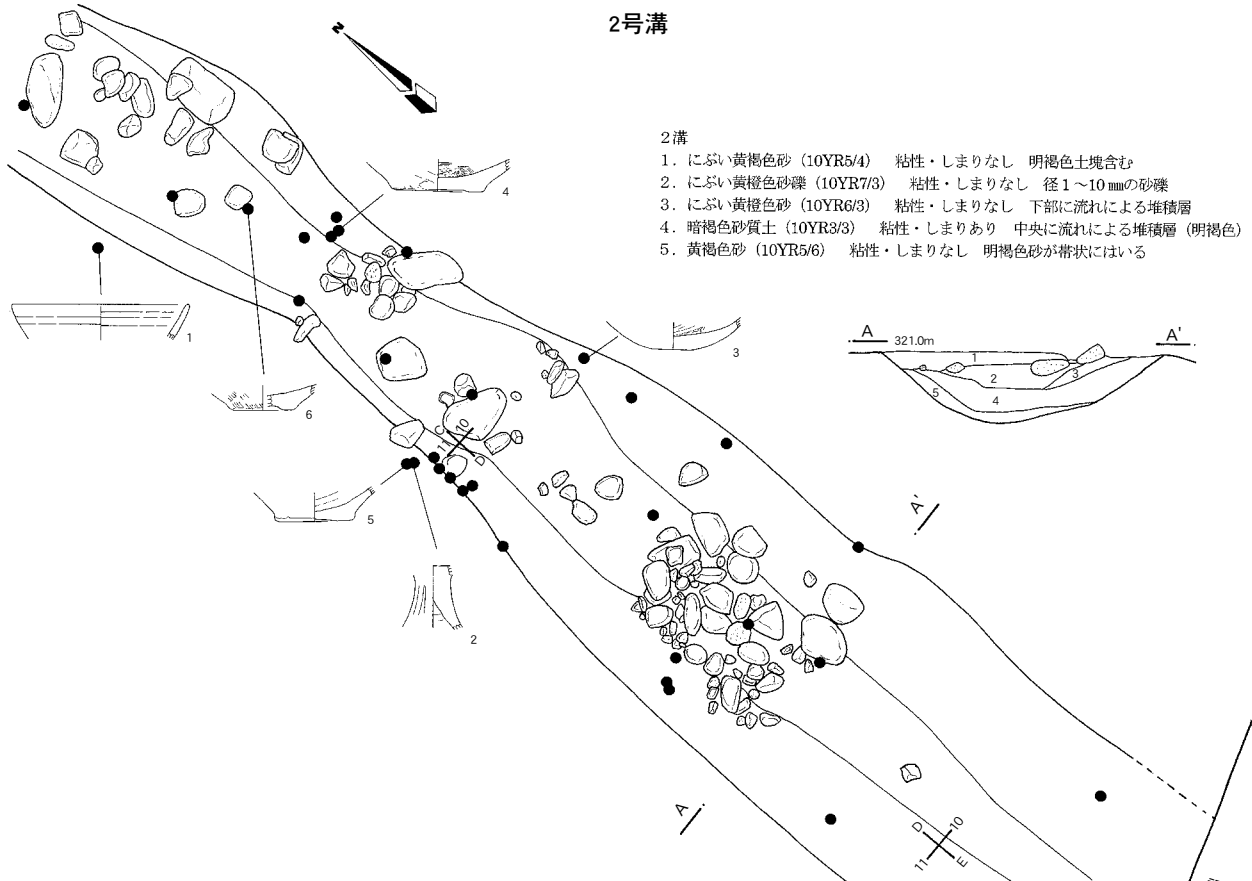


第44図 第3次 6・7号土坑 (1/30)



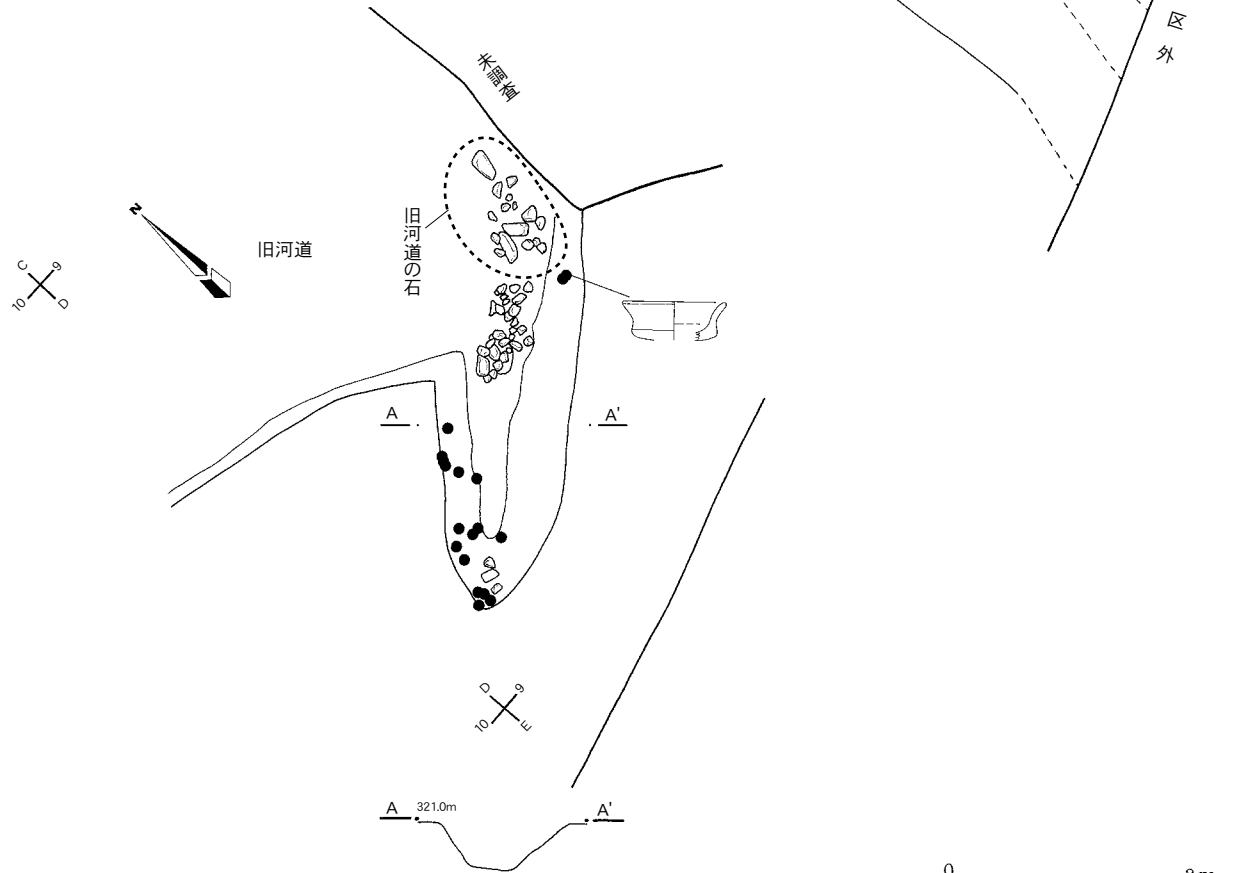
第45図 第3次 1号溝 (1/60)

2号溝

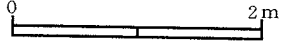


- 2号溝
1. にぶい黄褐色砂 (10YR5/4) 粘性・しまりなし 明褐色土塊含む
  2. にぶい黄褐色砂礫 (10YR7/3) 粘性・しまりなし 径1~10mmの砂礫
  3. にぶい黄褐色砂 (10YR6/3) 粘性・しまりなし 下部に流れによる堆積層
  4. 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 粘性・しまりあり 中央に流れによる堆積層 (明褐色)
  5. 黄褐色砂 (10YR5/6) 粘性・しまりなし 明褐色砂が帯状にはいる

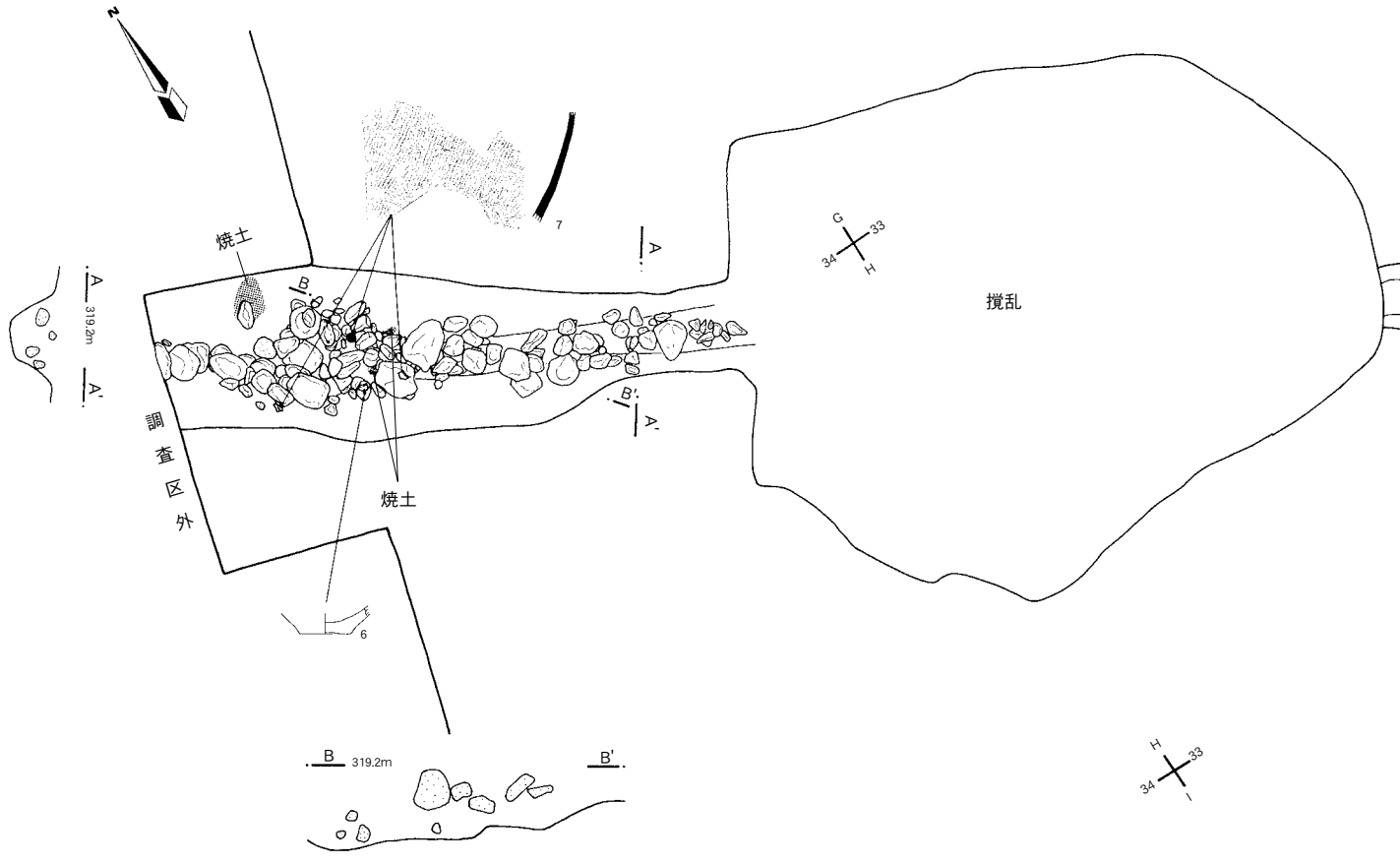
3号溝



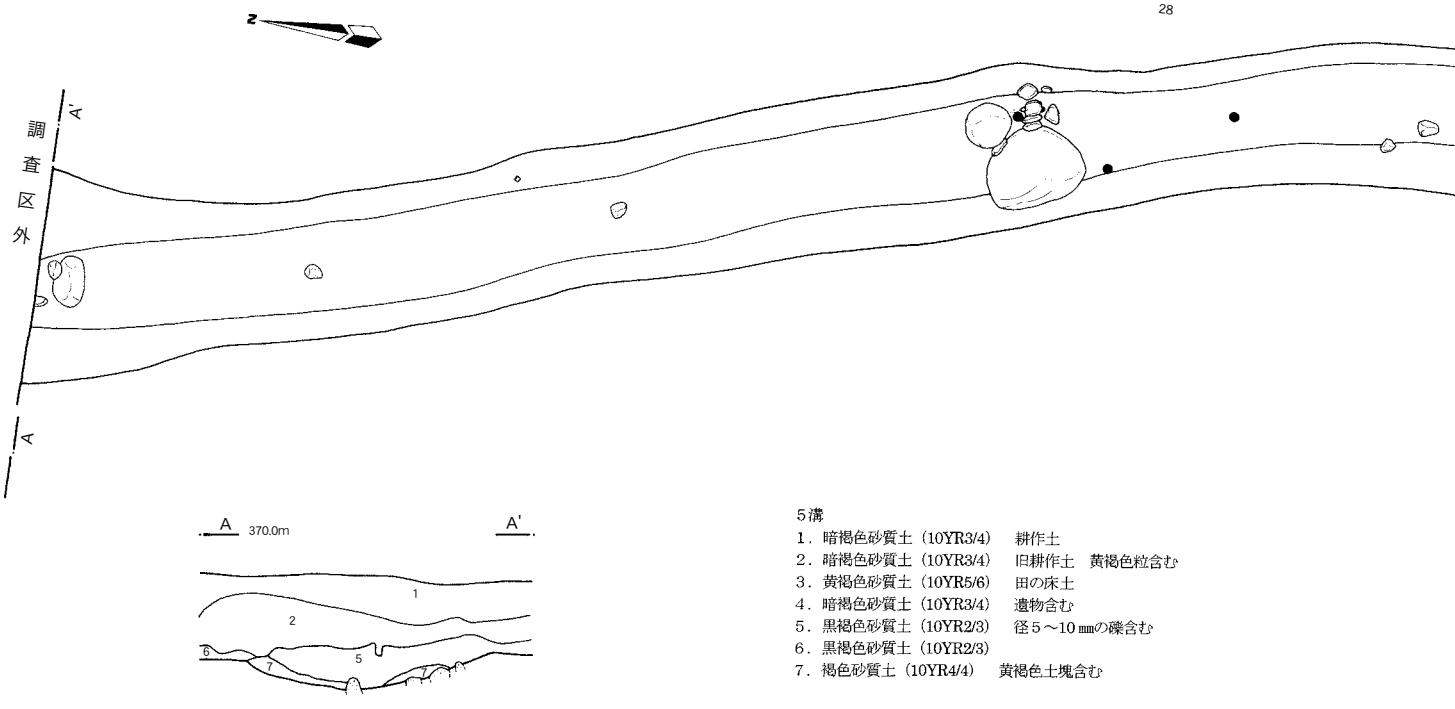
第46図 第3次 2・3号溝 (1/60)



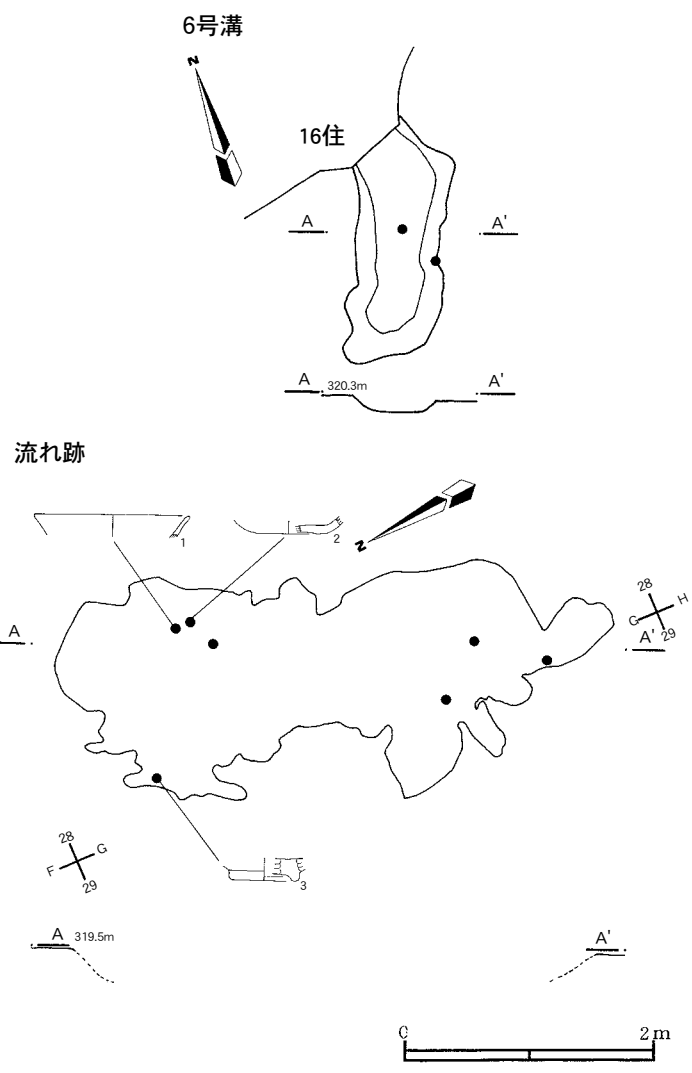
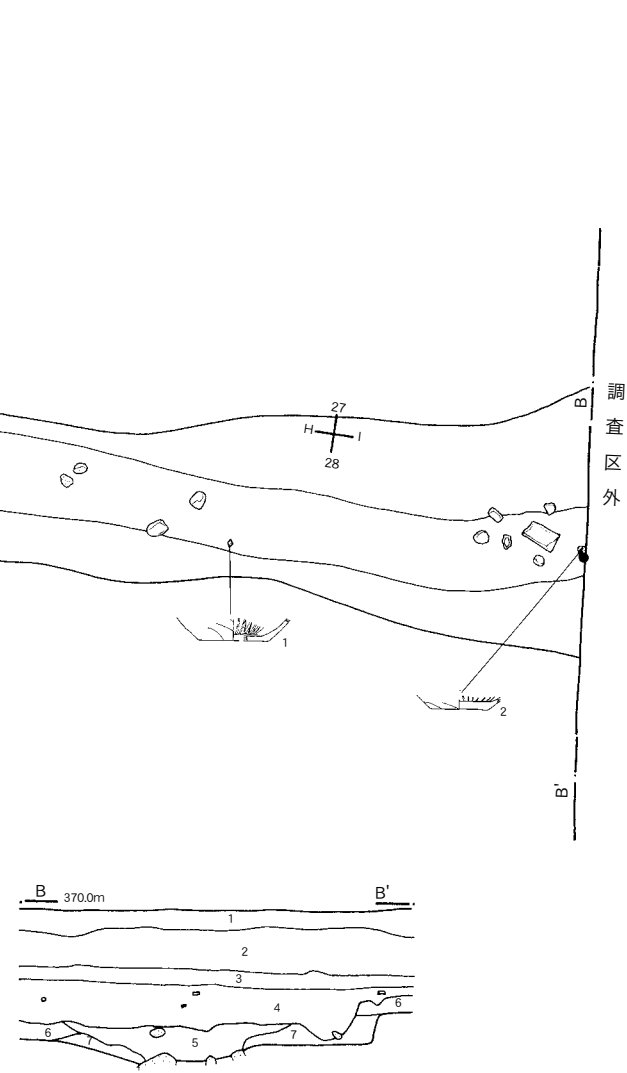
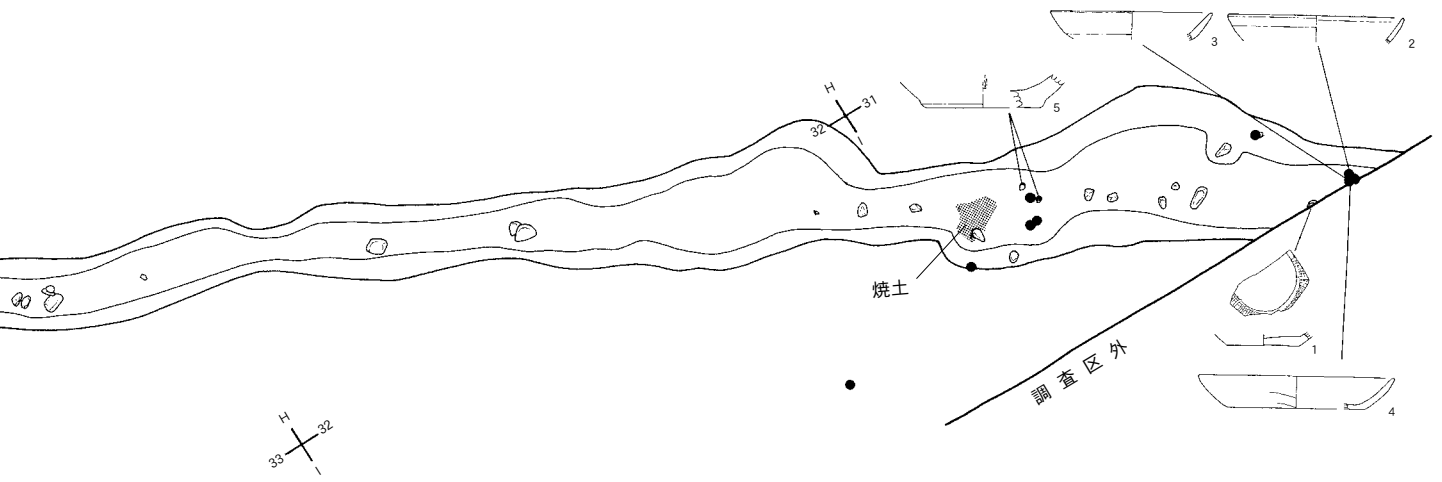
4号溝



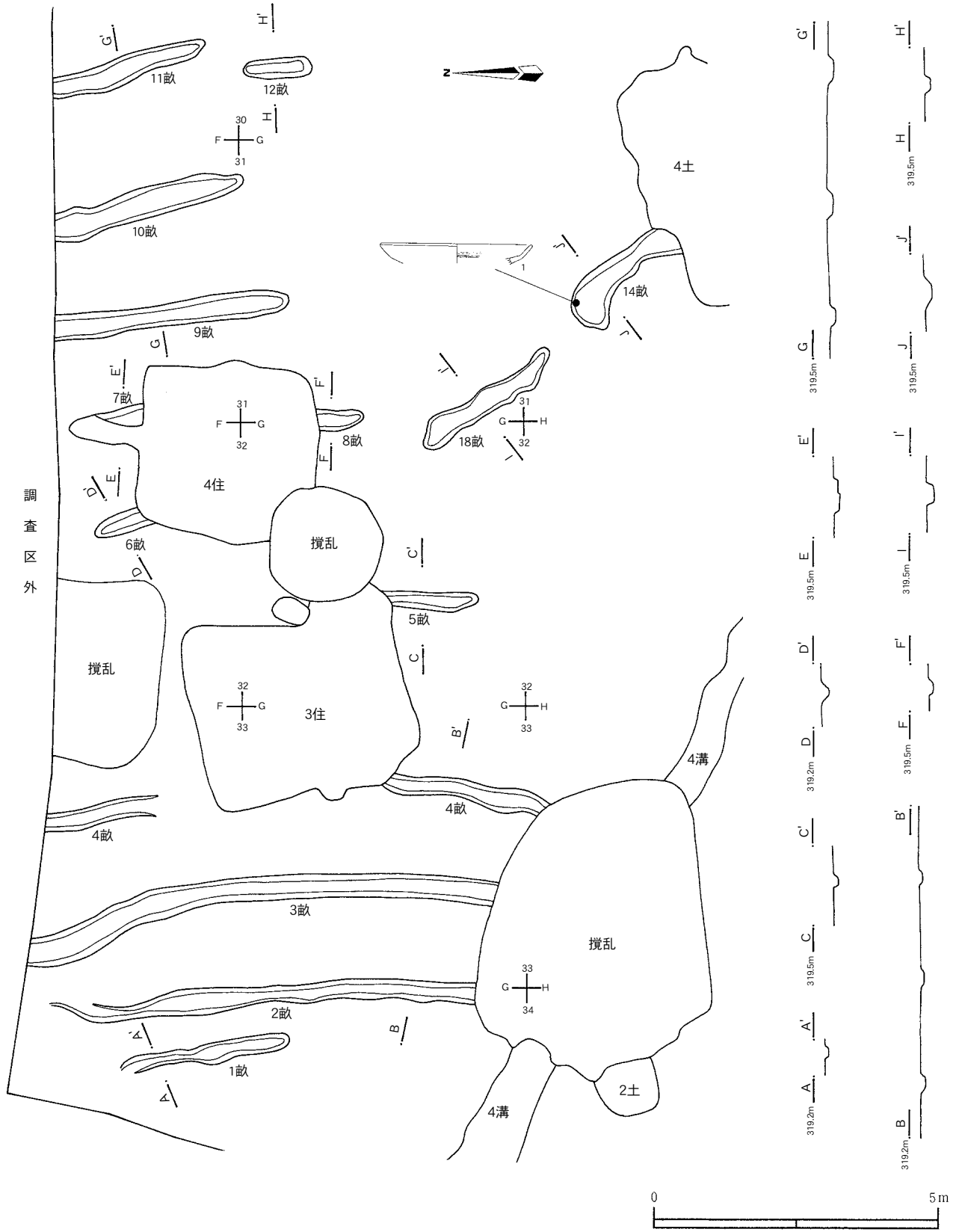
5号溝



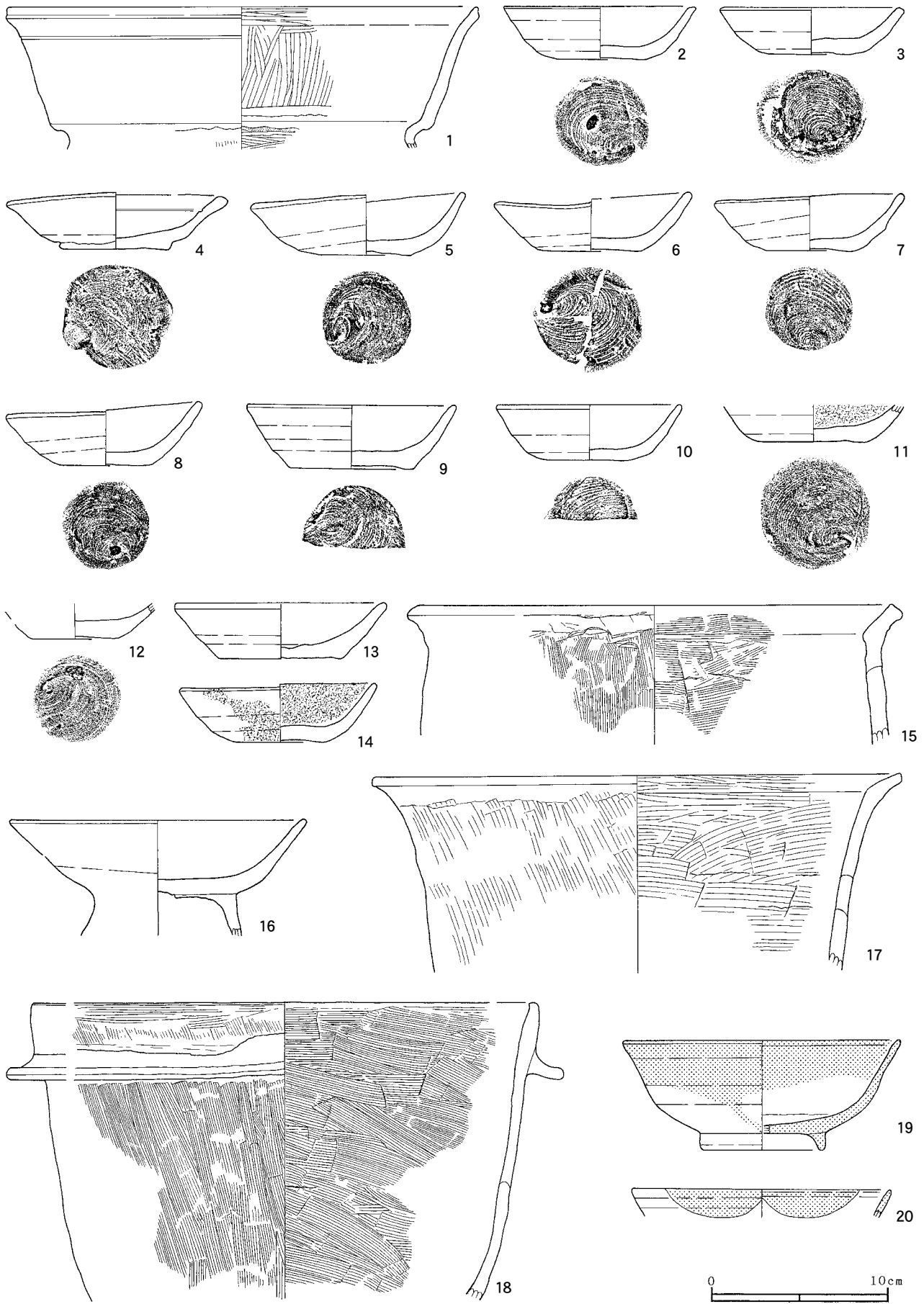
- 5溝
- 1. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 耕作土
  - 2. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 旧耕作土 黄褐色粒含む
  - 3. 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 田の床土
  - 4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 遺物含む
  - 5. 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 径5~10mmの礫含む
  - 6. 黒褐色砂質土 (10YR2/3)
  - 7. 褐色砂質土 (10YR4/4) 黄褐色土塊含む



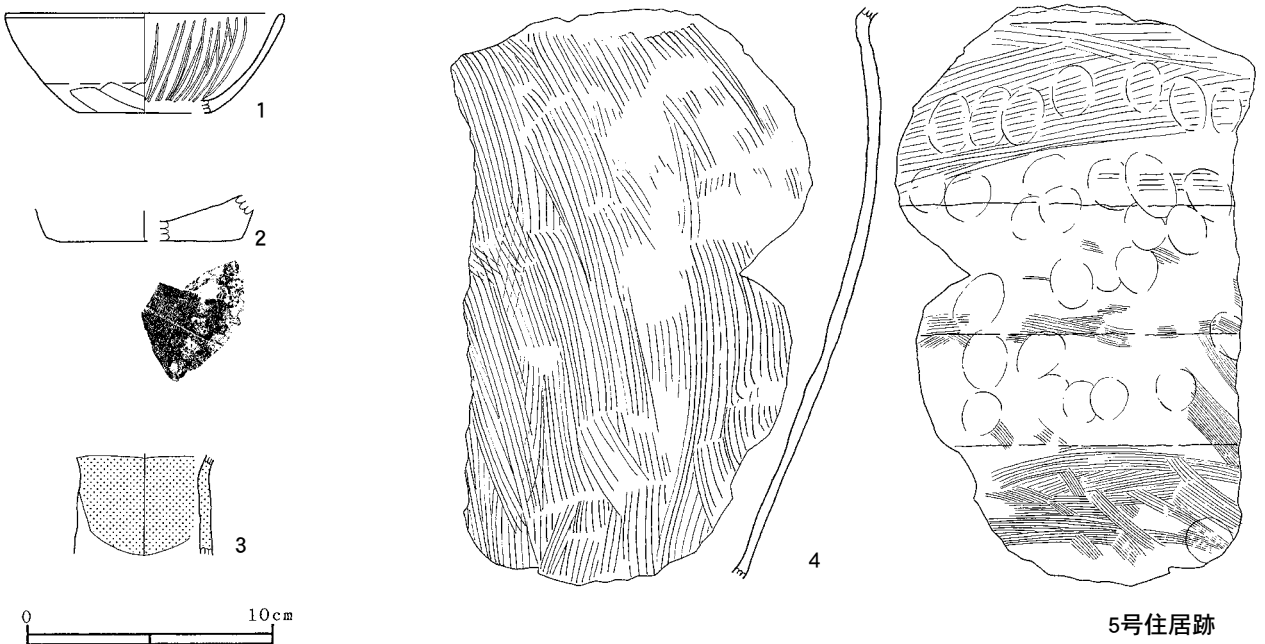
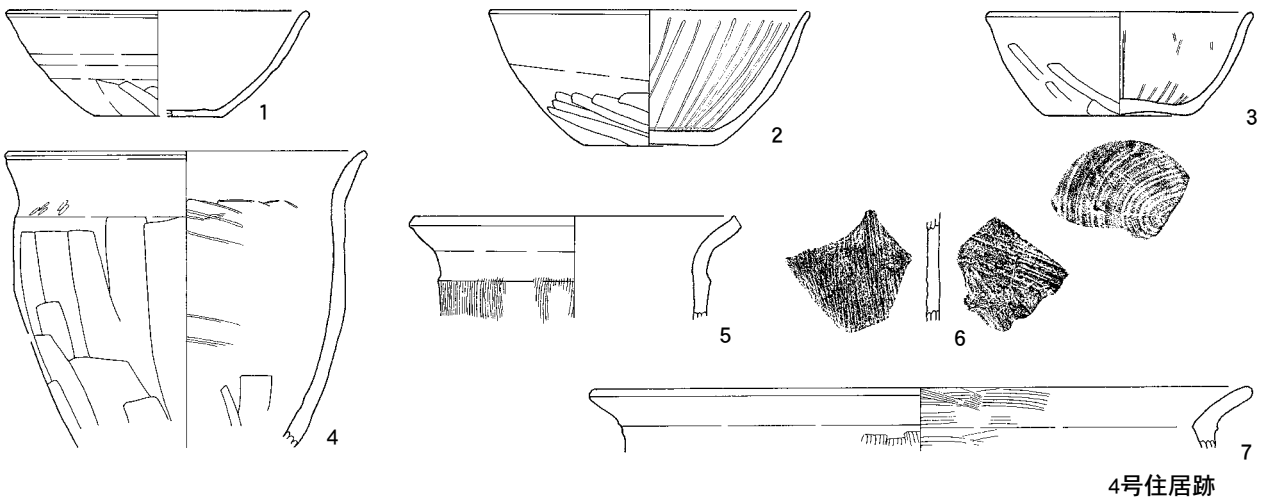
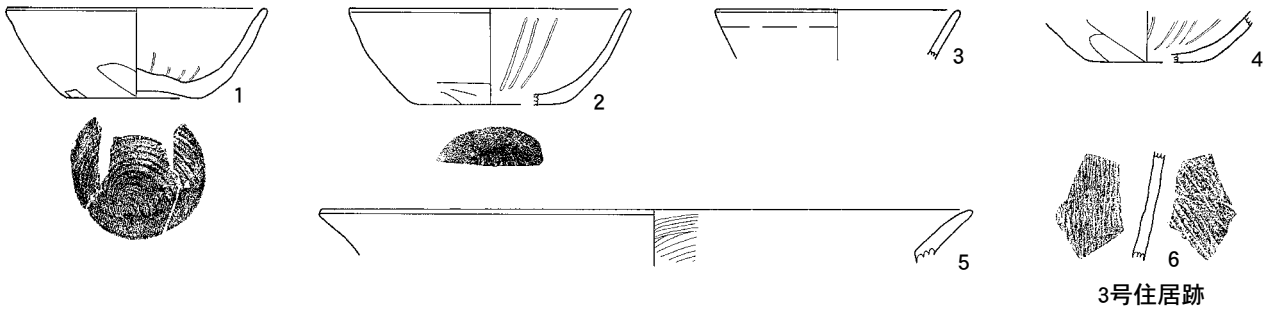
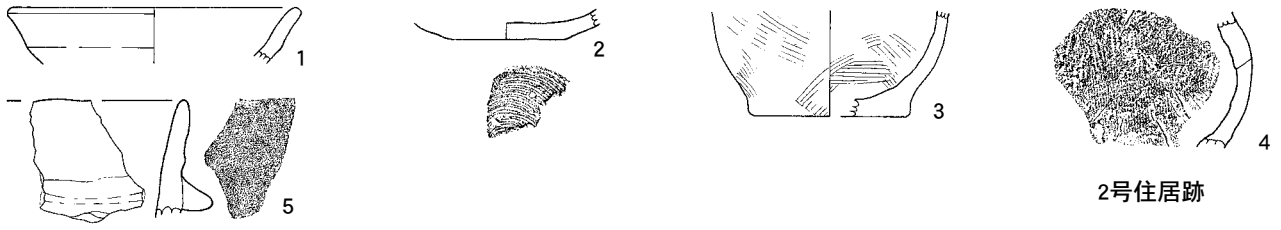
6号溝、流れ跡 (1/60)



第48図 第3次 1~14号畝 (1/100)

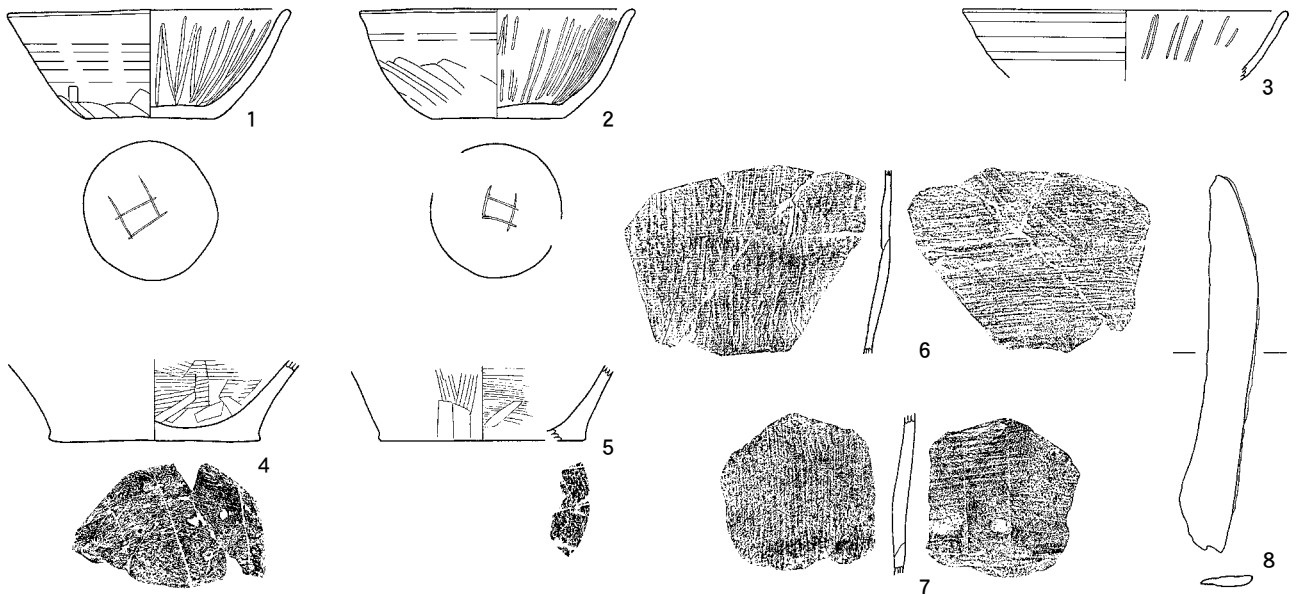


第49图 第3次 1号住居跡出土遺物

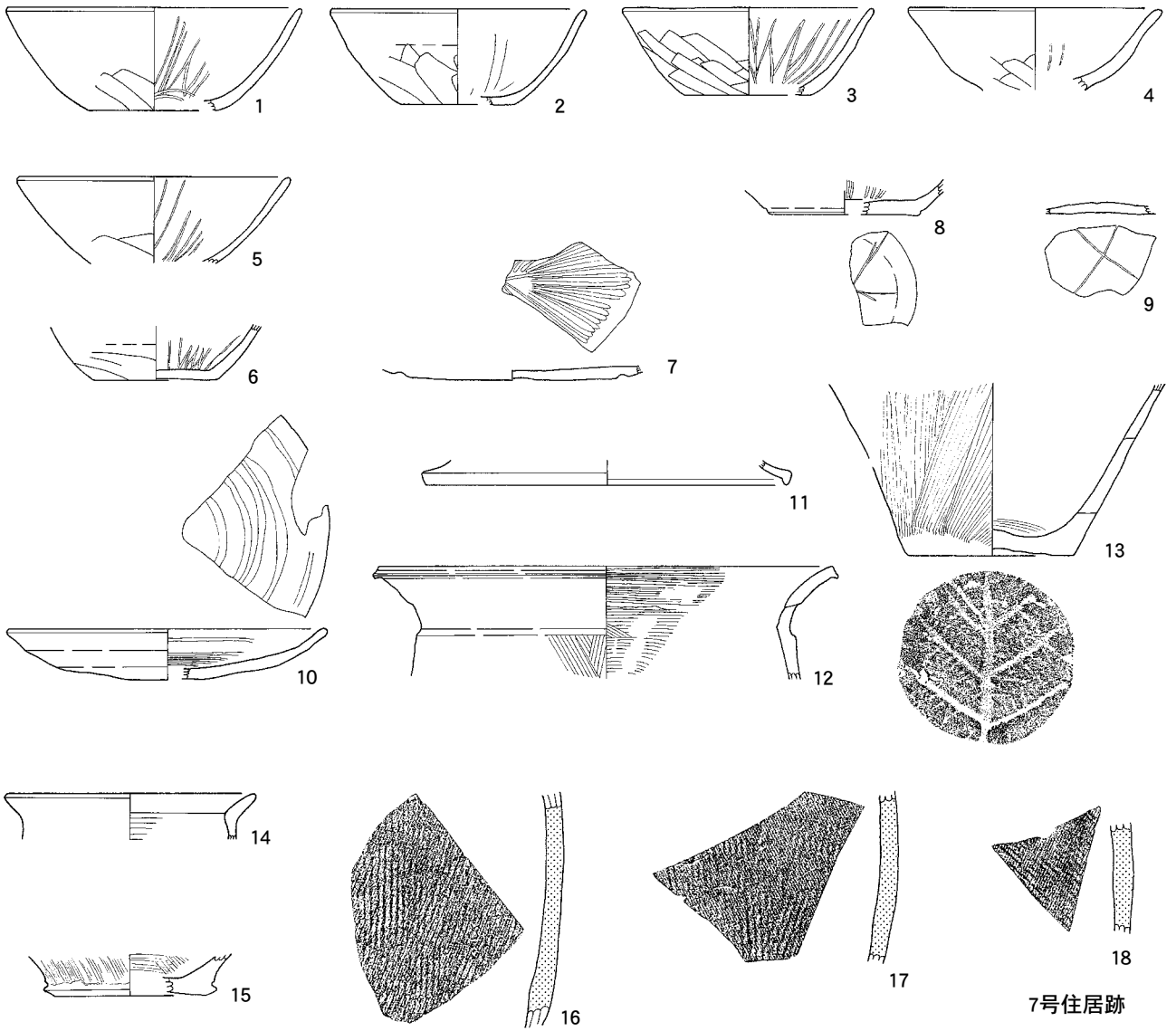


第50図 第3次 2・3・4・5号住居跡出土遺物





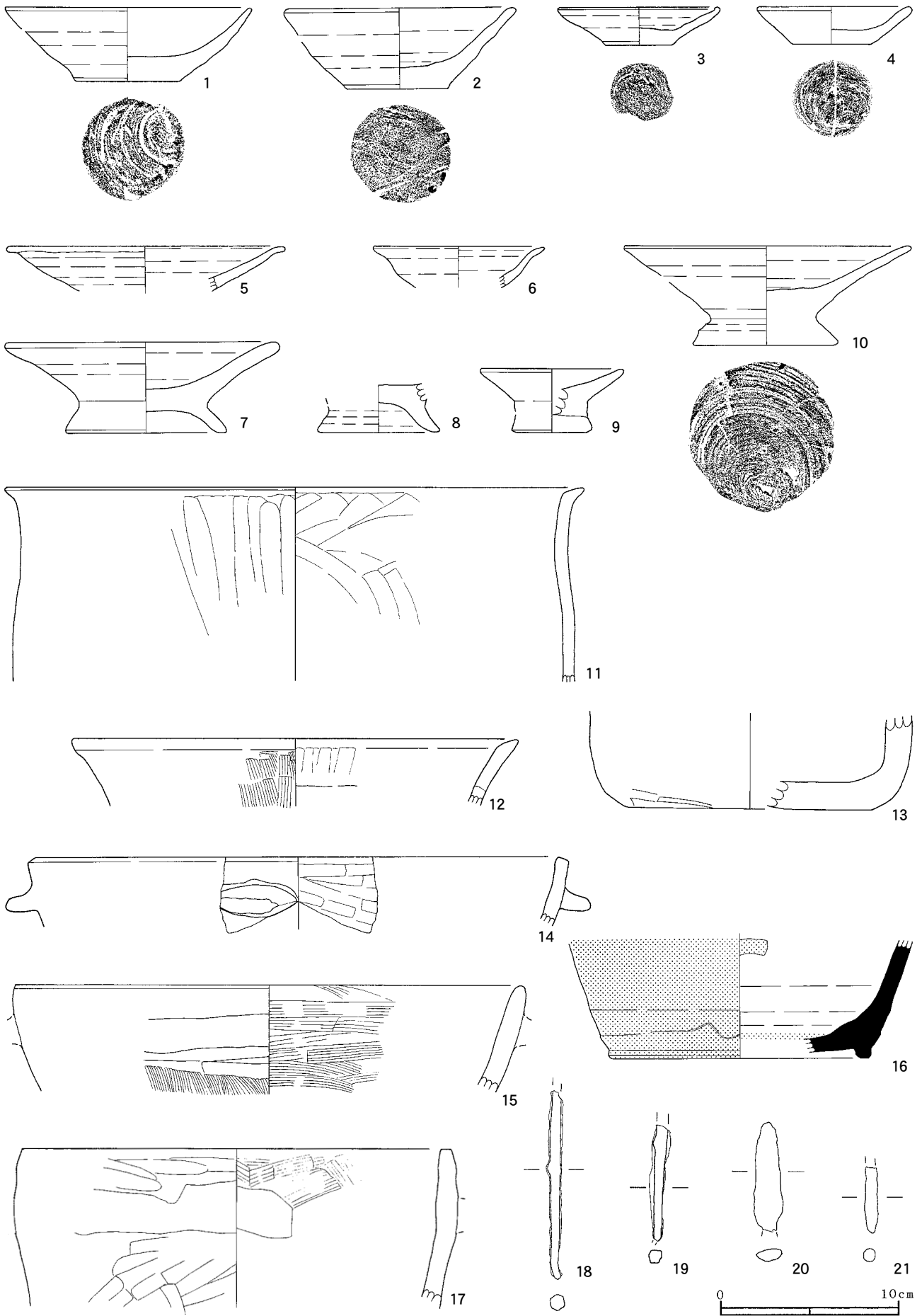
6号住居跡



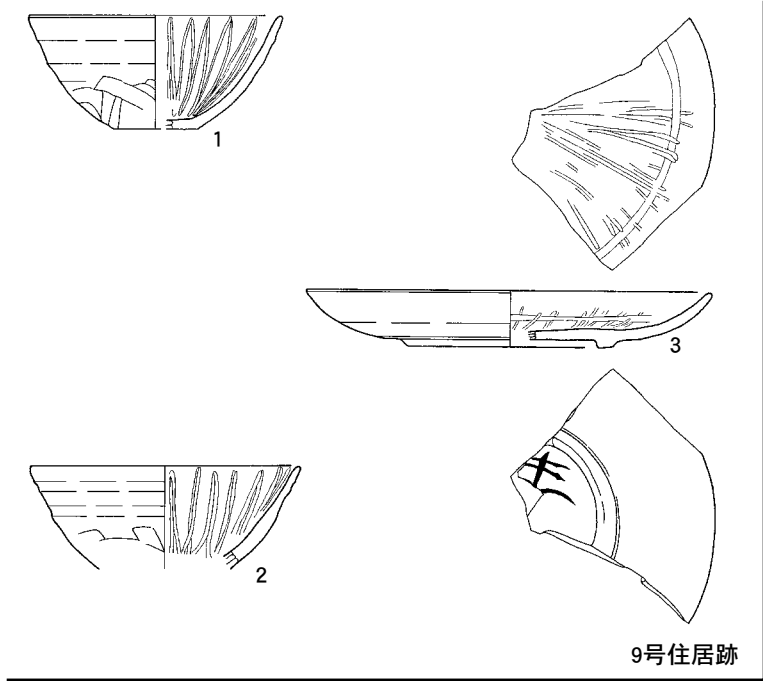
7号住居跡



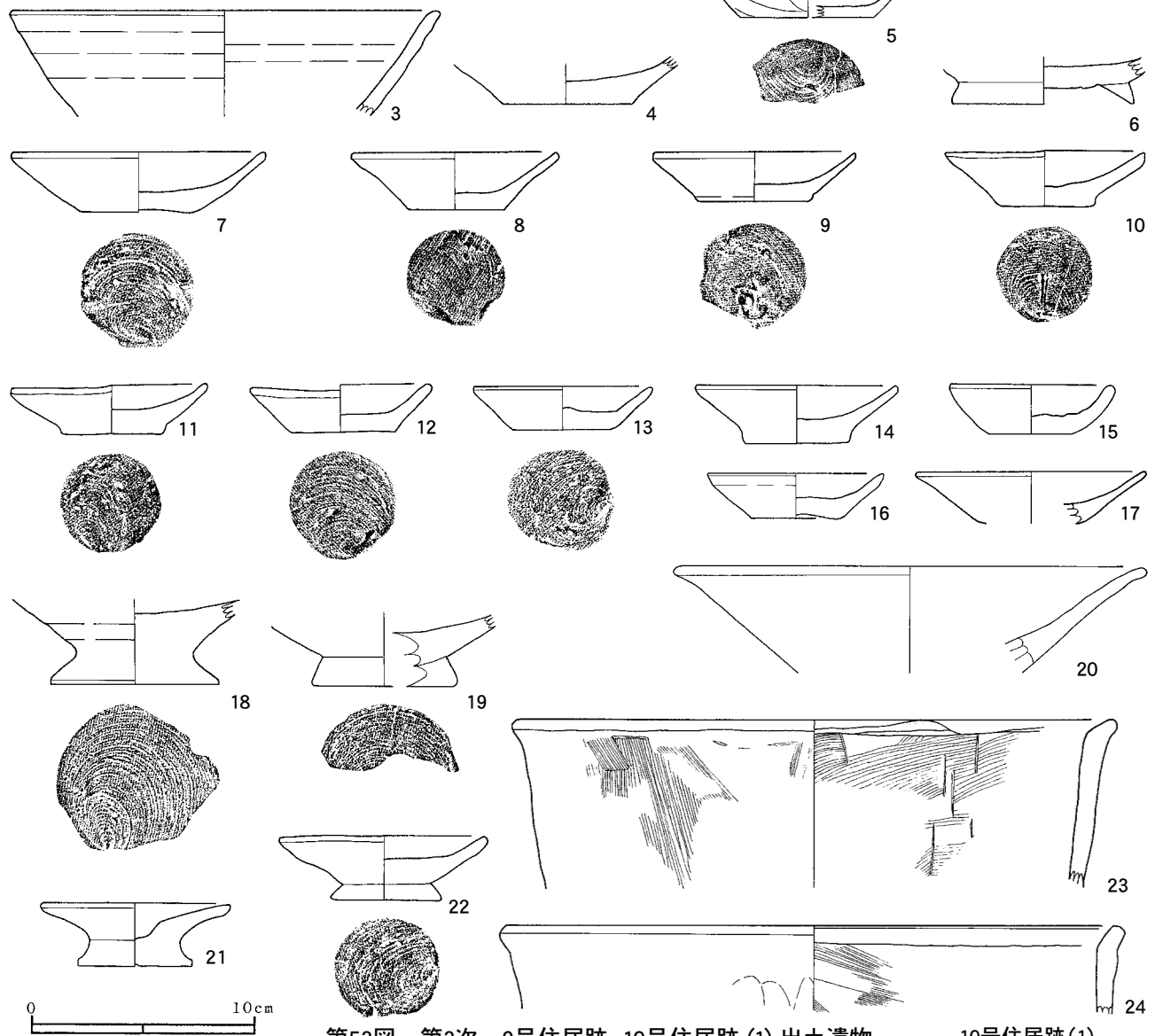
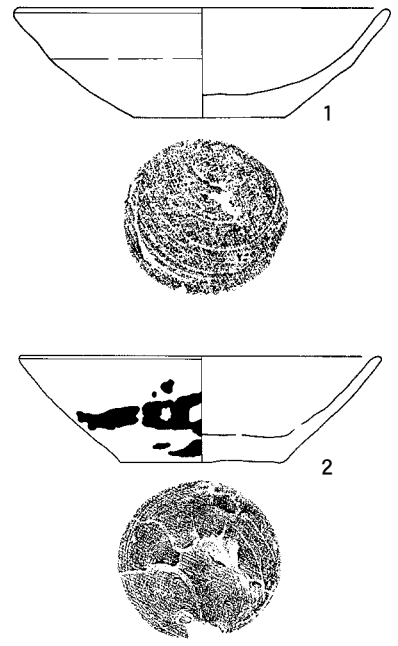
第51図 第3次 6・7号住居跡出土遺物



第52図 第3次 8号住居跡出土遺物

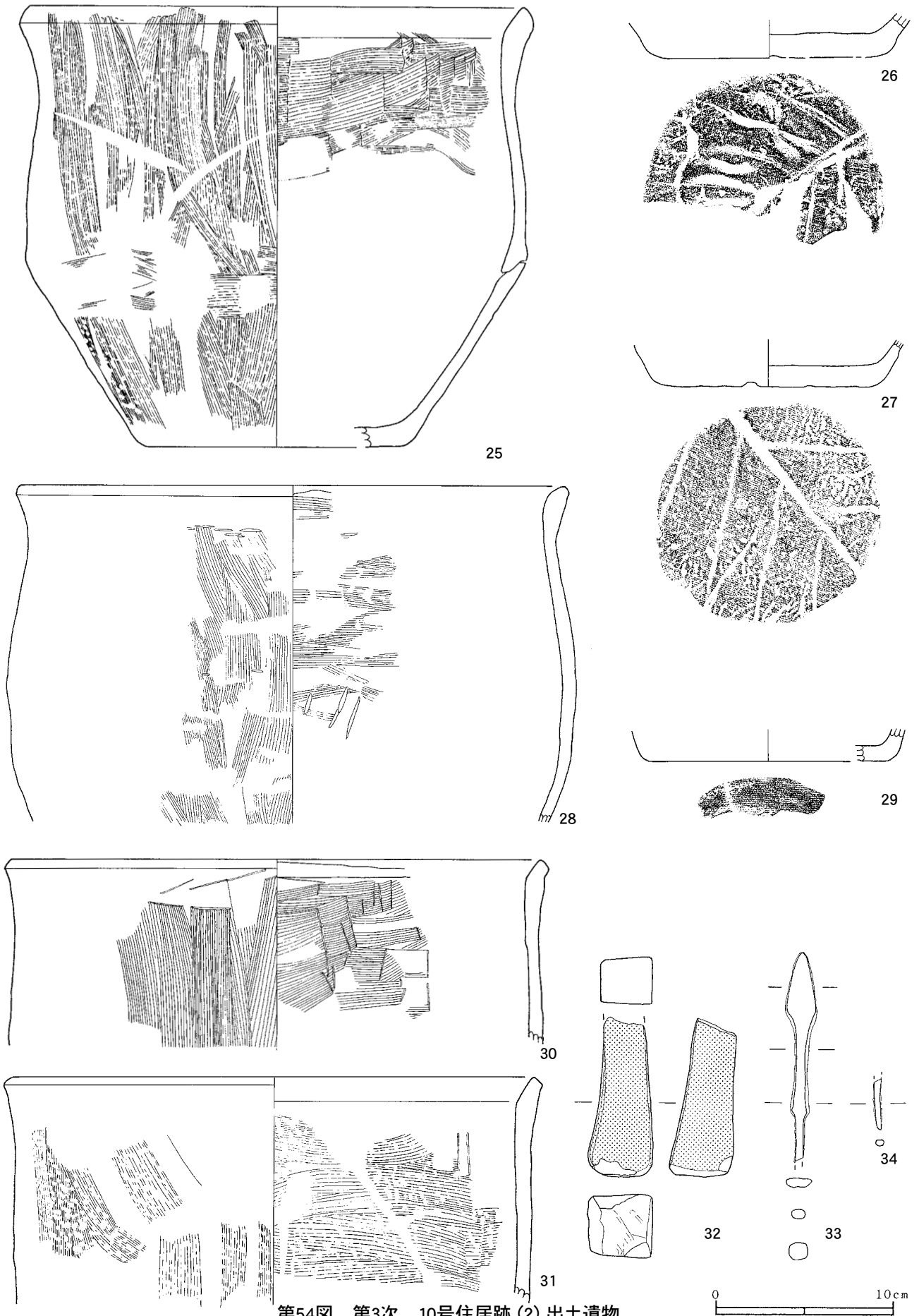


9号住居跡

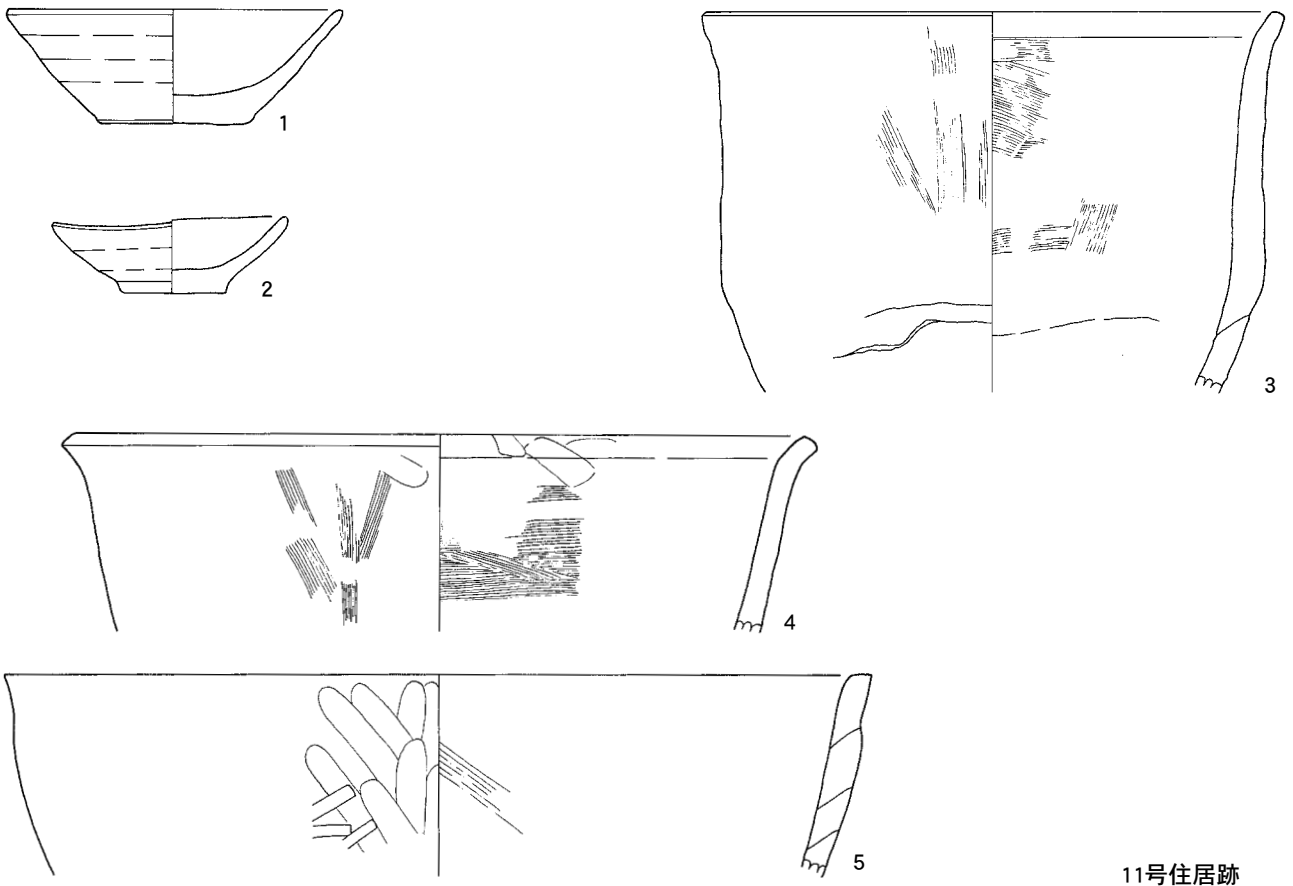


第53図 第3次 9号住居跡・10号住居跡(1) 出土遺物

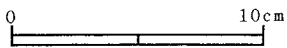
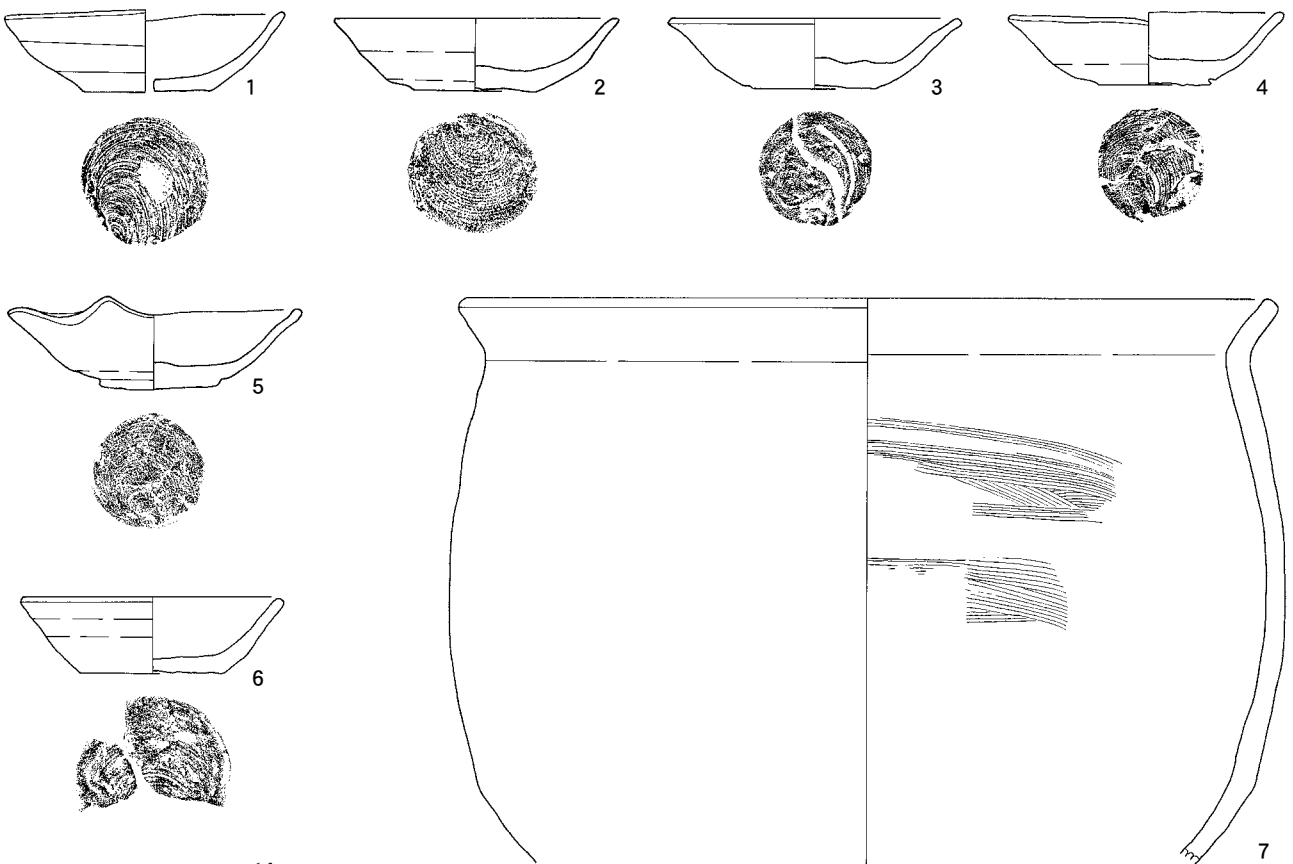
10号住居跡(1)



第54図 第3次 10号住居跡(2) 出土遺物

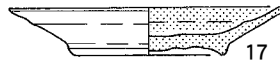
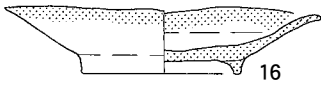
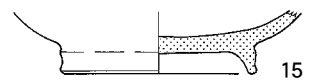
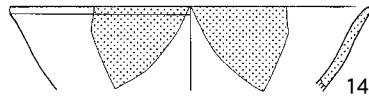
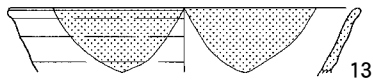
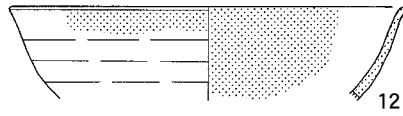
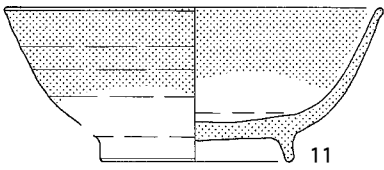
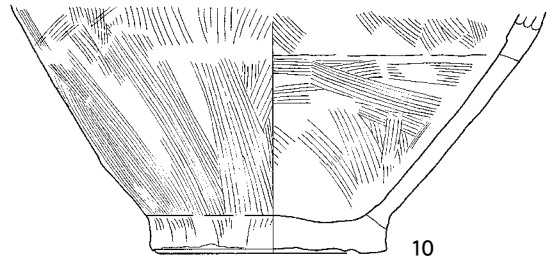
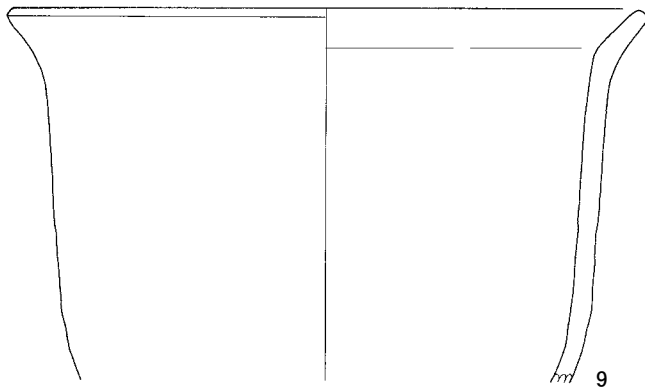
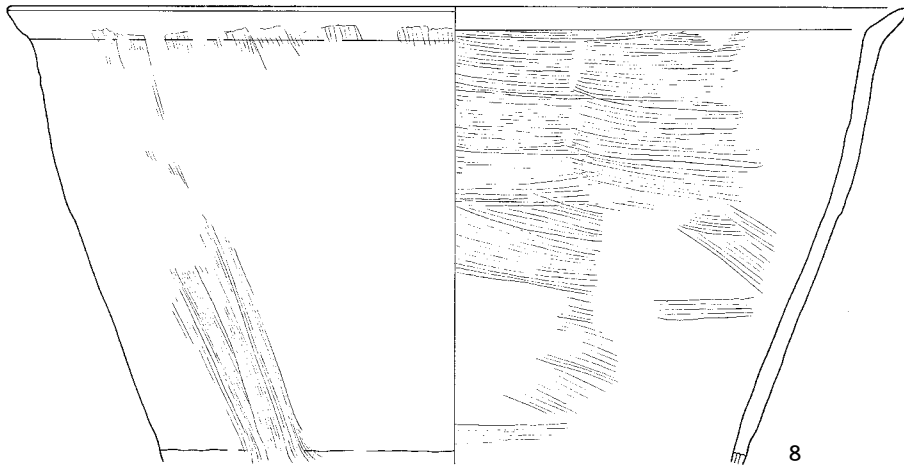


11号住居跡

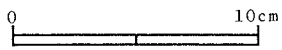
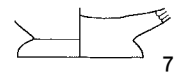
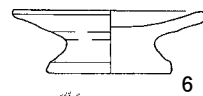
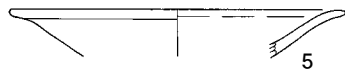
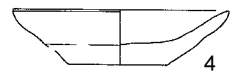
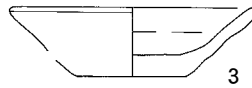
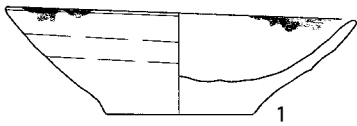


第55図 第3次 11号住居跡・12号住居跡 (1) 出土遺物

12号住居跡 (1)

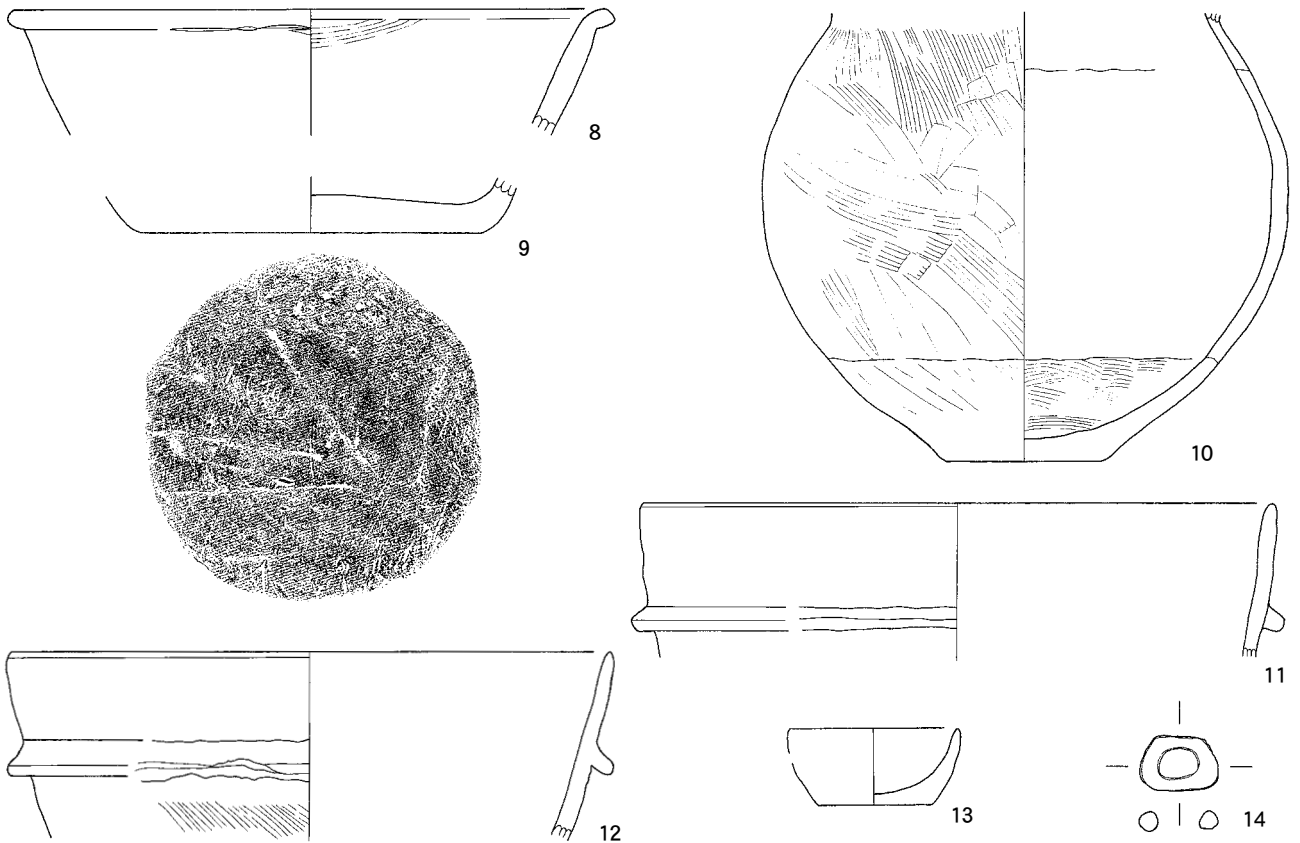


12号住居跡(2)

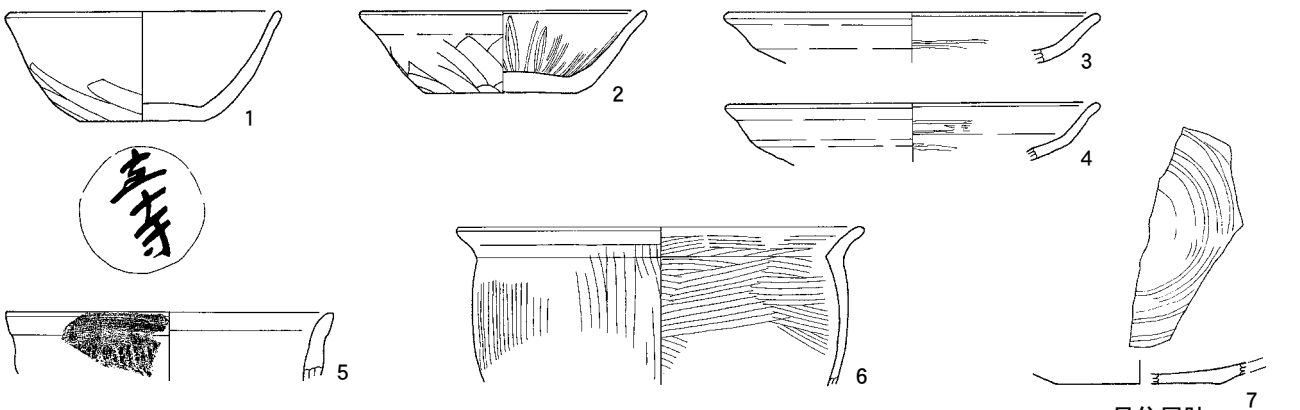


13号住居跡(1)

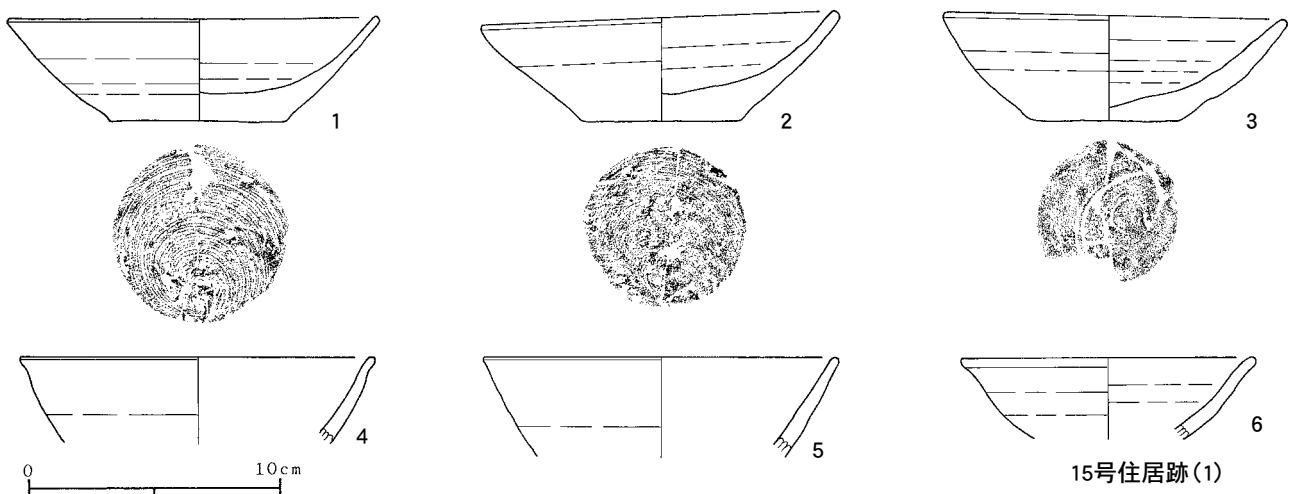
第56図 第3次 12号住居跡(2)・13号住居跡(1) 出土遺物



13号住居跡(2)

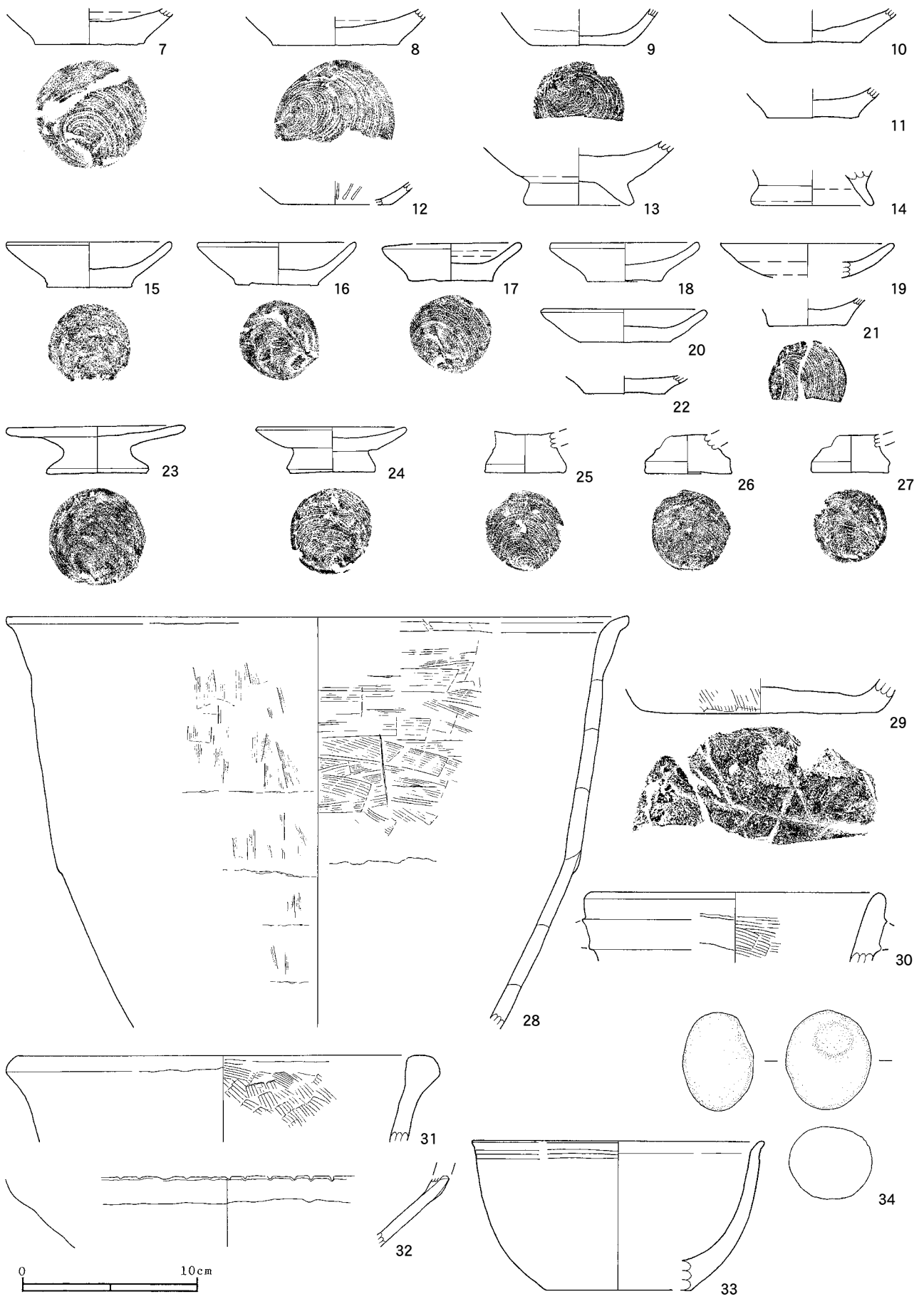


14号住居跡



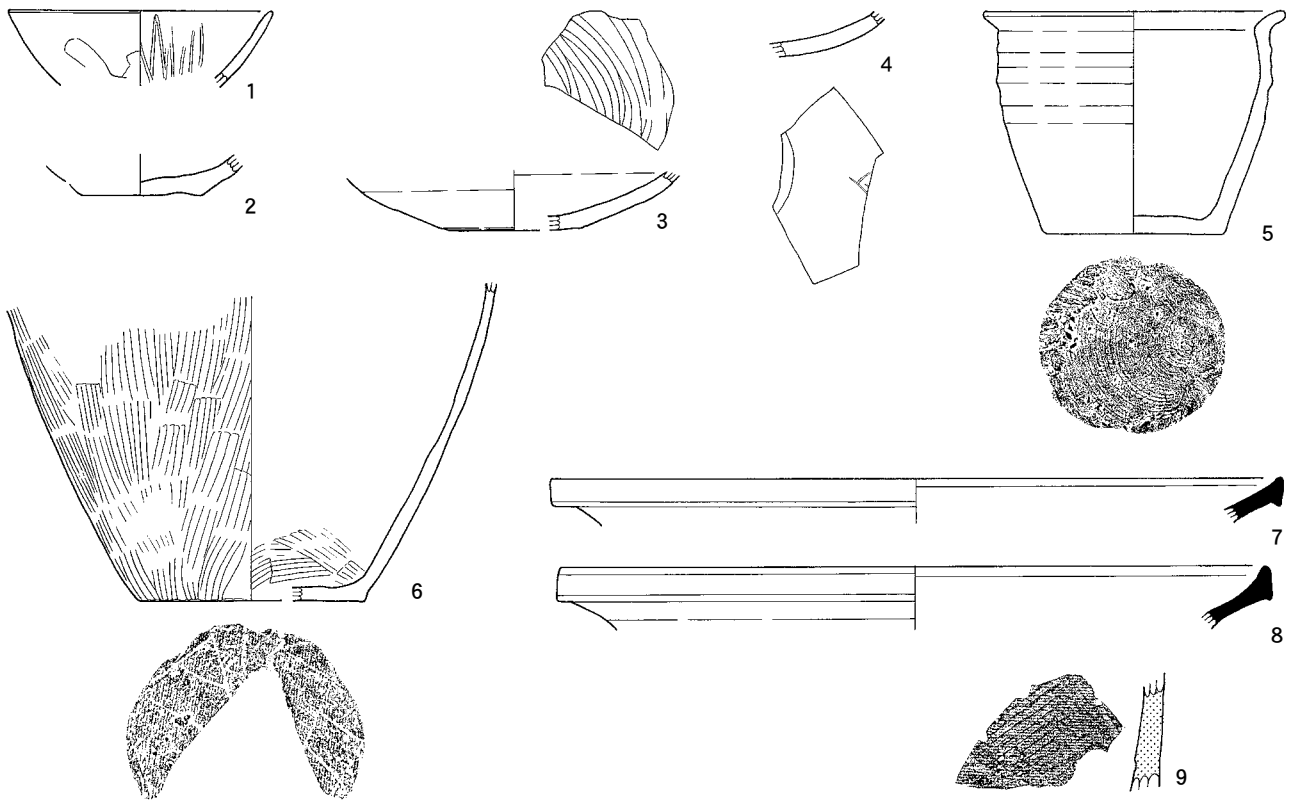
15号住居跡(1)

第57図 第3次 13号住居跡(2)・14号住居跡・15号住居跡(1)出土遺物

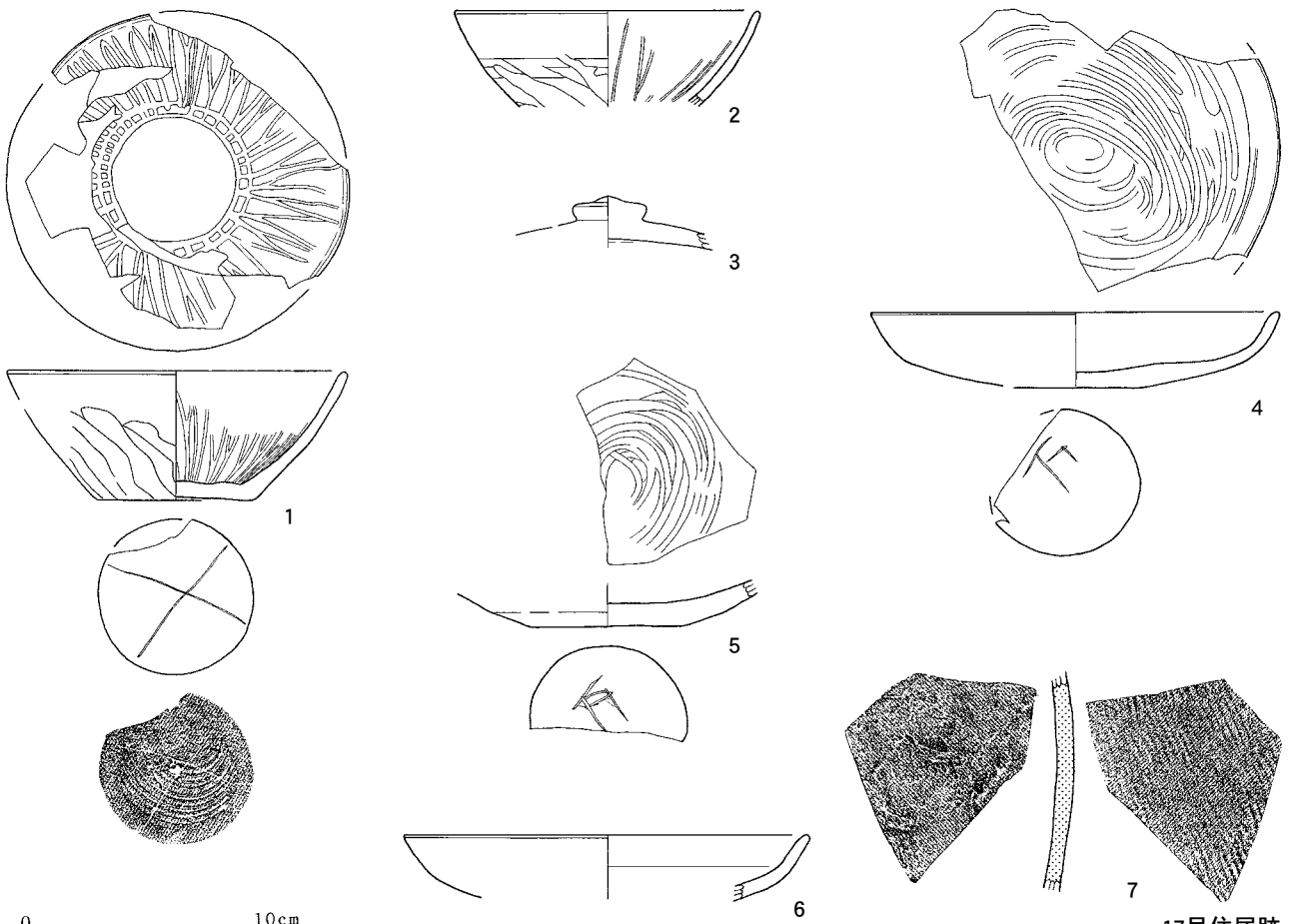


第58図 第3次 15号住居跡(2)出土遺物



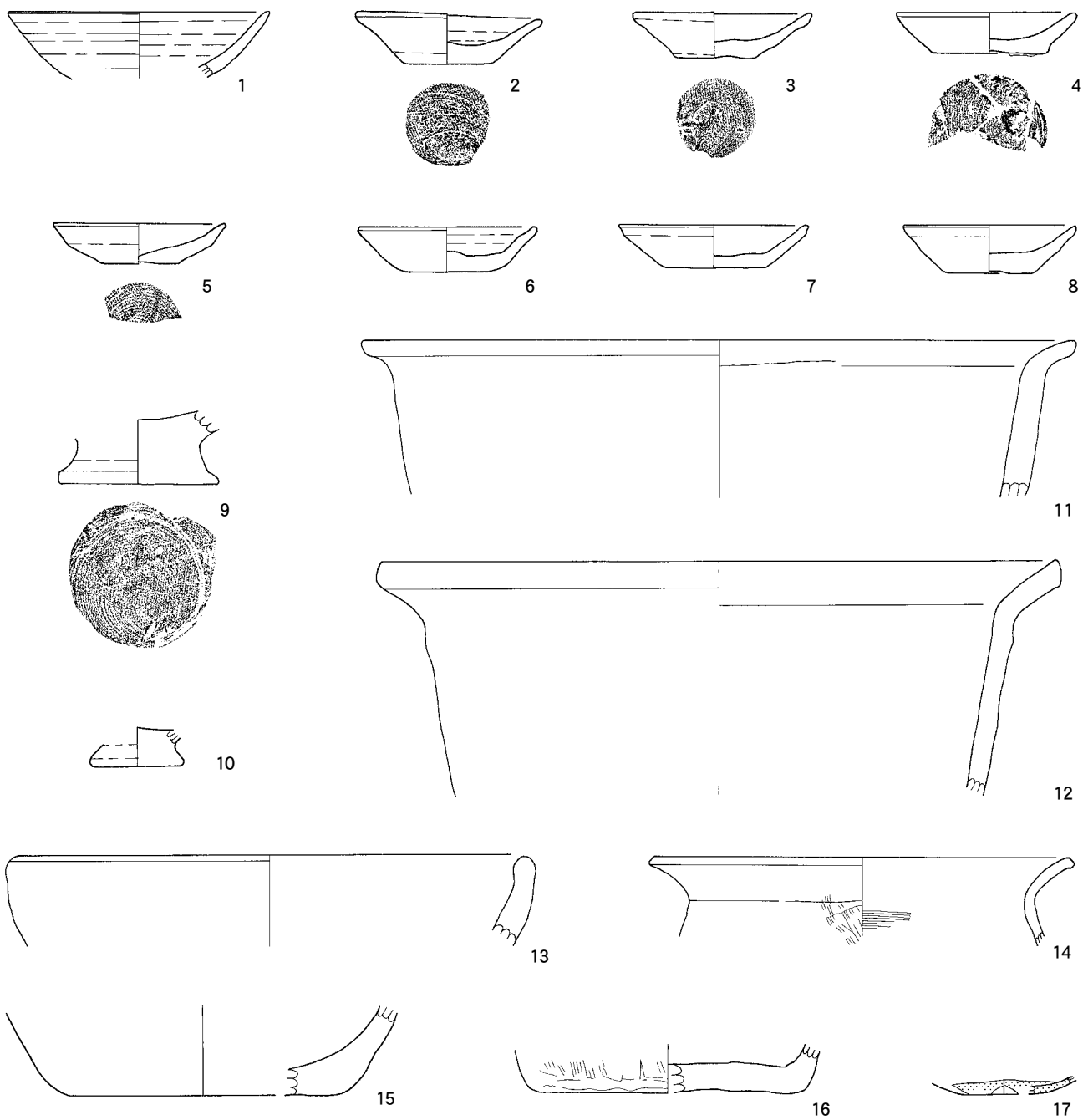


16号住居跡

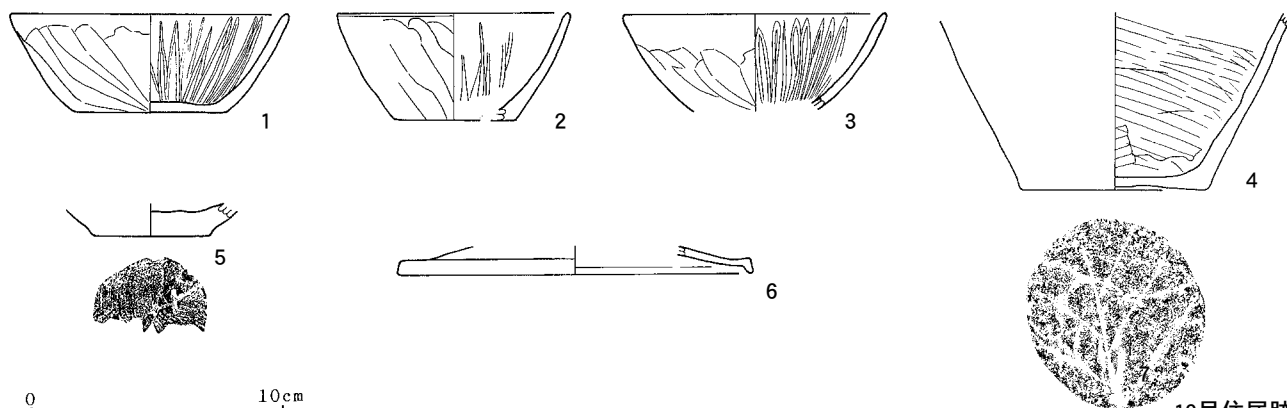


第59图 第3次 16·17号住居跡出土遺物

17号住居跡

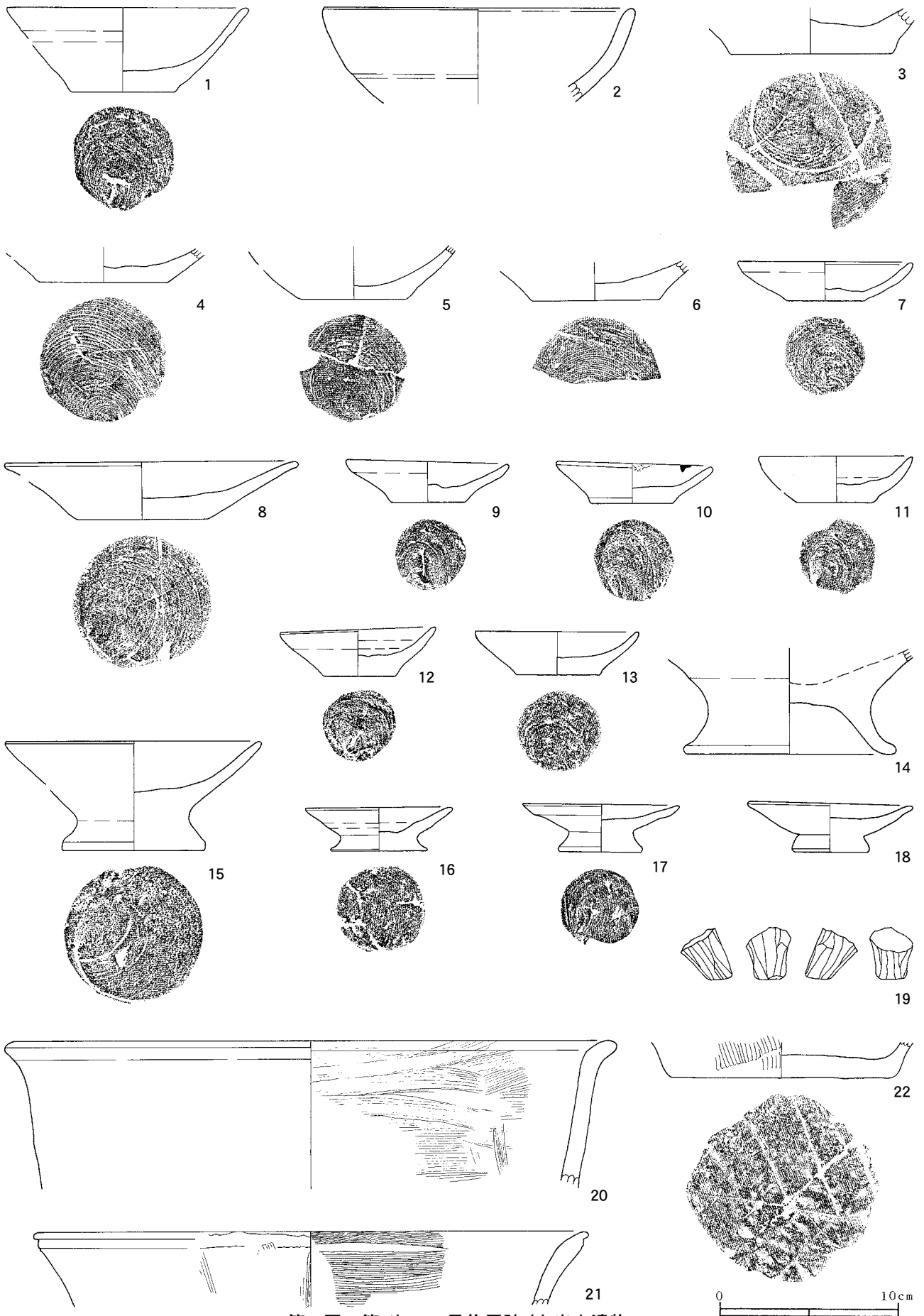


18号住居跡

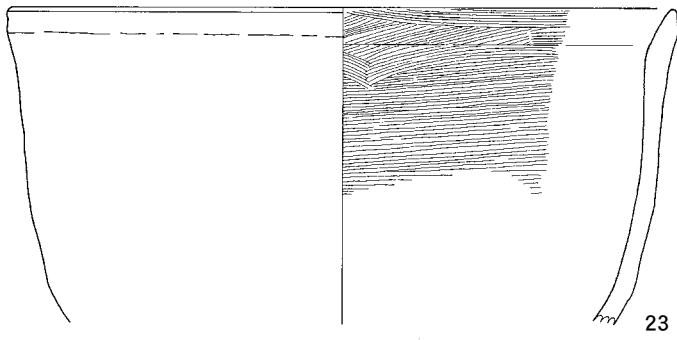


19号住居跡

第60图 第3次 18・19号住居跡出土遺物



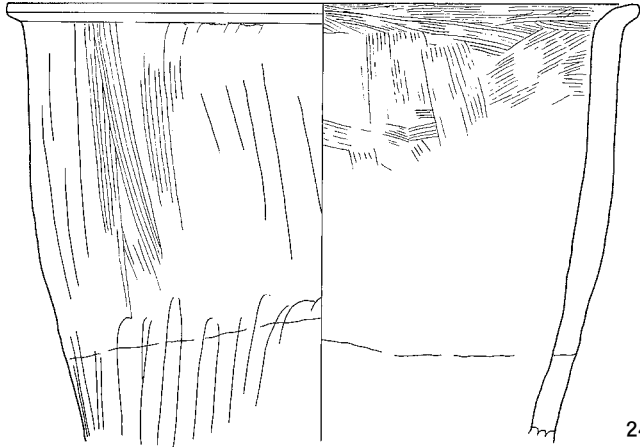
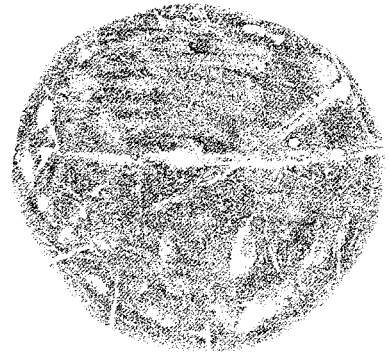
第61图 第3次 20号住居跡(1) 出土遺物



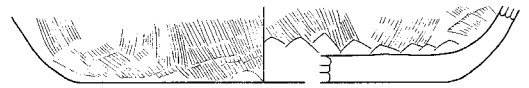
23



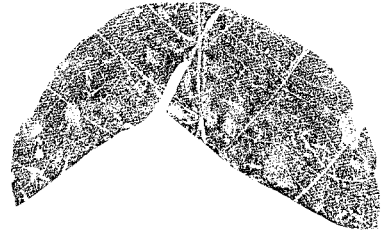
25



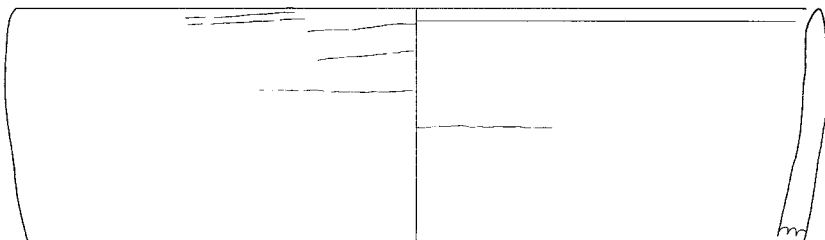
24



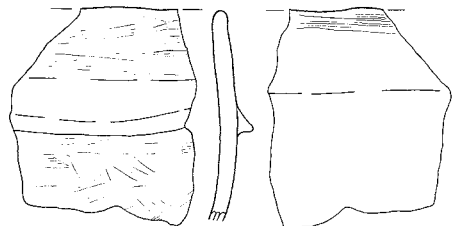
26



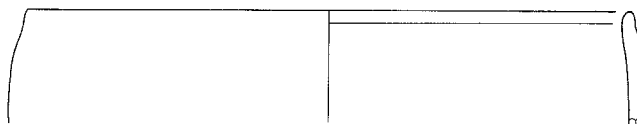
27



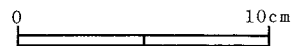
28



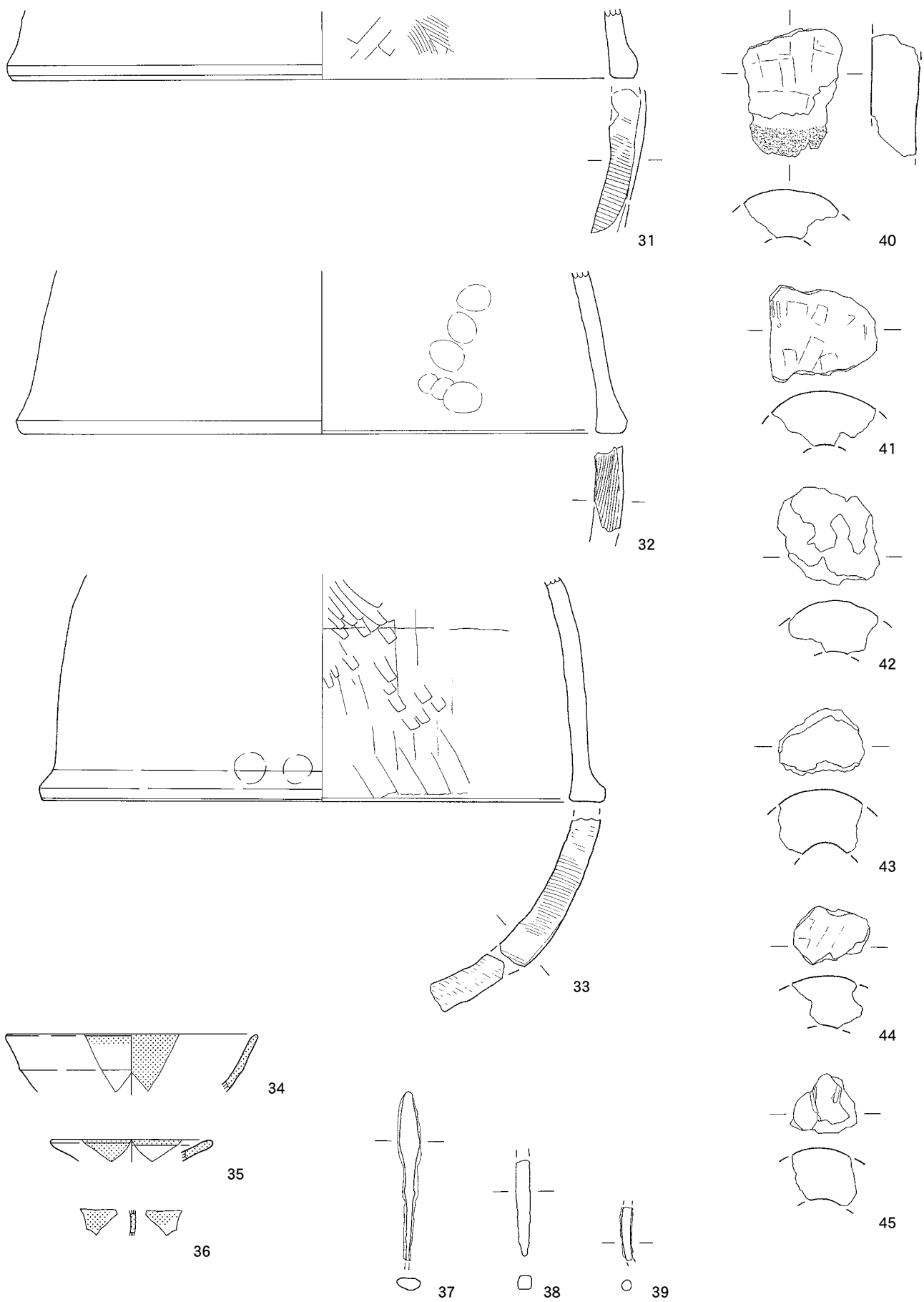
30



29

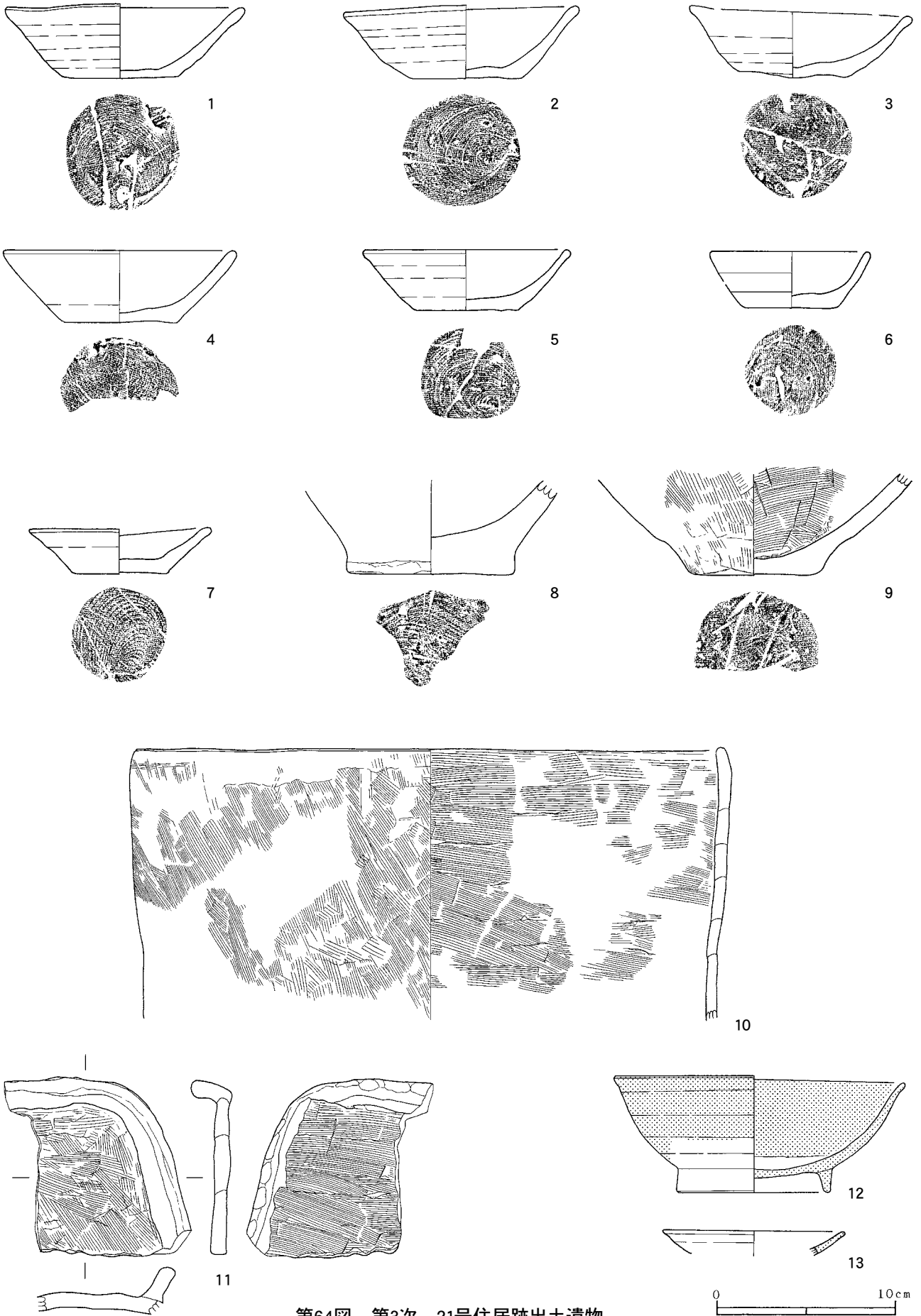


第62図 第3次 20号住居跡(2) 出土遺物

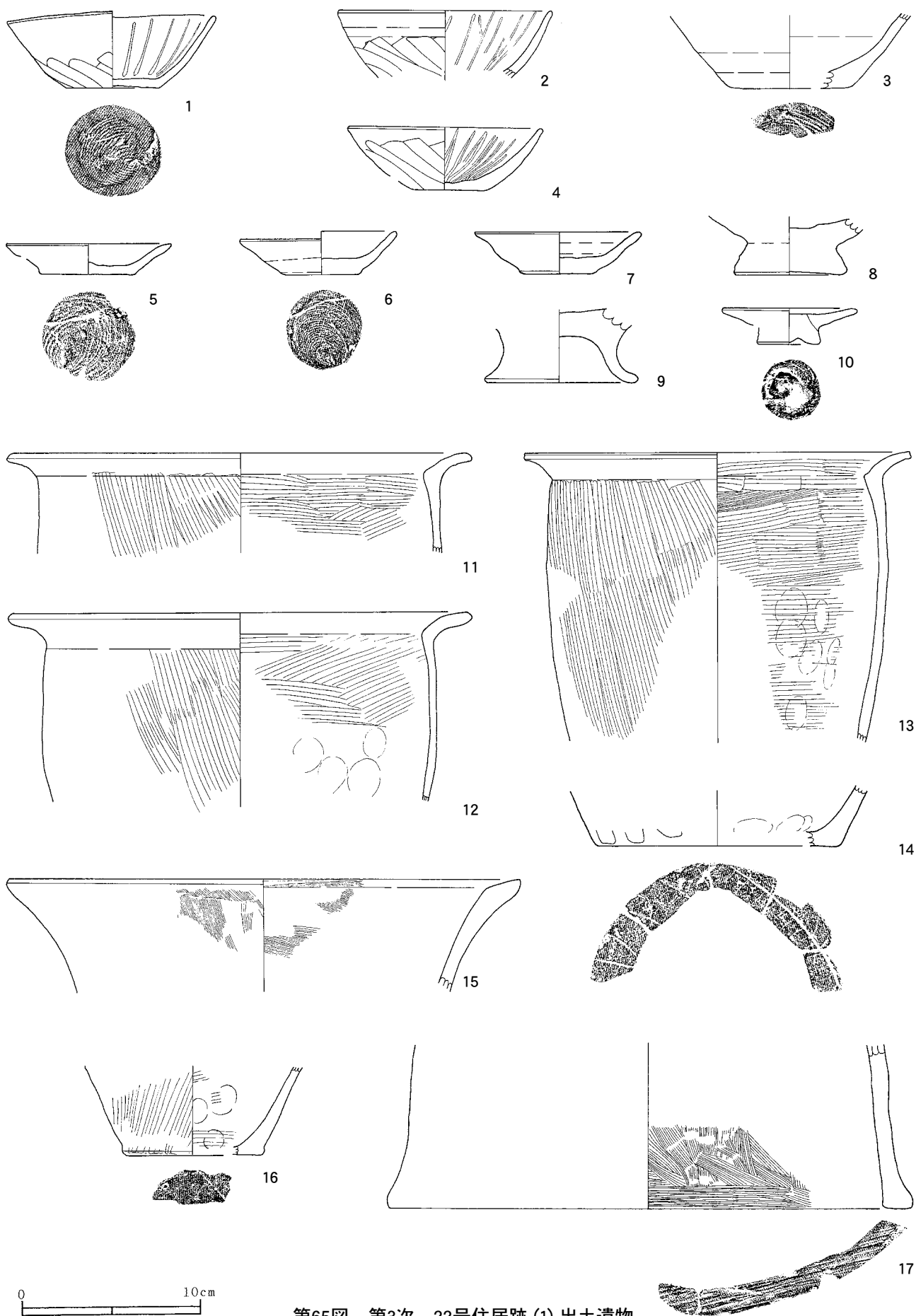


第63图 第3次 20号住居跡(3) 出土遺物

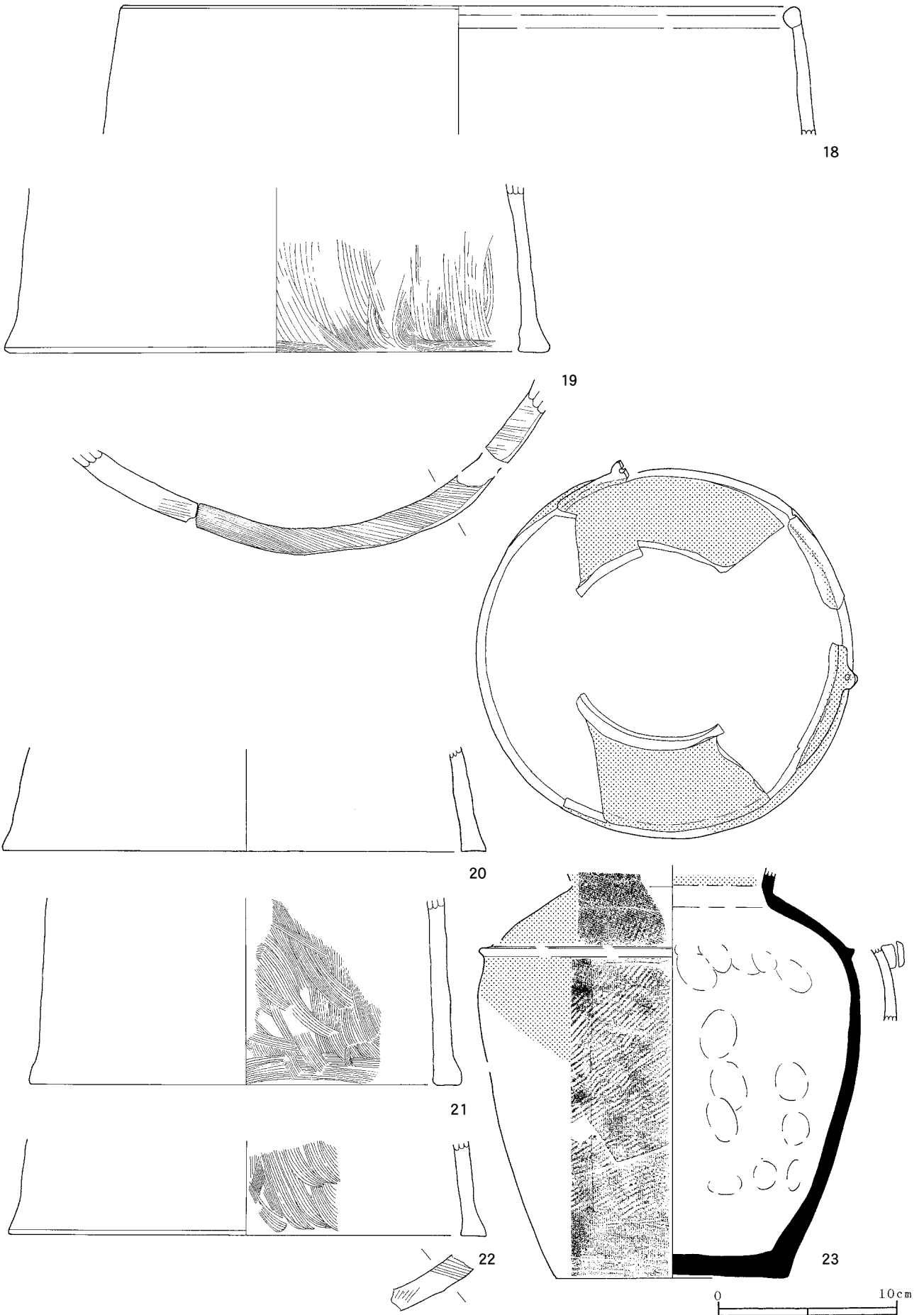
0 10cm



第64図 第3次 21号住居跡出土遺物

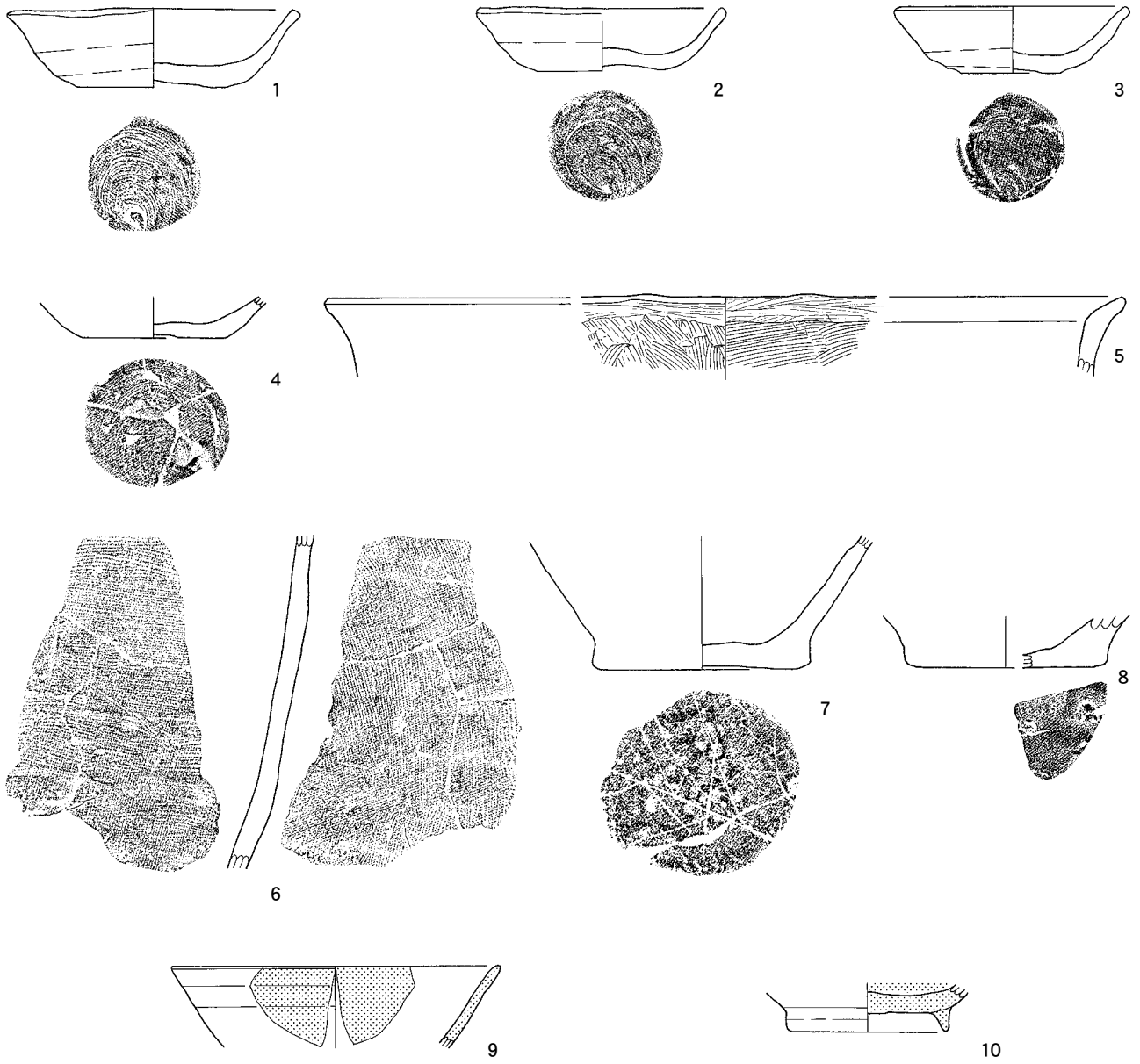


第65图 第3次 22号住居跡(1) 出土遺物

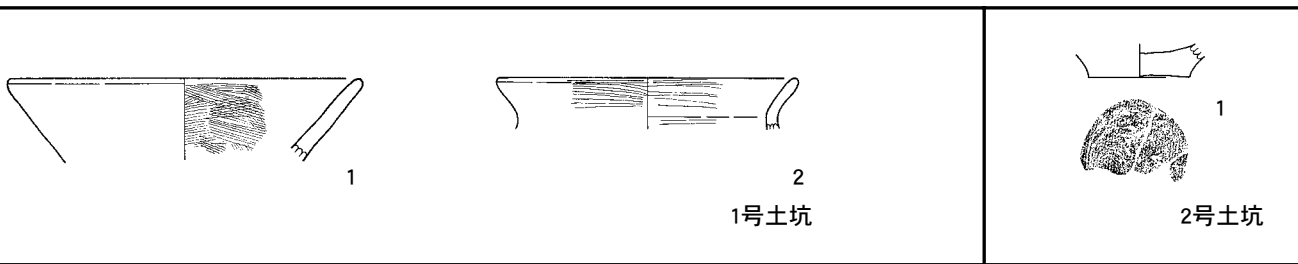


第66图 第3次 22号住居跡(2) 出土遺物



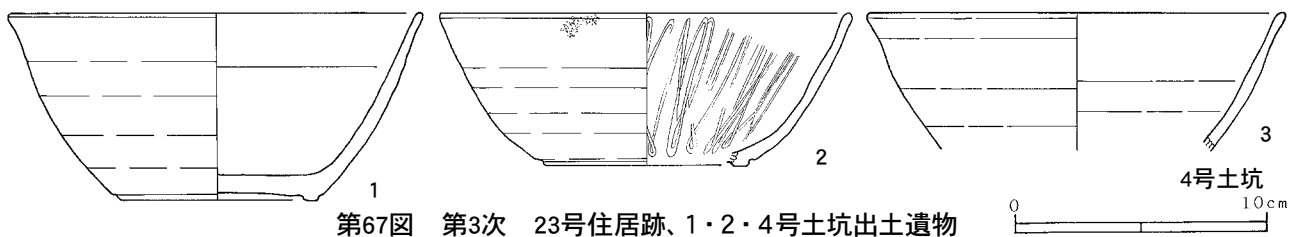


23号住居跡



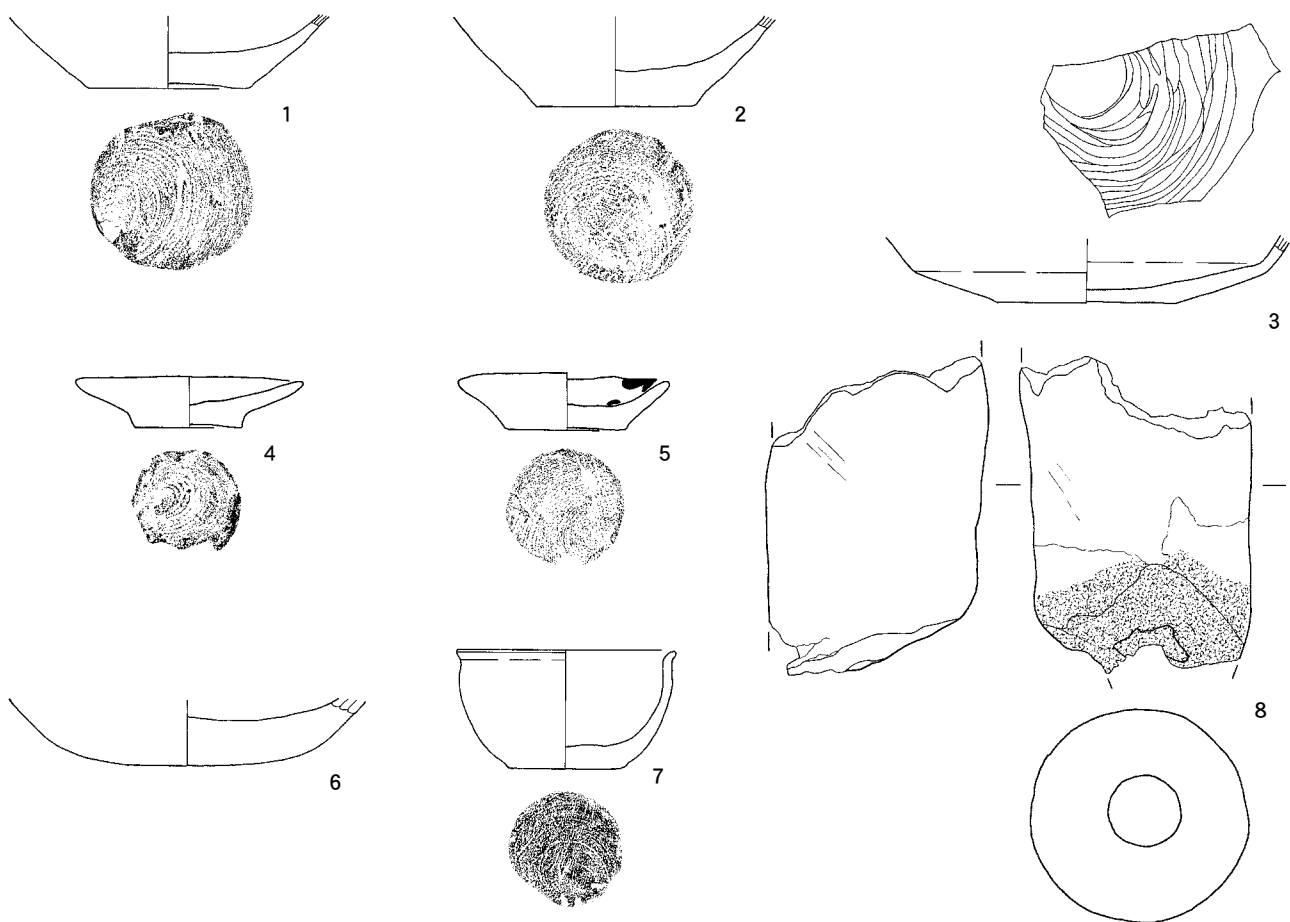
1号土坑

2号土坑

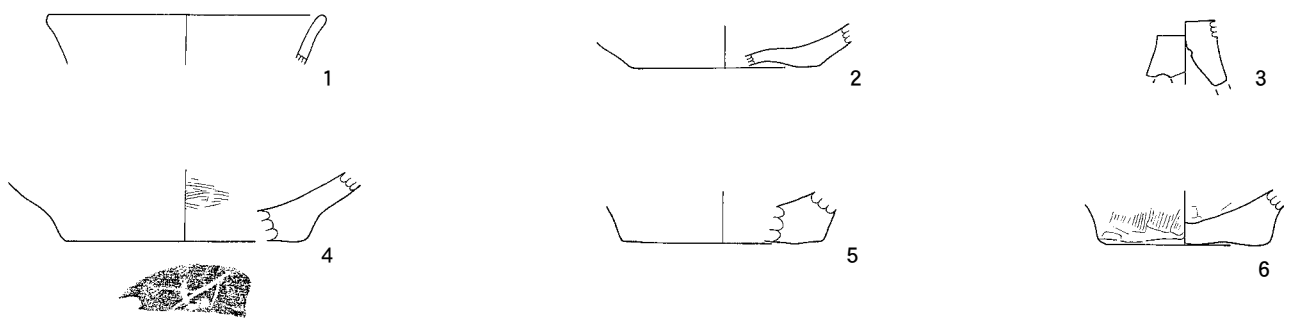


4号土坑

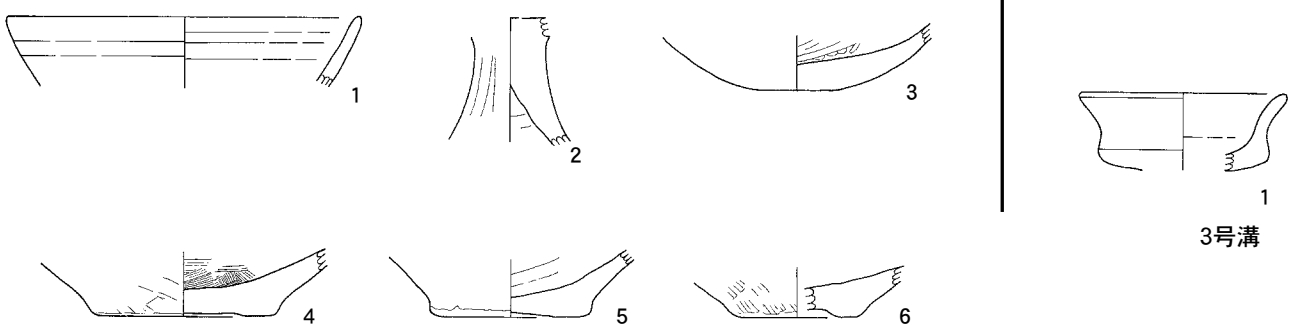
第67图 第3次 23号住居跡、1・2・4号土坑出土遺物



5号土坑



1号沟

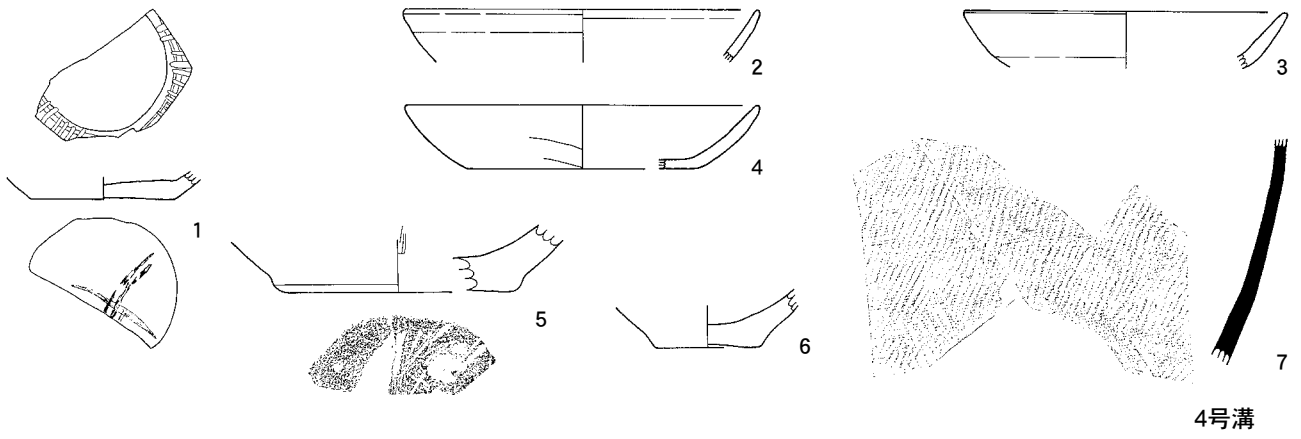


3号沟

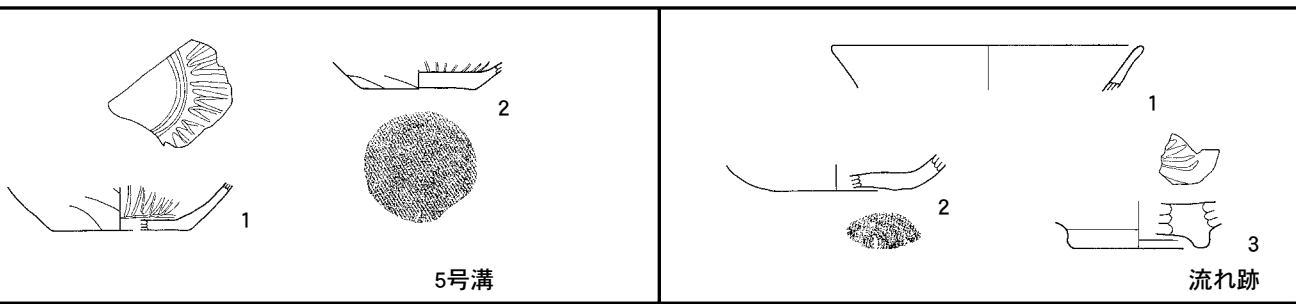
2号沟

第68图 第3次 5号土坑、1·2·3号沟出土遗物





4号溝

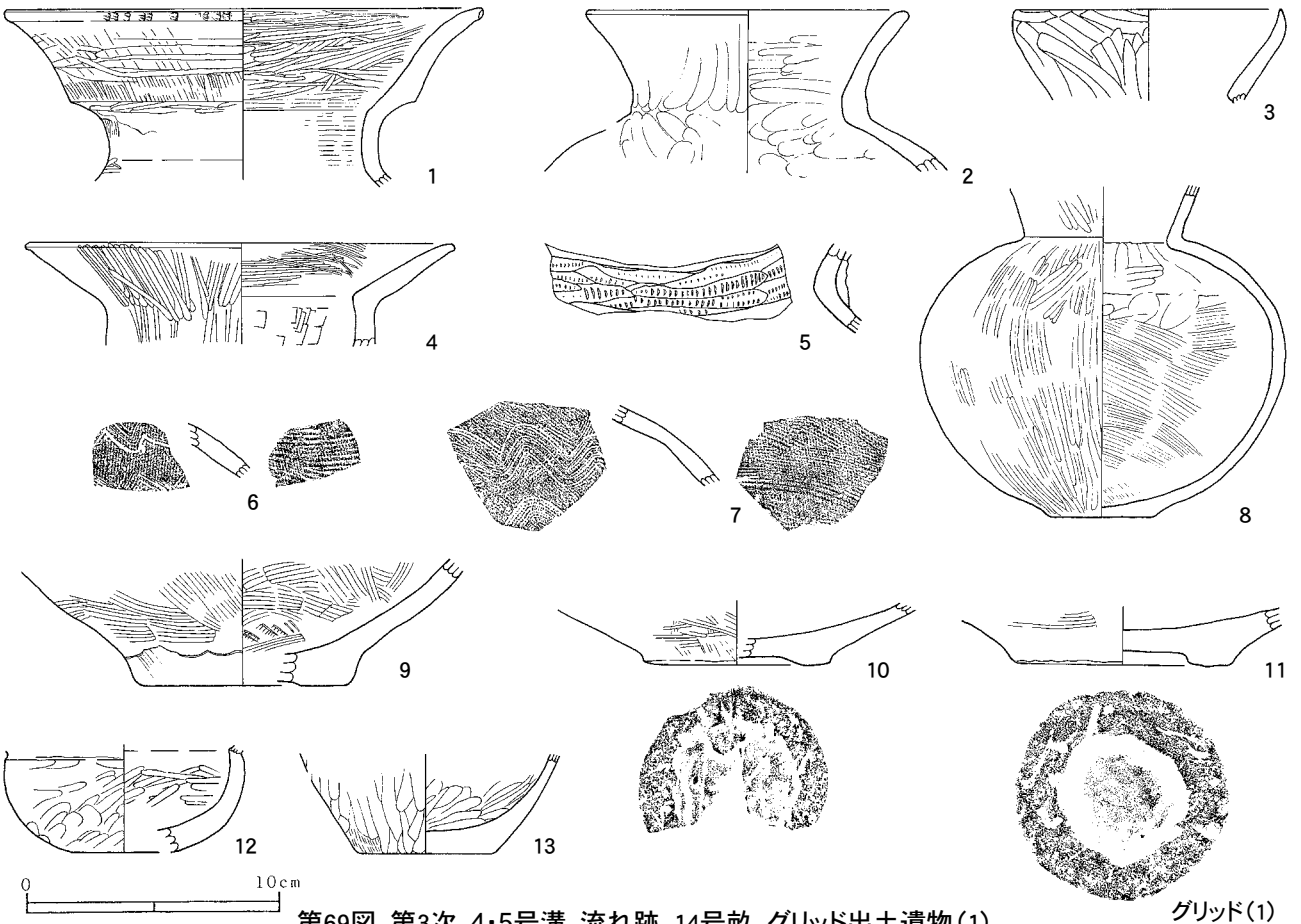


5号溝

流れ跡

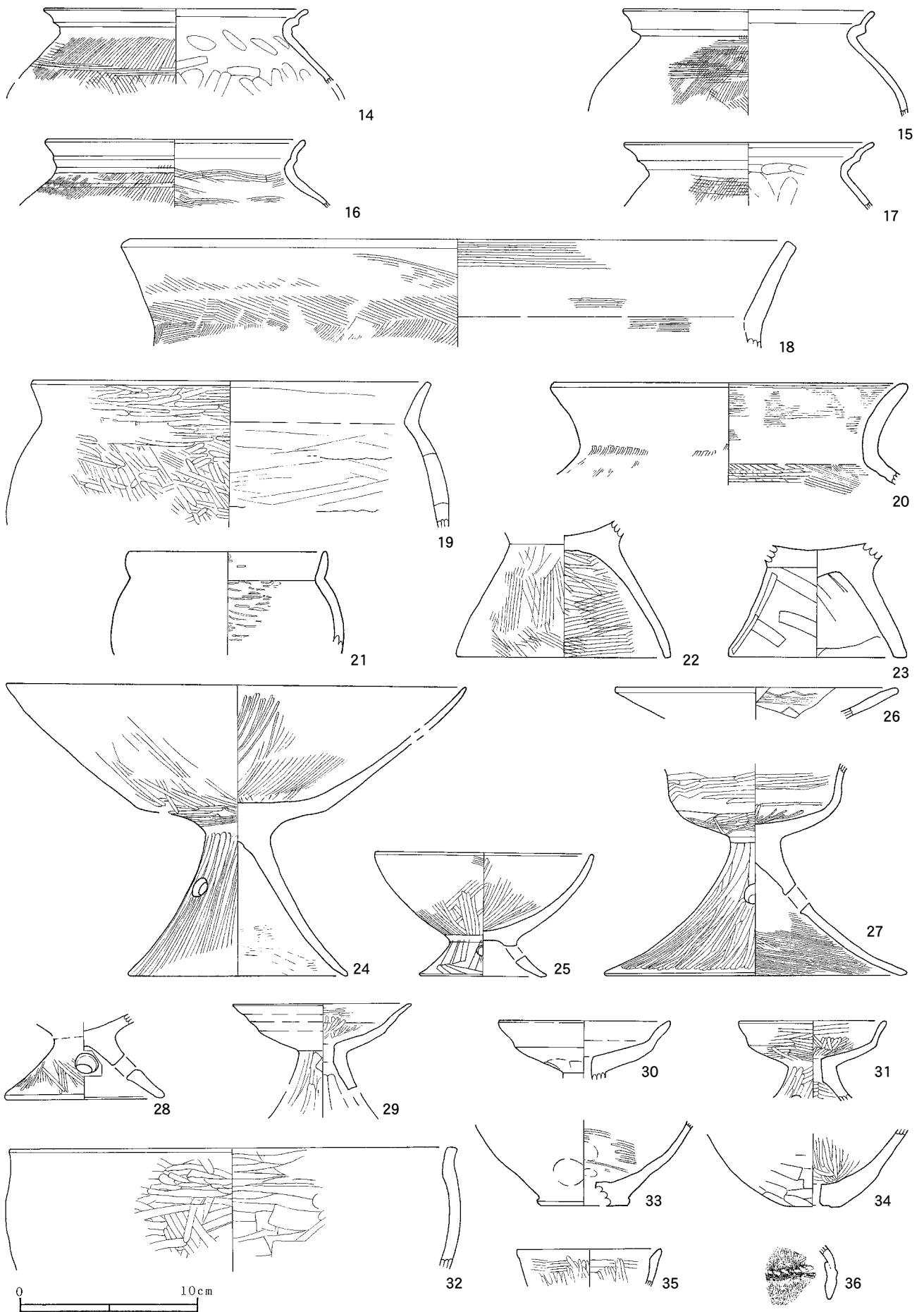


14号畝

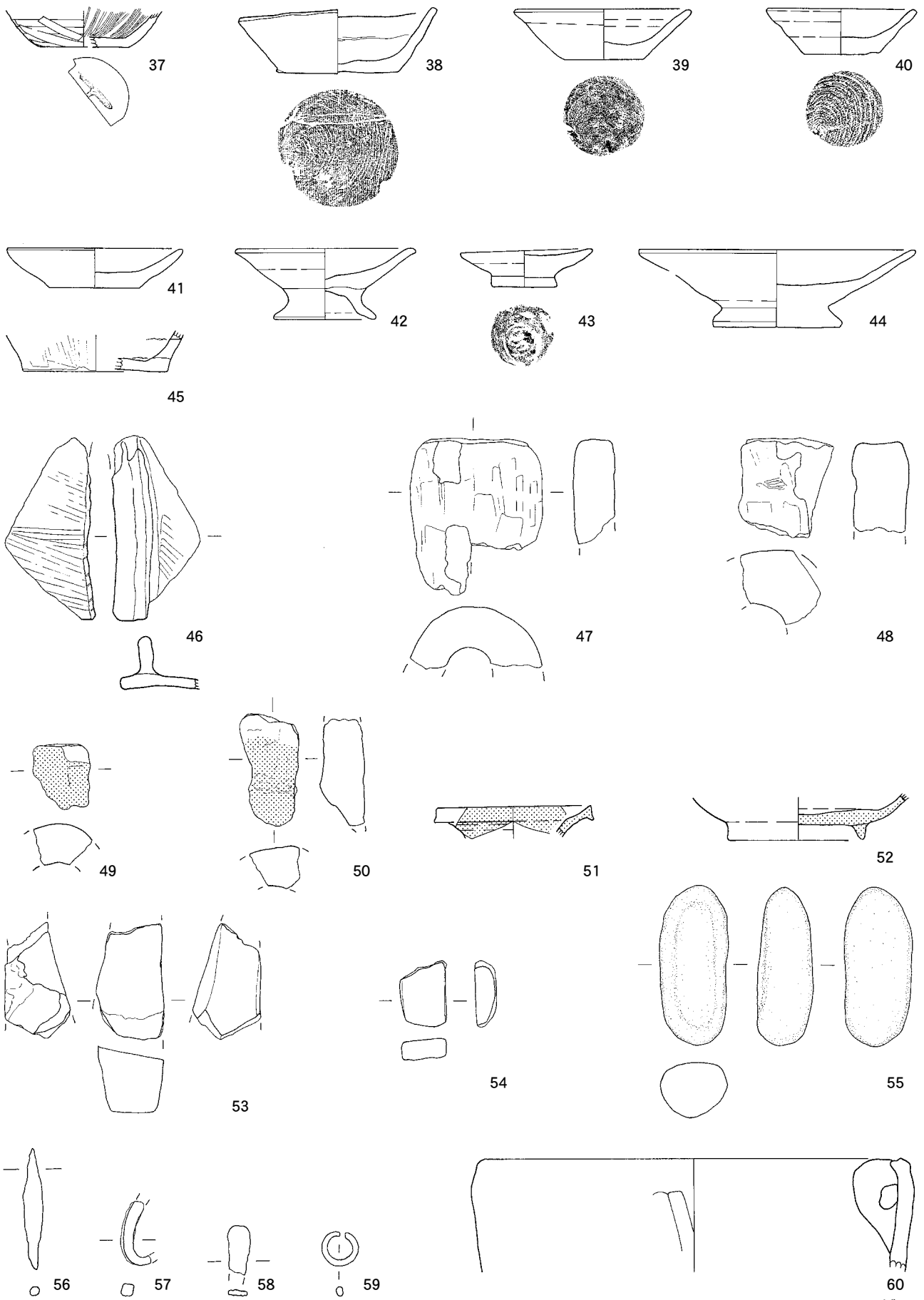


グリッド(1)

第69図 第3次 4・5号溝、流れ跡、14号畝、グリッド出土遺物(1)

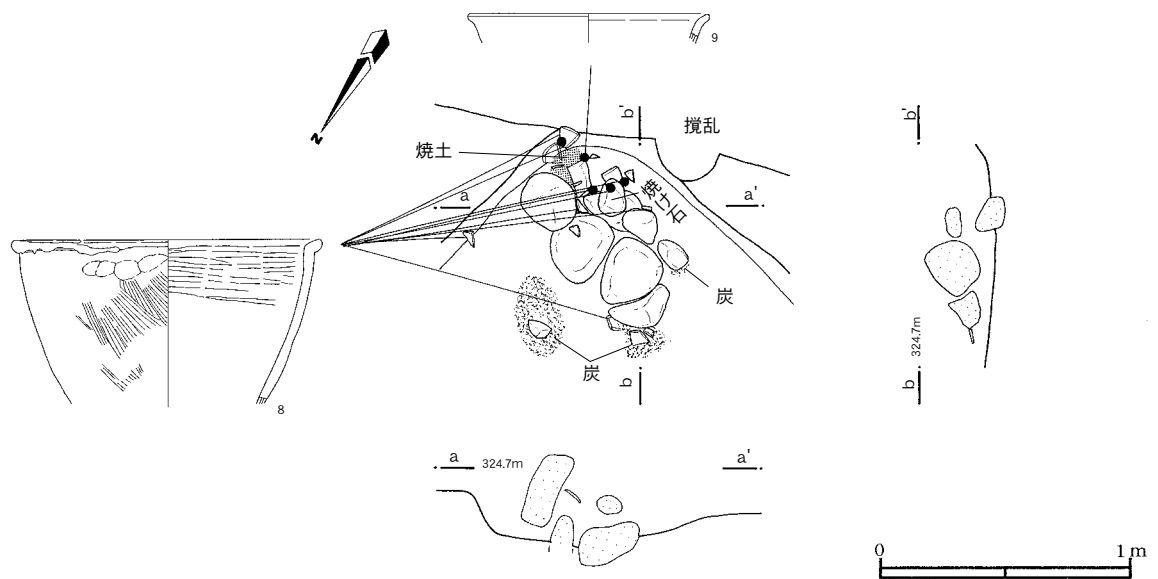
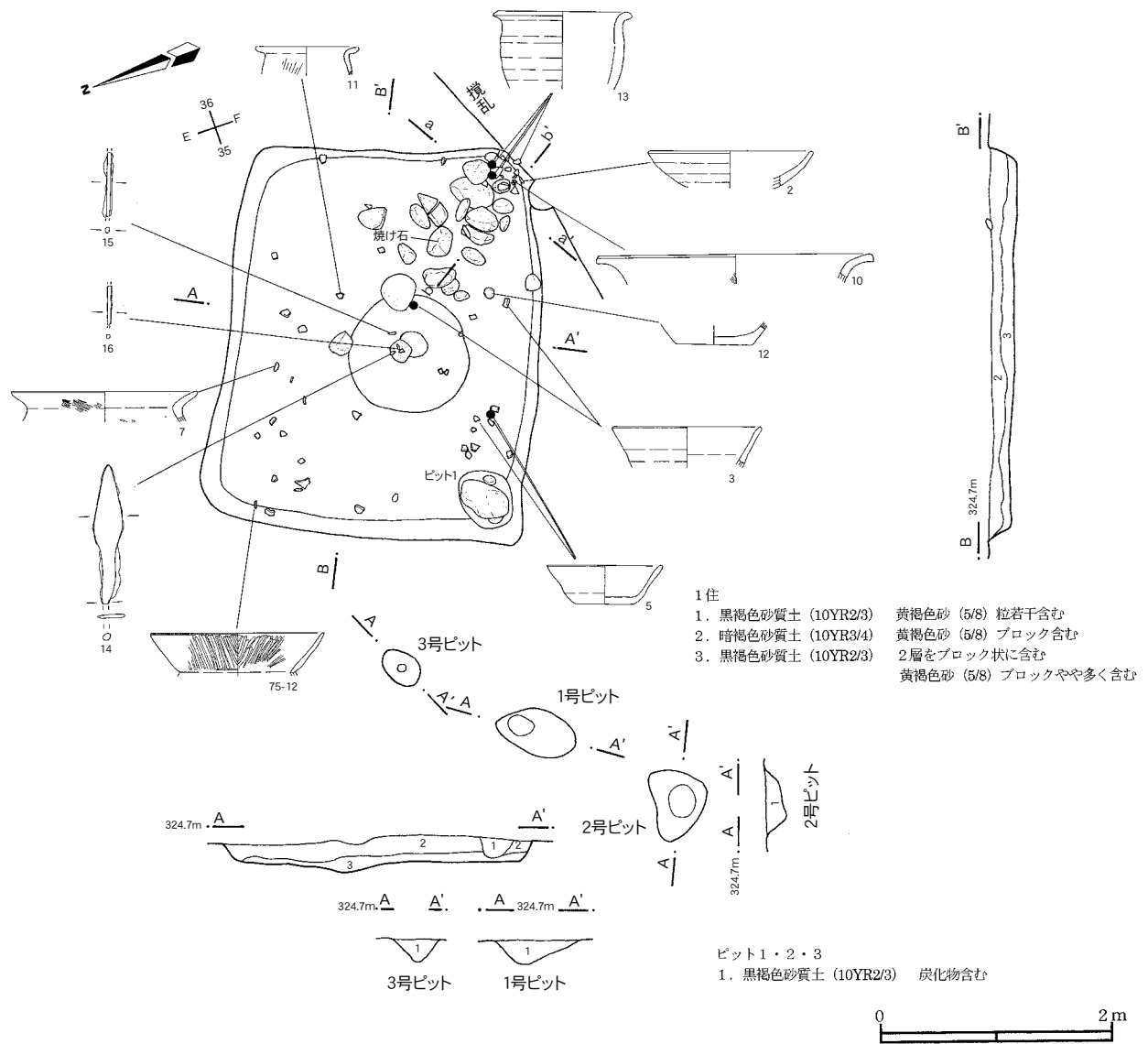


第70図 第3次 グリッド出土遺物(2)

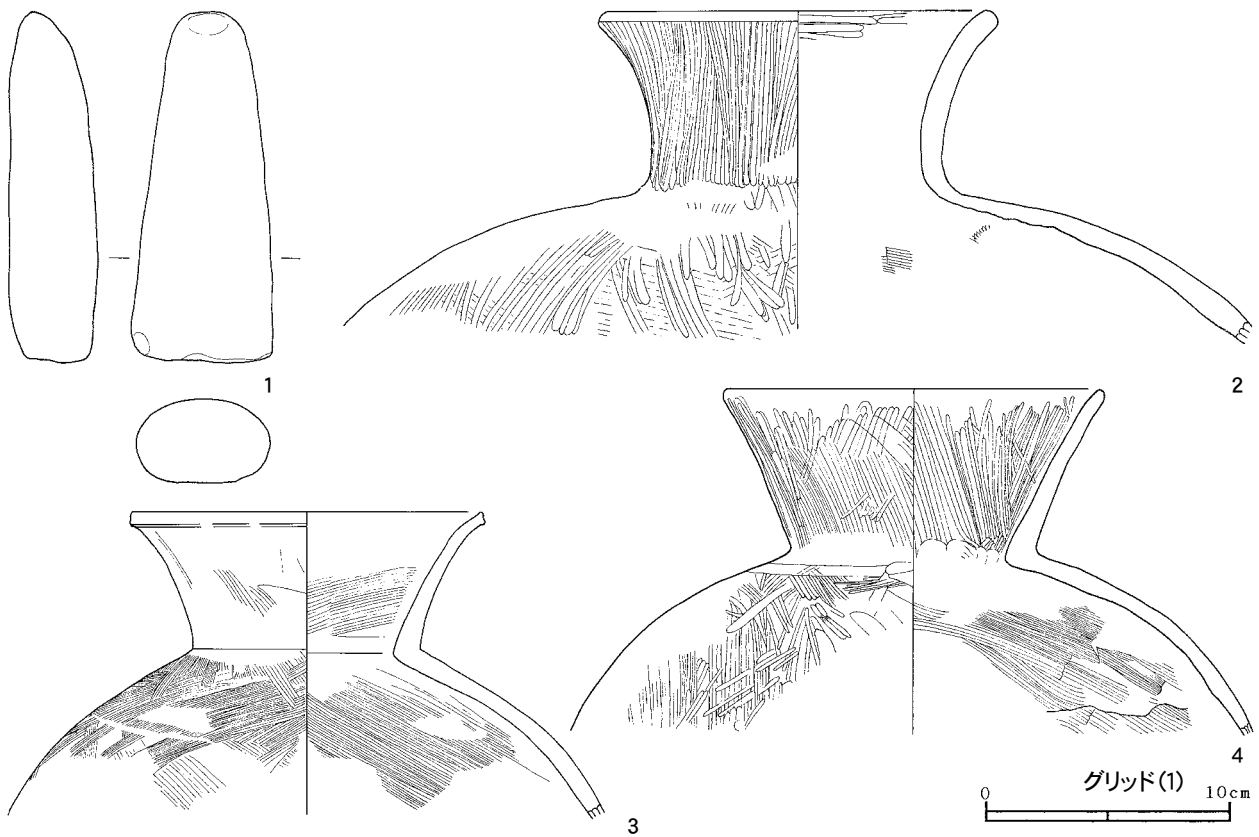
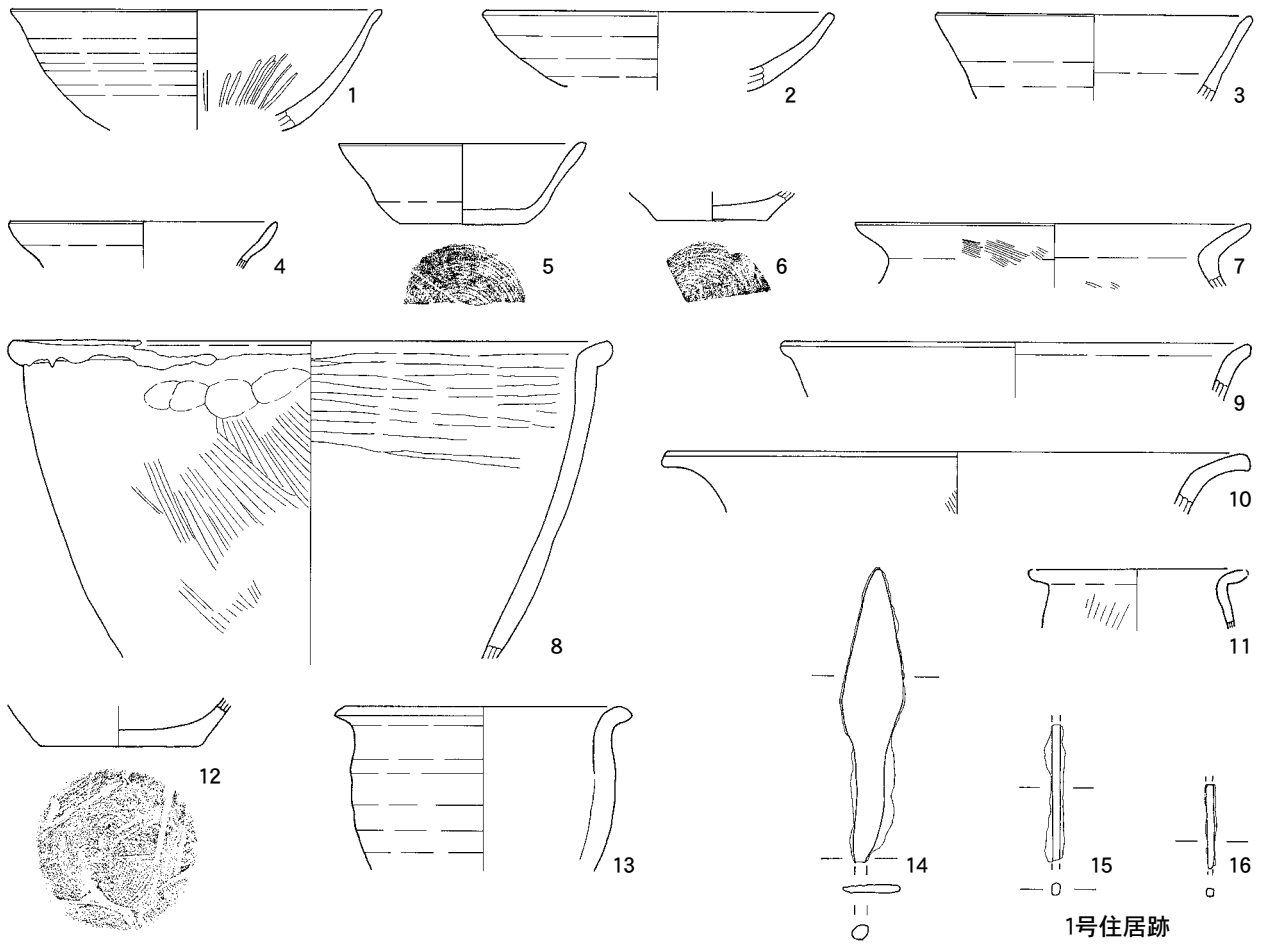


第71図 第3次 グリッド出土遺物 (3)

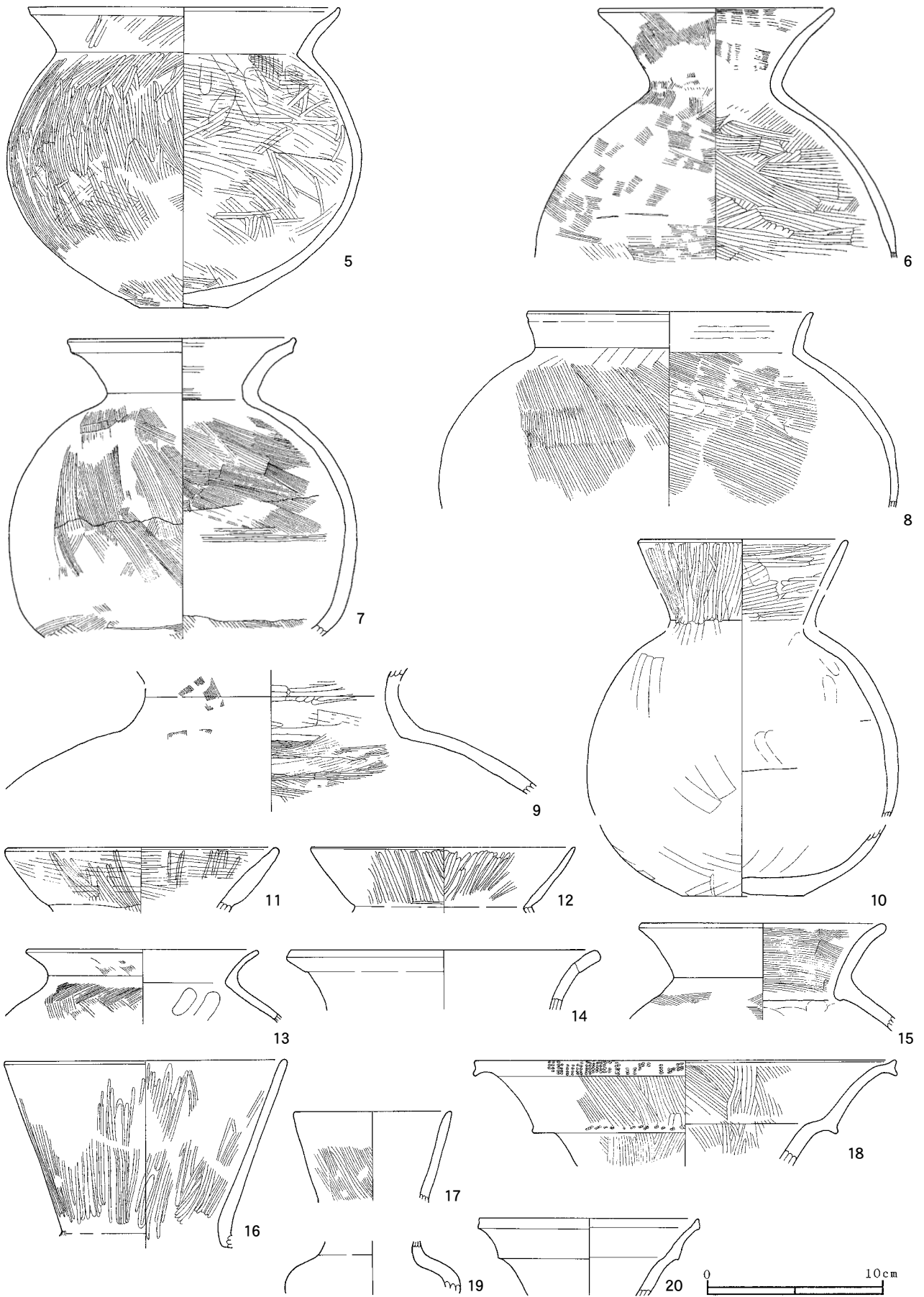
0 10cm



第72図 第4次 1号住居跡・カマド、1～3号ピット (1/60・1/30)

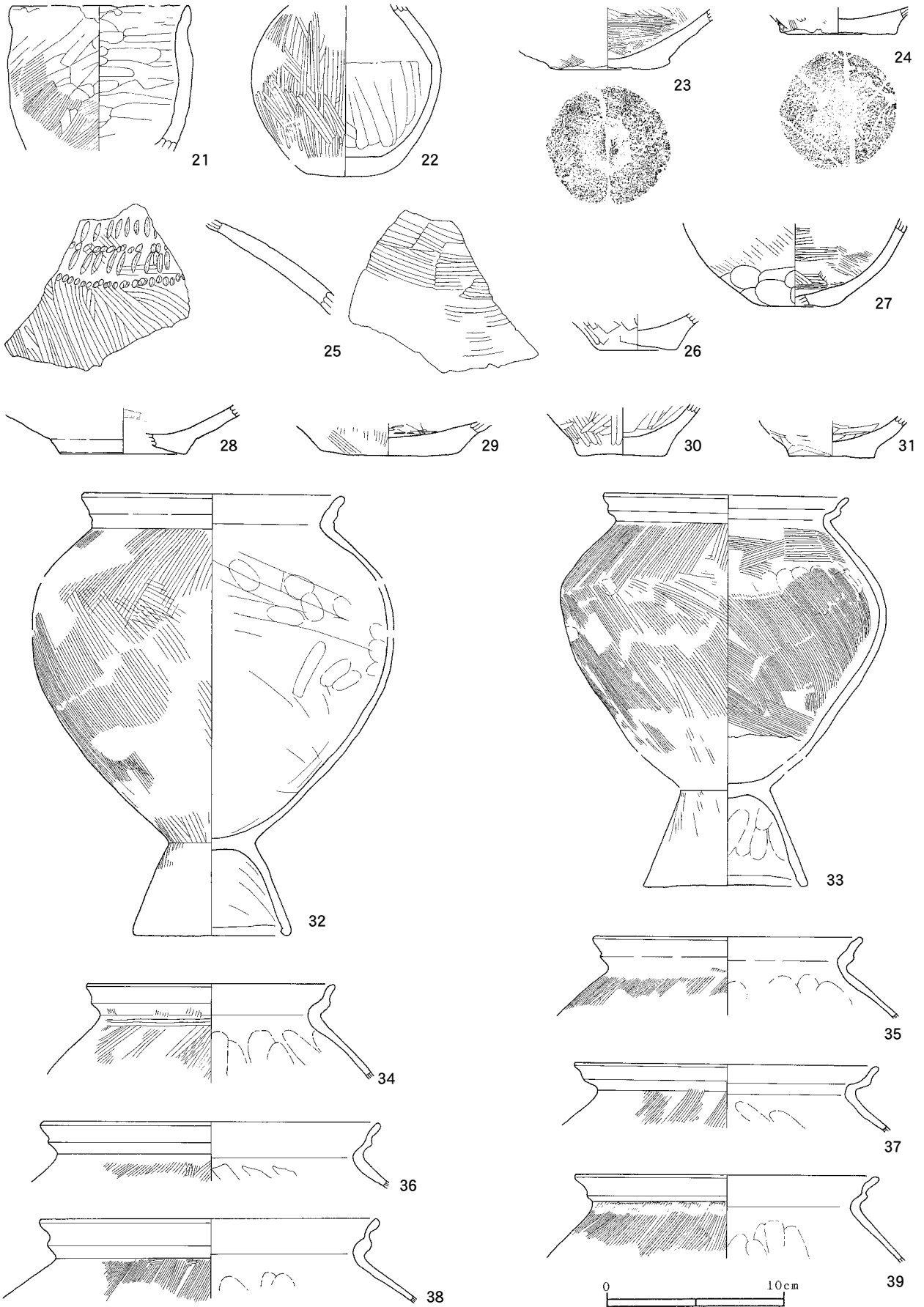


第73図 第4次 1号住居跡・グリッド出土遺物(1)

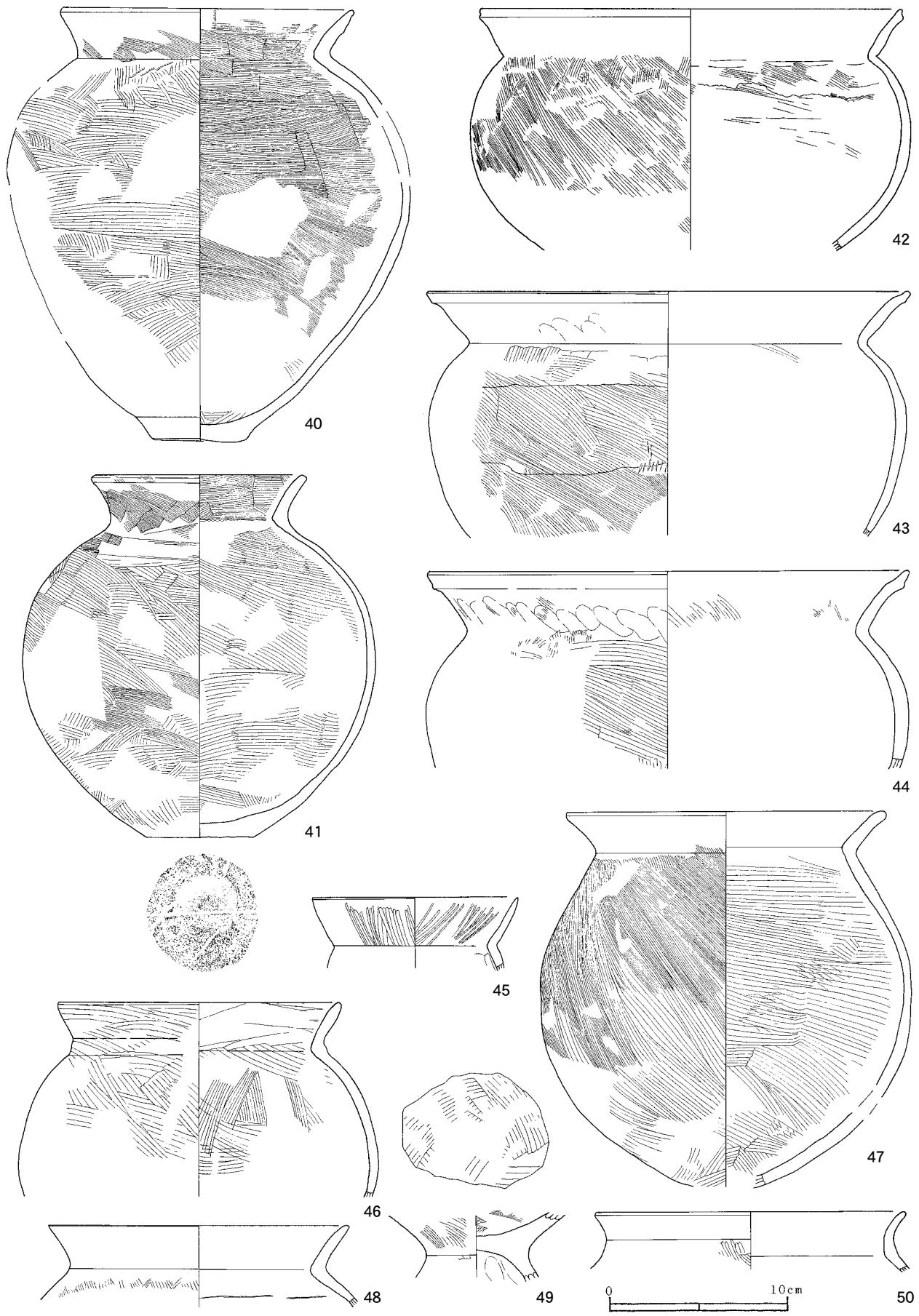


第74図 第4次 グリッド出土遺物(2)

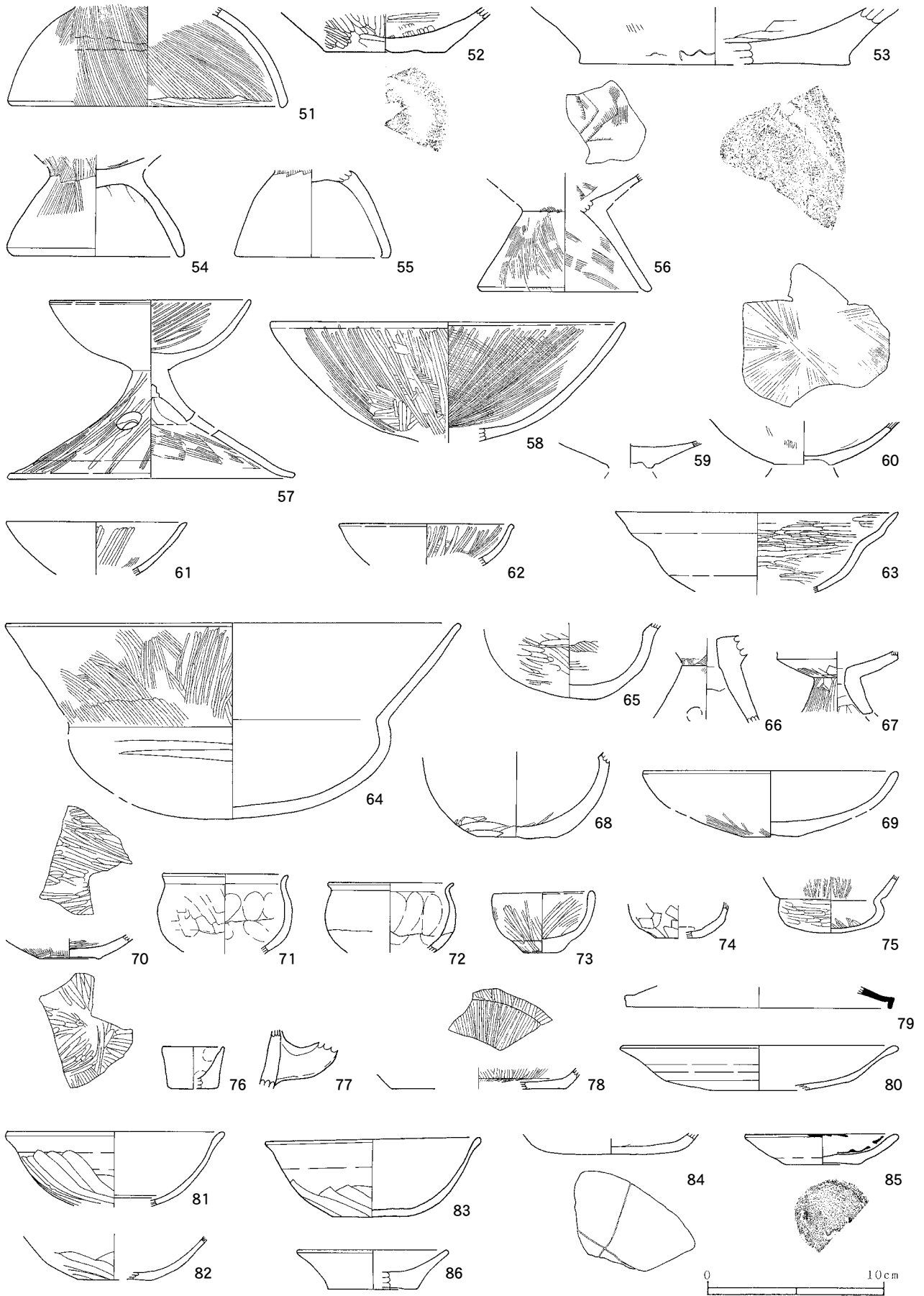




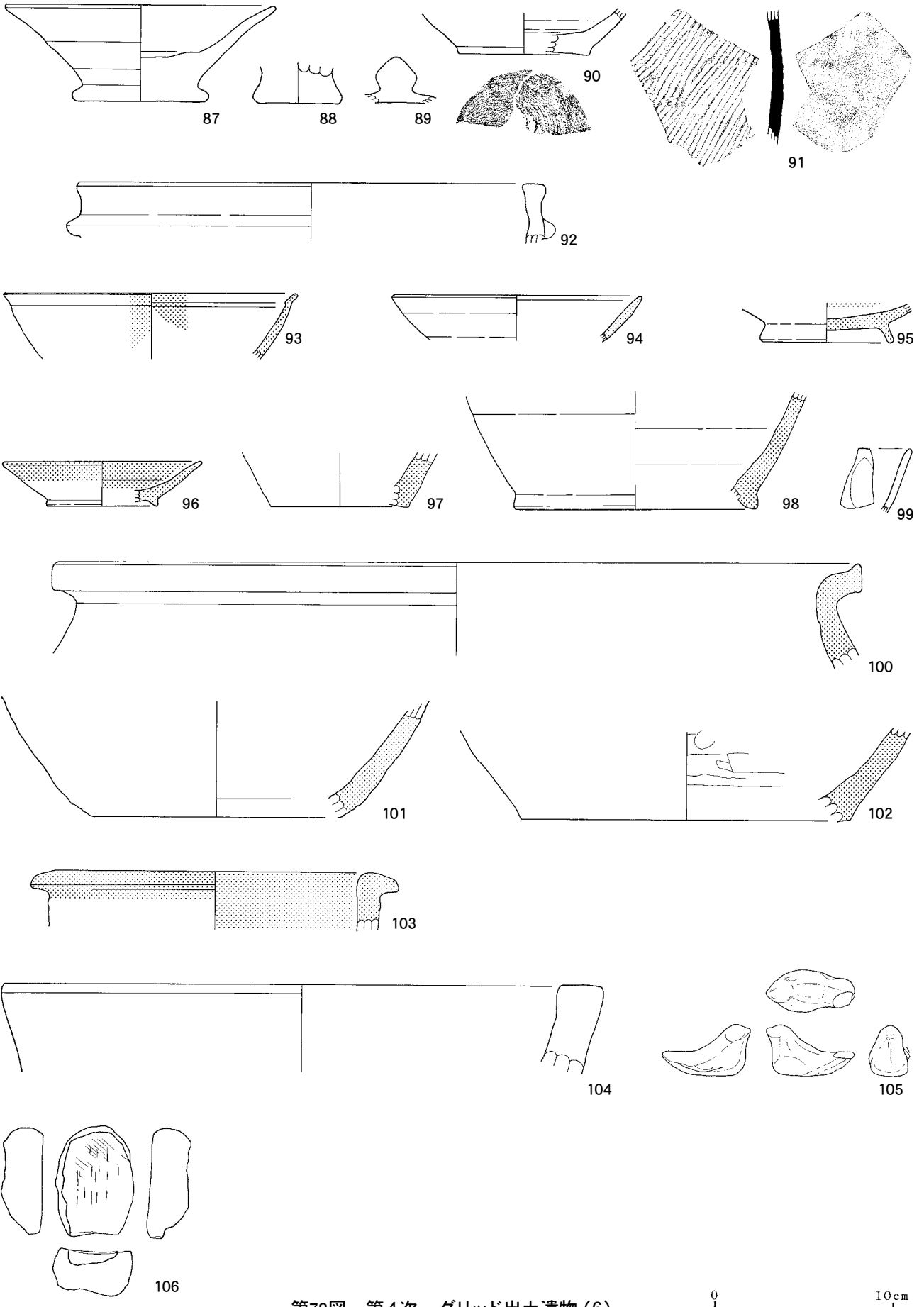
第75図 第4次 グリッド出土遺物(3)



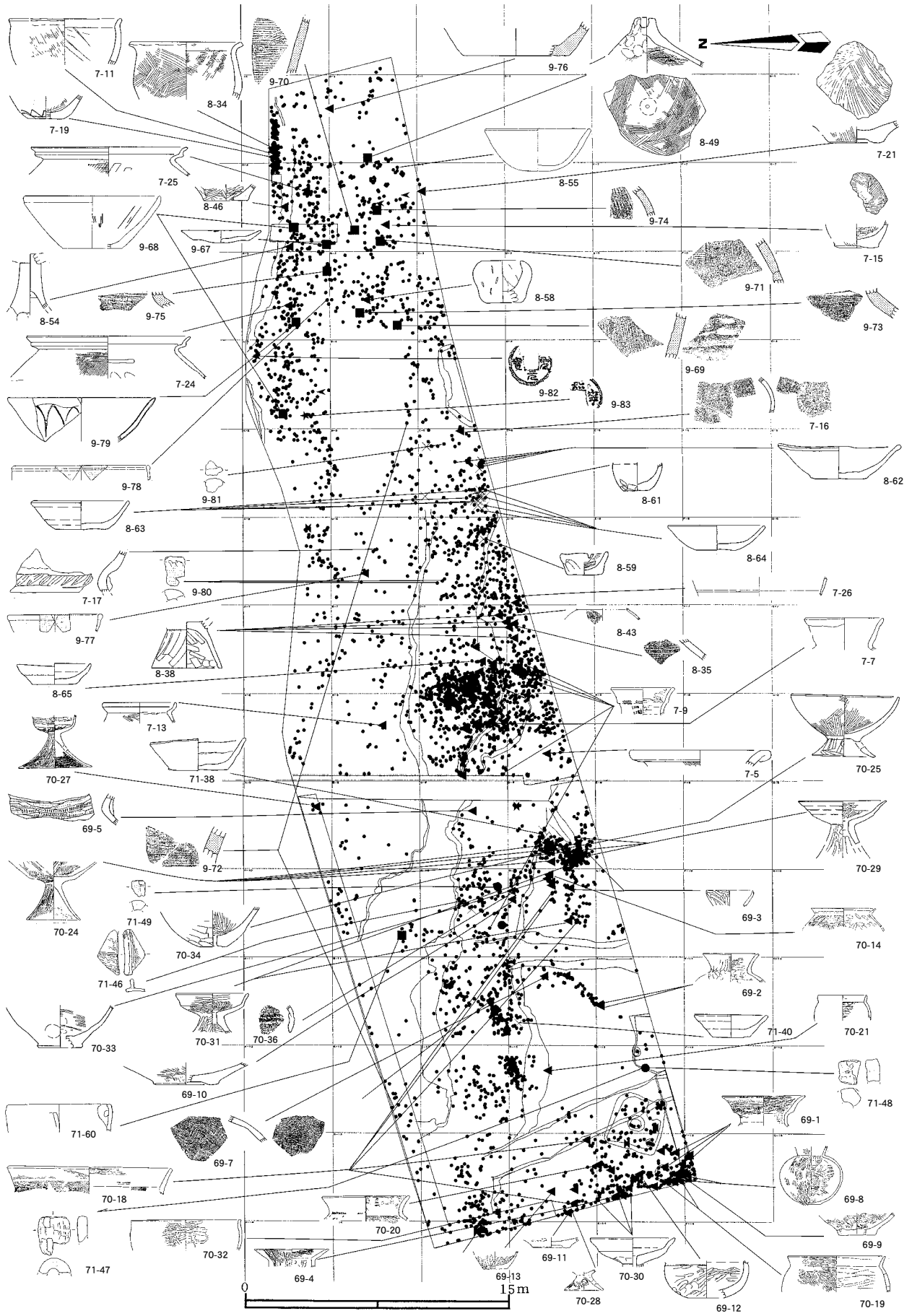
第76図 第4次 グリッド出土遺物(4)



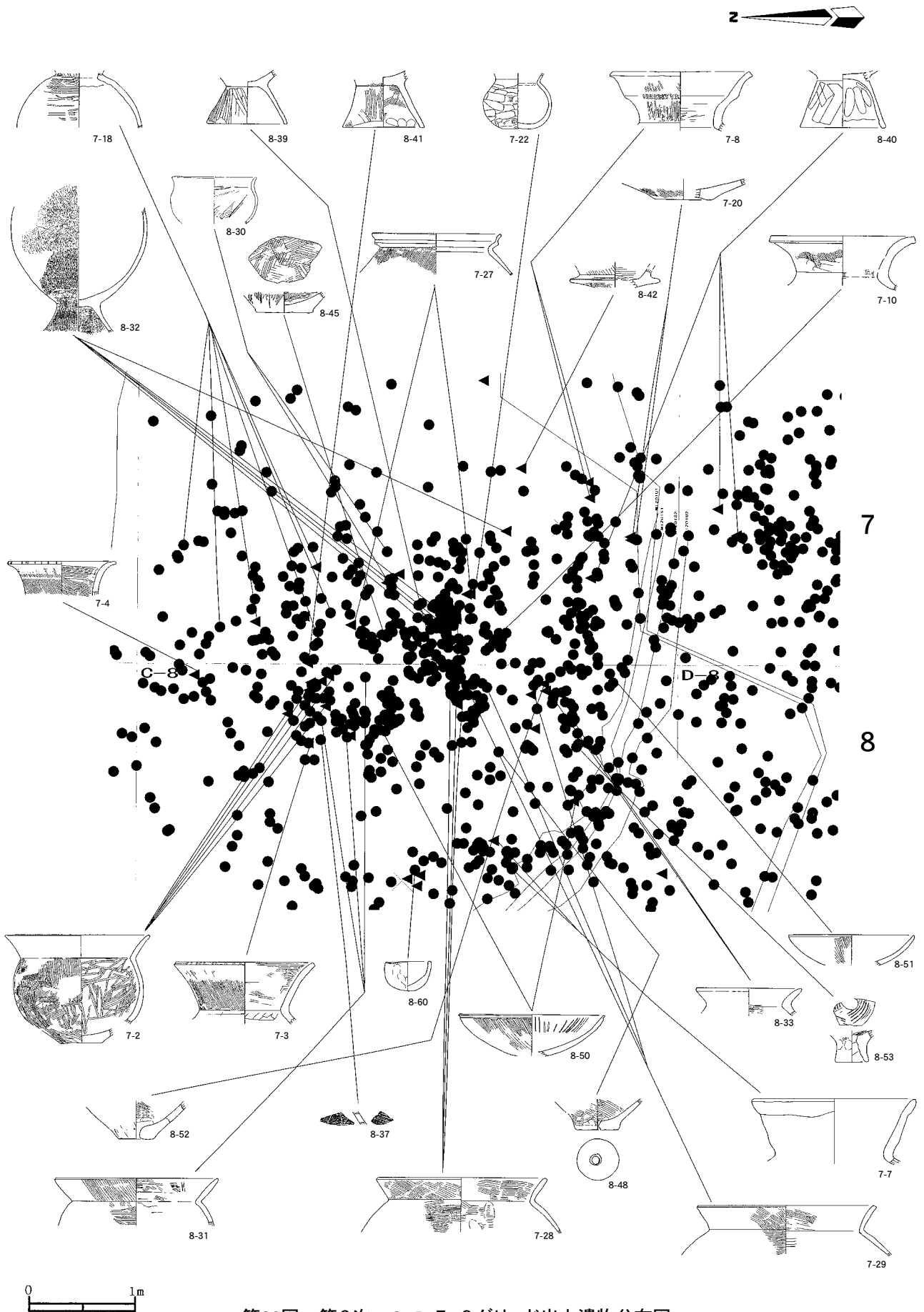
第77図 第4次 グリッド出土遺物(5)



第78図 第4次 グリッド出土遺物(6)



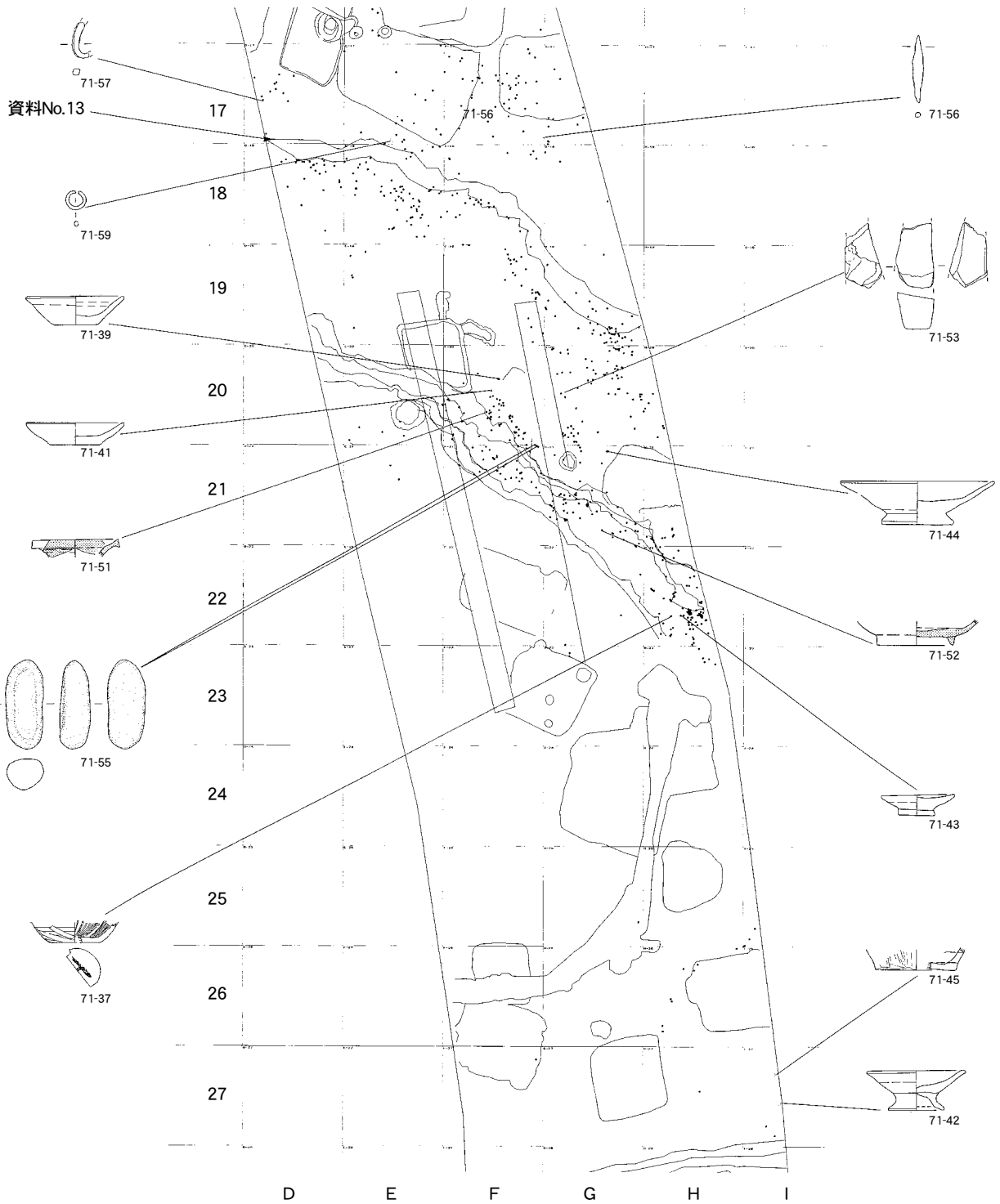
第79図 第2次・第3次 グリッド出土遺物分布図



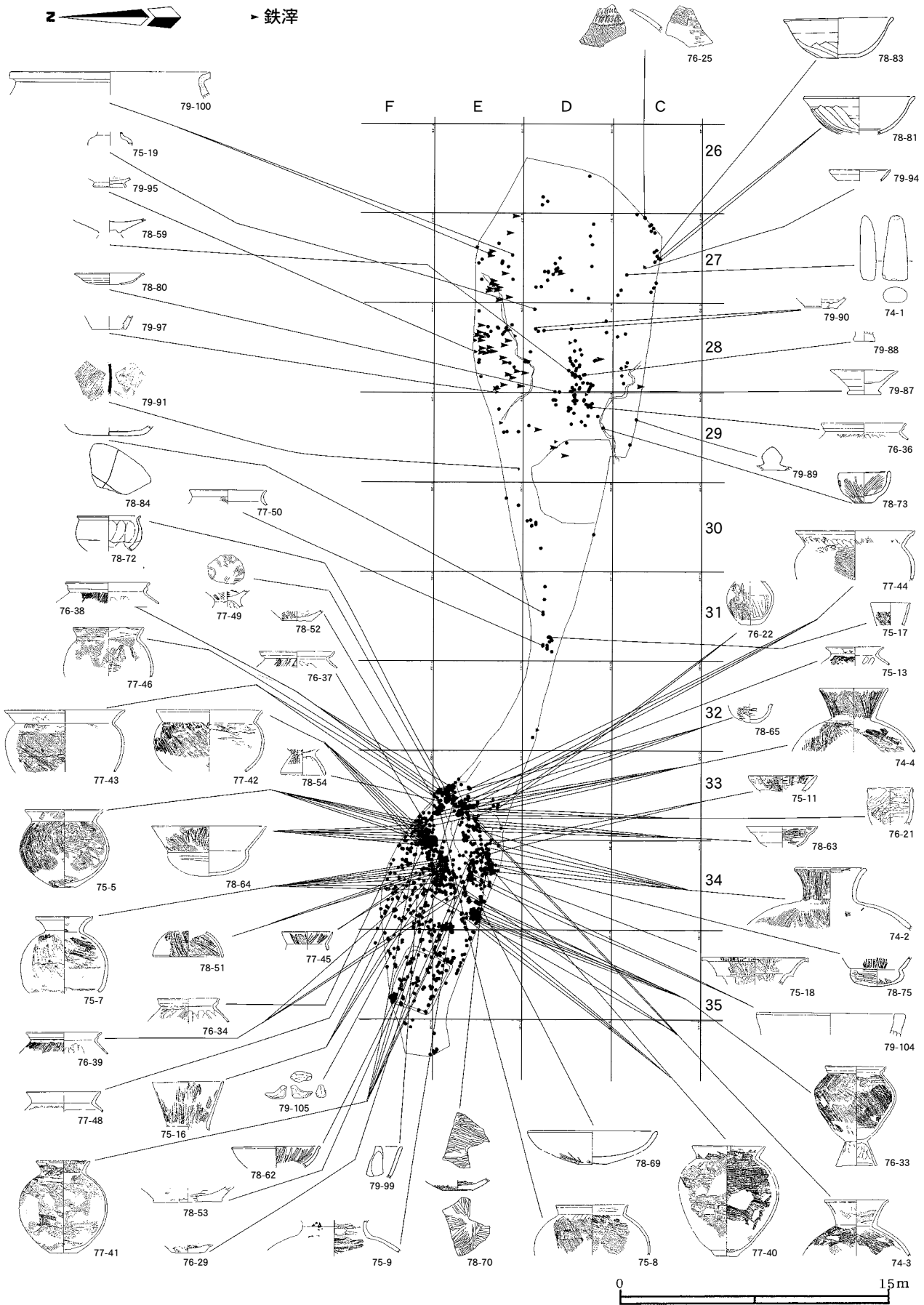
第80図 第2次 C・D-7・8グリッド出土遺物分布図



▶ 鉄滓



第81図 第3次 グリッド出土遺物分布図



第82図 第4次 グリッド出土遺物分布図



表 1 第 2 次 遺物観察表

図 1	番号	出土位置	遺物番号	種別	器種	時期	口径	器高	底径	底径	形状	色調 (内)	色調 (外)	胎土	残存状態	備考
7	1	B-2	一括	26	土器 深鉢	-	-	(2.5)	-	-	外面縦文、浅い沈線	明赤褐	にぶい黄緑	石英・白粒	破片	
7	2	C-8	920・926・2362・2725・2727・2731・2732・2804	10	土師器 甕	古墳	15.8	11.8	4.5	-	内面ミガキ、外面ハケ後ミガキ、底面ミガキ	明赤褐・黒褐	明赤褐	金雲母・白・黒粒	破片	80
7	3	C-8	944-1	62	土師器 蓋	古墳	[15.0]	(6.7)	-	-	内面ハケ、ミガキ、外面ハケ、口唇部刻み	明赤褐	明赤褐	石英・白・黒粒	破片	
7	4	C-8	2713	65	土師器 蓋	古墳	[11.6]	(3.6)	-	-	内外面ハケ、口唇部刻み	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
7	5	D-8	1737	47	土師器 蓋	古墳	[19.4]	(1.8)	-	-	外面ハケ	明赤褐	明赤褐	赤・白粒	破片	全体に磨耗、外面赤彩か?
7	6	B-2・C-5	一括	27	土師器 蓋	古墳	(3.0)	(7.2)	-	-	内面指ナデ、外面指波状文	赤褐	赤褐	雲母・石英・白粒	破片	
7	7	C-8	2855・2885	12	土師器 蓋	古墳	[18.0]	(7.2)	-	-	にぶい黄緑	にぶい黄緑	石英・白粒	破片	全体に磨耗	
7	8	C-7	982・1591	59	土師器 蓋	古墳	[14.0]	(6.4)	-	-	内外面ハケ後ミガキ、外面ハケ、ハケ状工具による刻み	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	全体に磨耗
7	9	C-8・10・D-7・8	C-8・1749・C-10・1089・D-7・2392・2468・2483・D-8 一括	2	土師器 蓋	古墳	[15.6]	(6.5)	-	-	内面ハケ、外面ハケ、ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	内面荒れてる
7	10	C-7	2994	50	土師器 蓋	古墳	[15.6]	(5.5)	-	-	内面ハケ、外面ハケ後ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	内面荒れてる
7	11	A-1	783	55	土師器 甕	古墳	[12.6]	(5.2)	-	-	内外面ハケ後ミガキ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	磨耗のため調整不明瞭
7	12	B-5	一括	20	土師器 ヒサゴ蓋	古墳	[7.0]	(2.9)	-	-	-	明褐	褐	石英・赤・白粒	破片	
7	13	B-8	2549	29	土師器 蓋	古墳	(8.0)	(2.4)	-	-	内外面ハケ後ミガキ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
7	14	C-8	一括	21	土師器 蓋?	古墳	[8.0]	(3.5)	-	-	内面ハケ、外面ハケ、ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	赤・白粒	破片	
7	15	B-2	204	51	土師器 蓋	古墳	-	(2.8)	4.6	-	内外面ハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
7	16	C-5	425・一括	25	土師器 蓋	古墳	-	(4.0)	-	-	内面ハケ、外面沈線による磨損状文	明赤褐	赤褐	雲母・石英・白・黒粒	破片	
7	17	B-6・D-5	1507	60	土師器 蓋	古墳	-	(4.7)	-	-	外面隆帯上にへラ状工具による刻み	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
7	18	C-7	838・858・1913・1934・2134・2203・2204・2206・2209・2211・2213・3013	48	土師器 蓋	古墳	-	(6.0)	-	-	外面ハケ後ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	破片	25
7	19	A-2	649	24	土師器 加納蓋	古墳	-	(2.7)	(4.0)	-	内面指ナデ、外面ハケ	赤褐	褐	金雲母・石英・白粒	破片	内面輪硝み痕、外面赤彩
7	20	C-7	2304・2305・2306	58	土師器 蓋	古墳	[18.4]	(4.8)	-	-	内面指ナデ、外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	外面下部沈線文
7	21	B-2	1328	53	土師器 蓋	古墳	[17.6]	(3.2)	-	-	内面へラ削り、外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	内面荒れてる
7	22	C-7	2231	19	土師器 蓋	古墳	-	(4.3)	-	-	外、底面ハケ後へラ削り	暗褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	85
7	23	C-7	2029・2065・2227・2287・2887・2890・2917・3030・3050	8	土師器 S 字甕	古墳	[15.2]	(8.9)	-	-	内面指ナデ、外面ハケ	明褐	明褐	金雲母・石英・白粒	破片	30
7	24	A-3	774	38	土師器 S 字甕	古墳	[18.4]	(4.8)	-	-	内面指ナデ、外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
7	25	A-2	172	37	土師器 S 字甕	古墳	[17.6]	(3.2)	-	-	内面へラ削り、外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
7	26	C-6	2653	30	土師器 甕	古墳	-	(4.3)	-	-	外面ハケ	黄緑	黄緑	雲母・石英・白・黒粒	破片	北陸系
7	27	C-7	1923・2088・2 層	39	土師器 S 字甕	古墳	[14.2]	(2.5)	-	-	外面ハケ	明褐	暗褐	金雲母・白色粒	破片	
7	28	C-7・8	898・2862・1・2863・3	75	土師器 甕	古墳	[18.6]	(6.0)	-	-	内外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	内面指頭痕
7	29	C-8	2751・2762・2849	76	土師器 甕	古墳	[19.6]	(5.5)	-	-	内外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	20
7	30	C-7	2326・2329	54	土師器 甕	古墳	[18.4]	(10.3)	-	-	内面ミガキ	明褐	明褐	金雲母・石英・白粒	破片	外面荒れてる
7	31	C-8	922・937・2916	74	土師器 甕	古墳	[17.8]	(5.2)	-	-	内外面ハケ	明赤褐	明赤褐	雲母・石英・白・黒粒	破片	
7	32	C-7	2033・2035・2043・2051・1・2054・3・2064・1・2254・2255・2026-22290	44	土師器 S 字甕	古墳	-	(13.8)	-	-	内外面ハケ	上部: 褐 台部: 橙	上部: 褐 台部: 橙	金雲母・石英・赤粒	破片	15
7	33	C-7・8	1978・2764	56	土師器 甕	古墳	[11.6]	(3.0)	-	-	内外面ハケ後ミガキ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
7	34	A-1	626・628・659	64	土師器 甕	古墳	[12.2]	(6.5)	-	-	内外面ハケ	黒褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	歪んだ器形
7	35	D-7	2504	31	土師器 蓋	古墳	(2.4)	(0.9)	-	-	外面ハケ後沈線	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
7	36	C-7	一括	33	土師器 蓋	古墳	-	(0.9)	-	-	外面ハケ後沈線	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
7	37	C-8	944-3	32	土師器 蓋	古墳	-	(1.3)	-	-	内面ハケ、外面ハケ後沈線による磨損状文	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
7	38	C-5・7・D-7	2399・2493・2507・2510	41	土師器 台付甕	古墳	-	(5.6)	台径 8.0	-	内面へラ削り・指頭痕、外面ハケ後へラ削り	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
7	39	C-7	3032	40	土師器 台付甕	古墳	-	(5.9)	台径 8.8	-	外面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・白・黒粒	破片	
7	40	C・D・7	2259-2270-2273-2386-2579,5層	43	土師器 台付甕	古墳	-	(6.3)	台径 9.4	-	内面指ナデ、外面へラ削り	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英	破片	
7	41	C-8	921	42	土師器 台付甕	古墳	-	(6.2)	台径 5.0	-	内面ハケ、指頭痕、外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・白粒	破片	
7	42	C-7	978	61	土師器 器台	古墳	-	(2.1)	-	-	内外面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
7	43	D-7	2503	28	土師器 蓋	古墳	-	(2.7)	-	-	外面指波状文	橙	橙	金雲母・石英・白粒	破片	
7	44	一括	一括	52	土師器 器台	古墳	-	(3.4)	-	-	内外面ミガキ	橙	橙	雲母・赤・白粒	破片	有孔
7	45	C-7	2986	45	土師器 蓋	古墳	-	(1.9)	(6.2)	-	内面ハケ、外面ミガキ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
7	46	A-2	1348	23	土師器 蓋	古墳	-	(1.9)	(5.0)	-	内面ミガキ、外面ハケ後ミガキ、底面ミガキ	明赤褐	明赤褐	雲母・白・黒粒	破片	
7	47	C-4	一括	17	土師器 ミニチュア?	古墳	-	(5.0)	4.5	-	内面指ナデ	明赤褐	明赤褐	雲母・石英・白・黒粒	破片	50
7	48	A-1	1986	18	土師器 底彫乳鉢	古墳	-	(3.4)	(4.6)	-	内外面ハケ	明赤褐	明赤褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	30
7	49	A-1	95	9	土師器 蓋	古墳	-	(5.6)	-	-	内外面ハケ、外面指頭痕	明褐	明褐	金雲母・白粒	破片	全体に磨耗
7	50	C-7・8	2350・2600	73	土師器 高坏	古墳	[15.8]	(4.5)	-	-	内外面ミガキ	橙	橙	赤・白・黒粒	破片	
7	51	C-8	2779	77	土師器 高坏	古墳	[14.0]	(3.4)	-	-	外面ミガキ	橙	橙	金雲母・赤・白粒	破片	
7	52	C-8	2765	57	土師器 底彫乳鉢	古墳	-	(4.3)	(4.0)	-	内面ハケ、ヘラナデ、指頭痕、外面へラナデ	明褐	明褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
7	53	C-8	2669	63	土師器 器台	古墳	-	(2.9)	(3.6)	-	内面器部ハケ、台部へラ削り、外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	外面指頭痕
7	54	A-2	228	16	土師器 高坏	古墳	-	(6.9)	-	-	外面ケズリ不明瞭	黒	橙	金雲母・赤・白粒	破片	30
7	55	B-2	5	49	土師器 鉢	古墳	[23.6]	9.4	(6.4)	-	外面ケズリ不明瞭	明褐	明褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	20

番号	出土位置	遺物番号	類別	種別	器種	時期	口径	器高	底径	底面	整形	色調(内)	色調(外)	胎土	残存率	備考
8	56 C-7	層2	22	土師器	ミニチュア鉢	古墳	(4.8)	2.6	(3.0)	内面ヘラ削り、外面ハケ後ナデ、底面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	50	口唇部や欠	
8	57 C-5	1384	3	土師器	ミニチュア鉢	古墳	(7.0)	3.6	4.6		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	金雲母	75	全体にツルツル	
8	58 A-3	255	11	土師器	ミニチュア鉢	古墳	(4.6)	4.8	(4.0)	内面ナデ、外面ヘラナデ	褐	褐	雲母・石英・黒粒		外面荒れてる	
8	59 C-6	380	5	土師器	ミニチュア鉢	古墳	5.3	2.6	3.8	内面ハケ、外面指頭痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	90	口唇部に凹みあり	
8	60 C-8	2936	6	土師器	ミニチュア鉢	古墳	4.8	3.2	-	外面指頭痕	明赤褐	明赤褐	石英	95	丸底	
8	61 C-5	1263	4	土師器	ミニチュア鉢	古墳	-	(3.2)	2.4	外面下部ヘラ削り	赤褐	赤褐	金雲母・石英	60		
8	62 C-5	1119・1180・1183・1219・1238・1239・1240・1322・1323・1324	13	土師器	坏	平安	14.0	3.9	6.0	底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	雲母・石英・白・黒粒	70	器形が歪んでる	
8	63 C-5	1201・1226.2・1227・1228・1229・1273・1275	1	土師器	坏	平安	10.8	3.3	5.6	底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	80		
8	64 C-5	1201・1226.2・1227・1228・1229・1273・1275	15	土師器	坏	平安	(11.0)	2.8	4.8	底面回転糸切り痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	石英・白・黒粒	70		
8	65 C-7	1603	2	土師器	皿	平安	8.9	3.2	4.8	底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白・黒粒	95	器形が歪んでる	
9	66 一拵	-	7	土器	壺	中世	(35.0)	(9.5)	-	内外面ハケ	黄褐色	黒褐	金雲母・赤・白・黒粒	破片	孔2個、外耳	
9	67 A-2	735	46	土師器	皿	平安	(8.8)	1.4	(2.0)		黄褐色	黄褐色	金雲母・赤・白・黒粒	25	手づくね	
9	68 A-2・4	361・368・1252	14	土器	桶鉢	中世	(31.6)	(11.8)	(14.0)		灰褐	灰褐	金雲母・石英	20	足原田I出土と類似	
9	69 A-3	283	68	陶器	甕	不明	-	(4.8)	-	外面タタキ	褐	にぶい黄褐色	赤・白粒	破片	胎土にぶい黄褐色	
9	70 B-2	216	66	陶器	甕	不明	-	(6.1)	-	外面タタキ	褐	明赤褐	白・黒粒	破片	胎土にぶい黄褐色	
9	71 B-2	767	67	陶器	甕	不明	-	(5.0)	-	外面タタキ	褐	にぶい黄褐色	赤・白粒	破片	胎土にぶい黄褐色	
9	72 B-4・12	B-4・1083・B-4・12・112	1	陶器	甕	中世	-	(3.5)	-	外面口クロナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	赤・白・黒粒	破片	胎土にぶい黄褐色	
9	73 A-3	259	71	陶器	甕	不明	-	(2.5)	-	内外面口クロナデ	褐	褐	赤・白粒	破片	胎土にぶい黄褐色	
9	74 B-2	209	69	陶器	甕	不明	-	(3.2)	-	外面タタキ	明赤褐	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	胎土にぶい黄褐色	
9	75 A-3	498	70	陶器	甕	不明	-	(1.5)	-	内外面口クロナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	赤・白・黒粒	破片	胎土にぶい黄褐色	
9	76 B-1	87	72	陶器	甕	不明	-	(3.1)	(12.2)	内外面口クロナデ	褐	褐	赤・白・黒粒	破片	胎土にぶい黄褐色	
9	77 B-6	1428	35	陶器	鉢	不明	(21.0)	(4.2)	-		灰白	灰白	石英・赤・白粒	破片	緑釉	
9	78 A-3	472	36	陶器	鉢	不明	(31.0)	(3.6)	-		灰白	灰白	石英・赤・白粒	破片	緑釉	
9	79 A-3	798	34	青磁	碗	不明	(16.0)	(5.0)	-	外面進弁文	灰オリーブ	灰オリーブ	石英・赤・白粒	破片	胎土白～灰白色	
9	80 C-5・6	2403・2417	14	-	羽口	平安	長(6.7)	外径(7.0)	-		明褐	灰	雲母・石英白粒・植物	破片	外面発泡・付着物	
9	81 C-5	1332	16	-	羽口	平安	長(3.2)	-	-		灰	灰	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片		
9	82 A-4	1021	-	銭	口聖元寶	-	-	-	-						天聖元寶(1023)・紹聖元寶(1094)か	
9	83 A-4	1256	-	銭	熙寧元寶	-	-	-	-						初録 1068	

表2 第3次 遺物観察表

図番号	出土位置	遺物番号	類別	種類	時期	口径	器高	底径	整形	色調(均)	色調(外)	胎土	残存率	備考
49	1	1住	16	土師器 S字甕	古墳	(26.6)	(8.2)	-	内面三方牛、外面八ヶ	橙	橙	雲母・赤・白粒	破片	山陰系
49	2	1住	9	土師器 環	平安	(10.6)	3.0	5.4	口クロナナ子、底面回転糸切り真	にぶい黄褐	にぶい黄褐	金雲母・赤・白粒	60	
49	3	1住	12	土師器 環	平安	(9.9)	2.6	5.5~5.5	口クロナナ子、底面回転糸切り真	にぶい黄褐	にぶい黄褐	雲母・赤・白粒	60	
49	4	1住	6	土師器 環	平安	(11.6)	3.2	6.0	口クロナナ子、底面回転糸切り真	明褐	明褐	金雲母・赤・白粒	90	
49	5	1住	2	土師器 環	平安	(11.6)	3.5	5.4	口クロナナ子、底面回転糸切り真	にぶい黄褐	にぶい黄褐	赤・白粒	100	
49	6	1住	7	土師器 環	平安	(10.7)	3.4	5.6	口クロナナ子、底面回転糸切り真	明褐	明褐	金雲母・赤・白粒	80	
49	7	1住	3	土師器 環	平安	(10.3)	3.2	5.0	口クロナナ子、底面回転糸切り真	明褐	明褐	金雲母・赤・白粒	100	
49	8	1住	4	土師器 環	平安	(10.7)	3.7	5.2	口クロナナ子、底面回転糸切り真	明褐	明褐	雲母・赤・白粒	100	
49	9	1住	10	土師器 環	平安	(11.6)	3.6	(7.0)	口クロナナ子、底面回転糸切り真	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白粒	50	
49	10	1住	8	土師器 環	平安	(10.2)	3.1	(5.0)	口クロナナ子、底面回転糸切り真	明褐	明褐	雲母・赤・白粒	60	
49	11	1住	13	土師器 環	平安	(11.6)	3.2	(2.1)	口クロナナ子、底面回転糸切り真	明褐	明褐	石英・赤・白粒	70	
49	12	1住	14	土師器 環	平安	(11.6)	3.1	(6.9)	口クロナナ子、底面回転糸切り真	橙	橙	雲母・白粒	50	
49	13	1住	11	土師器 環	平安	(10.7)	3.3	5.2	口クロナナ子、底面回転糸切り真	にぶい黄褐	にぶい黄褐	雲母・石英・赤・白粒	100	内外面線付着(灯明皿)
49	14	1住	19	土師器 環	平安	(16.4)	(6.5)	-	内外面八ヶ	褐	褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
49	15	1住	15	土師器 脚高台杯	平安	(16.4)	(6.5)	-	口クロナナ子、底面回転糸切り真	黄褐	黄褐	金雲母・赤・白粒	70	
49	17	1住	18	土師器 甕	平安	(28.4)	(16.7)	-	内外面八ヶ	褐	褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
49	18	1住	17	土師器 羽釜	平安	(15.6)	6.2	(6.8)	-	灰白	灰白	-	40	
49	19	1住	1	灰陶器 碗	平安	(14.6)	(1.6)	-	-	灰白	灰白	-	破片	
49	20	1住	20	灰陶器 碗	平安	(14.6)	(1.6)	-	-	-	-	-	破片	
-	-	1住	40	鉄釜?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.1
-	-	1住	42	鉄釜?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.2
50	1	2住	1	土師器 環	平安	(12.0)	(2.3)	-	口クロナナ子	にぶい橙	にぶい橙	雲母・石英・赤粒	破片	
50	2	2住	5	土師器 環	平安	(0.7)	(4.3)	-	底面回転糸切り真	橙	橙	金雲母・赤粒	破片	
50	3	2住	1	土師器 環	平安	(4.2)	(6.2)	-	内外面八ヶ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	4	2住	3	土師器 環	平安	(5.4)	(4.8)	-	内面八ヶ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	5	2住	4	土師器 羽釜	平安	(4.8)	(4.8)	-	内面八ヶ	褐	暗褐	金雲母・石英・黒粒	破片	
50	1	3住	1	土師器 環	平安	(10.4)	3.7	5.5	内面暗文、外面下部へラ削り、底面回転糸切り真	橙	淡黄緑	金雲母・赤・黒粒	40	
50	2	3住	2	土師器 環	平安	(11.2)	3.9	(6.2)	内面暗文、外面下部へラ削り、底面回転糸切り真	明赤褐	明赤褐	赤色粒	20	
50	3	3住	3	土師器 環	平安	(9.8)	(2.0)	-	口クロナナ子	明赤褐	明赤褐	赤・白粒	破片	
50	4	3住	4	土師器 環	平安	(26.1)	(1.7)	(4.6)	内面暗文、外面下部へラ削り	にぶい黄緑	にぶい黄緑	赤・白粒	破片	
50	5	3住	5	土師器 甕	平安	(1.8)	(4.4)	-	内外面八ヶ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	6	3住	6	土師器 甕	平安	(4.4)	(4.4)	-	内外面八ヶ	黒褐	黒褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	1	4住	2	土師器 環	平安	(12.0)	4.3	5.2	外面下部へラ削り、底面全面へラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白粒	30	
50	2	4住	1	土師器 環	平安	(12.8)	5.5	5.5	内面暗文、外面下部へラ削り、底面全面へラ削り	橙	橙	赤・白粒	80	
50	3	4住	3	土師器 環	平安	(10.6)	4.2	(6.0)	内面暗文、外面下部へラ削り、底面全面へラ削り	橙	橙	金雲母・赤粒	25	
50	4	4住	7	土師器 甕	平安	(14.3)	(12.1)	-	内外面八ヶ	橙・灰褐	橙・灰褐	金雲母・石英・赤・白粒	70	
50	5	4住	4	土師器 甕	平安	(13.0)	(4.1)	-	外面八ヶ	黒	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	6	4住	6	土師器 甕	平安	(26.2)	(2.5)	-	内外面八ヶ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	7	4住	5	土師器 環	平安	(11.2)	4.0	(5.2)	内面暗文、外面下部へラ削り	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	2	5住	2	土師器 甕	平安	(1.3)	(6.8)	-	底面本葉痕	にぶい褐	明赤褐	赤粒	20	
50	3	5住	4	灰陶器 壺	平安	(3.2)	(3.2)	-	口クロナナ子	灰白	灰白	白・黒粒	破片	軸：オリーン色
50	4	5住	3	土師器 環	平安	(23.0)	-	-	内外面八ヶ	明褐	明褐	金雲母・石英・白粒	20	
51	1	6住	2	土師器 環	平安	(10.9)	4.3	5.3	内面暗文、外面下部へラ削り、底面全面へラ削り	橙	橙	金雲母・石英・赤粒	90	底面刻書
51	2	6住	1	土師器 環	平安	(10.6)	4.3	5.1	内面暗文、外面下部へラ削り、底面全面へラ削り	にぶい褐	明赤褐	金雲母・赤粒	75	底面刻書
51	3	6住	3	土師器 環	平安	(12.6)	(2.7)	-	内面暗文	橙	橙	赤粒	破片	
51	4	6住	4	土師器 環	平安	(3.0)	(8.2)	-	内面八ヶ	暗赤褐	暗赤褐	金雲母・石英	破片	
51	5	6住	31	土師器 甕	平安	(2.9)	(8.0)	-	内外面八ヶ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英	破片	
51	6	6住	7	土師器 甕	平安	(6.5)	(6.5)	-	内外面八ヶ	明褐	明褐	金雲母・石英	破片	
51	7	6住	6	土師器 甕	平安	(6.0)	(6.0)	-	内外面八ヶ	暗褐	暗褐	金雲母・石英	破片	
51	8	6住	25	鉄製品 鎌	長	(15.0)	幅 1.9	厚 0.4	-	-	-	-	-	保存処理番号29530、基部欠損
51	1	7住	7	土師器 環	平安	(12.7)	4.4	(5.8)	内面暗文、外面下部へラ削り	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・赤粒	破片	
51	2	7住	3	土師器 環	平安	(11.2)	4.2	(5.0)	内面暗文、外面下部へラ削り	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	破片	
51	3	7住	1	土師器 環	平安	(11.0)	3.9	5.5	内面暗文、外面下部へラ削り	橙	橙	赤・白粒	50	
51	4	7住	4	土師器 環	平安	(11.0)	(3.6)	-	内面暗文、外面下部へラ削り	明赤褐	明赤褐	赤・白粒	破片	
51	5	7住	9	土師器 環	平安	(11.8)	(3.8)	-	内面暗文、外面下部へラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白粒	破片	
51	6	7住	2	土師器 環	平安	(2.4)	(2.4)	5.3	内面暗文、外面下部へラ削り	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	破片	

番号	出土位置	遺物番号	類別	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調(内)	色調(外)	胎土	残存率	備考	
51	7住	87	12	土師器	高台付杯	平安	-	(0.4)	(9.0)	見込之部略文、削り出し高台	橙	橙	金雲母・石英・赤粒	破片		
51	8住	44	9	土師器	高台付杯	平安	-	(1.1)	(6.4)	内面略文、削り出し高台	橙	橙	金雲母・赤・白粒	破片	底面刻書	
51	9住	56	11	土師器	杯	平安	-	(0.4)	-		橙	橙	雲母・赤粒	破片	底面刻書	
51	10住	80、カマド一拵	10	土師器	皿	平安	(13.6)	2.2	(3.4)	内面略文、体部下半・底面回転ヘラ削り	橙	にぶい黄橙	金雲母・石英・赤粒	25		
51	11住	7住、カマド一拵	14	土師器	蓋	平安	(16.6)	(1.1)	-	内外面ハケ	褐	褐	金雲母・赤・白粒	破片		
51	12住	60・一拵、カマド5	8	土師器	甕	平安	(19.6)	(4.8)	-	内外面ハケ、底面木葉裏	灰褐	明灰褐	金雲母・石英・白粒	破片		
51	13住	7住、カマド8	15	土師器	甕	平安	(10.8)	(2.0)	-	内面ハケ	黒褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片		
51	14住	7住	13	土師器	甕	平安	-	(1.8)	(6.6)	内外面ハケ	黒褐	黒褐	金雲母・石英・白粒	破片		
51	16住	72	16	陶器	甕	平安	-	(10.3)	-	内面ハケ	にぶい褐	にぶい褐	石英・赤・白・黒粒	破片		
51	17住	52	17	陶器	甕	平安	-	(7.6)	-	外面タタキ、内面ナナ	灰	灰	石英・白粒	破片		
51	18住	7住	18	陶器	甕	平安	-	(5.0)	-	外面タタキ、内面ナナ	褐	褐	石英・白・黒粒・小石	破片		
52	1住	カマド9・19・20・23・24	8	土師器	杯	平安	13.8	4.1	5.8	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	褐	褐	雲母・石英・赤・白粒	85		
52	2住	107	3	土師器	杯	平安	(13.5)	4.5	5.7	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・石英・赤・白粒	80		
52	3住	115	2	土師器	皿	平安	(9.0)	2.1	3.6	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	30		
52	4住	54	1	土師器	皿	平安	8.7	2.1	4.4	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白・黒粒	99		
52	5住	1Pn3	4	土師器	皿	平安	(7.8)	(2.5)	-	ロクロナナ子	明褐	明褐	金雲母・赤・白粒	破片		
52	6住	51・カマド一拵	5	土師器	皿	平安	(9.6)	(2.3)	-	ロクロナナ子	明黄褐	明黄褐	金雲母・赤・白粒	20		
52	7住	49	7	土師器	高台付杯	平安	15.8	5.1	高台径9.0	ロクロナナ子	にぶい黄橙	にぶい黄橙	金雲母・石英・赤・白粒	95		
52	8住	カマド21	10	土師器	高台付杯	平安	-	(2.7)	高台径6.8	ロクロナナ子	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	40		
52	9住	62・63	9	土師器	柱状高台付皿	平安	(8.0)	3.6	4.0	ロクロナナ子、高台部外面上半回転ヘラ削り、底面回転糸切り裏不明	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	70		
52	10住	カマド26	8	土師器	柱状高台付杯	平安	16.0	5.5	8.0	ロクロナナ子、高台部外面上半回転ヘラ削り、底面回転糸切り裏	橙	橙	金雲母・赤・白粒	80		
52	11住	86・132・139・一拵	14	土師器	甕	平安	(32.4)	(10.8)	-	内外面ヘラ削り	褐	褐	金雲母・赤・白粒	破片		
52	12住	149・一拵	13	土師器	甕	平安	(24.8)	(4.9)	-	内外面ヘラ削り	にぶい黄褐	にぶい黄褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	内面輪積み痕	
52	13住	95・130・141、カマド一拵	15	土師器	鉢?	平安	(30.2)	(5.3)	(16.0)	外面ヘラ削り	にぶい橙	にぶい橙	金雲母・石英・赤・白粒	破片	内面輪積み痕	
52	14住	10・1Pn4	11	土師器	羽釜	平安	(38.2)	(3.8)	-	内外面ハケ	褐	褐	金雲母・赤・白粒	破片	把手1箇所残存	
52	15住	35・37・一拵、カマド8	12	土師器	羽釜	平安	(28.4)	(5.9)	-	内外面ハケ	褐	褐	金雲母・赤・白粒	破片	羽蓋剥離	
52	16住	26・45	17	須臾器	壺	平安	-	(6.8)	(14.4)	ロクロナナ子	灰	灰	白・黒粒	10	内外面自然釉	
52	17住	17・24、カマド一拵	18	土師器	羽釜	平安	(24.0)	(8.8)	-	内面ハケ、外面ナナ・ヘラナナ	黒褐	黒褐	金雲母・白・黒粒	破片	羽蓋剥離	
52	18住	106	19	鉄製品	羽釜	平安	長(10.5)	最大幅0.8	最大厚0.9	-	-	-	-	20	保存処理番号29531、先端部欠損	
52	19住	134-1	20	鉄製品	不明	平安	長(6.5)	最大幅1.0	最大厚0.7	-	-	-	-	20	保存処理番号29532、面欠損	
52	20住	134-2	21	鉄製品	鉄鍔	平安	長(6.2)	最大幅1.6	最大厚0.7	-	-	-	-	-	20	保存処理番号29533、柄部欠損
52	21住	一拵	22	鉄製品	不明	平安	長(3.7)	最大幅0.7	最大厚0.8	-	-	-	-	-	20	保存処理番号29534、一端欠損
53	1住	3・4	2	土師器	杯	平安	(10.0)	4.5	(3.4)	内面略文、外面下部ヘラ削り、底面ヘラ削り	橙	橙	赤・黒粒	20		
53	2住	5	1	土師器	杯	平安	(10.4)	(4.1)	-	内面略文、外面下部ヘラ削り	橙	橙	雲母・赤・白粒	20		
53	3住	1	3	土師器	高台付皿	平安	(16.0)	2.2	(8.0)	内面略文、体部下半・底面回転ヘラ削り	明褐	明褐	雲母・赤・白粒	20	底面墨書	
53	10住	75	14	土師器	杯	平安	14.6	4.3	6.4	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	黒・橙	黒	雲母・石英・黒粒	70	内外面黒色付着	
53	2住	77	13	土師器	杯	平安	14.4	4.2	6.4	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白粒	80	内外面黒色付着	
53	3住	11・54・57・67	25	土師器	杯	平安	(19.2)	(4.6)	-	ロクロナナ子	褐	褐	雲母・赤・白粒	破片		
53	4住	35	17	土師器	杯	平安	-	(1.8)	5.8	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	明黄褐	にぶい黄褐	雲母・石英・赤・黒粒	破片		
53	5住	49・56	24	土師器	杯	平安	-	(1.7)	(6.0)	外面ヘラ削り、底面回転糸切り裏後縁側ヘラ削り	橙	橙	雲母・赤・白粒	破片		
53	6住	2カマド3	12	土師器	高台付杯	平安	-	(1.5)	8.0	ロクロナナ子	明褐	明褐	雲母・赤・白粒	破片		
53	7住	1カマド52・55・57	10	土師器	皿	平安	11.4	2.5	5.0	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	黄褐	黄褐	雲母・赤・白粒	破片		
53	8住	22	6	土師器	皿	平安	9.3	2.5	4.3	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	明赤褐	明赤褐	雲母・赤・白粒	80		
53	9住	1カマド54・56	7	土師器	皿	平安	9.0	2.2	4.8	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	明赤褐	明赤褐	雲母・赤・白粒	70		
53	10住	66	4	土師器	皿	平安	9.0	2.5	4.4	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	褐	褐	雲母・赤・白粒	90		
53	11住	53	2	土師器	皿	平安	8.7	2.2	4.5	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	橙	橙	雲母・赤・白粒	95	口縁の一部内側にまぐれる	
53	12住	1カマド21	11	土師器	皿	平安	8.1	2.1	4.7	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	橙	橙	雲母・赤・白粒	100		
53	13住	92	8	土師器	皿	平安	(8.0)	1.9	4.6	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	60		
53	14住	76	16	土師器	皿	平安	(9.0)	2.6	4.6	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	橙	橙	雲母・石英・赤粒	40		
53	15住	32	5	土師器	皿	平安	7.3	2.2	3.8	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	橙	橙	雲母・石英・赤・白粒	95		
53	16住	78	15	土師器	皿	平安	7.8	2.0	4.0	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	橙	橙	雲母・石英・黒粒	70	胎形が歪んでる	
53	17住	88・97・99・一拵	9	土師器	皿	平安	(10.4)	(2.2)	-	ロクロナナ子	灰黄褐	灰黄褐	金雲母・赤粒	60	柱状高台か	
53	18住	1カマド35	11	土師器	柱状高台	平安	-	(3.1)	7.4	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	明褐	明褐	雲母・赤・白粒	破片		
53	19住	98・2カマド2	23	土師器	柱状高台	平安	-	(3.6)	(6.4)	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	褐	褐	雲母・石英・赤・黒粒	破片		
53	20住	1・95・1カマド41	22	土師器	高台付皿	平安	(21.2)	(4.7)	-	ロクロナナ子	明褐	明褐	金雲母・赤粒	破片	特殊な器形	
53	21住	27・一拵	21	土師器	柱状高台皿	平安	(8.5)	2.8	5.2	ロクロナナ子	橙	橙	雲母・石英・赤・白粒	70		
53	22住	68	3	土師器	柱状高台皿	平安	9.3	2.9	4.9	ロクロナナ子、底面回転糸切り裏	褐	褐	雲母・赤・白粒	95		
53	23住	104・1カマド44	26	土師器	甕	平安	(27.0)	(7.4)	-	内外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	口唇部縁部に削り	
53	24住	10住	27	土師器	甕	平安	(28.0)	(3.9)	-	内面ハケ、外面指頭痕	褐	褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	口唇部縁部に削り	

図番	番号	出土位置	遺物番号	類別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調(内)	色調(外)	胎土	残存率	備考
54	25	10住	23・29・30・84	土師器	甕	平安	(28.0)	24.7	(15.0)	内外面八ヶ、底面本葉裏	黒褐	金雲母・石英・白・黒粒	20	ハケは密で薄い、 輪積み痕	
54	26	10住	106・107・108	土師器	甕	平安	-	(2.1)	(13.2)	底面本葉裏	黒褐	雲母・石英・赤・黒粒	破片	外面黒色付着物	
54	27	10住	1カマド19	土師器	甕	平安	(30.6)	(2.5)	(18.8)	底面本葉裏	褐	雲母・石英・赤・黒粒	破片	外面黒色付着物	
54	28	10住	38・39・42・44、1カマド37・39・42・63・一括	土師器	甕	平安	(30.6)	(18.8)	-	内外面八ヶ	褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	口唇部縦位に附り、ハケは密で薄い	
54	29	10住	1カマド26	土師器	甕	平安	-	(1.8)	(13.6)	底面本葉裏	暗褐	金雲母・石英・黒粒	破片	ハケは密で薄い	
54	30	10住	1カマド47	土師器	甕	平安	(30.0)	(10.3)	-	内外面八ヶ	暗褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	ハケは密で薄い	
54	31	10住	71・72・73、1カマド29・一括	土師器	甕	平安	(28.2)	(12.6)	-	内外面八ヶ	暗褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	ハケは密で薄い	
54	32	10住	5	石器	砥石	平安	最大長30	最大幅3.6	最大厚3.6	-	-	-	-	保存処理番号29535、柄部欠損	
54	33	10住	20	鉄製品	鉄線	平安	長(11.8)	最大幅0.5	最大厚1.0	-	-	-	-	保存処理番号29536、両端欠損	
54	34	10住	48	鉄製品	不明	平安	長(3.0)	最大幅0.5	最大厚0.3	-	-	-	-	-	
55	1	11住	3・6・9・一括	土師器	環	平安	(13.0)	4.5	5.6	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	明赤褐	金雲母・石英・赤粒	50	-	
55	2	11住	7・一括、H-35G1686	土師器	皿	平安	9.2	3.1	3.8	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	褐～明褐	金雲母・石英・赤粒	95	-	
55	3	11住	1	土師器	甕	平安	(23.2)	(15.1)	-	内外面八ヶ	褐	金雲母・石英・赤粒	破片	ハケ非常に薄い、外面兼付着物、輪積み痕	
55	4	11住	11	土師器	甕	平安	(30.0)	(7.8)	-	内外面八ヶ	褐	金雲母・石英・黒粒	破片	ハケ非常に薄い	
55	5	11住	21	土師器	鉢?	平安	(34.4)	(8.0)	-	内外面八ヶ、外面ケズリ・ナデ	にぶい赤褐	金雲母・石英	破片	ハケ薄い、内面器面が荒れたる	
55	1	12住	83-1・93	土師器	環	平安	10.9	3.1	5.0	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	橙	金雲母・赤・白粒	100	底部に穿孔径0.3cm	
55	2	12住	2カマド3	土師器	環	平安	11.1	2.9	4.3	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	にぶい赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	100	胎土に砂多い	
55	3	12住	85	土師器	環	平安	11.2	2.8	4.9	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	褐	金雲母・赤・白粒	50	歪んでいる	
55	4	12住	22・23・24・25・84	土師器	環	平安	10.7	2.9	4.3	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	橙	金雲母・赤・白粒	80	歪んでいる	
55	5	12住	65-66-67-68-69-70-71-82-83-2	土師器	環	平安	11.3	3.3	4.7	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	橙	金雲母・赤・白粒	100	口縁の一部歪んでいる	
55	6	12住	2カマド5	土師器	環	平安	(10.1)	(3.0)	(5.6)	内外面八ヶナデ	明赤褐	金雲母・赤・白粒	30	-	
55	7	12住	11・39・96、2カマド1・一括、3カマド6・10	土師器	甕	平安	(31.5)	(22.2)	-	内外面八ヶナデ	暗赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	輪積み痕	
56	8	12住	83、2カマド2・6、3カマド3・20	土師器	甕	平安	(36.2)	(18.3)	-	内外面八ヶナデ	橙	金雲母・石英・赤・白粒	破片	外面黒色付着物	
56	9	12住	10-88、2カマド7、3カマド4・11-22	土師器	甕	平安	(25.4)	(15.0)	-	内外面八ヶ	褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	-	
56	10	12住	20・73-87-91、3カマド2・23、F-22G	土師器	甕	平安	-	(10.6)	9.7	内外面八ヶ、底面本葉裏	褐	金雲母・石英・赤・白粒	20	-	
56	11	12住	81	灰銅器	甕	平安	(15.0)	(3.8)	7.6	外面下部、底面凹糸切り痕	灰白	白	50	漬け掛け	
56	12	12住	4・F-19G2240	灰銅器	甕	平安	(16.0)	(3.8)	-	内外面軸	灰白	白・黒粒	破片	-	
56	13	12住	80	灰銅器	甕	平安	(14.2)	(3.0)	-	内外面軸	灰白	白・黒粒	破片	-	
56	14	12住	41	灰銅器	甕	平安	(14.6)	(3.4)	-	内外面軸	灰白	白・黒粒	破片	-	
56	15	12住	50・54・72・西	灰銅器	甕	平安	-	(2.5)	(7.8)	外面、底面凹糸切り痕	灰白	赤・白・黒粒	破片	-	
56	16	12住	92・2カマド4	灰銅器	皿	平安	12.5	2.7	6.3	内外面軸	灰白	赤・白・黒粒	80	漬け掛け	
56	17	12住	15・16・17	灰銅器	皿	平安	(11.0)	2.0	(6.0)	内面に軸	灰白	白	50	内面付着物	
-	-	-	12住	鍛冶	鍛冶	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.3	
-	-	-	12住	鍛冶	鍛冶	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.4	
56	1	13住	カマド13・14	土師器	環	平安	14.0	4.3	6.0	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	橙	雲母・赤・白粒	99	口縁部、体部内面の一部兼付着(灯明皿)	
56	2	13住	52、F-20G2164	土師器	皿	平安	(9.4)	2.8	4.2	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	明赤褐	雲母・石英・赤・白粒	50	底面いびつ	
56	3	13住	カマド7	土師器	皿	平安	(10.0)	2.8	4.4	ロクロナ子	褐	雲母・石英・赤・黒粒	50	-	
56	4	13住	カマド12	土師器	皿	平安	(8.8)	2.2	4.0	ロクロナ子	褐	雲母・石英・赤・白粒	40	-	
56	5	13住	カマド一括	土師器	皿	平安	(13.6)	(1.9)	-	ロクロナ子	明褐	雲母・石英・赤・白粒	破片	-	
56	6	13住	カマド1	土師器	柱状高台	平安	8.0	2.6	5.0	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	にぶい褐	石英・赤・白・黒粒	85	-	
56	7	13住	68	土師器	柱状高台	平安	(2.0)	(2.0)	5.0	ロクロナ子	橙	石英・赤・白粒	60	全体に磨耗	
57	8	13住	51	土師器	甕	平安	(23.6)	(5.0)	-	内面八ヶ	にぶい褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	-	
57	9	13住	カマド18	土師器	甕	平安	-	(2.1)	13.6	底面本葉裏	にぶい褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	20	-	
57	10	13住	カマド19・20	土師器	甕	平安	-	(17.7)	6.6	内外面本葉裏	にぶい褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	40	胴部外面上部兼付着(欠損後の付着)	
57	11	13住	カマド3	土師器	羽釜	平安	(24.4)	(6.0)	-	内外面八ヶ	暗褐	雲母・石英・赤・白粒	破片	-	
57	12	13住	カマド15・16・一括	土師器	羽釜	平安	(13.6)	(7.4)	-	内外面八ヶ	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	-	
57	13	13住	11	土師器	ニッチノ鉢	平安	(6.8)	3.0	4.4	外面八ヶ	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	ハケ薄い	
57	14	13住	一括	鉄製品	環状	平安	長2.1	最大幅3.1	最大厚0.7	-	-	-	-	保存処理番号29537	
57	1	14住	7・8・一括	土師器	環	平安	(11.0)	4.3	5.0	体部下側へラ削り、底面全面へラ削り	明赤褐	金雲母・赤粒	50	底面黒書「口字」	
57	2	14住	9・10・一括、21住59	土師器	環	平安	(11.4)	3.2	(6.0)	内面暗文、体部下側へラ削り、底面全面へラ削り	明赤褐	赤粒	50	-	
57	3	14住	12	土師器	皿	平安	(14.6)	(2.0)	-	内面輪巻き暗文、体部下側へラ削り	赤褐	金雲母・赤粒	破片	-	
57	4	14住	37	土師器	皿	平安	(14.6)	(2.3)	-	内面輪巻き暗文、外面体部下側へラ削り	明赤褐	雲母・赤粒	破片	-	
57	5	14住	一括	土師器	甕	平安	(10.8)	(2.7)	-	外面八ヶ	暗赤褐	雲母・石英	破片	-	
57	6	14住	33・41・21住23	土師器	甕	平安	(15.8)	(6.3)	-	内外面八ヶ	明赤褐	金雲母・石英	破片	-	
57	7	14住	6・一括	土師器	皿	平安	-	(1.0)	(6.2)	内面輪巻き暗文、外面体部下側へラ削り	明赤褐	雲母・赤粒	破片	-	
57	1	15住	92・83・94	土師器	環	平安	14.6	4.2	7.0	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	にぶい褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	98	-	
57	2	15住	97・113	土師器	環	平安	14.1	4.4	6.3	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	明褐・黒褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	80	-	
57	3	15住	121	土師器	環	平安	18.5	4.3	5.6	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	95	-	
57	4	15住	111	土師器	環	平安	(13.8)	(3.5)	-	ロクロナ子	明赤褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	-	
57	5	15住	112・129・一括	土師器	環	平安	(13.8)	(3.9)	-	ロクロナ子	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	-	

図番号	出土位置	遺物番号	類別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調(内)	色調(外)	胎土	残存率	備考	
57	6	15住	8	土師器	平安	(1.4)	(3.1)	-	ロクロナ子	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片		
58	7	15住	27	土師器	平安	-	(2.0)	6.2	ロクロナ子、底面凹糸切り真	橙	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	50		
58	8	15住	26	土師器	平安	-	(2.0)	(7.2)	ロクロナ子、底面凹糸切り真	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・石英・白粒	30		
58	9	15住	2	土師器	平安	-	(2.1)	(5.4)	ロクロナ子、底面凹糸切り真	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片		
58	10	15住	3	土師器	平安	-	(1.9)	(5.4)	ロクロナ子、底面凹糸切り真不明瞭	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片		
58	11	15住	1	土師器	平安	-	(2.7)	5.6	ロクロナ子、底面凹糸切り真不明瞭	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	内面黒色土器	
58	12	15住	9	土師器	平安	-	(1.3)	(6.4)	内面凹文、体部ヘラ削り	明褐	明褐	雲母・赤・白粒	破片		
58	13	15住	25	土師器	高台付環	平安	-	(3.5)	高台付環(6.0)	にぶい褐	にぶい褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	50		
58	14	15住	11	土師器	高台付	平安	-	(2.0)	(6.8)	ロクロナ子	明褐	明褐	赤・白・黒粒	破片	
58	15	15住	23	土師器	皿	平安	(9.4)	2.6	4.8	ロクロナ子、底面凹糸切り真	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	50	
58	16	15住	18	土師器	皿	平安	9.0	2.4	4.7	ロクロナ子、底面凹糸切り真	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	100	
58	17	15住	91	土師器	皿	平安	7.9	2.2	4.8	ロクロナ子、底面凹糸切り真	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・赤粒	98	
58	18	15住	108	土師器	皿	平安	(8.5)	2.1	4.2	ロクロナ子、底面凹糸切り真不明瞭	灰褐	灰褐	金雲母・石英・白粒	60	
58	19	15住	110	土師器	皿	平安	(9.6)	(2.0)	-	ロクロナ子	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
58	20	15住	124	土師器	皿	平安	(9.4)	(1.9)	5.2	ロクロナ子、底面凹糸切り真不明瞭	橙	橙	金雲母・赤・白粒	70	全体に磨耗
58	21	15住	36・61	土師器	皿	平安	(1.5)	4.4	ロクロナ子、底面凹糸切り真	にぶい黄褐	にぶい黄褐	雲母・赤・白・黒粒	破片		
58	22	15住	52	土師器	皿	平安	(1.1)	4.6	ロクロナ子、底面凹糸切り真不明瞭	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片		
58	23	15住	12・123・一括	土師器	柱状高台	平安	10.2	2.7	5.8	ロクロナ子、底面凹糸切り真	橙	橙	金雲母・石英・白粒	80	
58	24	15住	96	土師器	柱状高台	平安	8.5	2.6	4.8	ロクロナ子、底面凹糸切り真	灰褐	灰褐	金雲母・石英・白粒	80	
58	25	15住	115	土師器	柱状高台	平安	(2.3)	4.6	ロクロナ子、底面凹糸切り真	暗褐	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	20		
58	26	15住	126	土師器	柱状高台	平安	(2.2)	4.8	ロクロナ子、底面凹糸切り真	橙	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	20		
58	27	15住	8	土師器	柱状高台	平安	(2.2)	4.4	ロクロナ子、底面凹糸切り真	暗褐	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	20		
58	28	15住	98・99・100・101・104	土師器	甕	平安	(35.4)	(23.4)	-	内外面八ヶ	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	外面付著物(被熱)、輪積み真
58	29	15住	24・107・一括	土師器	甕	平安	(2.0)	(13.8)	底面本蓋痕	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片		
58	30	15住	20	土師器	羽釜	平安	(16.4)	(3.9)	-	内面八ヶ	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	羽釜欠損
58	31	15住	69	土師器	甕	平安	(23.0)	(5.0)	-	内面八ヶ	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
58	32	15住	62・109	土師器	甕	平安	(4.0)	-	接合部に糊み	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片		
58	33	15住	117	土師器	鉢	平安	(16.2)	8.5	(8.4)	ロクロナ子	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	外面付著物(被熱)、上部刺痕痕
58	34	15住	58	石器	磨石	平安	長5.6	幅4.8	厚4.1	重量146g	褐	褐	雲母・赤・白・黒粒	20	器面荒れている
-	-	15住	44	-	鏡存残	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.5	
-	-	15住	106	-	鏡残	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.6	
-	-	15住	114	-	鏡残	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.10	
-	-	15住	128	-	鏡残	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.7	
-	-	15住	130	-	鏡残?	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.8	
-	-	15住	133	-	鏡残	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.9	
59	1	16住	28	土師器	環	平安	(10.4)	(3.0)	-	内面凹文、外面下部ヘラ削り	橙	金雲母・赤・黒粒	20		
59	2	16住	カマド15・18	土師器	環	平安	(2.2)	6.6	底面凹糸切り真不明瞭	橙	橙	雲母・赤粒	30	全体に磨耗	
59	3	16住	17	土師器	皿	平安	(2.1)	5.2	内面溝差き暗文、体部外面ヘラ削り	明褐	明褐	金雲母・赤・白・黒粒	20		
59	4	16住	12	土師器	皿	平安	(1.4)	6.0	外面下部ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	20	体部外面刻書	
59	5	16住	4	土師器	甕	平安	(13.8)	8.8	7.2	ロクロナ子、底面凹糸切り真	橙	暗褐	金雲母・赤・黒粒	80	口縁~胴部に七ビ
59	6	16住	5・9・6・8・3、カマド2・6・10・11・13・14・16	土師器	甕?	平安	(12.5)	(9.0)	内外面八ヶ、底面本蓋痕	赤褐	赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	25	胴部外面一部に漆付著	
59	7	16住	一括	土師器	甕?	平安	(28.8)	(1.7)	-	-	灰	赤・白・黒粒	破片		
59	8	16住	14・16	土師器	甕?	平安	(2.5)	-	-	灰	灰	赤・白粒	破片		
59	9	16住	13	土師器	甕	平安	(4.4)	-	-	灰	灰	赤・白・黒粒	破片	胎土にぶい赤褐色	
59	1	17住	17・18住11・13、17住一括	土師器	環	平安	(13.4)	5.2	6.2	内面凹文、体部外面下部ヘラ削り、底面凹糸切り真不明瞭	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	70	底面刻書
59	2	17住	17・18住5・19	土師器	環	平安	(11.8)	(4.3)	-	内面凹文、体部外面下部ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	赤・白粒	破片	
59	3	17住	17・18住8	土師器	皿	平安	(2.1)	-	-	褐	褐	赤・白粒	破片		
59	4	17住	17・18住83、17住カマド2	土師器	蓋	平安	(16.0)	3.0	5.8	内面溝差き暗文、外面下部ヘラ削り	明褐	明褐	赤・白・黒粒	30	底面刻書
59	5	17住	17・18住94	土師器	皿	平安	(1.8)	(6.2)	内面溝差き暗文、外面下部ヘラ削り	褐	褐	赤・黒粒	破片	底面刻書	
59	6	17住	17・18住9、17住カマド	土師器	皿	平安	(16.0)	(2.6)	-	ロクロナ子	明褐	明褐	赤・白・黒粒	破片	
59	7	17住	17・18住6	土師器	甕	平安	(8.7)	-	-	外面夕夕半、内面全さえ痕	灰	灰	赤・白粒	破片	胎土にぶい赤褐色
60	1	18住	17・18住23・64、18住一括	土師器	環	平安	(12.2)	(3.2)	-	ロクロナ子	明赤褐	明赤褐	雲母・赤・白・黒粒	30	
60	2	18住	17・18住76	土師器	皿	平安	8.6	2.6	4.2	ロクロナ子、底面凹糸切り真	明赤褐	明赤褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	100	
60	3	18住	17・18住79	土師器	皿	平安	8.3	2.2	3.9	ロクロナ子、底面凹糸切り真	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	95	
60	4	18住	17・18住65	土師器	皿	平安	8.3	2.2	5.4	ロクロナ子、底面凹糸切り真	明褐	明褐	赤・白・黒粒	60	
60	5	18住	17・18住62	土師器	皿	平安	(8.0)	2.0	(3.6)	ロクロナ子、底面凹糸切り真	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	40	
60	6	18住	17・18住70	土師器	皿	平安	(8.2)	2.2	4.2	ロクロナ子、底面凹糸切り真不明瞭	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	40	
60	7	18住	17・18住78・84	土師器	皿	平安	(8.8)	(2.1)	(4.7)	ロクロナ子、底面凹糸切り真不明瞭	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	40	
60	8	18住	17・18住51	土師器	皿	平安	(7.8)	2.3	(4.2)	ロクロナ子、底面凹糸切り真不明瞭	褐	褐	雲母・赤・白・黒粒	60	
60	9	18住	17・18住20	土師器	柱状高台	平安	-	(3.5)	7.4	ロクロナ子、底面凹糸切り真	明褐	明褐	赤・白・黒粒	破片	

図番号	出土位置	遺物番号	類別	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調(内)	色調(外)	胎土	残存率	備考
60	10 18住	17・18住27	土師器	土師器	柱状高台	平安	-	(1.9)	4.4	ロクロナ子、底面凹糸切り痕不明版	明褐色	明褐色	石英・赤・白粒	破片	
60	11 18住	17・18住75	土師器	土師器	甕	平安	(33.8)	(7.4)	-	内面へラナ子、外面ナ子	暗褐色	暗褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
60	12 18住	17・18住54・56・57・60	土師器	土師器	甕	平安	(31.8)	(11.1)	-	内外面ナ子	暗褐色	暗褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
60	13 18住	17・18住77	土師器	土師器	鉢?	平安	(24.1)	(4.2)	-	内外面ナ子	暗褐色	暗褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
60	14 18住	17・18住73	土師器	土師器	甕	平安	(19.6)	(4.2)	-	内外面ハケ	明褐色	明褐色	石英・赤・白・黒粒	破片	
60	15 18住	17・18住90	土師器	土師器	鉢?	平安	-	(4.2)	(13.0)	内外面ナ子	褐色	褐色	石英・赤・白・黒粒	破片	
60	16 18住	17・18住52	土師器	土師器	鉢	平安	-	(2.3)	(13.0)	外側・底面へラナ子	褐色	褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
60	17 18住	17・18住一拵	土師器	土師器	皿	平安	-	(0.7)	(4.0)	-	褐色	褐色	-	破片	胎土灰色
60	1 19住	7・10・13	土師器	土師器	環	平安	10.8	3.9	6.0	内面暗文、外面へラナ子、底面全面へラナ子	灰褐色	灰褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	50	
60	2 19住	55・186一拵	土師器	土師器	環	平安	(9.0)	4.2	(4.6)	内面暗文、外面へラナ子、底面へラナ子	褐色	褐色	雲母・石英・赤・白粒	20	
60	3 19住	8・9	土師器	土師器	環	平安	(10.4)	(3.8)	-	内面暗文、外面へラナ子	明赤褐色	明赤褐色	雲母・赤・白粒	30	
60	4 19住	15	土師器	土師器	環	平安	-	(7.1)	7.2	内外面ハケ、底面木葉痕	赤褐色	赤褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	20	内面輪積み痕、器面荒れてる
60	5 19住	11	土師器	土師器	環	平安	-	(1.0)	(4.4)	底面凹糸切り痕	浅黄褐色	暗褐色	雲母・赤・白粒	破片	全体に磨耗、内面荒れてる
60	6 19住	一拵	土師器	土師器	蓋	平安	(14.0)	(1.1)	-	底面凹糸切り痕	明赤褐色	明赤褐色	雲母・赤・白・黒粒	破片	
61	1 20住	240一拵	土師器	土師器	環	平安	14.0	4.7	5.8	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	明赤褐色	明赤褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	70	
61	2 20住	55・186一拵	土師器	土師器	環	平安	(17.2)	(5.3)	-	ロクロナ子	褐色	褐色	金雲母・赤・白粒	破片	
61	3 20住	69・254一拵	土師器	土師器	環	平安	-	(1.9)	9.0	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
61	4 20住	72	土師器	土師器	環	平安	-	(2.9)	7.0	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	金雲母・赤・白粒	40	
61	5 20住	133・232・256	土師器	土師器	環	平安	-	(2.9)	6.0	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	明赤褐色	明赤褐色	金雲母・赤・白粒	60	
61	6 20住	2カマド2	土師器	土師器	環	平安	-	(2.1)	(7.0)	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	にぶい褐色	にぶい褐色	金雲母・赤・白粒	30	
61	7 20住	138	土師器	土師器	皿	平安	9.6	2.2	4.4	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	明赤褐色	明赤褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	99	
61	8 20住	53	土師器	土師器	環	平安	(17.2)	3.2	7.2	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	明褐色	明褐色	金雲母・石英・赤・白粒	70	
61	9 20住	253	土師器	土師器	皿	平安	9.0	2.4	4.2	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	99	
61	10 20住	63	土師器	土師器	皿	平安	8.8	2.5	4.6	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	褐色	褐色	雲母・赤・白粒	98	
61	11 20住	116	土師器	土師器	皿	平安	(8.4)	2.6	4.0	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	明赤褐色	明赤褐色	金雲母・石英・赤・白粒	80	
61	12 20住	157	土師器	土師器	皿	平安	8.6	2.8	4.0	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	褐色	褐色	金雲母・赤・白粒	98	
61	13 20住	139・140・142	土師器	土師器	皿	平安	9.2	2.2	4.6	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	褐色	褐色	雲母・石英・赤・白粒	80	
61	14 20住	81・84・85・86・185	土師器	土師器	高台付杯	平安	-	(5.9)	(11.6)	-	褐色	褐色	金雲母・赤・白粒	30	坏部内面割離
61	15 20住	131・210	土師器	土師器	柱状高台杯	平安	14.2	6.1	7.8	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白粒	75	
61	16 20住	1カマド20	土師器	土師器	柱状高台皿	平安	(8.0)	2.4	5.2	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	80	
61	17 20住	24一拵	土師器	土師器	柱状高台皿	平安	(8.6)	2.6	4.4	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白粒	75	
61	18 20住	225	土師器	土師器	柱状高台皿	平安	9.2	2.7	4.0	ロクロナ子、底面凹糸切り痕	褐色	褐色	金雲母・赤・白粒	95	高台部磨耗、器形が歪んでる
61	19 20住	246	土師器	土師器	?	平安	-	(2.9)	-	削り	明赤褐色	明赤褐色	金雲母・赤・白粒	破片	脚部
61	20 20住	161・201・202一拵	土師器	土師器	甕	平安	(33.2)	(8.2)	-	内面ハケ	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白粒・小石	破片	外面ハケ僅小
61	21 20住	10	土師器	土師器	甕	平安	(30.4)	(4.2)	-	内外面ハケ	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
61	22 20住	75・1カマド21一拵、F-17G1792	土師器	土師器	甕	平安	-	(2.1)	(12.4)	外面ハケ、底面木葉痕	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
62	23 20住	1カマド9・10・13	土師器	土師器	甕	平安	(26.0)	(12.5)	-	内面ハケ	赤褐色	黒褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
62	24 20住	163・180・181・208、2カマド1	土師器	土師器	甕	平安	(24.9)	(17.4)	-	内面上部ハケ、外面ハケ・削り	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
62	25 20住	47	土師器	土師器	甕	平安	-	(1.5)	14.5	底面木葉痕	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
62	26 20住	255・1カマド3・14	土師器	土師器	甕	平安	-	(3.0)	(14.6)	内外面ハケ、底面木葉痕	明赤褐色	明赤褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
62	27 20住	66・220・221・222・259一拵	土師器	土師器	壺	平安	(31.3)	(19.4)	-	内外面ハケ	明赤褐色	明赤褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
62	28 20住	1カマド7・12	土師器	土師器	壺	平安	(31.8)	(9.3)	-	内外面ハケ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒・小石	破片	把手1現存
62	29 20住	127・239	土師器	土師器	壺	平安	(23.8)	(4.4)	-	内外面ハケ	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	輪積み痕
62	30 20住	170	土師器	土師器	羽釜	平安	-	(8.6)	-	内外面ハケ	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	整形が歪
63	31 20住	32・107	土師器	土師器	置きカマド	平安	-	(3.8)	(34.4)	内面ハケ、ヘラナ子、底面ハケ	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
63	32 20住	67・68・88・218・224	土師器	土師器	置きカマド	平安	-	(9.0)	(33.4)	内面暗文、底面ハケ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
63	33 20住	96	土師器	土師器	置きカマド	平安	-	(12.5)	(30.8)	内面へラナ子、外面暗文	赤褐色	黒褐色	金雲母・白・黒粒・小石	破片	
63	34 20住	197	土師器	土師器	碗	平安	(14.0)	(3.2)	-	-	灰白	灰白	-	破片	
63	35 20住	一拵	土師器	土師器	皿	平安	(9.0)	(1.2)	-	-	灰白	灰白	赤・白粒	破片	
63	36 20住	74	土師器	土師器	?	平安	-	(1.4)	-	-	灰白	灰白	-	破片	
63	37 20住	183	土師器	土師器	鉄鋸	平安	長(9.3)	最大幅1.4	最大厚0.7	-	-	-	-	破片	保存処理番号295338、柄部欠損
63	38 20住	一拵	土師器	土師器	不明	平安	長(5.4)	最大幅0.8	最大厚0.8	-	-	-	-	破片	保存処理番号295339、柄部欠損
63	39 20住	一拵	土師器	土師器	不明	平安	長(3.0)	最大幅0.7	最大厚0.6	-	-	-	-	破片	保存処理番号29540、柄部欠損
63	40 20住	一拵	土師器	土師器	不明	平安	長(7.0)	最大幅0.7	最大厚0.6	-	-	-	-	破片	一部破断、発泡
63	41 20住	90	土師器	土師器	羽口	平安	長(5.4)	外径(8.4)	厚2.5	厚3.0	黄褐色	明灰黄	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	
63	42 20住	98・1・2・3	土師器	土師器	羽口	平安	長(5.5)	外径(7.2)	厚2.7	厚3.0	褐色	明褐色	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	
63	43 20住	257	土師器	土師器	羽口	平安	長(3.7)	外径(7.8)	厚2.6～3.0	厚2.7	褐色	明褐色	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	
63	44 20住	231	土師器	土師器	羽口	平安	長(3.3)	外径(7.6)	厚2.2	厚2.7	明褐色	明褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒・植物	破片	
63	45 20住	93	土師器	土師器	羽口	平安	長(3.3)	外径(6.2)	厚2.5～2.7	厚3.0	明褐色	明褐色	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	
-	-	一拵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	資料No.11

図 番号	出土位置	遺物番号	類別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調(内)	色調(外)	胎土	残存率	備考
-	20住	E-17G1889	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.12
64	1 21住	57	土師器	環	平安	12.8	4.2	6.4	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	明褐色	明褐色	雲母・赤・白・黒粒	85	
64	2 21住	52	土師器	環	平安	12.9	4.1	6.2~6.8	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	明褐色	明褐色	赤・白・黒粒	90	
64	3 21住	86・87・97・98・一括	土師器	環	平安	12.0	4.6	6.0	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	明褐色	明褐色	雲母・赤・白・黒粒	80	器形が非常に歪んでる
64	4 21住	38・69	土師器	環	平安	12.6	4.0	(6.4)	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	明褐色	明褐色	雲母・赤・白・黒粒	30	器形が歪んでる
64	5 21住	26・29・30・40・72	土師器	環	平安	11.2	3.4	5.8	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	褐色	褐色	赤・白・黒粒	40	
64	6 21住	58	土師器	環	平安	8.7	3.2	5.2	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	明褐色	明褐色	雲母・赤・白・黒粒	60	
64	7 21住	10・61・62・一括	土師器	皿	平安	9.8	2.6	5.4	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	明褐色	明褐色	雲母・赤・白・黒粒	90	器形が歪んでる
64	8 21住	11	土師器	甕	平安	-	(5.2)	(9.2)	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	暗褐色	暗褐色	雲母・赤・白・黒粒	破片	
64	9 21住	36・42・一括	土師器	甕	平安	(5.6)	(7.2)	(7.2)	内外面八ヶ、底面本葉痕	暗褐色	暗褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
64	10 21住	44・45・46・47・49・73・81・82・8390・91・94・95・96・一括、22住一括	土師器	置きカマド	平安	(32.6)	(15.2)	-	内外面八ヶ	褐色	褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	13と同じ個体か
64	11 21住	93	土師器	置きカマド	平安	-	(10.0)	-	内外面八ヶ	黒褐色	褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	12と同じ個体か
64	12 21住	50・55・74・75・77	灰陶器	碗	平安	16.0	6.5	高台径8.6	体部下端回転へら削り	灰白	灰白	白・黒粒	85	瀬掛け
64	13 21住	62	灰陶器	皿	平安	(10.0)	(1.3)	-	-	灰白	灰白	-	破片	
65	1 22住	79	土師器	環	平安	11.5	4.3	5.2	内面暗文、外面下部へら削り、底面回転糸切り痕後側面へら削り	褐色	褐色	金雲母・赤・白・黒粒	90	
65	2 22住	143	土師器	環	平安	(11.8)	(4.9)	-	内面暗文、外面体部下端へら削り	赤褐色	褐色	金雲母・赤・白・黒粒	20	
65	3 22住	18	土師器	環	平安	-	(4.1)	(6.7)	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	黄褐色	黄褐色	石英・白粒	破片	
65	4 22住	141・一括	土師器	環	平安	(10.6)	3.5	4.2	内面暗文、外面下部へら削り、底面全面へら削り	赤褐色、 黄褐色、 い赤褐色	赤褐色	金雲母・赤・白粒	25	外面荒れてる
65	5 22住	48・56、F-15G1880・一括	土師器	皿	平安	(9.0)	1.7	5.2	底面回転糸切り痕	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白粒	60	
65	6 22住	163・164	土師器	皿	平安	8.7	2.5	4.0	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白粒	70	器形が歪んでる
65	7 22住	42	土師器	皿	平安	9.0	2.4	4.0	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白粒	70	
65	8 22住	67・74・一括	土師器	柱状高台杯	平安	-	(3.3)	6.0	底面回転糸切り痕	褐色	褐色	石英・赤・白粒	破片	回転糸切り痕非常に薄い
65	9 22住	70	土師器	高台付杯	平安	-	(3.1)	-	明赤褐色	明赤褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	高台部内面一部残存着	
65	10 22住	71・72	土師器	柱状高台皿	平安	(7.1)	(2.1)	3.4	底面回転糸切り痕	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白粒	30	
65	11 22住	160	土師器	甕	平安	(26.2)	(5.6)	-	内外面八ヶ	赤褐色	赤褐色	金雲母・石英・赤・白粒	破片	内面付着物
65	12 22住	139・152	土師器	甕	平安	(25.6)	(10.6)	-	内外面八ヶ、内面暗文	赤褐色	赤褐色	金雲母・石英・赤・白粒	破片	外面付着物
65	13 22住	88・89・92	土師器	甕	平安	(21.6)	(16.1)	-	内外面八ヶ、内面暗文	い赤褐色	い赤褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
65	14 22住	34・125、F-15G1828	土師器	甕	平安	(28.8)	(6.3)	(13.6)	内面暗文、外面八ヶナズ、底面本葉痕	い赤褐色	い赤褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
65	15 22住	58	土師器	甕	平安	(2.8)	(3.1)	-	内外面八ヶ	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	八ヶ薄い
65	16 22住	93	土師器	甕	平安	(4.9)	(7.6)	-	内外面八ヶ、内面暗文	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
65	17 22住	122・158、F-15G2422	土師器	置きカマド	平安	(37.4)	(7.2)	(29.4)	内面八ヶ、底面削り	明赤褐色	明赤褐色	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
65	19 22住	37・F-15G1861・1863	土師器	置きカマド	平安	-	(9.2)	(30.0)	内面八ヶ、内面暗文	明赤褐色	明赤褐色	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
66	18 22住	49・50・53	土師器	置きカマド	平安	-	(5.9)	(26.4)	内面八ヶ、底面へら削り	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
66	21 22住	29	土師器	置きカマド	平安	-	(10.5)	(24.0)	内面八ヶ	暗褐色	暗褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
66	22 22住	46	土師器	置きカマド	平安	-	(5.3)	(26.6)	内面八ヶ、底面削り	い赤褐色	い赤褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
66	23 22住	15・2・3・4・5・6・7・8・9・10・84・121・123・128・133・134・135・138・142・144・145・148・149・150・151・157・159、F-18G一括、F-16G1817	須恵器	凸帯耳壺	平安	-	(22.5)	12.8	内面暗文、外面タキ目	褐色	褐色	石英・白粒・小石	60	胴部最大径に凸帯が巡り、貫通孔のある耳をもつ
67	1 23住	方マド 2、F-18G	土師器	環	平安	12.6	3.5	6.8	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	明赤褐色	明赤褐色	金雲母・石英・黒粒	85	歪んでる
67	2 23住	方マド 3	土師器	環	平安	11.0	2.8	5.8	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	い赤褐色	い赤褐色	雲母・石英・赤・白粒	80	口縁歪んでる
67	3 23住	方マド 4	土師器	環	平安	10.6	3.0	4.4	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	い赤褐色	い赤褐色	石英・赤・白・黒粒・植物	90	
67	4 23住	方マド 7	土師器	環	平安	-	(1.6)	6.4	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	褐色	褐色	雲母・赤粒	破片	歪んでる
67	5 23住	15	土師器	甕	平安	(36.0)	(3.6)	-	内外面八ヶ	赤褐色	赤褐色	雲母・石英・白・黒粒	破片	
67	6 23住	12	土師器	甕	平安	-	(15.0)	-	内外面八ヶ	黒褐色	黒褐色	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
67	7 23住	18	土師器	甕	平安	-	(5.9)	(9.8)	底面本葉痕	暗赤褐色	暗赤褐色	雲母・石英・赤・白粒	破片	外面残存着
67	8 23住	27	土師器	甕	平安	(2.8)	(2.8)	(9.0)	底面に擦痕	褐色	褐色	金雲母・石英・赤・白粒	破片	底面は擦痕の周囲がツルツル
67	9 23住	カマド 6	灰陶器	碗	平安	(15.0)	(3.7)	-	-	灰白	灰白	-	破片	内外全面粗
67	10 23住	21、カマド 8・9	灰陶器	碗	平安	-	(2.3)	7.2	-	灰白	灰白	白粒	破片	
67	1 1土	1	土師器	壺	古墳	(13.6)	(3.3)	-	内面八ヶ	い赤褐色	い赤褐色	金雲母・白・黒粒	破片	
67	2 1土	2	土師器	壺	古墳	(11.6)	(2.0)	-	内外面ミカキ	明黄褐色	明黄褐色	白・黒粒	破片	
67	1 2土	7・8	土師器	皿	平安	-	(1.3)	(4.0)	底面回転糸切り痕	明褐色	明褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
67	2 4土	1・4・5・7・9・10・11・一括	土師器	高台付杯	平安	(16.4)	7.4	8.0	外面下部～底面回転へら削り	褐色	褐色	赤・白粒	40	削り出し高台
67	3 4土	2・50・12	土師器	高台付杯	平安	(16.0)	6.1	(8.0)	内面暗文、外面下部～底面回転へら削り	褐色	褐色	金雲母・赤・白粒	30	削り出し高台、口縁部外面残存着
67	3 4土	8	土師器	高台付杯	平安	(16.4)	(5.5)	-	外面下部回転へら削り	褐色	褐色	金雲母・赤褐色	破片	
68	1 5土	3	土師器	環	平安	-	(2.8)	6.3	ロクロナズ、底面回転糸切り痕	い赤褐色	明黄褐色	雲母・赤・白・黒粒	破片	
68	2 5土	33	土師器	環	平安	-	(3.4)	6.3	ロクロナズ、底面回転糸切り痕後八ヶ	褐色	暗褐色	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	



図番	出土位置	遺物番号	類別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調(内)	色調(外)	胎土	残存率	備考
68	3	5土	37	6	土師器	皿	平安	(2.5)	(7.0)	内面渦巻き暗文、外面体部下半、底面回転へら削り	黒褐	黒褐	破片	
68	4	5土	34	3	土師器	皿	平安	9.1	4.2	口クロナナ子、底面回転糸切り真	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
68	5	5土	35	4	土師器	皿	平安	2.0	2.2	口クロナナ子、底面回転糸切り真	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	100	内面線付着丸底
68	6	5土	11	5	土師器	甕	平安	(2.6)	4.6	内面指頭痕	にぶい赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
68	7	5土	29	7	土師器	鉢	平安	(8.6)	4.7	口クロナナ子、底面回転糸切り真	明赤褐	赤・白・黒粒	50	
68	8	5土	14	8	羽口	-	平安	長(12.6)	外径8.7	厚2.8～3.2	褐・黒褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	外面付着物・発泡
-	-	5土	一括	-	刺片?	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.14
68	1	1溝	一括	1	土師器	環	平安	(11.0)	(1.9)	口クロナナ子	明褐	赤・白・黒粒	破片	
68	2	1溝	一括	2	土師器	環	平安	(1.7)	(7.4)	口クロナナ子	明褐	赤・白・黒粒	破片	全面磨耗
68	3	1溝	16	3	土師器	高坏	古墳	(2.5)	-	-	明褐	赤・白・黒粒	破片	全面磨耗
68	4	1溝	23	5	土師器	壺?	古墳	(2.7)	(9.6)	内面ハケ、外面ヘラナ子、底面木葉痕	明褐	赤・白・黒粒	破片	全面やや磨耗
68	5	1溝	一括	6	土師器	壺?	古墳	(2.1)	(8.0)	-	明褐	赤・白・黒粒	破片	全面磨耗
68	6	2溝	13	4	土師器	壺	古墳	(2.2)	(6.8)	内面ヘラナ子、外面ハケ・ヘラ削り、底面へら削り	にぶい黄褐	赤・白・黒粒	破片	
68	1	2溝	10	1	土師器	高坏	平安	(14.0)	(2.7)	口クロナナ子	明褐	赤・白・黒粒	破片	
68	2	2溝	25	6	土師器	高坏	平安	(5.1)	(5.1)	外面ヘラミガキ	明褐	赤・白・黒粒	破片	全面磨耗
68	3	2溝	37	5	土師器	壺	古墳	(2.7)	丸底	内面指ナ子	明褐	赤・白・黒粒	破片	外面荒れてる
68	4	2溝	22	4	土師器	壺	古墳	(2.6)	(7.4)	内面ハケ、外面、底面ミガキ	明褐	赤・白・黒粒	破片	
68	5	2溝	26	3	土師器	壺	古墳	(2.6)	(6.2)	内面指ナ子	明褐	赤・白・黒粒	破片	全面磨耗
68	6	2溝	15	2	土師器	壺	古墳	(2.0)	(5.2)	外面ハケ	明褐	赤・白・黒粒	破片	全面やや磨耗
68	1	3溝	14	1	土師器	器台	古墳	(3.0)	-	-	明褐	赤・白・黒粒	破片	全面やや磨耗
69	1	4溝	16	5	土師器	環	平安	(1.1)	(5.8)	内面暗文、底面全面へら削り	明褐	赤・白・黒粒	破片	底面墨書
69	2	4溝	18	3	土師器	環	平安	(2.1)	(2.1)	口クロナナ子	明褐	赤・白・黒粒	破片	
69	3	4溝	17	2	土師器	皿	平安	(2.8)	(2.2)	口クロナナ子	明褐	赤・白・黒粒	破片	
69	4	4溝	19	4	土師器	皿	平安	(14.0)	2.5	外面体部下半、底面へら削り	明褐	赤・白・黒粒	破片	
69	5	4溝	11・13	7	土師器	壺	古墳	(2.6)	(9.4)	内外面ヘラナ子、底面木葉痕	黒褐	赤・白・黒粒	破片	
69	6	4溝	1	6	土師器	壺	古墳	(2.3)	(4.2)	内、外、底面ミガキ	褐	赤・白・黒粒	破片	
69	7	4溝	2・4・7	1	須恵器	壺	平安	(9.0)	-	外面タタキ目	黄灰	赤・白・黒粒	破片	
69	1	5溝	3	1	土師器	環	平安	(1.8)	(5.5)	内面暗文、外面、底面へら削り	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
69	2	5溝	2	2	土師器	環	平安	(0.7)	4.5	内面暗文、外面ヘラ削り、底面回転糸切り後周囲へら削り	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
69	1	流丸跡	7	1	土師器	環	平安	(12.0)	(1.3)	内面渦巻き暗文	黄褐	赤・白・黒粒	破片	
69	2	流丸跡	6	2	土師器	環	平安	(1.4)	(6.2)	口クロナナ子、底面回転糸切り真	黄褐	赤・白・黒粒	破片	
69	3	流丸跡	4	3	青磁	碗	平安	(1.8)	(5.6)	口クロナナ子	黄褐	赤・白・黒粒	破片	内面黒色土器
69	1	E-13	402・1416・1572	21	土師器	壺	古墳	(19.0)	(7.0)	内外面ハケ後ミガキ、口唇部磨損工具による刻み	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	胎土:灰白色
69	2	D-E-11	317・1404	54	土師器	壺	古墳	(12.6)	(6.5)	内外面ミガキ	褐	赤・白・黒粒	破片	
69	3	D-9・10	278・286	56	土師器	壺	古墳	(10.4)	(3.7)	内外面ミガキ	明褐	赤・白・黒粒	破片	
69	4	E-13	1517	44	土師器	壺	古墳	(16.6)	(4.0)	内面ミガキ・ヘラ削り、外面ミガキ	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
69	5	C-9	1317	25	土師器	壺	古墳	(3.2)	-	頸部幅広い際帯上に磨損工具による連続刻み	にぶい黄褐	赤・白・黒粒	破片	全面磨耗、二重口縁並
69	6	D-9	一括	29	土師器	壺	古墳	(2.2)	-	内面ハケ、外面指頭痕	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
69	7	D-11	1423	26	土師器	壺	古墳	(3.0)	-	内面ハケ、外面ヘラ削り	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
69	8	E-13	134・136・137・375・1422・1548・1550・1559・1564・1566・1593・1599・1605・1635・一括	28	土師器	壺	古墳	(13.0)	4.0	内面ミガキ・ハケ・指頭痕、外面ミガキ	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
69	9	E-13	1546	19	土師器	壺	古墳	(4.9)	(8.2)	内外面ハケ	にぶい黄褐	赤・白・黒粒	破片	
69	10	D-10	1123	40	土師器	壺	古墳	(2.5)	(7.4)	外面ハケ後ミガキ、内面ハケ不明痕	にぶい黄褐	赤・白・黒粒	破片	
69	11	E-13	1486	41	土師器	壺	古墳	(2.3)	(8.6)	外面ハケ	にぶい黄褐	赤・白・黒粒	破片	
69	12	E-13	1658	35	土師器	壺	古墳	(4.0)	(4.0)	内外面ミガキ	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
69	13	D-13	1585	18	土師器	壺	古墳	(4.0)	(5.3)	内面ナ子、外面ヘラ削り	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
70	14	D-9・10	506・1622	5	土師器	S字襷	古墳	(14.8)	(5.0)	内面ヘラナ子、外面ハケ	にぶい黄褐・黒褐	赤・白・黒粒	破片	
70	15	D-9	248・535	4	土師器	S字襷	古墳	(14.0)	(5.8)	外面ハケ	にぶい赤褐	赤・白・黒粒	破片	
70	16	E-13	1541	3	土師器	S字襷	古墳	(14.4)	(3.8)	内外面ハケ	にぶい黄褐	赤・白・黒粒	破片	
70	17	D-9	1259	2	土師器	S字襷	古墳	(14.0)	(3.7)	内面指頭痕、外面ハケ	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
70	18	D-10・13	505・1197・1433・1602・1609	51	土師器	甕	古墳	(37.0)	(5.9)	内外面ハケ	赤褐	赤・白・黒粒	破片	
70	19	E-13	1412・1531・1539・1600	42	土師器	甕	古墳	(22.2)	(8.1)	内外面ハケ後ミガキ	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
70	20	D-13	70	39	土師器	壺	古墳	(19.4)	(5.2)	内外面ハケ	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
70	21	D-12	552	32	土師器	甕	古墳	(11.0)	(5.8)	内面ハケ後ミガキ、外面ズグズ不明痕	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
70	22	E-13	1646	6	土師器	台付甕	古墳	(7.6)	(12.0)	内外面ハケ	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
70	23	E-13	404	1	土師器	台付甕	古墳	-	(6.4)	内外面ハケ	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	
70	24	D-9	239・240・241・242・1272・1274・1275・1276・1280・1285・1286・1287・1288・1313・1348・一括	34	土師器	高坏	古墳	(26.0)	16.4	杯部内外面ミガキ、脚部内面ハケ、外面ミガキ	にぶい黄褐	赤・白・黒粒	破片	孔3個
70	25	D-9	1279	43	土師器	高坏	古墳	(12.2)	6.8	杯部内外面ミガキ、脚部外面ハケ・ヘラ削り	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	孔4個

図番号	出土位置	遺物番号	類別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調(内)	色調(外)	胎土	残存率	備考
70 26	C-13	一括	土師器	蓋?	古墳	16.0)	1.7)	-	内面ミガキ後2本単位の沈線文	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	金雲母・石英・白粒	破片	
70 27	A-9	1335	土師器	高杯	古墳	-	(11.8)	(16.8)	杯部内外面ミガキ、脚部内面ハケ・外面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・白粒	破片	
70 28	D-13	1584	土師器	高杯	古墳	-	(4.7)	(8.6)	内面ノ子、外面ミガキ	明褐	明褐	石英・赤・白・黒粒	70 孔3個	
70 29	D-9	218・1223・1242	土師器	器台	古墳	10.0)	(6.4)	-	受け部内面ミガキ、脚部ヘラ削り	赤褐	赤褐	金雲母・赤・白粒	脚部のみ	
70 30	E-13	1491・1499	土師器	器台	古墳	9.6)	(3.2)	-	外面ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	石英・赤・白粒	破片	全体に磨耗
70 31	D-9・10	253・1032	土師器	器台	古墳	8.2)	(4.4)	-	内外面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英	25	
70 32	C-13	413	土師器	鉢?	古墳	25.4)	(6.9)	-	内外面ミガキ	にぶい赤褐色	黒褐	金雲母・白・黒粒	破片	
70 33	D-10	1198、C-10一括	土師器	底部穿孔鉢	古墳	-	(4.5)	(4.8)	内面ハケ、内外面両面	にぶい赤褐色	明褐	金雲母・石英・白粒	破片	
70 34	D-9	216	土師器	鉢?	古墳	8.0)	(2.1)	-	内面ミガキ、外面ヘラ削り	赤褐	明褐	金雲母・石英・赤・白粒	60	孔径約0.8cm
70 35	D-11	1389	土師器	鉢?	古墳	-	(3.0)	-	内外面ハケ後ミガキ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
70 36	D-10	1118	土師器	鉢?	古墳	-	(2.0)	(5.0)	膝部上端に刻み	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	金雲母・赤・白粒	破片	内面粘土貼り付け痕
71 37	H-22	1939	土師器	杯	平安	-	(2.0)	-	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底部ヘラ削り	赤褐	赤褐	金雲母・赤・白粒	20	底部墨書
71 38	D-9	1292・一括	土師器	杯	平安	11.0)	3.6	6.8	口クロナ子、底面回転糸切り痕	赤褐	赤褐	金雲母・赤・黒粒	100	
71 39	F-20	13住44	土師器	杯	平安	9.6)	2.8	4.4	口クロナ子、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	99	
71 40	D-11	1044	土師器	皿	平安	8.0)	2.5	4.4	口クロナ子、底面回転糸切り痕	赤褐	赤褐	雲母・石英・白粒	40	
71 41	F-20	2167	土師器	皿	平安	10.8)	2.2	5.0	口クロナ子	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白粒	25	
71 42	I-27	1714	土師器	脚高台皿	平安	9.2)	3.1	(5.6)	内外面口クロナ子	赤褐	赤・白粒	赤・白粒	70	
71 43	H-22	1934	土師器	皿	平安	7.3)	2.1	3.6	口クロナ子、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・白・黒粒	80	
71 44	F-20	13住77・78	土師器	皿	平安	15.2)	4.3	7.0	口クロナ子、底面回転糸切り痕不明瞭	赤褐	赤褐	雲母・赤・白・黒粒	80	
71 45	I-27	1715	土師器	甕	平安	-	(2.3)	8.0	外面ノ子ハケ、底面ヘラ削り	黒褐	黒褐	赤・白・黒粒	破片	内面輪積み痕
71 46	C-10	652	土師器	蓋き力マド	平安	-	(4.4)	-	内外面ハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
71 47	C-14・E-12	174・319-1	-	羽口	平安	長(8.7)	外径(7.4)	内径(2.6)	厚2.0～2.8	褐	褐	石英・赤・白粒・植物	破片	
71 48	E-12	319-2	-	羽口	平安	長(5.6)	外径(8.4)	内径(3.0)	厚2.7～3.3	明褐	にぶい黄褐色	石英・赤・白粒・植物	破片	
71 49	C-10	1112	-	羽口	平安	長(3.6)	外径(5.2)	内径(1.2)	厚2.0～2.1	明褐	灰	石英・赤・白・黒粒	破片	外面発泡・付着物
71 50	C-10	1104	-	羽口	平安	長(6.2)	外径(8.6)	内径(1.2)	厚2.0～2.3	明褐	褐灰	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	外面発泡
71 51	F-20	13住65	陶器	甕	不明	-	-	-	-	黒褐	暗褐	雲母・白・黒粒	破片	全面に糊
71 52	G-21	2067	石器	砥石	平安	長(6.45)	幅(2.4)	7.3	-	灰白	-	白粒・小石	破片	旧河道の中
71 53	G-20	2191	石器	砥石	平安	幅(3.8)	厚(3.6)	厚(1.2)	疑灰岩	-	-	-	破片	4面磨
71 54	西一括	-	石器	砥石	平安	長(3.7)	幅(2.6)	厚(1.2)	疑灰岩	-	-	-	破片	4面磨
71 55	G-21	13住91	石器	磨石	不明	長(8.8)	幅(3.0)	厚(3.0)	-	-	-	-	破片	1面磨
71 56	F-17	1767	鉄製品	不明	不明	長(6.7)	最大幅(1.1)	最大厚(0.5)	-	-	-	-	破片	保存処理番号29541
71 57	E-17	1877	鉄製品	不明	不明	長(3.7)	最大幅(0.7)	最大厚(0.7)	-	-	-	-	破片	保存処理番号29542
71 58	E-20	一括	鉄製品	不明	不明	長(2.7)	最大幅(1.3)	最大厚(0.3)	-	-	-	-	破片	保存処理番号29543、一測欠損
71 59	E-17	1887	銅製品	環状	不明	長(1.9)	幅(2.1)	厚(0.6)	-	-	-	-	破片	保存処理番号29544
71 60	B-10	522	土器	内耳埴	中世	23.0)	(6.3)	-	外面ヘラノ子	暗灰黄	黒褐	金雲母・赤・白粒	破片	
-	D-17	2481	-	碗型埴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.13
-	C-11	879	-	鉄滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	76 g
-	C-14	63	-	鉄滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	211 g

表3 第4次 遺物観察表

図番号	出土位置	遺物番号	類別	種別	器種	時期	口径	器高	底径	形状	色調(内)	色調(外)	胎土	残存率	備考
73	1住		1住9	土師器	壺	平安	15.0	4.9	-	内面暗文	暗褐	暗褐	金雲母・白・黒粒	破片	
73	2	一括・F-35	1住14	土師器	杯	平安	14.0	3.2	-	内面暗文	暗褐	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
73	3		1住4	土師器	杯	平安	12.8	3.9	-	ナデ	暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
73	4	一括	1住5	土師器	杯	平安	10.8	2.4	-	ナデ	暗赤	暗赤	赤・白・黒粒	破片	
73	5	7・8・9・F-35	1住6	土師器	杯	平安	10.0	3.3	5.0	底面回転糸切り	暗赤	暗赤	赤・白・黒粒	30	
73	6	一括	1住7	土師器	杯	平安	-	1.1	4.5	底面回転糸切り	暗赤	暗赤	金雲母・赤・白粒	破片	
73	7	72	1住8	土師器	甕	平安	16.0	2.5	-	内外面ハケ	暗赤	暗赤	石英・赤・白・黒粒	破片	
73	8	28・29・31・33・76・77・79・82・83・F-34&490・F-35	1住11	土師器	甕	平安	24.2	12.9	-	内外面ハケ	暗褐	暗褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	外面付着物あり
73	9	86	1住1	土師器	甕	平安	19.0	2.3	-	内面ハケ	暗赤	暗赤	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
73	10	23	1住2	土師器	甕	平安	23.6	2.6	-	内面ハケ	暗赤	暗赤	赤・白粒	破片	口唇部欠
73	11	46	1住13	土師器	甕	平安	8.6	2.5	-	外側ハケ	暗赤	暗赤	赤・白粒	破片	
73	12	16	1住10	土師器	甕	平安	-	1.7	6.4	底面回転糸切り	暗褐	暗褐	雲母・石英・白・黒粒	20	
73	13	1住	1住12	土師器	甕	平安	11.0	6.8	-	口クロ	暗赤	暗赤	白・黒粒	破片	内面剥離
73	14	73	1住15	鉄製品	鏡	平安	長12.1	幅2.6	厚0.7					柄部欠	未保存処理
73	15	1住	1住17	鉄製品	不明	平安	長5.6	幅0.3	厚0.5					柄部欠	
73	16	1住	1住16	鉄製品	不明	平安	長3.4	幅0.3	厚0.4					面欠	
74	1	C-27	43	石器	磨製石斧	縄文	長14.2	幅5.8	厚3.4					90	緑色燧灰岩。刃部欠
74	2	E-33-34	900・904・905・1072・1190・1260・1261・1266・1270・1278・1583・1584・1585・1586・1589・1592・1612・1665・1673・1674・1675・1734・1735・1756	土師器	壺	古墳	15.6	12.8	-	内面口縁部ミガキ・胴部ハケ・外面ハケ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白粒	20	内面ほとんど剥離
74	3	E-33-34・F-34	485・964・1032・1033・1034・1083・1084・1179・1220・1221・1222・1223・1226・1537・1543・1698	土師器	壺	古墳	14.3	12.4	-	内面ハケ・外面口縁部ハケ後ハラナデ・胴部ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	内面胴部備かに指頭痕
74	4	E・F-33	299・300・304・309・437・443・445・446・447・450・625・627・630・631・632・633・634・636・1・636-2・648・649・1097・1651・1652・1812	土師器	壺	古墳	15.2	14.1	-	内面口縁部ミガキ・胴部ハケ・頸部下指頭痕・外面ハケ後ミガキ	灰褐	にぶい褐	白粒	破片	内面輪積み痕
75	5	F-33	554・564・599・610・612・613・615・616・823・826・829・835・858・1008・1366・1402・1417・1529	土師器	壺	古墳	17.6	17.0	5.0	内面ハケ後ミガキ・指頭痕・外面ハケ後ミガキ・底面ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・白・黒粒	45	輪積み痕
75	6	E-33	1741	土師器	壺	古墳	13.5	14.2	-	内外面ハケ	暗赤	暗赤	赤・白・黒粒	20	輪積み痕
75	7	E・F-34	353・356・357・360・371・959・960・1018・1019・1022・1026・1027・1028・1030・1033・1036・1211・1213・1224・1227・1242・1544・1545・1548	土師器	壺	古墳	12.6	16.9	-	内外面ハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	50	
75	8	F-33	452・459・590・1367・1368・1405・1435	土師器	壺	古墳	16.1	11.1	-	内面ハケ・指頭痕・外面ハケ	暗褐	暗褐	石英・赤粒	破片	胴部外面下部の器面荒れてる
75	9	E-33	1659	土師器	壺	古墳	-	7.2	-	内面胴部ハケ後ミガキ・胴部ハケ後ナデ・外面ハケ	球黄緑	暗赤	赤・白粒	破片	
75	10	E-34・35	763・764・765・767・770・774・775・776・777・780・782・785・88	土師器	壺	古墳	12.0	22.7	7.0	内面ミガキ・ハラナデ・指頭痕・外面ミガキ・ハラナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	金雲母・白粒	70	胴部内面輪積み痕・底面黒化
75	11	E-33・34	1077・1262	土師器	壺	古墳	15.2	3.6	-	内外面ハケ後ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
75	12	1住	63・E-35G1145	土師器	壺	古墳	15.0	4.4	-	内外面ミガキ	暗赤褐	暗赤褐	金雲母・白・黒粒	破片	外面胴部に横ミガキ
75	13	E-33	431	土師器	壺	古墳	11.0	4.2	-	内面指子デ・外面うすいハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・砂粒	破片	
75	14	一括	-	土師器	壺	古墳	17.2	3.4	-	内面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
75	15	E-35	1694・1695	土師器	壺	古墳	13.4	5.5	-	内面口縁部ハケ・胴部指頭痕・外面ハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
75	16	E-34	312・372・373・872・873	土師器	壺	古墳	15.6	10.7	-	内外面ハケ・外面胴部備かにハケ	黄緑	にぶい黄緑	白粒	破片	
75	17	D-31	232	土師器	壺	古墳	8.8	6.2	-	内外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	外面の上部ナデ
75	18	E-34	1068・1279	土師器	壺	古墳	14.1	6.0	-	内外面ミガキ・口縁部輪積み状工具による刺突	暗赤	暗赤	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
75	19	D-28	120	土師器	壺	古墳	-	3.0	-	内外面ハケ	暗赤	暗赤	金雲母・石英・白・砂粒	破片	杯系の胎土
75	20	E-35	757	土師器	壺	古墳	12.4	4.4	-	内外面ナデ	暗赤	暗赤	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
75	21	E-33・F-34	328・1616・1626・1627・1649・1650	土師器	甕	古墳	9.8	8.1	-	内面ハラナデ・外面ハラナデ・ハラナデ	赤褐	赤褐	赤・白粒	20	口唇部ひび
75	22	E-33	1206・1208	土師器	甕	古墳	-	9.8	4.3	内面ハラナデ・外側ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	石英・白・黒粒	25	内面輪積み痕
75	23	E-34	1240・1546・1669	土師器	壺	古墳	-	2.8	6.7	内面ハケ・外面下部に備かにハケ	暗褐	暗褐	金雲母・石英・白粒	破片	
75	24	F-33	563	土師器	壺	古墳	-	1.5	6.5	外面ハケ・底面木炭痕	暗赤	暗赤	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
75	25	C-27	6	土師器	壺	古墳	-	4.2	-	内面ハケ・外面ミガキ・ハラナデ・刺突	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
75	26	一括	-	土師器	壺	古墳	-	1.6	4.2	内外面ハラナデ	明赤褐	明赤褐	石英・白・黒粒	破片	
75	27	E-35	748・1393・1830	土師器	壺	古墳	-	4.6	4.5	内面ハラナデ・外面ハラナデ・下部ハラナデ	暗赤灰	暗赤灰	金雲母・石英・白粒	破片	
75	28	E-34	972・981・1243	土師器	壺	古墳	-	2.2	7.0	内面うすいハケ・ハラナデ・外面ナデ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	外面のハケうすい
75	29	E-34	870	土師器	壺	古墳	-	1.8	7.6	内面ハラナデ・外面ハケ	暗赤	暗赤	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
75	30	E-34	1273	土師器	壺	古墳	-	2.7	4.5	内面ハラナデ・外面ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
75	31	E-33	1079	土師器	壺	古墳	-	2.0	4.8	内面ハラナデ・外面ハケ・底面ハラナデ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
75	32	E-34	805・808・818・1146・1147・1148・1149・1315・1323・1324・1325・1326・1332・1339・1398・1342・1349・1350・1454・1455・1458・1459・1461・1466・1471・1474・1482・1484・1495・1498・1499・1500・1500-2・1509・1503・1504・1505・1505-2・1506・1508・1601・1603・1604・1605	土師器	S字甕	古墳	14.4	25.1	8.8	内面ハラナデ・指頭痕・外面ハケ	明赤褐(黒く焼けてる)	明赤褐	金雲母・白粒	65	

図番号	出土位置	遺物番号	類別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調(内)	色調(外)	胎土	残存率	備考
76 33	E-34	803・806・807・809・1312・1316・1317・1318・1319・1320・1321・1323-2・1327・1328・1329・1330・1335・1336・1337・1338・1341・1351・1352・1353・1354・1355・1399・1400・1401・1453・1599・1600	26	土師器 S字甕	古墳	13.9	22.0	9.3	内外面ハケ・指頭痕	橙	金雲母	80	胴部外面黒く焼ける	
76 34	F-34	1121	68	土師器 S字甕	古墳	(13.6)	(5.1)	-	内面指頭痕、外面ハケ	にぶい橙	金雲母・白粒	破片	頸部に横位のハケ	
76 35	E-34	815・816・817・819・1305	28	土師器 S字甕	古墳	14.7	(4.6)	-	内面指頭痕、外面ハケ	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	頸部に横位のナデ	
76 36	D-29	175	69	土師器 S字甕	古墳	(18.6)	(3.4)	-	内面ヘラナデ、外面ハケ	明黄	金雲母・石英・白粒	破片		
76 37	F-33	934	67	土師器 S字甕	古墳	(16.7)	(3.6)	-	内面指頭痕、外面ハケ	黄	金雲母・石英・白粒	破片		
76 38	E-33	1804	70	土師器 S字甕	古墳	(18.6)	(4.5)	-	内面指頭痕、外面ハケ	にぶい黄褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	頸部に横位のハケ	
76 39	E・F-34	343・1069・1682	73	土師器 S字甕	古墳	(16.8)	(4.8)	-	内面指頭痕、外面ハケ	赤褐	金雲母・白粒	破片	外面頸部にナデ	
77 40	E-34	800・801・811・1334・1347・1394・1395・1428・1460・1462・1463・1468・1473・1476・1478・1480・1481・1482・1483・1485・1486・1487・1488・1489・1493・1597・1606・1607・1609・1610・1683・1688・1690	23	土師器 甕	古墳	16.1	24.3	5.0	内外面ハケ	赤褐	金雲母・赤黒	80		
77 41	E・F-33・34	332・466-1・467・574・575・576・577・580・581・601-1・602-1・602-2・968・1137・1289・1290・1291・1648	29	土師器 甕	古墳	(11.4)	20.5	6.0	内外面ハケ	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒・小石	50	外面胴部中央付近こげ	
77 42	F-33	268・293・548・551・856・1403・1408・1409・1410・1416・1511	13	土師器 甕	古墳	(23.6)	(13.9)	-	内面ハケ後ナデ、外面ハケ	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	30		
77 43	E-33	1792・1793・1799・1800	50	土師器 甕	古墳	(26.8)	(13.6)	-	内面ハケ、外面口縁部指頭痕・胴部ハケ	暗褐赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	内面輪積み痕	
77 44	E-33	405・407・408・409・411・414・417・424	16	土師器 甕	古墳	(27.2)	(11.1)	-	内面口縁部ハケ、外面ハケ・頸部上指頭痕	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片		
77 45	E・F-34	1129・1132・1225	71	土師器 甕	古墳	(13.5)	(4.0)	-	口縁部内外面ミガキ、胴部内面指頭痕	にぶい黄褐	金雲母・白粒	破片		
77 46	E-33	1158・1641・1655・1723・1729・1778	2	土師器 甕	古墳	(15.8)	(10.8)	-	内外面ハケで、口縁内面のみハケ後ナデ	黒褐	金雲母・石英・白・黒粒	10	外面荒れている	
77 47	E-34	1061・1296・1297・1298・1637・1676・1677・1733・1810	15	土師器 甕	古墳	18.0	(21.0)	-	内外面ハケ	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	80	外面上半付着物、外面全体に荒れている	
77 48	F-33・34	540・926・927	7	土師器 甕	古墳	17.0	(4.5)	-	裏部内面ハケ後ナデ、外面ハケ、台部内面指頭痕	にぶい赤褐	金雲母・白・黒粒	10	内面に輪積痕	
77 49	E-33	1631	87	土師器 台付甕	古墳	-	(3.5)	-	裏部内面ハケ後ナデ、外面ハケ、台部内面指頭痕	赤	金雲母・石英・白・黒粒	破片		
77 50	D-31	241	72	土師器 甕	古墳	(17.0)	(3.2)	-	外面ハケ後ミガキ	にぶい黄褐	金雲母・石英・白・黒粒・小石	破片	外面赤色塗彩か	
78 51	E-34	1023・1024・1025・1029	24	土師器 台付甕	古墳	(5.7)	(14.4)	-	内外面ハケ	明赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	台部のみ	台部輪積み痕	
78 52	E-33	1805	83	土師器 甕	古墳	-	(2.1)	(6.8)	内面胴部ミガキ・底面ハケ、外面ミガキ、底面本葉痕	明赤褐	金雲母・赤・白・黒粒	破片		
78 53	F-33	855	64	土師器 甕	古墳	-	(3.2)	(15.0)	内面ヘラナデ、外面ハケ	にぶい黄褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	底面本葉痕	
78 54	E-33	1079・1094・1100	51	土師器 台付甕	古墳	(5.9)	(6.0)	-	内外面ハケ、台部内面指頭痕	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	ハケはうすい	
78 55	F-33	1446	22	土師器 高杯	古墳	-	(9.3)	8.5	内外面ハケ	にぶい赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	内面に折り返し	
78 56	E-34	762・781・916・917・920	3	土師器 台付甕	古墳	-	(6.6)	(9.6)	内外面ハケ	にぶい黄褐	金雲母・白粒	破片	ハケはうすい	
78 57	E-34	822・903・908・1303・1306・1307	10	土師器 高杯	古墳	(11.4)	10.1	(16.2)	内面杯部ミガキ・胴部ハケ、外面ミガキ	にぶい黄褐	金雲母・石英・白粒	破片	外面やや荒れている、孔3個	
78 58	E-34	1686	79	土師器 高杯	古墳	(9.9)	(6.2)	-	内外面ハケ後ミガキ	橙	赤・白粒	50		
78 59	D-28	244	37	土師器 高杯	古墳	-	(1.4)	-	内外面ハケ後ミガキ	橙	赤・白粒	破片		
78 60	E-34	894-2・950・1304	17	土師器 高杯	古墳	-	(2.5)	-	内外面ミガキ	橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	全体に磨耗、胴部割離	
78 61	E-34	894-1	9	土師器 高杯	古墳	(10.2)	(3.0)	-	内外面ミガキ	橙	雲母・赤・白・黒粒	破片	外面磨耗	
78 62	E-33	1518	46	土師器 高杯?	古墳	(9.6)	(2.3)	-	内面ハケ後ミガキ、外面ナデ	赤褐	石英・白・黒粒	15.0		
78 63	E-33・34	1188・1519・1520・1765	5	土師器 杯	古墳	(15.9)	(4.6)	-	内面ミガキ、外面ケズリ後よくミガキ	明赤褐	金雲母・白粒	50		
78 64	F-33	279・280・287・289・294・549・556・569・570・571・572・573・583・584・585・586・587・588・589・596・597・839・840・844・997・1002・1004・1356・1419・1422・1425	25	土師器 鉢	古墳	26.0	11.0	丸底	内面一部割離、外面口縁部ミガキ・胴部ヘラ削り	暗赤褐	金雲母	60		
78 65	E-33・34	1195・1254・1624・1781	4	土師器 鉢	古墳	-	(4.1)	-	内面下部ミガキ、外面ミガキ	赤褐	金雲母・白粒	50	外面割離部分にハケ。底面荒れている	
78 66	E-33	1175	88	土師器 器台	古墳	-	(4.7)	-	内面下部ミガキ	黄	金雲母・赤・白・黒粒	破片	外面割離のところにハケ	
78 67	一括	-	87	土師器 器台	古墳	-	(3.5)	-	内面幅広のミガキ・ナデ、外面ケズリ・ミガキ	橙	金雲母・白粒	40	孔3個(径1.2cm)	
78 68	E・F-34	667	75	土師器 鉢	古墳	-	(4.5)	4.5	内面ミガキ、外面ハケ・ミガキ	橙	金雲母・白・赤粒	15		
78 69	E-34	810・1477	44	土師器 鉢	古墳	(14.2)	3.7	3.0	外面ミガキ	灰黄褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	50	外面朱、内面黒色	
78 70	E-34	1277	86	土師器 鉢?	古墳	-	(1.1)	3.4	内外底面ミガキ	橙	白粒	破片		
78 71	E-34	957	92	土師器 ミニチュア鉢	古墳	(6.8)	(4.6)	-	内面指頭痕、外面ヘラナデ	赤褐	金雲母・石英・白粒	20	内面輪積み痕	
78 72	E-33	1727	90	土師器 ミニチュア鉢	古墳	(6.8)	(4.0)	-	内面指頭痕	暗赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	内外面輪積み痕	
78 73	D-29	172	1	土師器 ミニチュア鉢	古墳	5.8	3.5	2.0	内外面ミガキ	明赤褐	金雲母・黒	90		
78 74	E-35	1391	93	土師器 ミニチュア鉢	古墳	-	(1.9)	(2.5)	内面指頭痕、外面ヘラ削り	明黄褐	金雲母・赤・白粒	破片		
78 75	E-34	1671・1672	21	土師器 ミニチュア鉢	古墳	-	(2.2)	(1.8)	内外面ミガキ	明赤褐	金雲母・白・黒粒	30		
78 76	F-34	486	100	土師器 ミニチュア鉢	古墳	(3.4)	2.4	2.8	内面指頭痕	暗赤褐	金雲母・赤・白粒	40		
78 77	F-35	一括	89	土師器 甕	古墳	-	(3.6)	-	内面指頭痕	明褐	赤・白粒	破片	把手部	
78 78	F-35	713	99	土師器 杯	奈良	-	(1.2)	(9.8)	内面磨文、底面全面ヘラミガキ	黒	金雲母	破片		
78 79	一括	-	35	須恵器 蓋	奈良	(15.0)	(1.2)	-	灰	灰	白粒	破片		
78 80	D-28	156	56	土師器 皿	平安	(15.6)	2.5	(5.6)	外面下部凹底ヘラ削り	黄褐	金雲母・赤・白・黒粒	破片	全体に磨耗	
78 81	C-27	13-1・13-2・14・861	11	土師器 杯	平安	(12.1)	(4.2)	(4.0)	体部外面下部ヘラ削り、底面ヘラ削り	橙	金雲母・赤・白・黒粒	30	13-2は接合しないうけ同一個体	
78 83	C-27	13-3・一括	8	土師器 杯	平安	12.4	4.2~4.6	4.4	外面下半ヘラ削り、底面全面ヘラ削り	橙	赤・白・黒粒	70		
78 84	D-31	222	75	土師器 皿	平安	-	(1.2)	-	外面下半ヘラ削り	にぶい黄褐	金雲母・赤粒	破片	底面割書	
78 85	一括	-	61	土師器 小皿	平安	(8.6)	1.6	(4.6)	底面凹底糸切り	にぶい黄褐	金雲母・白・赤粒	35	内外面條付着	

図 番号	出土位置	遺物番号	種類	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調 (内)	色調 (外)	胎土	残存率	備考
78	86	-	104	土師器	皿	平安	〔8.6〕	2.3	4.8~5.0	底面回転糸切り	橙	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	80	
79	87	D-28	52	土師器	柱状高台皿	平安	〔15.0〕	5.4	〔7.0〕		浅黄橙	浅黄橙	雲母・石英・赤・白・黒粒	70	底面回転糸切り痕、指状口の磨耗
79	88	D-28	54	土師器	柱状高台皿	平安	-	〔2.0〕	8.4		橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	全体に磨耗
79	89	C-29	57	土師器	蓋	平安	-	〔2.6〕	-		橙	橙	赤・白粒	破片	
79	90	D-28	53	土師器	甕	平安	-	〔2.3〕	〔7.2〕		黄橙	黄橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
79	91	E-29	101	須恵器	甕	平安	-	〔8.6〕	-	内面同心円状宛具痕、内面並行タテ目痕	灰	灰	赤・白粒	破片	底面回転糸切り痕
79	92	西側	96	土師器	羽釜?	平安	〔26.0〕	〔3.3〕	-		明黄褐	明黄褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
79	93	一括	59	灰釉陶器	碗	平安	〔16.2〕	〔3.6〕	-		灰白	-	白・黒粒	破片	
79	94	C-27	60	灰釉陶器	碗	平安	〔12.0〕	〔2.5〕	-		灰白	-	白・黒粒	破片	
79	95	E-28	32	灰釉陶器	碗	平安	-	〔2.2〕	〔7.4〕		灰白	-	白・黒粒	10	
79	96	F-35	707	灰釉陶器	皿	平安	〔11.0〕	2.5	〔6.0〕	口クロナナテ	灰白	-	雲母・石英・赤・白・黒粒	25	濃汚掛分
79	97	E-28	85	陶器	壺?	平安	-	〔3.0〕	〔7.6〕		褐灰	-	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
79	98	D-29	188	陶器	壺	平安	-	〔6.4〕	〔13.4〕		灰白	-	白・黒粒	破片	
79	99	F-34	493	青磁	碗	平安	-	〔3.3〕	-	漣弁文	暗オリーブ	暗オリーブ	白粒	破片	趣州窯
79	100	E-27	46・47	陶器	甕	13世紀	〔44.6〕	〔5.1〕	-		橙	-	赤・白粒・小石	破片	常滑か
79	101	一括	66	陶器	甕?	中世	-	〔6.5〕	〔13.4〕	内外面ナナテ	橙	-	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
79	102	一括	77	陶器	甕	13世紀	-	〔4.9〕	〔18.4〕	内面ヘラナナテ・指頭痕	明赤褐	明赤褐	白・黒粒	破片	常滑か
79	103	一括	102	陶器	鉢	近世	〔20.6〕	〔3.2〕	-	口唇部分ら内面に施軸	橙	-	石英・赤・白・黒粒	破片	白色釉
79	104	F-35	14	土器	鉢?	?	〔33.6〕	〔4.9〕	-	内外面口クロナナテ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒・小石	破片	
79	105	F-35	42	土製品	鳥形	不明	長4.9	幅2.3	高2.9					99	尾部一部欠
79	106	一括	91	石器	砥石	?	長6.2	幅4.4	厚2.5					-	凝灰岩。2面

## 第5章 科学分析

### 第1節 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

足原田遺跡は、甲府盆地北東部の扇状地上に位置しており、平安時代後半を主とした遺構が検出されている。検出された遺構の中には、焼失家屋も認められ（第1次調査）、住居構築材などと考えられる炭化材が出土している。また、住居の竈内から、種実遺体や骨片が検出されている。

本報告では、住居跡から出土した炭化材、種実遺体、骨片の同定を行い、木材を含めた植物利用や動物利用に関する資料を得る。

#### 1. 炭化材の樹種

##### (1) 試料

試料は、8住（カマド）、10住（No.83）、13住（No.47）、15住（No.32・42）、18住（17・18住No.39・42）から出土した炭化材7点である。

##### (2) 分析方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）およびWheeler他（1998）を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林（1990）、伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

##### (3) 結果

炭化材は、全て落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された。

##### (4) 考察

住居跡から出土した炭化材は、8住の試料がカマドから出土しており、燃料材に由来する可能性があるが、他は全て床面から出土しており、垂木等の住居構築材に由来する可能性がある。これらの炭化材は、全て落葉広葉樹のクヌギ節であった。クヌギ節にはクヌギとアベマキの2種があるが、本地域ではクヌギが一般的で、アベマキは分布していないことから、今回の試料もクヌギの可能性もある。クヌギは、コナラと共に二次林を構成する種類であり、集落周辺に一般的であるが、河畔や後背湿地などコナラに比較してより湿った場所に生育する。木材は重硬で強度が高く、加工は困難な部類に入る。これらのことから、重硬で強度が高く、集落周辺で普通にみられるクヌギ節（クヌギ）を住居構築材や燃料材に利用したことが推定される。

本遺跡では、これまでに3住（第1次調査）から出土した炭化材の樹種同定が実施されており、クヌギ節を主とした結果が得られており、今回の結果とも調和的である（パリノ・サーヴェイ株式会社, 2005）。また、山梨県内では、韮崎市前田遺跡や長坂町健康村遺跡で平安時代の住居構築材等について樹種同定が実施されている（パリノ・サーヴェイ株式会社, 1988, 1994）。その結果をみると、健康村遺跡ではクヌギ節の多い結果が得られており、今回の結果ともよく似ている。一方、前田遺跡では、同じコナラ亜属のコナラ節が多く、クヌギ節が少ないが、コナラ節もクヌギ節と共に二次林を構成する種類であり、材質もよく似ていることから、基本的にはクヌギ節の多い住居跡と調和的な結果と考えられる。これらの結果から、平安時代の山梨県では住居構築材にクヌギ節やコナラ節等のコナラ亜属が住居構築材として利用されていたことが推定される。

#### 2. 種実遺体の種類

##### (1) 試料

種実同定は、1住カマド、3住カマド、4住カマド、5住カマド、8住カマド、10住カマド、12住カマド、13住カマド、15住（89）、19住カマド、20住（212）、20住カマド1、23住カマド、5号土坑4から検出された種実遺体14試料について実施する。

## (2) 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実を抽出する。現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川、1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか、2000）等との比較対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間には、ハイフォンで結んで表示する。分析後の種実遺体等は、種類毎に容器に入れて保管する。

## (3) 結果

種実同定の結果、栽培植物のモモ、イネ、アワーヒエーキビ、オオムギ、コムギ、マメ類の炭化種実が検出された他に、木の芽、炭化材、木材組織が確認されない種類・部位共に不明の炭化物などが確認された（表1）。

モモは、15住（89）から8個、20住（212）から1個、計9個が検出された。イネは、5号土坑4から8個、3住竈・8住竈から各2個、5住竈・13住竈から各1個、計14個が検出された。アワーヒエーキビは、1住竈から1個検出された。オオムギは、23住竈から2個、コムギは8住竈・5号土坑4から各1個、オオムギ・コムギは5号土坑4から1個検出された。マメ類は、1住竈から4個、5住竈・8住竈から2個、計8個が検出された。

検出された種実遺体は、全て炭化しており状態は不良である。

表1. 種実同定結果

試料名	部位	状態	1住竈	3住竈	4住竈	5住竈	8住竈	10住竈	12住竈	13住竈	15住(89)	19住竈	20住(212)	20住竈1	23住竈	5±4
モモ	核	炭化 破片	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-
	種子	炭化 破片	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
イネ	胚乳	炭化	-	2	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	-	8
アワーヒエーキビ	胚乳	炭化	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオムギ	胚乳	炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
コムギ	胚乳	炭化	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
オオムギ・コムギ	胚乳	炭化 破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
マメ類	種子	炭化 完形	2	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		炭化 破片	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木の芽	炭化		4	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
炭化材	炭化		3	2	3	5	-	-	-	1+	-	-	-	-	-	3
不明炭化物	炭化		-	-	10	7	-	1	3	2	10	2	6	3	1	6

## (4) 考察

モモ、イネ、アワーヒエーキビ、オオムギ、コムギ、マメ類は、古くからの栽培植物で古墳時代では確実にとされる（南木、1991）。モモは、中国からの渡来種とされ、観賞用の他、果実や核の中にある仁（種子）などが食用、薬用等に広く利用される。山梨県内でも度々種実や木材が確認されており、栽培されていたことが明らかとなっている。穀類のイネ、アワーヒエーキビ、オオムギ、コムギ、マメ類は、胚乳や種子が食用される植物質食糧である。これらの栽培植物の可食部である種実が、平安時代とされる住居内の竈や土坑から検出された状況を考慮すると、当該期の本遺跡周辺域における植物質食糧として利用されていたことが推定される。また、全て炭化していることから、火を受けたことが推定される。山梨県内では弥生時代～中世の住居跡から検出された炭化種実遺体の調査が行われており、本遺跡が所在する甲府盆地では、11遺跡における炭化種実遺体の調査事例が集成されている（櫛原、1999）。この調査によれば、弥生時代後期、古墳時代まではイネの比率が圧倒的に高く、8世紀前期から中期はムギ（オオムギ・コムギ）が、8世紀後期から11世紀まではイネが、12～13世紀は圧倒的にムギが高くなることが指摘されている。また、笛吹市一宮町内の9遺跡の検討からは、10世紀第二四半期頃からムギを中心とする雑穀類（アワ・キビ等）が増加する傾向が指摘されている。

本遺跡で確認されたモモ、イネ、アワーヒエーキビ、オオムギ、コムギ、マメ類は、量的検討に至る検出量ではないが、これらの複数種の植物質食糧が利用されていたことが指摘される。今後は、周辺遺跡の出土事例も併せて、植物質食糧の利用の詳細について検討していきたいと考える。

### 3. 骨の同定

#### (1) 試料

試料は、3号住居のカマドから採取された3住カマドおよび3住カマド(骨)①の2試料である。2試料とも土壌が付いた小片が複数点認められ、前者が1.0g、後者が2.0gである。なお、時代的には平安時代後期とされている。

#### (2) 分析方法

試料についての土壌を分離すると骨が崩壊するため、そのままの状態で見直し、その形態的特徴から種と部位の同定を行う。

#### (3) 結果および考察

試料は、いずれも白色～灰色を呈し、焼骨の特徴を示す。貝類や魚骨でなく、いずれも獣骨の骨片とみられる。ただし、微細片であり、特徴的な部位も認められないため、種の同定までには至らない。出土状況を考慮すると、食糧資源として用いられた後にカマド内へ投棄され、高温あるいは複数回にわたる熱を受け、さらに埋積後の経年変化によって細片化したと思われる。

#### 引用文献

林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

石川 茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.

伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.

伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.

伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.

伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.

伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.

櫛原 功一, 1999, 炭化種実から探る食生活 - 古代～中世を中心に -, 櫛原 功一(編著), 帝京大学山梨文化財研究所研究集会報告集2 食の復元 遺跡・遺物から何をよみとるか, 株式会社岩田書院, 81-98.

松谷 暁子, 1980, 十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について. 浦幌町郷土博物館報告, 第16号, 203-211.

松谷 暁子, 2000, 植物遺残の識別と保存について. Ouroboros, 東京大学総合研究博物館ニュース, Volume 5, Number 1, 8-10.

南木 睦彦, 1991, 栽培植物, 古墳時代の研究 4 生産と流通Ⅰ, 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太郎編, 雄山閣, 165-174.

南木 睦彦・中川 治美, 2000, 大型植物遺体. 琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書3-2 粟津湖底遺跡 自然流路(粟津湖底遺跡Ⅲ), 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会, 49-112.

中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.

パリオ・サーヴェイ株式会社, 1988, 前田遺跡出土炭化材同定. 「山梨県韮崎市 前田遺跡 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」, 韮崎市教育委員会, 37-39.

パリオ・サーヴェイ株式会社, 1994, 健康村遺跡自然科学分析調査報告. 「山梨県北巨摩郡長坂町 健康村遺跡 - (仮称) 東京都新宿区立区民健康村建設事業に伴う発掘調査報告書 -」, 新宿区区民健康村遺跡調査団, 116-128.

パリオ・サーヴェイ株式会社, 2005, 理化学的分析. 「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第230集 足原田遺跡Ⅰ 西関東連絡道路関連発掘調査報告書」, 山梨県教育委員会・山梨県土木部, 63-68.

島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.

Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



矢野 梓, 2002, 遺跡から出土した小型豆のDNA分析, DNA 考古学 Newsletter 3.

吉崎 昌一, 1992, 古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナル, No.355, 2-14.

## 第2節 鉄関連遺物の成分分析

JFE テクノリサーチ株式会社 分析・評価事業部 埋蔵文化財調査研究室

### 1. はじめに

山梨市万力に所在する足原田遺跡から出土した鉄関連遺物について、学術的な記録と今後の調査のための一環として化学成分分析を含む自然科学的観点での調査を依頼された。調査の観点として、出土鉄滓の化学成分分析、外観観察、ミクロ組織観察およびX線回折に基づき、資料の製造工程上の位置づけおよび始発原料などを中心に調査した。

### 2. 調査項目および試験・観察方法

#### (1) 調査項目

調査資料の記号、出土遺構・注記および調査項目を表1に示す。

#### (2) 調査方法

##### (i) 重量計測、外観観察および金属探知調査

資料重量の計量は電子天秤を使用して行い、少数点2位で四捨五入した。各種試験用試料を採取する前に、資料の外観をmm単位まであるスケールを同時に写し込みで撮影した。資料の出土位置や資料の種別等は提供された資料に準拠した。

着磁力調査については、直径30mmのリング状フェライト磁石を使用し、6mmを1単位として35cmの高さから吊した磁石が動きは始める位置を着磁度として数値で示した。遺物内の残存金属の有無は金属探知機(MC: metal checker)を用いて調査した。金属検知にあたっては参照標準として直径と高さ等を等しくした金属鉄円柱(1.5mmφ X 1.5mm H、2.0mmφ X 2.0mm H、5mmφ X 5mm H、10mmφ X 10mm H、16mmφ X 16mm H、20mmφ X 20mm H、30mmφ X 30mm H)を使用し、これとの対比で金属鉄の大きさを判断した。

##### (ii) 化学成分分析

化学成分分析は鉄鋼に関するJIS分析法に準じて行っている。

- ・ 全鉄(T.Fe): 三塩化チタン還元-ニクロム酸カリウム滴定法。
- ・ 金属鉄(M.Fe): 臭素メタノール分解-EDTA 滴定法。
- ・ 酸化第一鉄(FeO): ニクロム酸カリウム滴定法。
- ・ 酸化第二鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>): 計算。
- ・ 化合物(C.W): カールフィッシャー法。
- ・ 炭素(C)、イオウ(S): 燃焼-赤外線吸収法。
- ・ ライム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化マンガン(MnO)、酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O)、珪素(Si)、マンガン(Mn)、リン(P)、銅(Cu)、ニッケル(Ni)、コバルト(Co)、アルミニウム(Al)、ヴァナジウム(V)、チタン(Ti): ICP 発光分光分析法。
- ・ シリカ(SiO<sub>2</sub>)、アルミナ(Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)、酸化リン(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、酸化カリウム(K<sub>2</sub>O): ガラスビード蛍光X線分析法。

但し CaO, MgO, MnO は含有量に応じて ICP 分析法またはガラスビード蛍光X線分析法を選択。

- ・ 酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O): 原子吸光法。

なお、鉄滓中成分は、18成分(全鉄 T.Fe、金属鉄 M.Fe、酸化第一鉄 FeO、酸化第二鉄 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、シリカ SiO<sub>2</sub>、アルミナ Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、ライム CaO、マグネシア MgO、酸化ナトリウム Na<sub>2</sub>O、酸化カリウム K<sub>2</sub>O、二酸化チタン TiO<sub>2</sub>、酸化マンガン MnO、酸化リン P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、コバルト Co、化合物 C.W、炭素 C、ヴァナジウム V、銅 Cu)を化学分析している。分析は各元素について分析し、酸化物に換算して表示している。

羽口・胎土成分は、13成分（全鉄 T.Fe、酸化鉄 FeO、シリカ SiO<sub>2</sub>、アルミナ Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、ライム CaO、マグネシア MgO、化合水 C.W.、灼熱減量 Ig. Loss、二酸化チタン TiO<sub>2</sub>、酸化マンガン MnO、酸化ナトリウム Na<sub>2</sub>O、酸化カリウム K<sub>2</sub>O、炭素 C、）を化学分析している。なお、粘土については産地検討のためルビジウム Rb とストロンチウム Sr についても分析した。

鉄製品中成分の化学分析は、13成分（炭素 C、シリコン Si、マンガン Mn、リン P、イオウ S、銅 Cu、ニッケル Ni、コバルト Co、アルミニウム Al、ヴァナジウム V、チタン Ti、カルシウム Ca、マグネシウム Mg）を化学分析している。

### (iii) 顕微鏡組織観察

資料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨（鏡面仕上げ）する。炉壁・羽口・粘土などの鉱物性資料については顕微鏡で観察しながら代表的な鉱物組織などを観察し、その特徴から材質、用途、熱履歴などを判断する。滓関連資料も炉壁・羽口などと同様の観察を行うが特徴的鉱物組織から成分的な特徴に結びつけ製・精錬・鍛造工程の判別、使用原料なども検討する。金属鉄はナイトール（5%硝酸アルコール液）で腐食後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、顕微鏡組織および介在物（不純物、非金属鉱物）の存在状態等から製鉄・鍛冶工程の加工状況や材質を判断する。原則として100倍および400倍で撮影を行う。必要に応じて実体顕微鏡（5倍～20倍）による観察もする。

### (iv) X線回折測定

試料を粉碎して板状に成形し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれに固有な反射（回折）された特性X線を検出（回折）できることを利用して、試料中の未知の化合物を同定することができる。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定される。

測定装置 理学電気株式会社製 ロータフレックス（RU-300型）

測定条件 ①使用X線：Cu-K $\alpha$ （波長=1.54178Å） ②K $\beta$ 線の除去：グラファイト単結晶モノクロメーター ③管電圧・管電流：55kV・250mA ④スキャンング・スピード：4.0°/min ⑤サンプリング・インターバル：0.020° ⑥D.S.スリット：1° ⑦R.S.スリット：0.15mm ⑧S.S.スリット：1° ⑨検出器：シンチレーション・カウンター

## 3. 調査結果および考察

表1に調査資料と調査項目をまとめた。全資料の外観写真を図版40に示す。各資料の調査結果をまとめ、最も確からしい推定結果を最後にまとめる。

**資料番号No.1** 鉄滓→精錬鍛冶滓、着磁度：1、メタル反応：無し

外観：重量 39.4g、長さ41.5mm、幅36.4mm、厚さ32.3mm。全面に水酸化鉄の褐色を呈する酸化土砂が付着した資料で、数カ所に滓と思われる黒色部が見られる。全体的には鉄滓か鉄塊の錆化物か判断しにくい。破面は3である。1mm弱の大きさの白い粒状物が混じっている。全体に着磁はなく、一部褐色の濃い部分に着磁度1位の着磁がある。この部分を調査する。

顕微鏡組織：資料の全面にやや白色を帯びた灰色で樹枝状のウスタイトが観察され、それらの間にややまばらに灰色の濃い多角形が崩れた形状のウルボスピネルが観察される。この2つの鉱物相の裏に隠れるように棒状のファイヤライトが観察される。明瞭な鉱物相はこの3種類である。ウルボスピネルは砂鉄を始発原料とする鉄滓によく見られる鉱物相である。

X線回折：ウスタイトが最高強度を示し、次いでウルボスピネルが高い強度を示している。ファイヤライトは中程度の回折線を示している。他の鉱物相は見られない。

化学成分：全鉄57.4%に対して金属鉄は0.28%とわずかである。FeOは62.2%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は12.5%、SiO<sub>2</sub>は10.5%である。TiO<sub>2</sub>は4.87%含まれており、始発原料は砂鉄と推察される。FeO- SiO<sub>2</sub>- TiO<sub>2</sub>の3成分系に換算するとFeOは82.9%、SiO<sub>2</sub>は11.7%、TiO<sub>2</sub>は5.4%となり参考のFeO- SiO<sub>2</sub>- TiO<sub>2</sub>系の平衡状態図ではウルボスピネ

ルとの境界に近いウスタイト領域にあり鉍物相としてウスタイト、ウルボスピネル、ファイヤライトが晶出すると考えられる。顕微鏡観察、X線回折の結果と一致する。

以上の結果を総合すると本資料は砂鉄を始発原料とし、(1) 鍛冶工程で生成した鉄滓で、(2) 精錬鍛冶滓と推察される。

**資料番号No.2** 鉄滓→製錬滓、着磁度：<1、メタル反応：無し

外観：重量70.2g、長さ46.8mm、幅38.8mm、厚さ32.8mm。暗褐色の滓に炉壁が溶融付着したように見える。滓と思われる部分は比較的緻密だが、炉壁と滓の接合部分は大きく発泡している。破面は4である。滓部分から調査試料は採取する。

顕微鏡組織：資料全面がやや灰色の多角形が崩れたウルボスピネルとファイヤライトおよびガラス質から成っている。外観で炉壁と反応しているように見えたが顕微鏡観察でもそれを裏付けるようにガラス質が多くなっている。

X線回折：ウルボスピネルが最高強度を示し、ファイヤライトの弱い回折線が観察される。リュウサイトの弱い回折も現れている。

化学成分：全鉄39.6%と低く、金属鉄は0.50%である。FeOは45.3%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は5.56%でSiO<sub>2</sub>は20.4%と高い。TiO<sub>2</sub>も9.66%と高く、始発原料は砂鉄と推察される。FeO- SiO<sub>2</sub>- TiO<sub>2</sub>の3成分系に換算するとFeOは62.9%、SiO<sub>2</sub>は25.2%、TiO<sub>2</sub>は11.9%となり参考のFeO- SiO<sub>2</sub>- TiO<sub>2</sub>系の平衡状態図ではファイヤライト、クリストバライトとの境界に近いウルボスピネル領域にあり、鉍物相としてガラス質が多く、ウルボスピネル、ファイヤライトが晶出すると考えられる。顕微鏡観察、X線回折の結果と一致する。一方、成分的な特徴としてはCaO、MgO、K<sub>2</sub>Oが高く、さらにMnO、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>も高い点が上げられる。ほぼ炉壁の胎土成分と見られる資料No.11のSiO<sub>2</sub>、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>に対するCaO、MgO、K<sub>2</sub>O、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>に比べ明らかに本資料の方が高く、単に炉壁が溶けたと言うよりも造滓材使用の可能性を伺わせる。

以上の結果を総合すると本資料は砂鉄を始発原料する製錬滓が炉壁などの耐火材と反応した滓の可能性が高いと思われる。CaO、MgO、K<sub>2</sub>O、MnO、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>等が高い特徴があり、造滓材などが使用された可能性がある。

**資料番号No.3** 鍛冶滓→製錬滓、着磁度：<1、メタル反応：無し

外観：重量74.0g、長さ51.4mm、幅45.0mm、厚さ33.0mm。基底が黒色の滓に酸化土砂あるいは炉壁材などが付着した不定形な滓である。重量感はあるものの、小さな気孔が多く見られる鍛冶滓と思われる資料である。明瞭な破面は2で、着磁は非常に弱く1以下、メタル反応はない。滓部分を1/3カットして調査する。

顕微鏡組織：資料全面に乳白色の樹脂状ウスタイトとその背後のガラス質の中に大きく成長したファイヤライトが観察される。鉍物組織としてはこの2種類のみである。精錬鍛冶滓や鍛錬鍛冶滓によく見られる組織である。

X線回折：ウスタイトとファイヤライトが最高回折強度を示し、リュウサイトの中程度の回折線が見られる。ゲーサイトの存在も確認される。主要鉍物相は顕微鏡組織と一致している。

化学成分：全鉄52.8%に対して金属鉄は0.11%とわずかである。FeOは59.9%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は8.76%でSiO<sub>2</sub>は20.8%と高い。TiO<sub>2</sub>は0.37%とわずかである。結合水は0.53%と低く錆化鉄などはあまりないと思われる。FeOとFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の比は87.2:12.8でFeO-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-SiO<sub>2</sub>の3成分系に換算するとFeOは67.0%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は9.8%、SiO<sub>2</sub>は23.2%となり参考のFeO-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-SiO<sub>2</sub>系の平衡状態図ではウスタイトとファイヤライトの境界付近にあり、この両相が主要鉍物相になると考えられる。平衡状態図上の位置は顕微鏡観察、X線回折と一致する。造滓成分は30.35%と比較的多い。原料に含まれていたと思われるTiO<sub>2</sub>は0.37%と少なく始発原料が砂鉄であるかは判断できない。

以上の結果を総合すると本資料は(1) 鍛冶工程で生成した鉄滓で、(2) 精錬鍛冶工程の後期か鍛錬鍛冶工程の初期に生成した鍛冶滓と推察される。

**資料番号No.4 鍛冶滓、着磁度：無し、メタル反応：無し**

外観：重量97.2g、長さ62.0mm、幅55.4mm、厚さ32.7mm。滓に炉底の土砂が厚く付着した鍛冶滓と思われる。上面は平らで5～10mm大の窪みが数ヶ所ある。下面側は滓に茶褐色の土砂が厚く付着している。破面は3である。滓は黒色で小さな気孔が多く存在している。外観上は資料3と類似の滓である。滓部分1/3カットで調査する。

顕微鏡組織：代表的な組織では樹枝状のウスタイトが全面にあり、その背後に同じく全面にファイヤライト観察される。全体の1/4ではファイヤライトが圧倒的に多く細く小さな樹枝状にウスタイトが生成している。SiO<sub>2</sub>が多い精錬鍛冶滓によく見られる組織である。

X線回折：ウスタイトとファイヤライトが最高回折強度を示しハーシナイトの弱い回折線が見られる。主要鉱物相は顕微鏡組織と一致している。

化学成分：全鉄54.1%に対して金属鉄は0.31%とわずかである。FeOは61.9%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は8.11%でSiO<sub>2</sub>は20.4%と多い。TiO<sub>2</sub>は0.41%と少ない。結合水は0.42%と低く錆化鉄はあまりないと思われる。FeOとFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の比は88.4：11.6でFeO-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-SiO<sub>2</sub>の3成分系に換算するとFeOは68.5%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は9.0%、SiO<sub>2</sub>は22.6%となり参考のFeO-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-SiO<sub>2</sub>系の平衡状態図では資料3とほとんど同じウスタイトとファイヤライトの境界付近にあり、この両相が主要鉱物相となると考えられる。平衡状態図上の位置は顕微鏡観察、X線回折と一致する。造滓成分は27.93%と比較的多い。原料由来と思われるTiO<sub>2</sub>は0.41%と少なく始発原料が砂鉄であるかは判断できない。

以上の結果を総合すると本資料は（1）鍛冶工程で生成した鉄滓で、（2）精錬鍛冶工程の後期か鍛錬鍛冶工程の初期に生成した鍛冶滓と推察される。

**資料番号No.5 鍛冶滓、着磁度：無、メタル反応：無**

外観：重量15.0g、長さ45.2mm、幅31.3mm、厚さ17.2mm。暗褐色の不定形な鍛冶滓と思われる資料である。上面は凹凸が著しく、1ヶ所に木炭痕が認められる。半熔融状態のものが固着したように見える。破面で見ると気孔の多い粗鬆な滓である。下面には白色の小さな石灰石様のものが付着している。中央でカットし、試料採取する。

顕微鏡組織：全体的に気孔の多い資料である。全面が樹脂状のウスタイトと破損した短冊状のファイヤライトからなる組織である。他には明瞭な鉱物相は観察されない。SiO<sub>2</sub>が多い精錬鍛冶滓によく見られる組織である。

X線回折：ウスタイトが最高回折強度を示し、ファイヤライトとリューサイトの弱い回折線が見られる。主要鉱物相は顕微鏡組織と一致している。

化学成分：全鉄50.6%に対して金属鉄は0.47%とわずかである。FeOは55.2%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は10.3%、SiO<sub>2</sub>は18.6%である。TiO<sub>2</sub>は0.29%と少ない。結合水は1.11%含まれており、錆化鉄が存在していると思われる。CaO、K<sub>2</sub>Oが高い成分の特徴もある。特にP<sub>2</sub>O<sub>5</sub>が0.695%と非常に高く、CaO、K<sub>2</sub>O、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>の高い点は資料2と共通した傾向である。FeOとFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の比は84.2：15.8でFeO-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-SiO<sub>2</sub>の3成分系に換算するとFeOは65.6%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は12.3%、SiO<sub>2</sub>は22.1%となり参考のFeO-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-SiO<sub>2</sub>系の平衡状態図では資料3とほとんど同じウスタイトとファイヤライトの境界付近のファイヤライト領域にあり、この両相が主要鉱物相となると考えられる。平衡状態図上の位置は顕微鏡観察、X線回折と一致する。造滓成分は30.49%と比較的多い。原料由来と思われるTiO<sub>2</sub>は0.29%と少なく始発原料が砂鉄であるかは判断できない。

以上の結果を総合すると本資料は（1）鍛冶工程で生成した鉄滓で、（2）精錬鍛冶工程の後期か鍛錬鍛冶工程の初期に生成した鍛冶滓と推察される。

**資料番号No.6 鉄塊→鑄鉄、着磁度：3、メタル反応：無**

外観：重量86.3g、長さ53.7mm、幅41.2mm、厚さ31.8mm。錆化した鉄塊と思われる。ずんぐりとしただる

ま形をしている。太い側には錆化膨張に伴う亀裂が数条入っている。長手方向2/3で切断し、調査を行う。

顕微鏡組織：資料の大部分は錆化しているが写真のように錆化途中の共晶鑄鉄が明瞭に観察される。従って、本資料はCが4.3%位の鑄鉄製品であったと思われる。

X線回折：マグネタイトとシデライト（炭酸鉄）が最強強度の回折線を示し、コーエナイト（セメント）の強い回折線が観察される。ゲーサイト（錆化鉄）と石英の弱い明瞭な回折線も見られる。この結果は顕微鏡観察とともに本資料が非常にCの高い鉄の錆化物であることを示している。

化学成分：全鉄61.7%に対して金属鉄は17.4%と相当量の金属鉄が残っている。P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>は0.309%と相当高い値である。TiO<sub>2</sub>は0.04%と非常に低く、TiO<sub>2</sub>による始発原料の推定はできない。SiO<sub>2</sub>は3.95%と少ない。その他のAl<sub>2</sub>O<sub>3</sub>なども非常にすくなく、これらは分析資料に不可避免的に混入した土砂の一部と考えられる。結合水は4.05%と非常に高く、ゲーサイトなどの錆化鉄が相当含まれていることを示している。Cも4.87%と非常に高く。顕微鏡組織で見られたようにCの高い鑄鉄が錆化していることやX線回折でセメントが同定されていることと一致する。

以上の結果を総合すると本資料は（1）鑄鉄錆化物と推察されるが（2）用途、始発原料は特定できない。

#### 資料番号No.7 鉄塊→鑄鉄、着磁度：3以下、メタル反応：無し

外観：重量 7.8g、長さ20.5mm、幅18.1mm、厚さ16.5mm。重量感のある鉄塊資料で、大きさの割に着磁が強く、着磁度3である。メタル反応はない。表面は鉄錆の茶褐色を呈し、一見泥の固まりのようにも見えるが、錆化膨張に伴う亀裂が一条認められる。破面はない。

顕微鏡組織：資料の一部に針状のセメントと思われる金属鉄が遺存している。レーデブライト共晶（C:4.3%）の鑄鉄組織の痕跡を残す錆化組織が観察される。また、鑄鉄の片状黒鉛が観察され本資料は鑄鉄であったことが分かる。化学成分：全鉄50.8%に対して金属鉄は2.57%残っている。結合水は7.11%と非常に高く、ゲーサイトなどの錆化鉄が相当含まれていることを示している。Cも4.22%と非常に高く、顕微鏡組織で見られたようにCの高い鑄鉄が錆化していることと一致する。P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>は0.330%と相当高い値である。TiO<sub>2</sub>は0.09%と非常に低く、TiO<sub>2</sub>による始発原料の推定はできない。SiO<sub>2</sub>は10.9%含まれており、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>などもすくなく、これらは分析資料に不可避免的に混入した酸化土砂の一部と考えられる。

以上の結果を総合すると本資料は（1）鑄鉄と推察されるが、鉄製品か素材かは特定できない。また、始発原料についても不明である。

#### 資料番号No.8 鉄→錆化鉄、着磁度：無、メタル反応：無

外観：重量6.0g、長さ40.1mm、幅20.1mm、厚さ3.8mm。一端がまが玉のように細く伸び、他端が犬の足骨のような形状の鉄錆の茶褐色をした資料である。縦方向に錆化膨張に伴う長さ20mmの鋭い亀裂が認められる。表面は大きな凹凸は少なく、酸化土砂が薄く附着しているような外観である。錆化鉄塊と思われる。着磁、メタル反応ともない。顕微鏡組織：資料全体が錆化鉄と土砂が渾然一体となった中空の酸化土砂の状態となっており資料を特定する情報は得られない。

化学成分：全鉄50.1%に対して金属鉄は0.45%とわずかである。FeOは2.72%、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は68.0%、SiO<sub>2</sub>は18.9%、TiO<sub>2</sub>は0.14%とわずかである。

以上の結果を総合すると本資料は鉄の錆化物と推察されるが、用途、始発原料等不明である。

#### 資料番号No.9 鉄塊→鑄鉄、着磁度：3、メタル反応：無

外観：多片に割れた資料で表面は鉄錆の茶褐色を呈するが、割欠面は一部に赤錆も見られるが、黒錆化している。大きめの資料3個の重量などは以下の通りである。重量5.2g、長さ20.8mm、幅16.4mm、厚さ13.7mm。重量1.4g、

長さ15.9mm、幅8.1mm、厚さ7.8mm。重量1.8g、長さ15.1mm、幅11.0mm、厚11.5mm。その他の重量は6.6gである。錆化鉄塊と思われる資料である。最大被片の緻密な部分について検鏡、X線回折する。

顕微鏡組織：全面が錆化物の組織となっている。亜共晶の鑄鉄組織の痕跡がみられ、鑄鉄の錆化物と推察される。

X線回折：中程度のマグネタイトの回折線があり、ゲーサイト、石英、の弱い回折線、シデライト、セメンタイト、アノーサイトなどの存在が確認できる。本資料が鑄鉄の錆化物でそれに土砂が一部混じっていることを示している。

化学成分：全鉄56.4%に対して金属鉄は2.96%残っている。結合水は7.52%と非常に高く、ゲーサイトなどの錆化鉄が相当含まれていることを示している。Cも2.91%と非常に高く、顕微鏡組織で見られたようにCの高い鑄鉄が錆化していることと一致する。P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>は0.372%と相当高い値である。TiO<sub>2</sub>は0.08%と非常に低く、TiO<sub>2</sub>による始発原料の推定はできない。SiO<sub>2</sub>は7.01%と低く、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>などもすくなく、これらは分析資料に不可避免的に混入した酸化土砂の一部と考えられる。

以上の結果を総合すると本資料は錆化した鑄鉄と推察されるが、鉄製品か素材かは特定できない。また、始発原料についても不明である。

#### 資料番号No.10 錆化鉄塊→錆化鑄鉄製品、着磁度：2、メタル反応：無し

外観：重量30.0g、長さ53.9mm、幅29.3mm、厚さ23.0mm。生ガキのような細長く丸く太った形状の資料で表面は鉄錆の茶褐色を呈し、酸化土砂が薄く付着しているように見える。資料の一端に巾5mm、長さ12mm位の木炭片が噛み込んでいる。長手方向に細い錆化亀裂が一条、太い側の端面に同じく二条観察される。錆化鉄塊のように思われる。切断写真（資料No.10）に見られるように本資料は中空円筒状の鉄製品が錆化していることがわかる。

顕微鏡組織：資料全面が錆化鉄と酸化土砂である。ウスタイトがわずかに見られる部分もあるが、鉄あるいは鉄製品に関する知見は得られない。

X線回折：錆化鉄であるゲーサイトの中程度の回折線と同じくマグネタイトの中程度の回折線がみられる。土砂成分の石英、アノーサイトの回折線も見られる。これらの結果は本資料が錆化鉄と酸化土砂の混合物であることを示している。また、Fe<sub>3</sub>C（セメンタイト）の存在も弱いながら確認でき、本資料が高Cの鉄であったことを示している。おそらく、鑄鉄であったと見られる。

化学成分：全鉄52.7%に対して金属鉄は0.28%である。結合水は7.00%と非常に高く、ゲーサイトなどの錆化鉄が相当含まれていることを示している。Cも4.57%と非常に高く、確認されCの高い鑄鉄が錆化している可能性があり、X線回折でFe<sub>3</sub>C（セメンタイト）が同定されていることと一致する。P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>は0.234%と高い値である。TiO<sub>2</sub>は0.08%と非常に低く、TiO<sub>2</sub>による始発原料の推定はできない。SiO<sub>2</sub>は8.75%と低く、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>などもすくなく、これらは分析資料に不可避免的に混入した酸化土砂の一部と考えられる。

以上の結果を総合すると本資料は錆化した鑄鉄製の中空円筒状鉄製品と推察されるが、用途、始発原料は不明である。

#### 資料番号No.11 鍛冶滓→炉壁付着滓（精錬鍛冶滓）、着磁度：1、メタル反応：無し

外観：重量23.2g、長さ55.4mm、幅32.8mm、厚さ19.0mm。炉壁のような耐火物と接触結合した鍛冶滓と思われる。不定形な形状の資料である。上面側は小さな凹凸が著しく、半分は黒褐色、半分は茶褐色を呈している。下面側は小さな粒子に押し付けられたような状態になっており充填層の状態を映している。色は暗褐色である。滓側に弱い着磁がある。メタル反応はない。破面は2である。

顕微鏡組織：顕微鏡組織の大部分はファイヤライトを主体とする組織であるが一部に樹枝状ウスタイトとファイヤライトの混合組織と成っている。ガラス質滓や炉壁付着滓に見られる組織である。外観から想定される組織である。

X線回折：長石類の代表鉱物の1つであるアノーサイトが中程度の強度の回折線を示し、その他のハーシナイト、ファイヤライト、マグネタイト、カルサイトの弱い回折線が見られる。鉄酸化物と炉壁などが反応していることを示している。

化学成分：全鉄は11.5%と非常に少なく、 $\text{SiO}_2$ と $\text{Al}_2\text{O}_3$ はそれぞれ47.0%、24.1%と非常に多く炉壁などの耐火材が主体であることが分かる。 $\text{TiO}_2$ は1.09%含まれている。 $\text{T.Fe}$ が50%~60%含まれる通常の精錬鍛冶滓が $\text{T.Fe}$ が11.5%位まで炉壁で薄まったと仮定すると $\text{TiO}_2$ は約5~6倍の5.5~6.5%位と推定され、始発原料は砂鉄と判断できる。

以上の結果を総合すると本資料は砂鉄を始発原料とする精錬鍛冶滓と炉壁が反応した炉壁付着滓と推察される。

**資料番号No.12** 鍛冶滓→精錬鍛冶滓、着磁度：2、メタル反応：無し

外観：重量56.4g、長さ70.7mm、幅42.7mm、厚さ16.7mm。重量感のある偏平な滓で鍛冶滓と思われる。右端約1/4は茶褐色の酸化土砂のように見える。上面はやや凹形で平滑である。下面はしわが寄り充填物の状態を映し、凹凸が大きい。着磁は弱く、メタル反応はない。

顕微鏡組織：ファイヤライトが主体で乳白色ウスタイトが観察される。また、多角形状のやや灰色の濃いウルボスピネルも観察される。ウスタイトが多く、銹化鉄のゲーサイト、ファイヤライトが観察される組織である。ウルボスピネルが見られることから始発原料が砂鉄と考えられ、鍛冶滓でも精錬鍛冶滓の可能性が高い。

X線回折：ウスタイトが最強回折強度を示し、ファイヤライトが強い回折強度を示す。ハーシナイト、マグネタイトは中程度の回折線を示している。リユーサイト、ゲーサイトは存在が確認される。

化学成分：全鉄54.3%に対して金属鉄は0.17%とわずかである。化合水が1.8%あり、ゲーサイトなどの銹化鉄が含まれていると見られる。 $\text{FeO}$ は44.6%、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$ は27.8%、 $\text{SiO}_2$ は18.2%で $\text{TiO}_2$ は0.32%と少ない。 $\text{FeO}$ と $\text{Fe}_2\text{O}_3$ の比は85.1:14.9で $\text{FeO-Fe}_2\text{O}_3\text{-SiO}_2$ の3成分系に換算すると $\text{FeO}$ は49.2%、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$ は30.7%、 $\text{SiO}_2$ は20.1%となり参考の $\text{FeO-Fe}_2\text{O}_3\text{-SiO}_2$ 系の平衡状態図ではマグネタイト領域にある。平衡状態図上の位置と顕微鏡観察、X線回折と一致しないのはゲーサイトなどの銹化鉄の存在により実体は $\text{Fe}_2\text{O}_3$ が多い側にずれているためと思われる。造滓成分は25.45%とやや高い。

以上の結果を総合すると本資料は砂鉄を始発原料とし、(1)鍛冶工程で生成した鉄滓で、(2)精錬鍛冶工程の後期か鍛錬鍛冶工程の初期に生成した鍛冶滓と推察される。

**資料番号No.13** 椀型滓→鍛冶滓、着磁度：1、メタル反応：無し

外観：重量29.9g、長さ48.9mm、幅29.1mm、厚さ20.3mm。椀型滓の被片と思われる下面側が湾曲し、上面は大きなしわが寄り、表面は滑らかだが凹凸の大きい資料である。被面は1である。側面には10mm大の木炭痕があり、上面にも木炭の噛み込み跡が2ヶ所ある。破面で見ると大きな気泡が数個認められるが、基地は緻密で重量感がある。着磁度1の弱い着磁があり、メタル反応は無い。色は褐色である。

顕微鏡組織：資料の80%位は樹枝状や繭玉状のウスタイトが多く、その背後に沈むような棒状ファイヤライトとからなる組織である。残り20%位はファイヤライトの方が多数組織からなっている。全体的にはこの2種類の鉱物相から成る組織で精錬鍛冶滓や鍛錬鍛冶滓によく見られる組織である。

X線回折：ウスタイトが最高強度を示し、次いでファイヤライトの中程度の回折線が観察される。他の鉱物としては弱いリユーサイトが同定される。主要鉱物は顕微鏡観察と一致している。

化学成分：全鉄55.9%に対して金属鉄は0.14%とわずかである。 $\text{FeO}$ は62.1%、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$ は10.7%、 $\text{SiO}_2$ は17.3%、 $\text{TiO}_2$ は0.34%とわずかである。 $\text{FeO}$ と $\text{Fe}_2\text{O}_3$ の比は85.3:14.7で $\text{FeO-Fe}_2\text{O}_3\text{-SiO}_2$ の3成分系に換算すると $\text{FeO}$ は68.9%、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$ は11.9%、 $\text{SiO}_2$ は19.2%となり参考の $\text{FeO-Fe}_2\text{O}_3\text{-SiO}_2$ 系の平衡状態図ではファイヤライトの境界に近いウスタイト領域にある。ウスタイト、ファイヤライトが鉱物相として現れると考えられる。平衡状態図上の位置は顕微鏡観察、X線回折と一致する。造滓成分は25.06%とやや高い。一方、成分的な特徴としては $\text{CaO}$ 、 $\text{MgO}$ 、 $\text{K}_2\text{O}$ が高く、さらに $\text{P}_2\text{O}_5$ も高い点が上げられる。原料に含まれていたと思われる $\text{TiO}_2$ は0.34%と少ない。

く始発原料が砂鉄であるかは判断できない。

以上の結果を総合すると本資料は（１）鍛冶工程で生成した鉄滓で、（２）精錬鍛冶工程の後期か鍛錬鍛冶工程の初期に生成した鍛冶滓と推察される。始発原料は明らかでない。

**資料番号No.14** 鍛造剥片？→上皮片？、着磁度：測定できず、メタル反応：無し

外観：酸化鉄色を帯びた砂礫である。全量を調査したが鍛造剥片と思われる資料は4片である（外観写真14の幅の広い資料）。大きなもの3点は順に、重量0.076g、長さ7.2mm、幅5.0mm、厚さ1.7mm。重量0.014g、長さ6.0mm、幅3.5mm、厚さ1.2mm。重量0.024g、長さ8.4mm、幅3.6mm、厚さ0.8mm。他6点は0.037g。しかし、これらも通常の鍛造剥片に比べやや厚く上皮片の可能性も考えられる。顕微鏡観察のみ実施した。

顕微鏡組織：剥片資料の組織はいわゆる鉄滓のものとは異なり灰汁の様に見られる。鍛錬鍛冶で灰汁などが使われた可能性があり、上皮片ではないかと思われる。米粒状資料の組織は木炭で樹皮に近い部分で樹種は広葉樹と見られる。

#### 4. まとめ

##### 1) 遺跡の性格

1号住居跡から出土した資料1と資料2はそれぞれ砂鉄を原料とする精錬鍛冶滓と製錬滓と推察された。特に資料1は判断には曖昧さが少なく、製錬滓や鍛錬鍛冶滓の可能性は非常に少ない。12号住居跡から出土した資料3と資料4は精錬後期から鍛錬鍛冶初期にかけての滓と推察された。15号住居跡から出土した資料5、6、7、8、9、10は資料5を除き鑄鉄または鉄の銹化物と判断され、資料5は精錬後期から鍛錬鍛冶の初期の滓と推察された。20号住居跡から出土した資料11は炉壁附着滓と判断されたが滓そのものは精錬鍛冶滓と推察された。資料12は精錬鍛冶滓の可能性が高い。本住居跡からは羽口も出土していることから精錬鍛冶が行われていた可能性が高い。D-17G2481の旧河道の淵より出土した資料13は精錬後期から鍛錬鍛冶初期の滓と判断された。羽口も出土している5号土坑から出土の資料14は鍛錬鍛冶の灰汁の可能性が考えられた。

以上から本遺跡では精錬鍛冶から鍛錬鍛冶の作業が行われていた可能性が高いように思われる。

鑄鉄と推察された資料は資料10を除きいずれも鉄製品か否か明瞭でなく、鑄造が行われていたのか、素材であったのかは明らかでない。

##### 2) 滓の成分的特徴

本調査の鉄滓はCaO、MgO、K<sub>2</sub>O、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>の高いものが多く成分的な特徴と成っている。鑄鉄と判断された資料のPも高い傾向があり、調査した滓との関連も考えられるが、詳細にはさらにデータの積み重ねが必要である。

##### 3) 始発原料

本調査の鉄滓では資料1、資料2、資料11がTiO<sub>2</sub>の含有量から始発原料は砂鉄と判断した。その他の資料はTiO<sub>2</sub>が低く、始発原料を砂鉄とは判断できなかった。しかし、CuやMnOも低く鉍石系とも判断できない。

##### 4) 鍛錬鍛冶滓

本調査では明瞭に鍛錬鍛冶滓と判断できる資料は無く、唯一資料14がその可能性があるにとどまった。さらに、分析調査を増やすか、鍛造剥片の検出に期待したい。

表1 調査資料と調査項目

資料No.	遺構コード 台帳番号	資料種別	着磁度	MC反応	外観写真	化学成分	組織写真	X線回折
1	1号住居跡 番号(注記)40	鉄滓?	○	○	○	○	○	○
2	1号住居跡 番号(注記)42	鉄滓	○	○	○	○	○	○
3	12号住居跡 番号(注記)19	鍛冶滓	○	○	○	○	○	○
4	12号住居跡 番号(注記)64	鍛冶滓	○	○	○	○	○	○
5	15号住居跡 番号(注記)44	鍛冶滓	○	○	○	○	○	○



6	15号住居跡 番号(注記)106	鉄塊	○	○	○	○	○	○
7	15号住居跡 番号(注記)128	鉄塊	○	○	○	○	○	
8	15号住居跡 番号(注記)130	鉄塊?	○	○	○	○	○	
9	15号住居跡 番号(注記)133	鉄塊	○	○	○	○	○	○
10	15号住居跡 番号(注記)114	鉄塊	○	○	○	○	○	○
11	20号住居跡 番号(注記)一括	鍛冶滓	○	○	○	○	○	○
12	20号住居跡 番号(注記)E-17G 1889	鍛冶滓	○	○	○	○	○	○
13	D-17G 番号(注記)2481	椀型滓	○	○	○	○	○	○
14	5号土坑	剥片?	○	○	○		○	

種別は外観観察した結果で、提供されたものではない

## 第6章 まとめ

今回までの調査で、足原田遺跡が東西約400mの範囲に及ぶことが確認された。南北に約15mと細長いトレンチのような調査範囲である。

古墳時代では、第1次調査で谷跡と称された場所から出土した土器と同時期、4世紀後半から5世紀初頭の土器が多数出土した。谷跡出土土器と同じ傾向として、完形のものほとんどないこと、接合関係からその場所で割れたものが大部分であること、壺・甕類の割合が多く、高坏・器台・ミニチュアが少ないことなどがあげられる。しかし、人頭大以上の石と一緒に出土していないことは谷跡の状況と異なる。調査範囲内には、住居跡などの遺構は発見されなかったが、近くに居住域があることは否めないだろう。

平安時代では、第1次調査で11～12世紀の住居跡6軒が発見されたが、今回の調査で9世紀からの居住が確かめられた。おおまかな変遷をみると、9世紀には遺跡の西側、第3次調査の範囲に偏り、10世紀は第3次21・23号住居跡の2軒、11世紀以降は、遺跡の東側にあたる第1次1～6号住居跡と、西側の第3次調査区に分かれる。11世紀以降に居住域が二分するのか、旧河道によって流されたかは不明である。

本遺跡からは、鍛冶関連の遺物が出土している。第1次調査では、グリッド出土の羽口片が1点、第2次調査でもグリッド出土の2点、第3次調査では、羽口片が20号住居跡から6点、5号土坑からは大きめの破片1点が出土し、鉄滓は、1号住居跡から精錬鍛冶滓と製錬滓が炉壁などの耐火材と反応した可能性の高い滓が出土し、12号住居跡から精錬鍛冶の後半か鍛錬鍛冶の初期の鍛冶滓が2点、15号住居跡からは精錬鍛冶の後半か鍛錬鍛冶の初期の鍛冶滓1点、20号住居跡から精錬鍛冶滓と炉壁が反応した鍛冶滓1点と精錬鍛冶の後半か鍛錬鍛冶の初期の鍛冶滓1点、5号土坑からは鍛錬鍛冶の灰汁の可能性のある剥片が出土している。第4次調査では羽口は出土していないが、1～374gの鉄滓がE-27・28グリッドを中心に約110点(約4400g)出土した。これらのことから調査区内には鍛冶関連の確かな遺構は発見されなかったが、本遺跡内に鍛冶関連の遺構が存在する可能性は高いと言えるだろう。

中世の遺物は、第1次から第4次までグリッド出土として挿鉢・内耳土器・陶器甕などいくつか出土している。近くに概期の遺跡がある可能性が高いとおもわれる。

本遺跡周辺はこれまで遺跡の空白地帯であった。現在の耕作土も土というよりは砂であり、古墳時代前期・平安時代の生活の痕跡が残っている層も砂である。発掘中には、たくさんの沢蟹に出会えた。中世以降に水が流れた時期があり、現在は果樹地帯となっている。今後、この近辺で古墳時代前期のムラが発見されること期待したい。

# 写真図版





1. 第2次 調査直後全景



2. 第2次 セクションB-B'



3. 第2次 遺物出土状況 (A-1G)



4. 第2次 遺物出土状況 (A-2G)



5. 第2次 第8図30出土状況



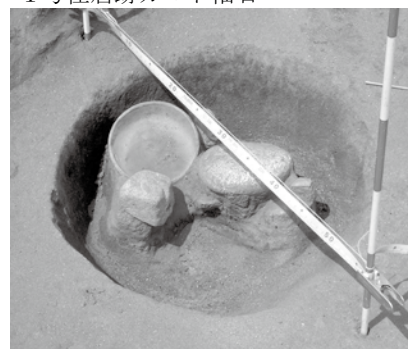
1. 第3次 1号住居跡遺物出土状況



2. 第3次 1号住居跡カマド遺物出土状況



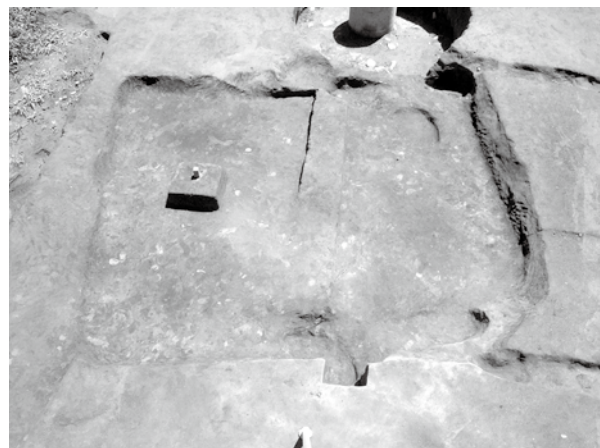
3. 第3次 1号住居跡カマド袖石



4. 第3次 1号住居跡ピット2



1. 第3次 2号住居跡



2. 第3次 3号住居跡



3. 第3次 3号住居跡カマド



4. 第3次 4号住居跡



5. 第3次 4号住居跡カマド



6. 第3次 5号住居跡



7. 第3次 5号住居跡カマド



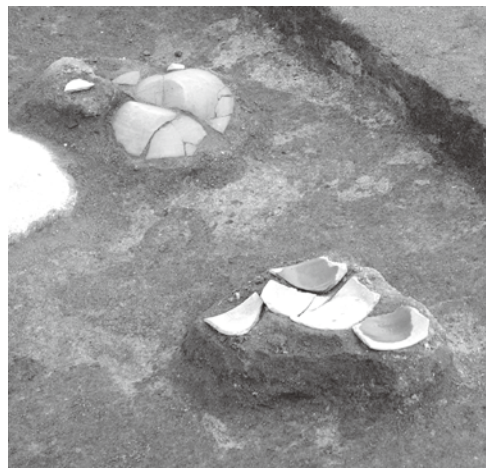
1. 第3次 6号住居跡



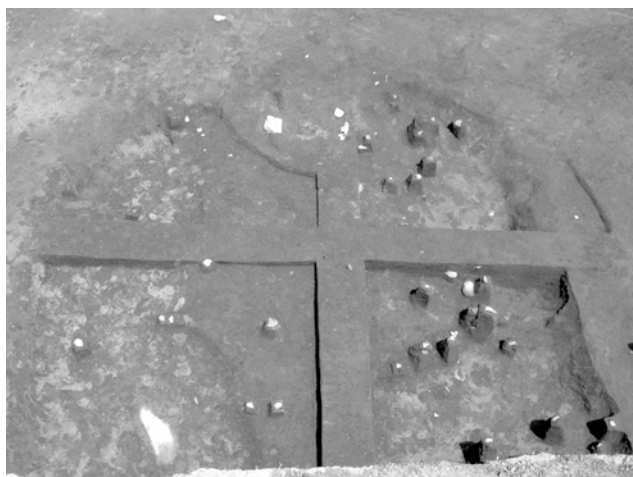
2. 第3次 6号住居跡カマド1



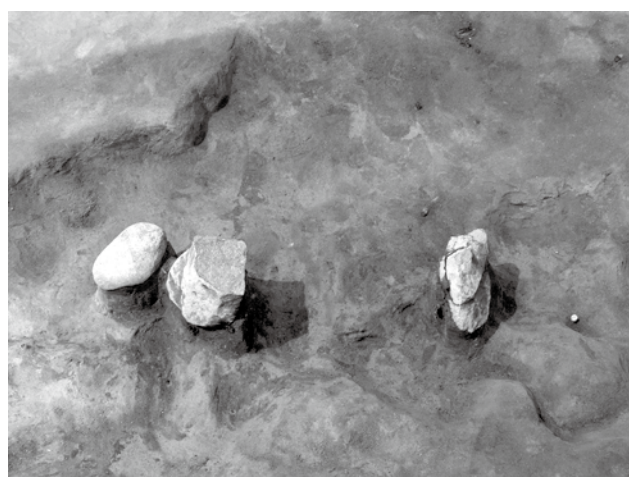
3. 第3次 6号住居跡カマド2



4. 第3次 6号住居跡第51図1 (奥)・2出土状況



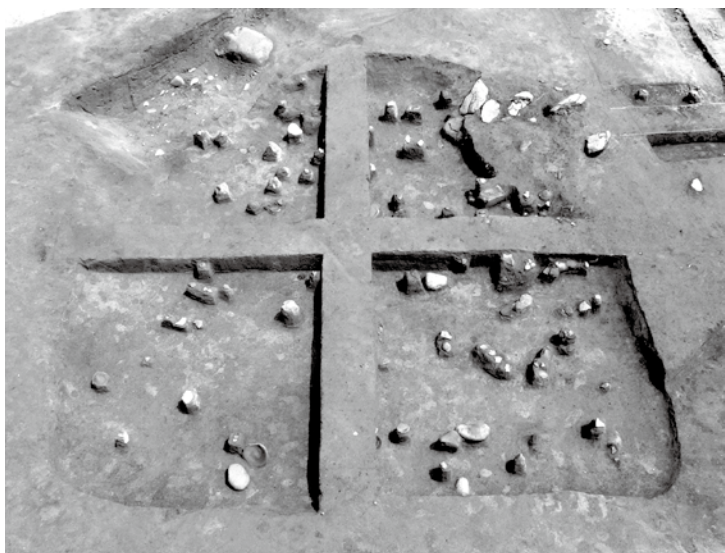
5. 第3次 7号住居跡遺物出土状況



7. 第3次 7号住居跡カマド



6. 第3次 7号住居跡



1. 第3次 8号住居跡遺物出土状況



2. 第3次 8号住居跡第52図6・7出土状況



3. 第3次 8号住居跡カマド遺物出土状況



4. 第3次 8号住居跡カマド袖石

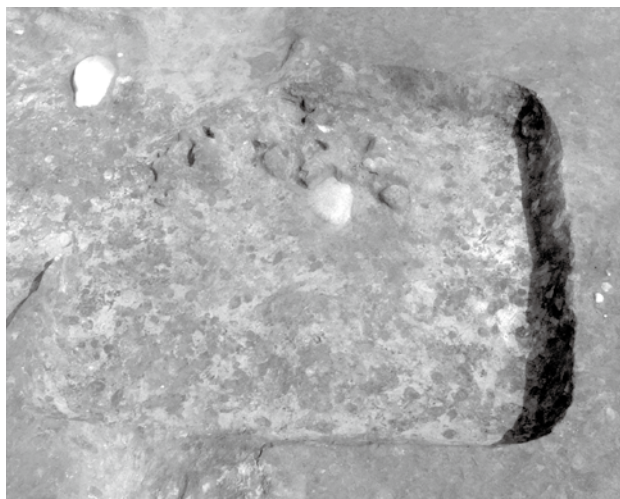


5. 第3次 8号住居跡第52図10出土状況

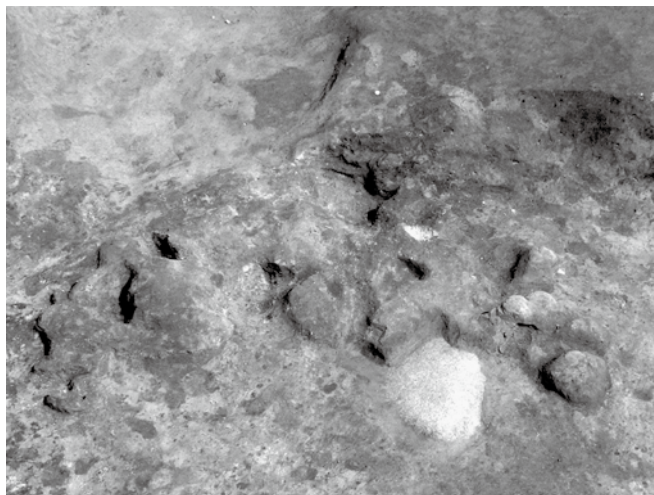


6. 第3次 8号住居跡ピット1遺物出土状況





1. 第3次 9号住居跡



2. 第3次 9号住居跡カマド



3. 第3次 10号住居跡遺物出土状況



4. 第3次 10号住居跡カマド1



5. 第3次 10号住居跡カマド2



6. 第3次 10号住居跡カマド1 遺物出土状況



1. 第3次 11号住居跡遺物出土状況



2. 第3次 12号住居跡ピット1・2遺物出土状況



3. 第3次 12号住居跡遺物出土状況



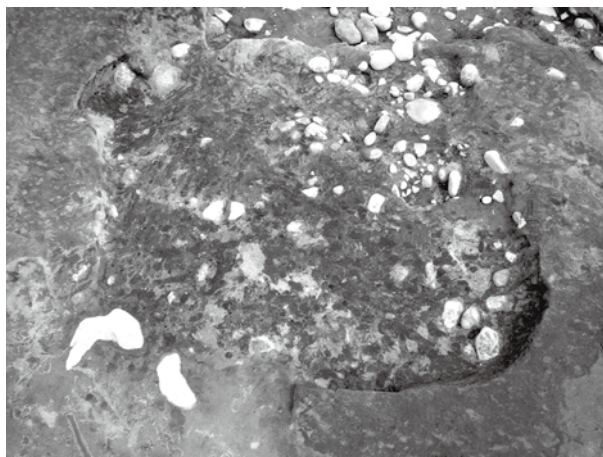
4. 第3次 12号住居跡カマド1



5. 第3次 12号住居跡カマド2・3遺物出土状況



1. 第3次 13号住居跡カマド



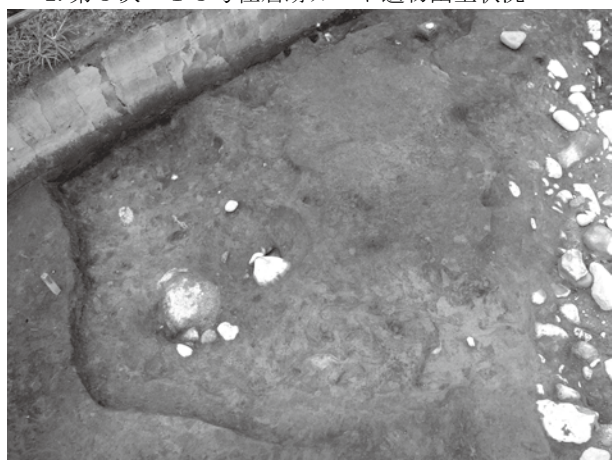
3. 第3次 14号住居跡



2. 第3次 13号住居跡カマド遺物出土状況



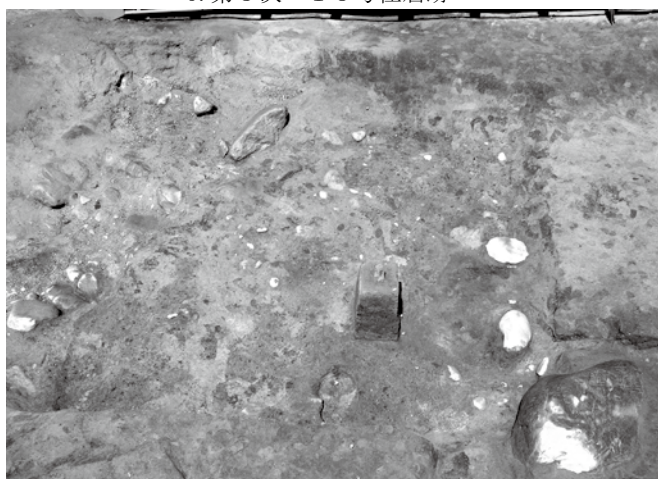
4. 第3次 14号住居跡遺物出土状況



5. 第3次 15号住居跡



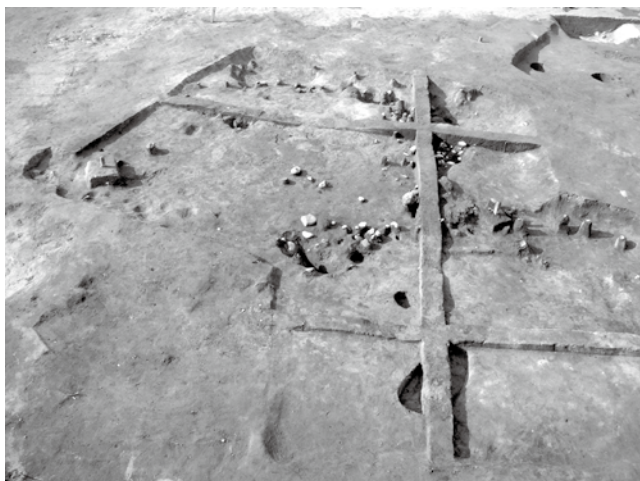
6. 第3次 15号住居跡遺物出土状況



7. 第3次 16号住居跡



8. 第3次 16号住居跡第59図5・6出土状況



1. 第3次 17・18号住居跡遺物出土状況



2. 第3次 19号住居跡



3. 第3次 20号住居跡遺物出土状況



4. 第3次 20号住居跡カマド1



5. 第3次 20号住居跡カマド2



1. 第3次 21号住居跡遺物出土状況



2. 第3次 21号住居跡カマド



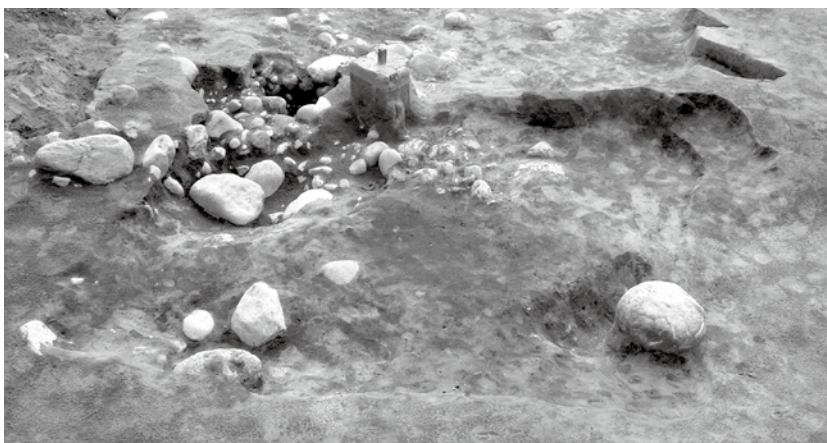
3. 第3次 22号住居跡遺物出土状況1



4. 第3次 22号住居跡カマド



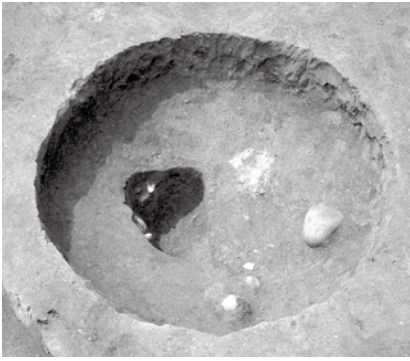
5. 第3次 22号住居跡遺物出土状況2



6. 第3次 23号住居跡



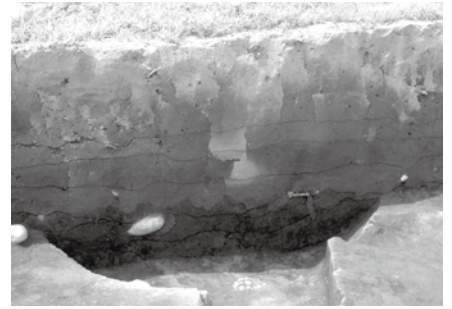
7. 第3次 23号住居跡カマド



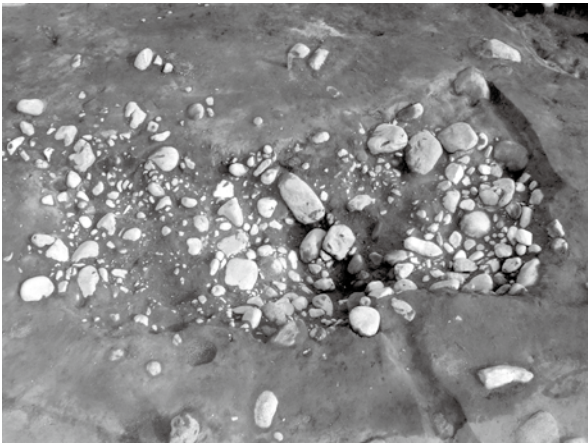
1. 第3次 1号土坑



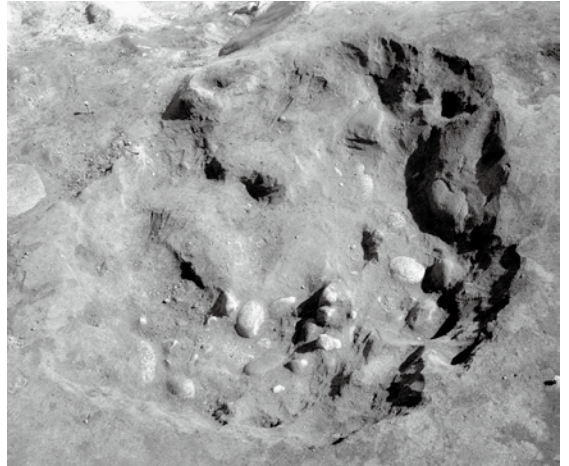
2. 第3次 2号土坑



3. 第3次 3号土坑



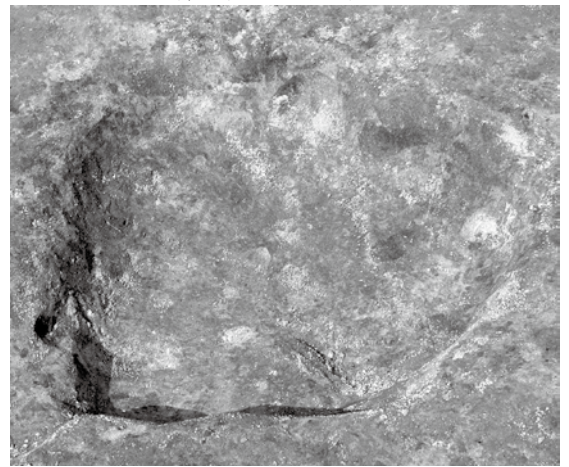
4. 第3次 4号土坑



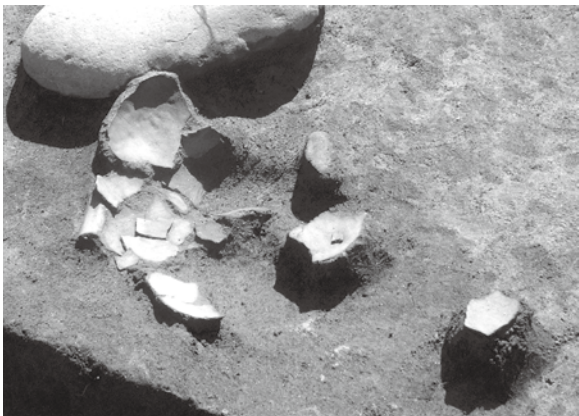
5. 第3次 5号土坑



6. 第3次 5号土坑遺物出土狀況



7. 第3次 6号土坑



8. 第3次 6号土坑遺物出土狀況



9. 第3次 7号土坑



1. 第3次 1号溝



2. 第3次 1号溝セクション



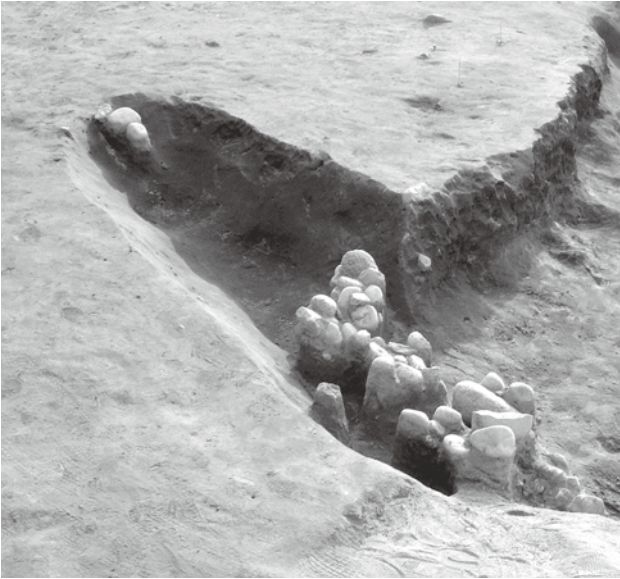
3. 第3次 2号溝石出土状況



4. 第3次 2号溝



5. 第3次 2号溝セクション



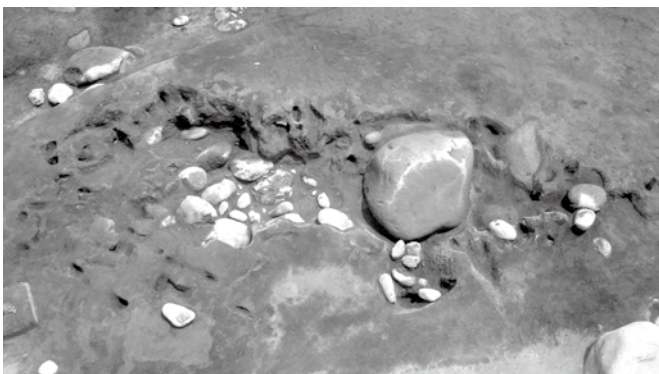
1. 第3次 3号溝



2. 第3次 4号溝



3. 第3次 4号溝石出土状況



4. 第3次 流れ跡



5. 第3次 5号溝





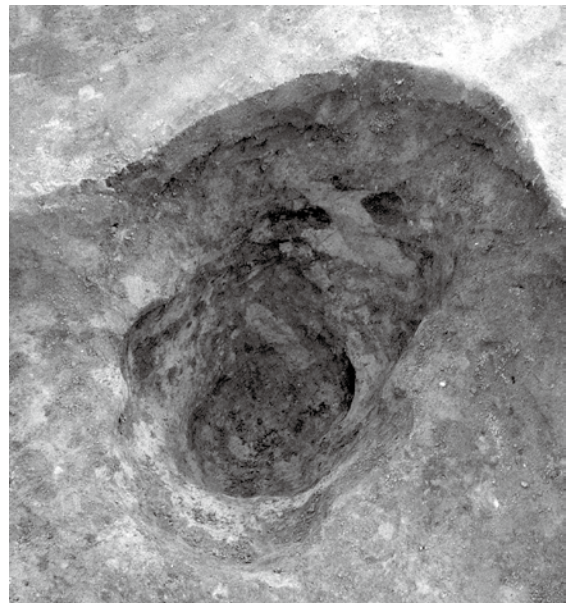
1. 第4次 調査前



2. 第4次 1号住居跡遺物出土状況



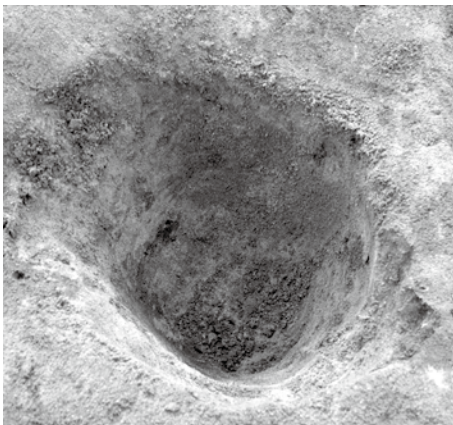
1. 第4次 1号住居跡カマド



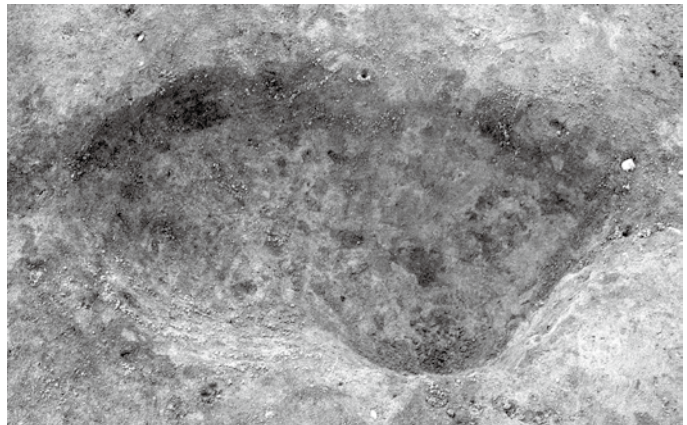
2. 第4次 1号住居跡ピット1



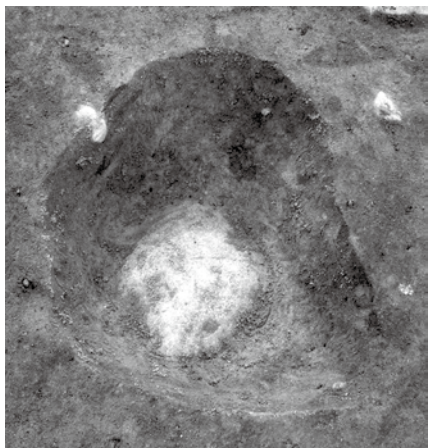
3. 第4次 1号住居跡完掘



4. 第4次 1号ピット



5. 第4次 2号ピット



1. 第4次 3号ピット



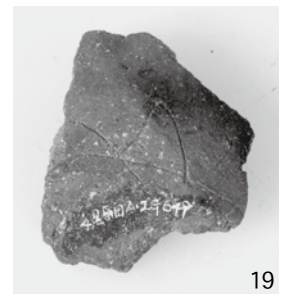
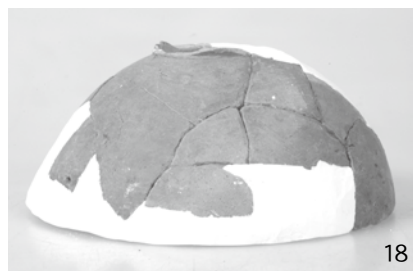
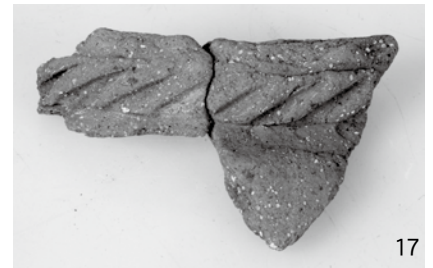
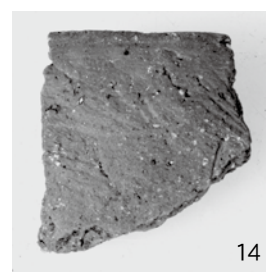
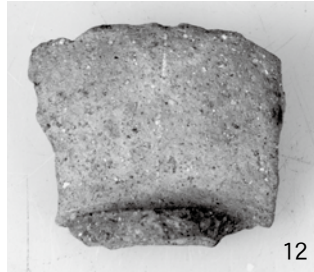
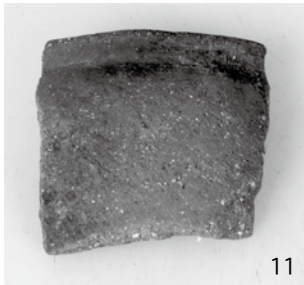
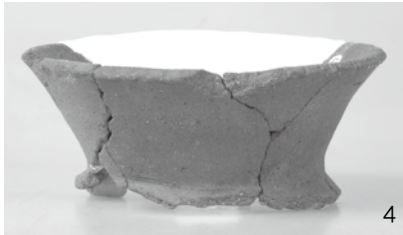
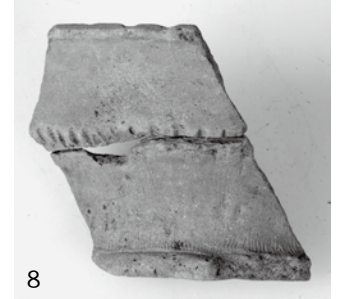
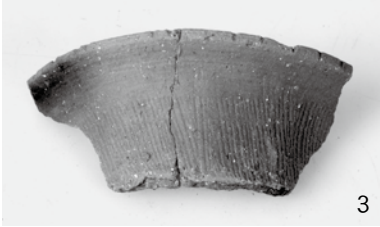
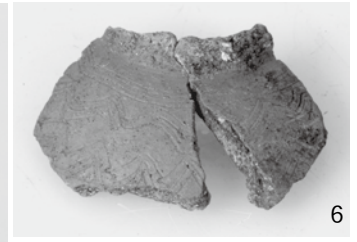
2. 第4次 遺物出土状況 (D-29G)



3. 第4次 遺物出土状況 (C-28G)

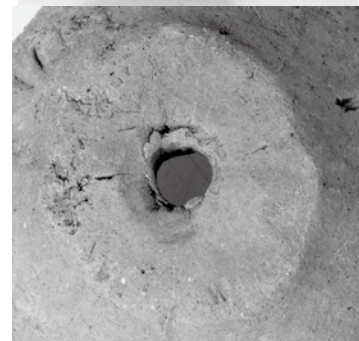
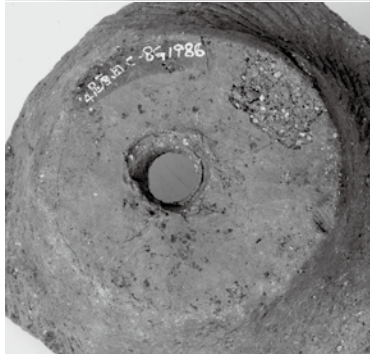
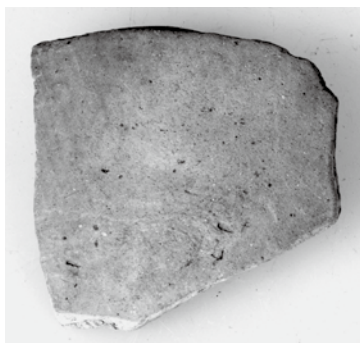
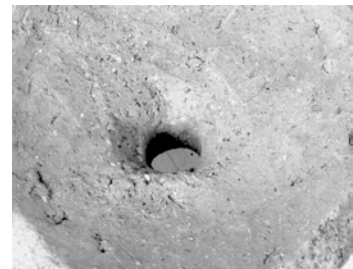
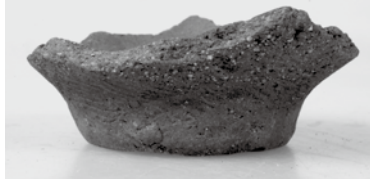
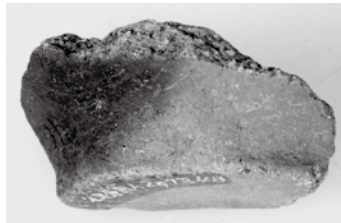
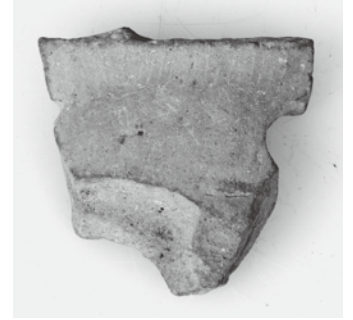
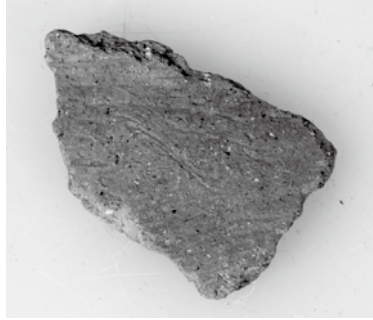
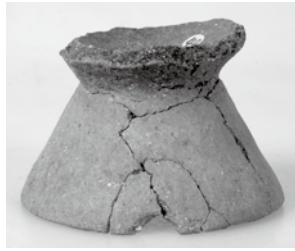


4. 第4次 遺物出土状況 (E・F-33・34G)



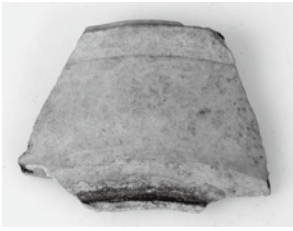
図版 18 第 2 次 グリッド出土遺物(2)



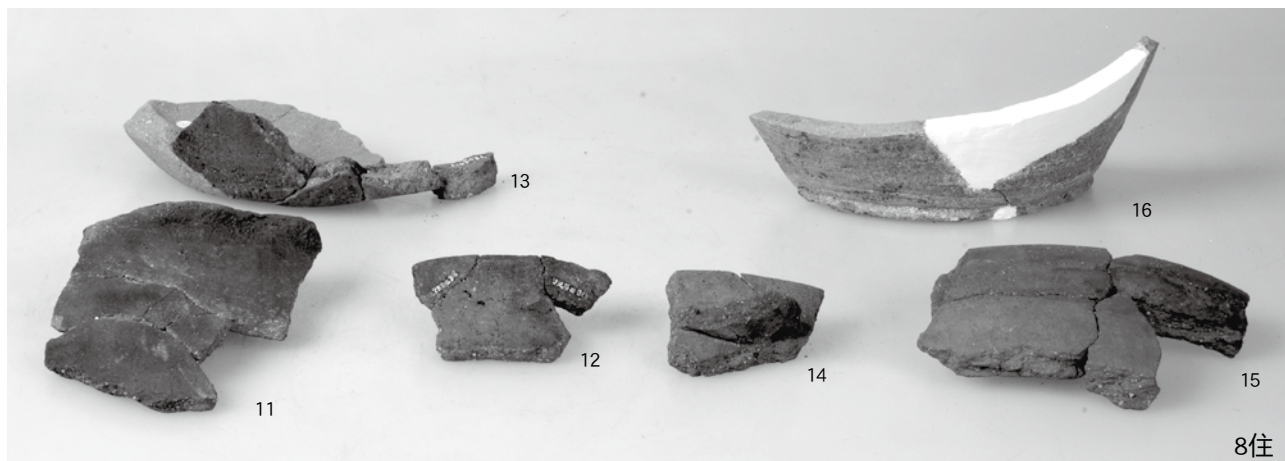
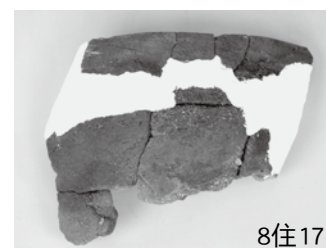
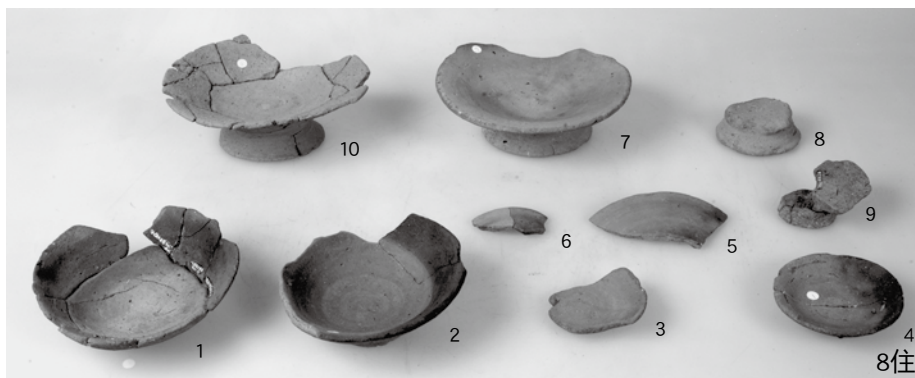
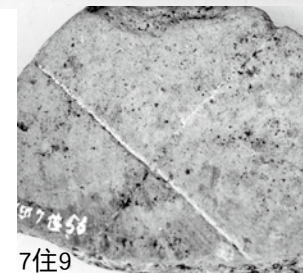
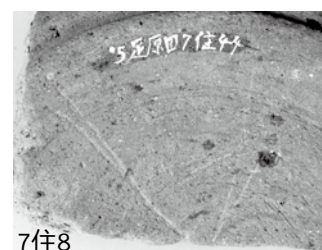
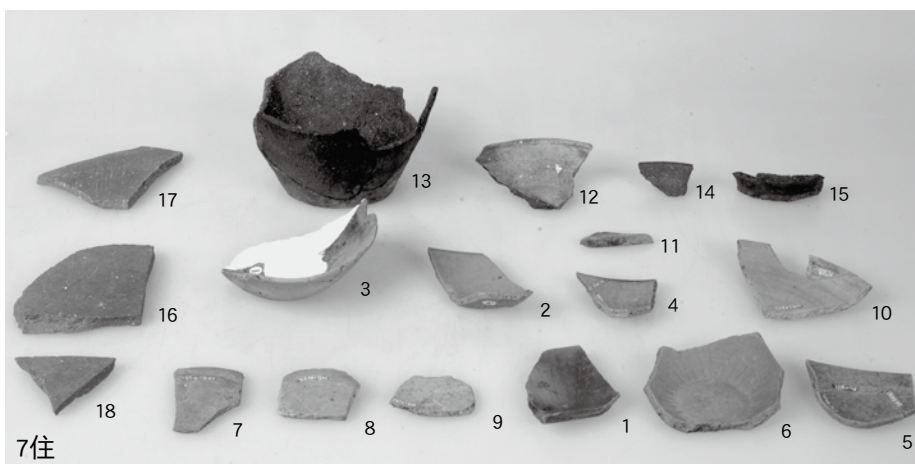
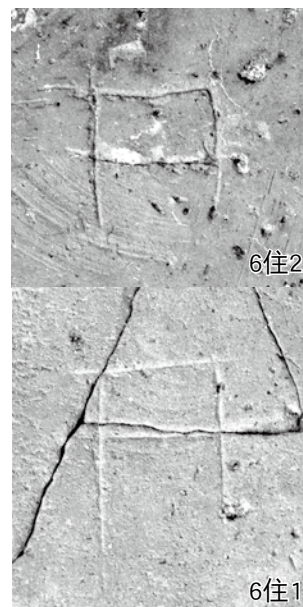
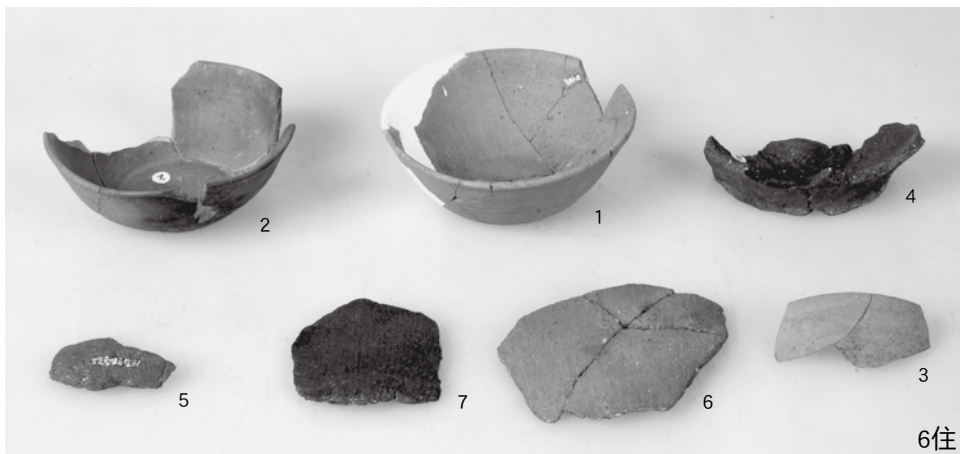


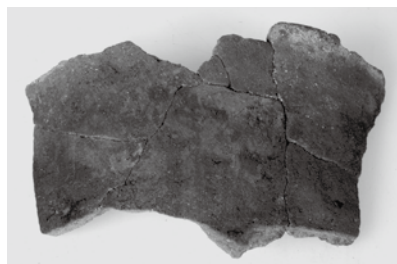
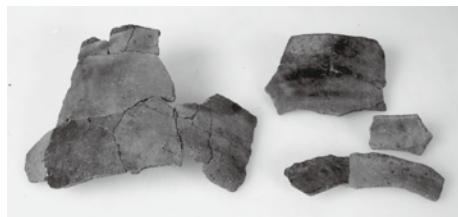
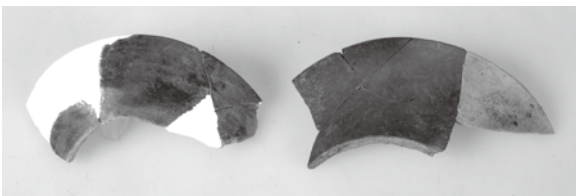
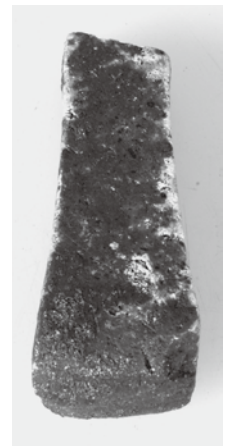
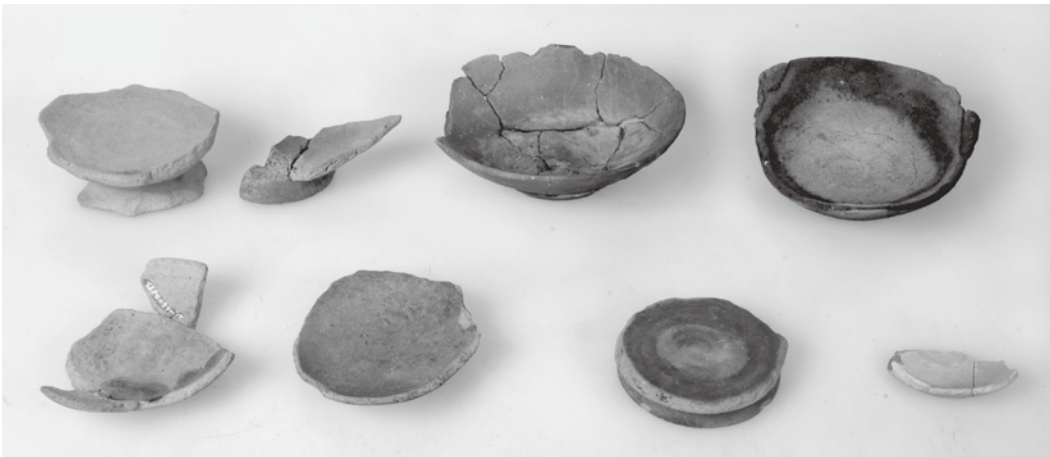
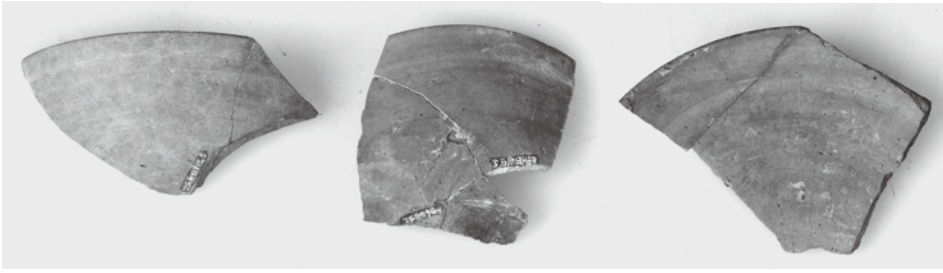
図版 20 第 2 次 グリッド出土遺物(4)



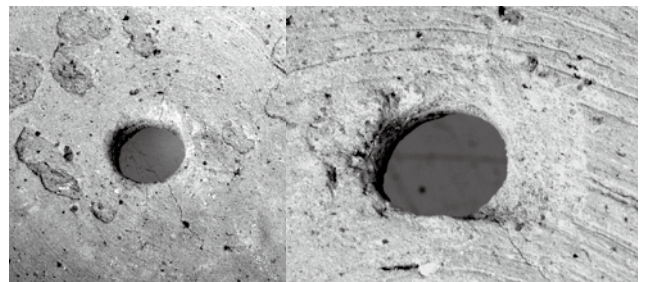
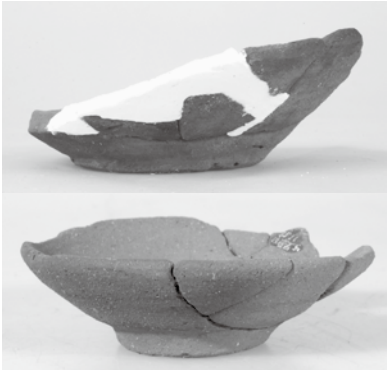


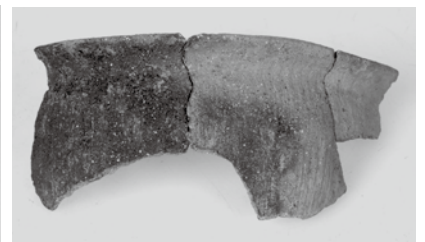
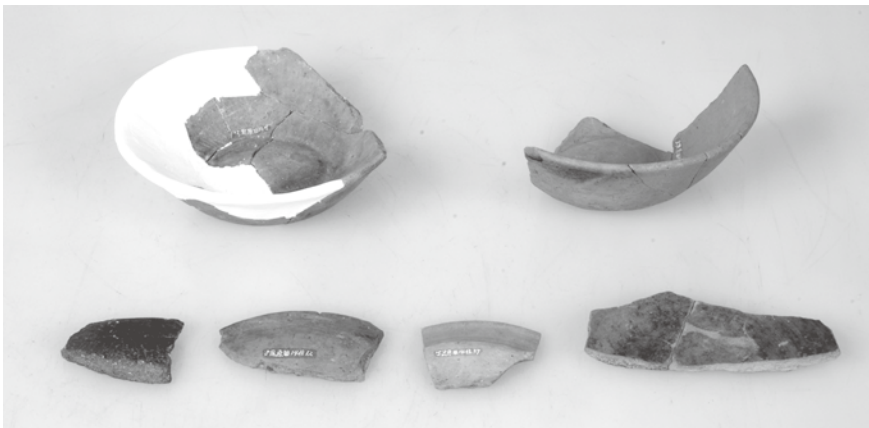




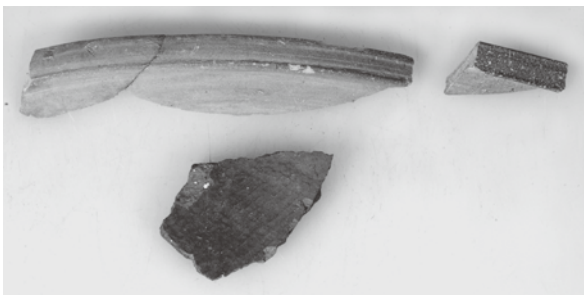
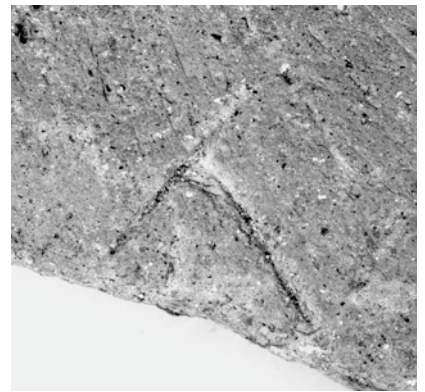
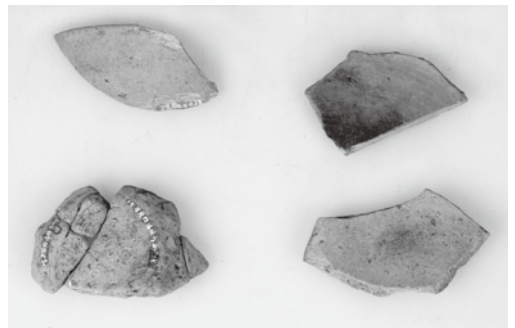
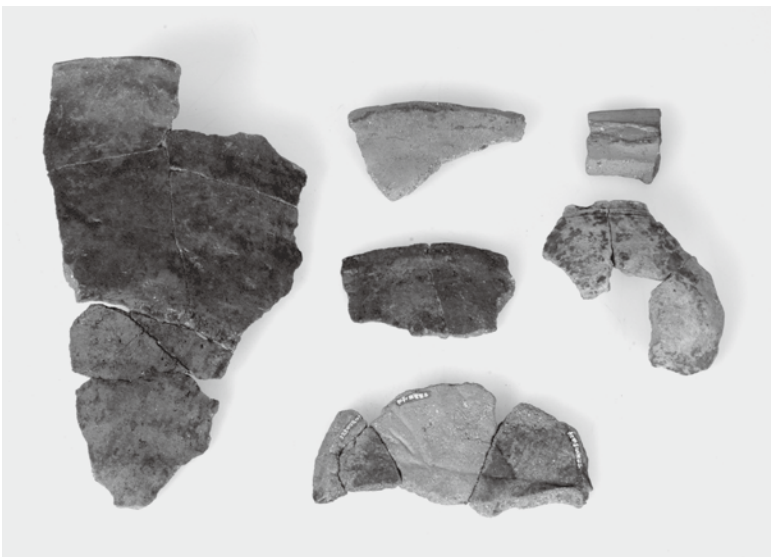


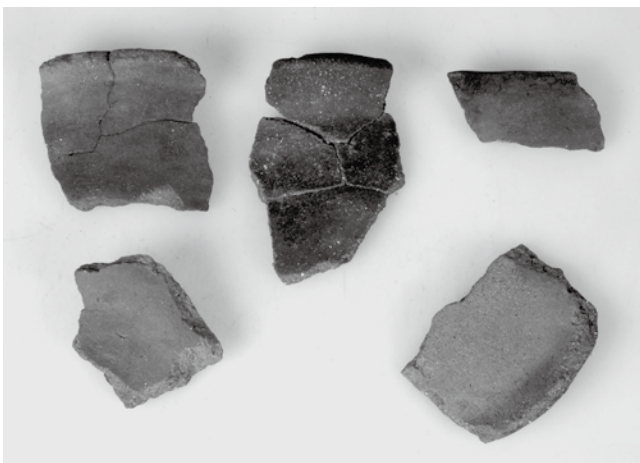
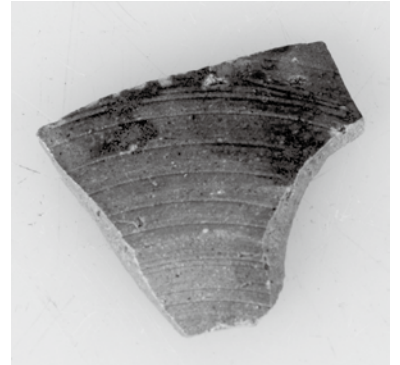
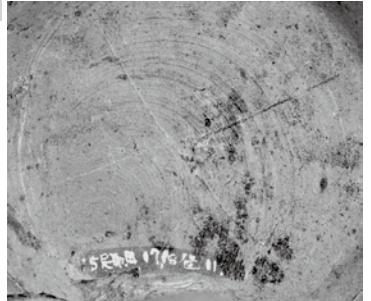
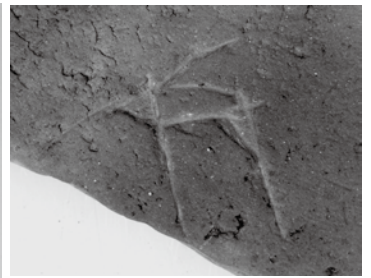
图版 24 第 3 次 11~12 住



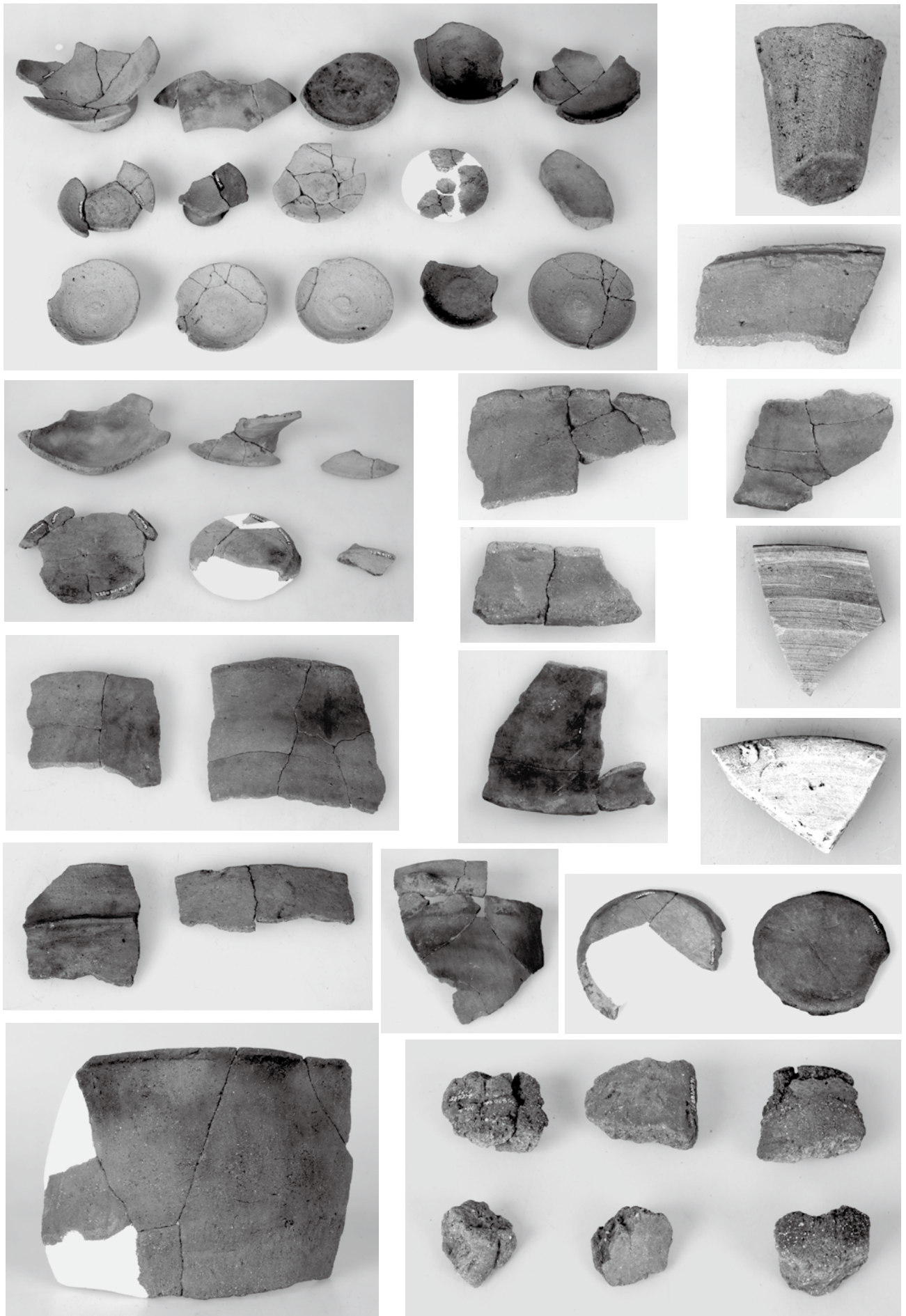


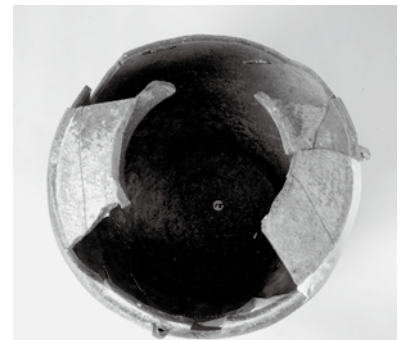
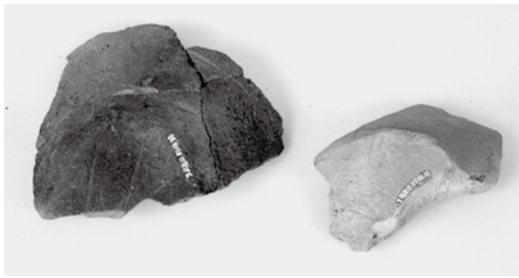
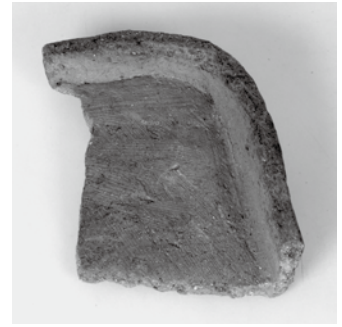
图版 26 第 3 次 15~16 住





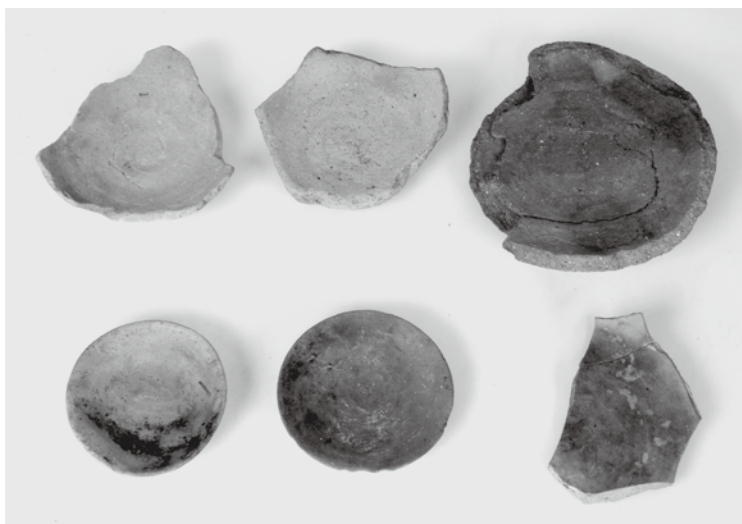
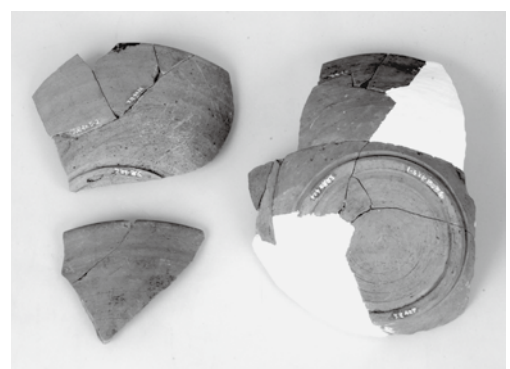
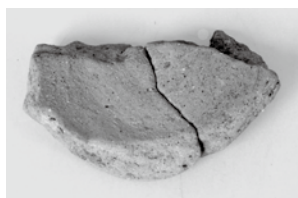
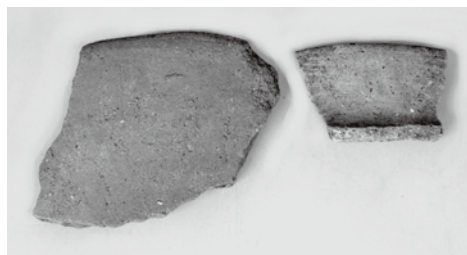
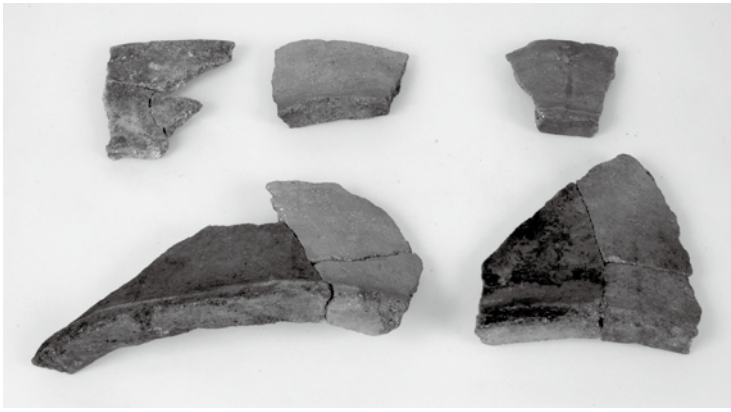
图版 28 第 3 次 20 住

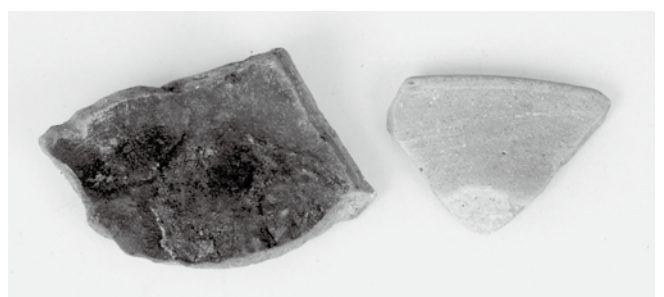
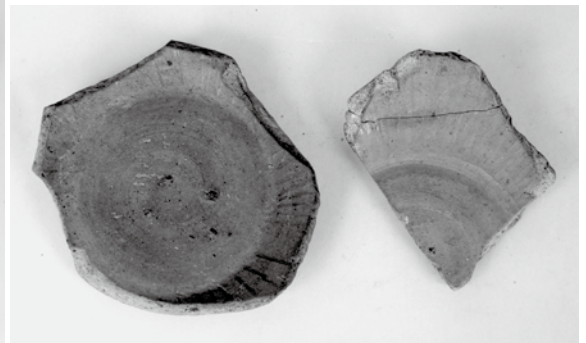






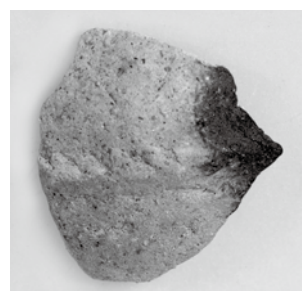
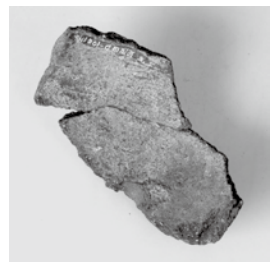
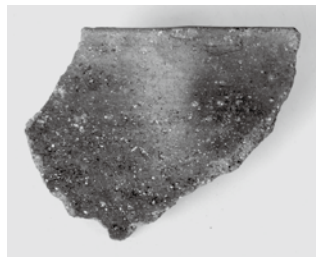
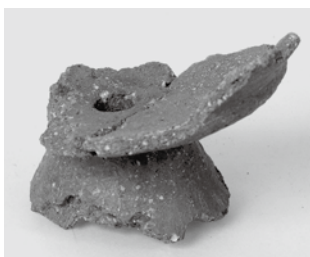
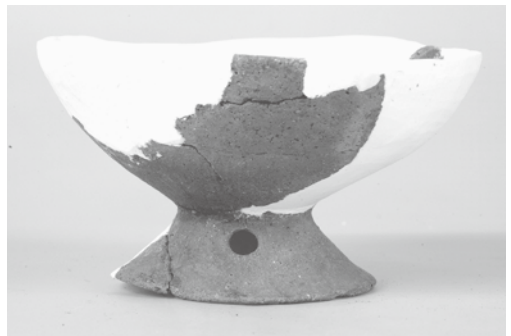
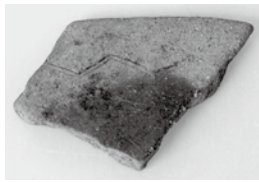
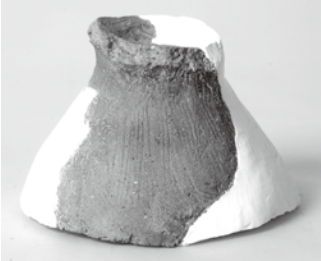
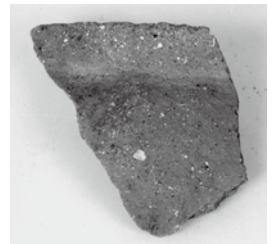
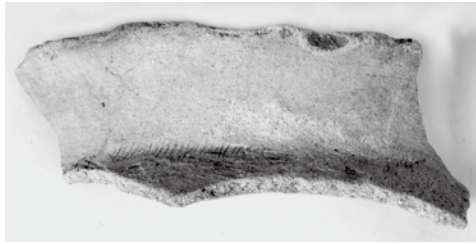
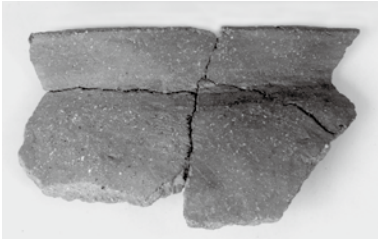
図版 30 第 3 次 22~23 住・1~5 土



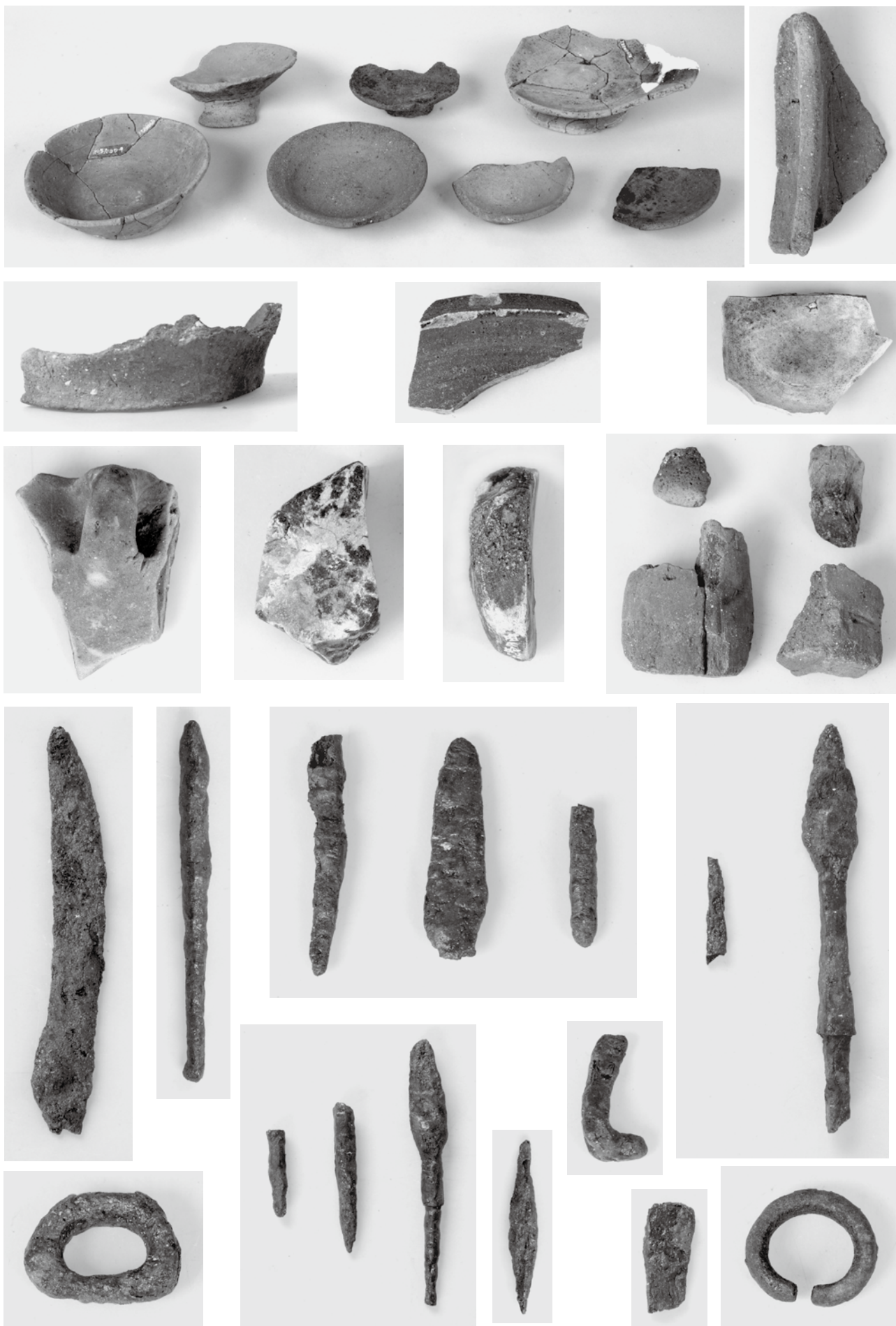


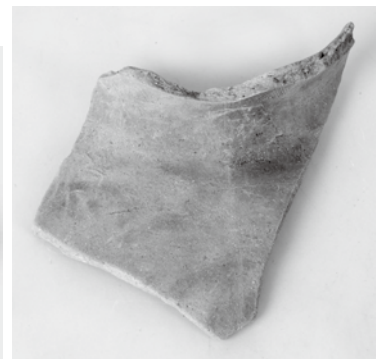
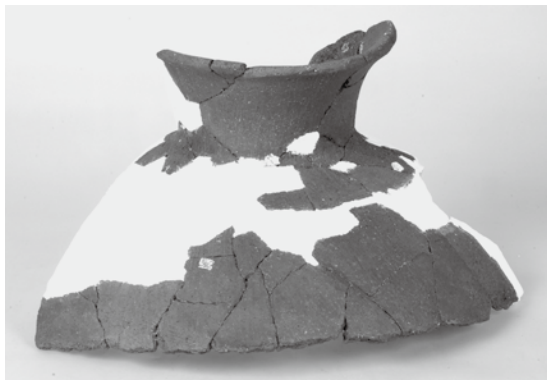
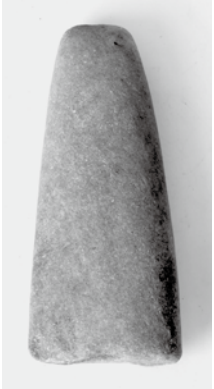
図版 32 第 3 次 グリッド出土遺物(1)





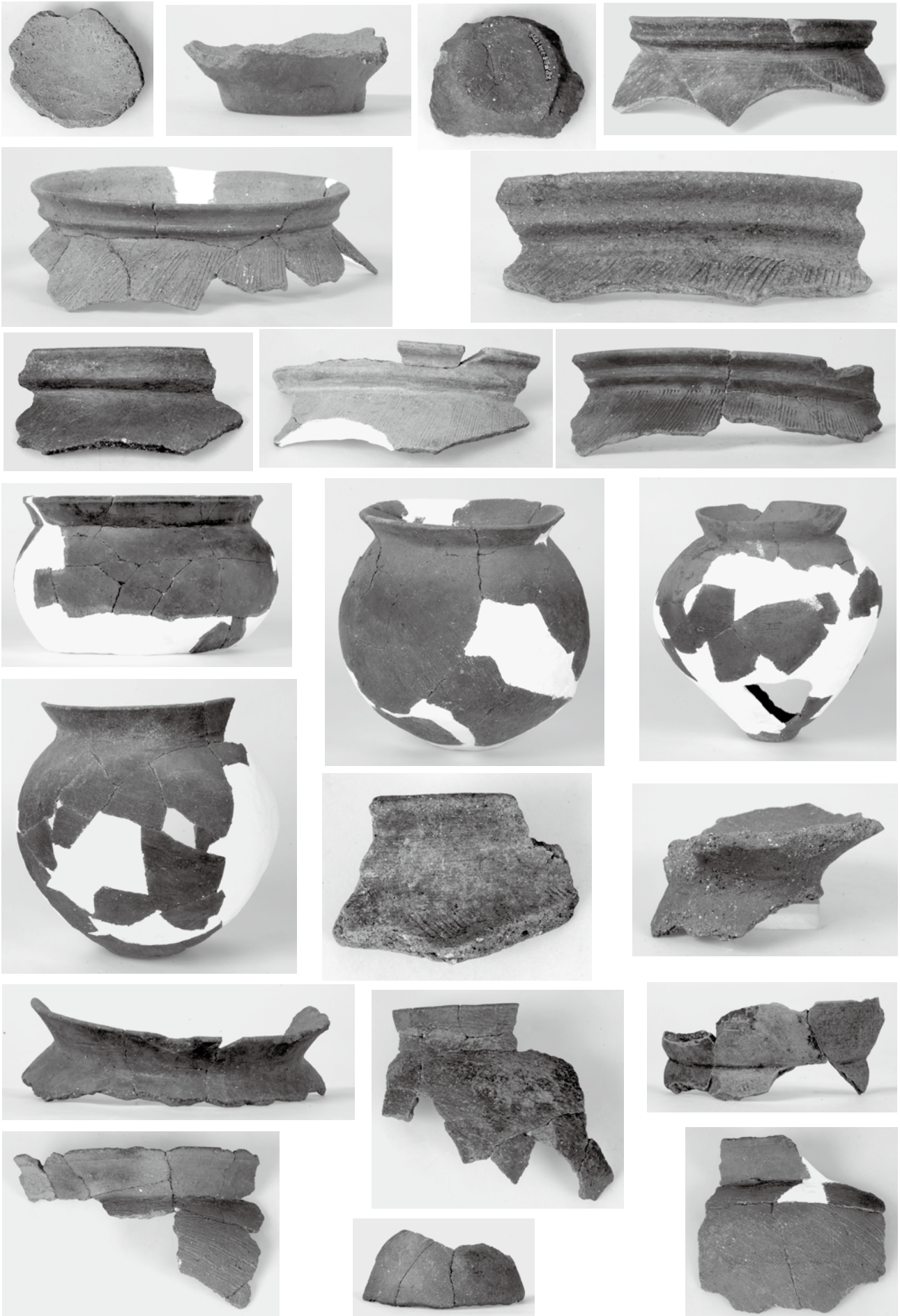
図版 34 第 3 次 グリッド出土遺物(3)・金属製品





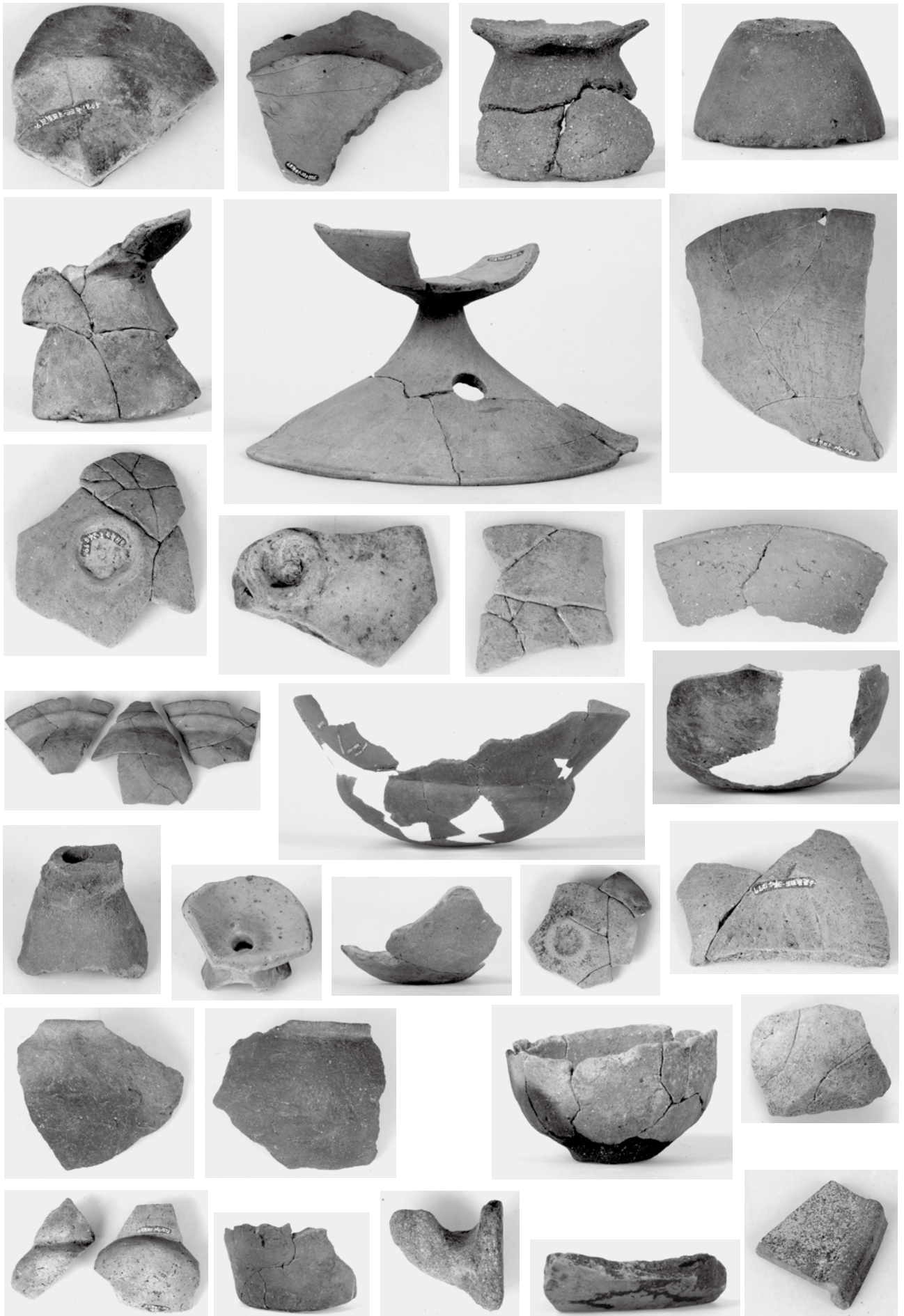
図版 36 第 4 次 グリッド出土遺物(2)



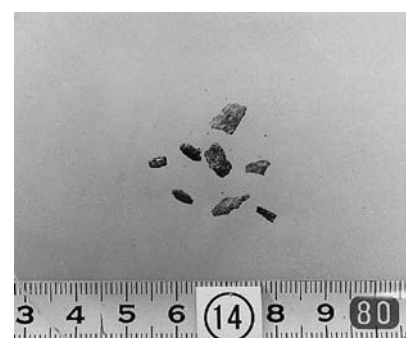
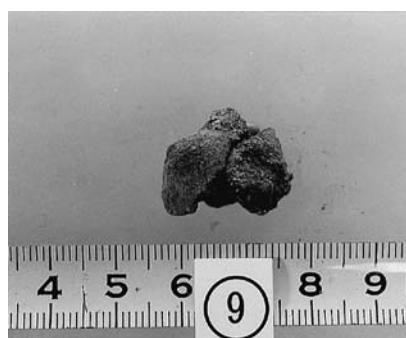
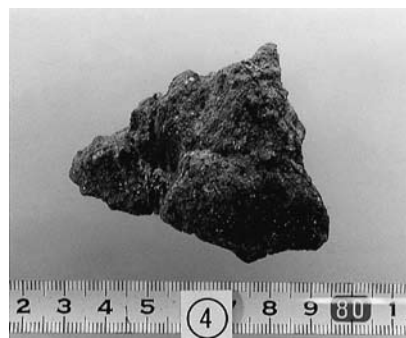




図版 38 第 4 次 グリッド出土遺物(4)







鉄関連遺物の外観写真

# 報告書抄録

ふりがな	いしはらだいせき 2
書名	足原田遺跡Ⅱ
副書名	西関東連絡道路関連発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第246集
著者名	田口 明子・鶴田 博・上野 桜
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923 TEL: 055-266-3016
発行者	山梨県教育委員会・山梨県土木部
発行日	2007(平成19)年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしはらだいせき	やまなしけん やまなしし まんりき	19205	187	35°	138°	2004(平成16)年 11月10日 ～ 12月24日	500	西関東連絡道 路建設に伴う 発掘調査
				41′	40′	2005(平成17)年 5月10日 ～ 9月27日	2,200	
足原田遺跡	山梨県 山梨市 万力851外			20″	25″	2006(平成18)年 5月9日 ～ 6月12日	300	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
足原田遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	竪穴住居跡 土坑 溝 畝状遺構	S字状口縁台付甕 土師器(坏・皿・甕) 凸帯付四耳壺 灰釉陶器・青磁 轆の羽口・鉄滓	平安時代後期の住居跡が23軒発見されたほか、轆の羽口なども出土した。また、古墳時代前期の台付甕などが遺構には伴わないが多数出土した。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第246集

## 足原田遺跡Ⅱ

西関東連絡道路関連発掘調査報告書

2007(平成19)年3月20日印刷

2007(平成19)年3月26日発行

編集 山梨県埋蔵文化財センター  
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923  
TEL: 055-266-3016 maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

発行 山梨県教育委員会  
山梨県土木部

印刷 株式会社 峽南堂印刷所